

市政に関する世論調査  
結果報告書

— 第53回 令和2年度 —

宇 都 宮 市



---

# 目次

I	調査の概要	- 1 -
1.	調査の目的	- 1 -
2.	調査の項目	- 1 -
3.	調査の設計	- 2 -
4.	回収結果	- 3 -
5.	標本誤差	- 4 -
6.	調査報告書の見方	- 4 -
II	調査回答者の属性	- 5 -
III	調査結果のあらまし	- 9 -
1.	宇都宮市に対する感じ方について	- 9 -
2.	広報媒体の活用状況について	- 9 -
3.	宇都宮市の景観について	- 10 -
4.	食品ロスの削減について	- 11 -
5.	特別支援教育について	- 11 -
6.	結婚・出産・子育てに関する意識について	- 11 -
7.	空き家及び防犯・交通安全に関する意識について	- 11 -
8.	いちご一会とちぎ国体・いちご一会とちぎ大会について	- 12 -
9.	生物多様性について	- 12 -
10.	自転車のまちづくりについて	- 13 -
11.	「大谷石文化」の日本遺産認定	- 13 -
12.	「まちづくり活動」への意識について	- 13 -
13.	「SDGs」について	- 13 -
14.	男女共同参画について	- 14 -
15.	雨水貯留・浸透施設の補助金制度について	- 14 -
IV	第53回市政に関する世論調査の結果	- 17 -
1.	宇都宮市に対する感じ方について	- 17 -
2.	広報媒体の活用状況について	- 26 -
3.	宇都宮市の景観について	- 70 -
4.	食品ロスの削減について	- 81 -
5.	特別支援教育について	- 88 -
6.	結婚・出産・子育てに関する意識について	- 92 -
7.	空き家及び防犯・交通安全に関する意識について	- 100 -
8.	いちご一会とちぎ国体・いちご一会とちぎ大会について	- 110 -
9.	生物多様性について	- 118 -
10.	自転車のまちづくりについて	- 124 -
11.	「大谷石文化」の日本遺産認定	- 131 -
12.	「まちづくり活動」への意識について	- 135 -

---

13. 「SDGs」について.....	- 142 -
14. 男女共同参画について.....	- 148 -
15. 雨水貯留・浸透施設の補助金制度について.....	- 164 -
V 調査結果の考察.....	- 177 -
VI 宇都宮市の取組についての意識調査の結果.....	- 187 -
1. あなたのことについて.....	- 187 -
2. 現在の宇都宮市について.....	- 191 -
3. 各施策についての重要度.....	- 197 -
4. 各施策についての満足度.....	- 208 -

# I 調査の概要

## 1. 調査の目的

この調査は、市民が市政についてどのように考え、また何を望んでいるのかを統計的に把握するとともに、施策の評価や市政への関心・意識の程度を調査し、市政運営上の基礎資料とすることを目的とする。

## 2. 調査の項目

調査項目は以下のとおりである。

調査事項	調査項目
回答者属性	性別，年齢，職業，家族構成，居住年数，居住地域，居住地区
宇都宮市に対する感じ方	宇都宮市の好き・嫌い，好きな理由，嫌いな理由
広報媒体の活用状況	市政情報の各広報媒体の視聴状況，「広報うつのみや」の入手方法，入手しない理由，「広報うつのみや」で読んでいる記事，市ホームページで詳細な情報を入手するためのQRコードやページIDの利用状況，「広報うつのみや」に関する感想，取り上げてほしい話題・情報，市のホームページを見るための主な手段，ホームページで知りたい情報はどこから探すか，ホームページで知りたい情報は探しやすいか，ホームページに関する感想，充実してほしい機能や情報，市政情報をどんな手段で知りたいか
宇都宮市の景観	宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるか，「宇都宮らしい景観」とは何か，良好な都市景観の形成に必要なこと，屋外広告物についての印象，よりよい景観形成のために屋外広告物の基準を強化する地域
食品ロスの削減	「食品ロス」が問題となっていることの認知度，「食品ロス」を減らすために取り組んでいること，フードバンク活動の認知度
特別支援教育	「発達障がい」についての認知度，「特別支援教育」についての認知度
結婚・出産・子育てに関する意識	結婚しているか，結婚するつもりがあるか，結婚している場合，全部で何人のお子さんを持ちたいか，結婚を予定している場合，子どもは何人ほしいか
空き家及び防犯・交通安全に関する意識	管理が不十分な空き家が増えていると感じるか，近所の空き家の活用方法，「宇都宮空き家会議」の認知度，宇都宮市で生活する中で，安心して暮らすことができているか，自転車保険の加入状況
いちご一会とちぎ国体・いちご一会とちぎ大会	栃木県で国体が開催されることの認知度，とちぎ国体へボランティアとしての参加意向，ボランティア情報の入手方法，国体を盛り上げるために重要だと思うこと
生物多様性	生物多様性という言葉の認知度，外来種が及ぼす影響についての認知度，生物多様性を保全する活動に参加したいか
自転車のまちづくり	自転車の利用頻度，宇都宮市は自転車を使いやすいまちだと思えるか，自転車のまちづくりを進めていくために必要な取り組み
「大谷石文化」の日本遺産認定	「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことに関する認知度，「大谷石文化」を誇りに感じるか

まちづくり活動	まちづくり活動の参加状況，参加中または興味があるまちづくり活動の種類，まちづくり活動に参加したいと思わない，または参加できない理由
SDGs (エス・ディー・ジーズ)	SDGs についての認知度，SDGs について知っている内容，SDGs について知った手段
男女共同参画	家事・育児・介護それぞれに費やした時間，社会的な活動の実施状況，配偶者からの暴力を受けた経験，LGBT（エルジービーティー）の認知度
雨水貯留・浸透施設の補助金制度	雨水貯留・浸透施設の認知度，雨水貯留・浸透施設の設置に対する補助金制度の認知度，雨水貯留・浸透施設の設置効果についての認知度，雨水貯留・浸透施設を設置したいと思うか，設置希望・既設置の理由，設置したくない理由

### 3. 調査の設計

- 調査地域 宇都宮市全域
- 調査対象者 満 18 歳以上 80 歳未満の日本国籍を有する市民 4,800 人
- 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- 調査方法 郵送法（回収にあたってはインターネットを併用）
- 調査期間 令和 2 年 8 月 3 日～8 月 28 日

## 4. 回収結果

調査対象数	有効回答数	有効回答率
4,800	2,461	51.3%

<性別・年齢別の回収状況>

年代	性別	調査対象数	郵送		インターネット		合計	
			回収数	回収率	回収数	回収率	回収数	回収率
10歳代	男性	42	12	28.6%	10	23.8%	22	52.4%
	女性	39	7	17.9%	11	28.2%	18	46.2%
	計	81	19	23.5%	21	25.9%	40	49.4%
20歳代	男性	261	45	17.2%	24	9.2%	69	26.4%
	女性	232	61	26.3%	24	10.3%	85	36.6%
	計	493	106	21.5%	48	9.7%	154	31.2%
30歳代	男性	413	78	18.9%	45	10.9%	123	29.8%
	女性	335	107	31.9%	39	11.6%	146	43.6%
	計	748	185	24.7%	84	11.2%	269	36.0%
40歳代	男性	548	130	23.7%	81	14.8%	211	38.5%
	女性	438	196	44.7%	52	11.9%	248	56.6%
	計	986	326	33.1%	133	13.5%	459	46.6%
50歳代	男性	435	165	37.9%	45	10.3%	210	48.3%
	女性	351	187	53.3%	27	7.7%	214	61.0%
	計	786	352	44.8%	72	9.2%	424	53.9%
60歳代	男性	397	177	44.6%	41	10.3%	218	54.9%
	女性	438	289	66.0%	16	3.7%	305	69.6%
	計	835	466	55.8%	57	6.8%	523	62.6%
70歳以上	男性	360	204	56.7%	20	5.6%	224	62.2%
	女性	511	337	65.9%	7	1.4%	344	67.3%
	計	871	541	62.1%	27	3.1%	568	65.2%
年代不明	男性	—	0	—	0	—	0	—
	女性	—	3	—	0	—	3	—
	不明	—	21	—	0	—	21	—
	計	—	24	—	0	—	24	—
全体	男性	2,456	811	33.0%	266	10.8%	1,077	43.9%
	女性	2,344	1,187	50.6%	176	7.5%	1,363	58.1%
	不明	—	21	—	0	—	21	—
合計		4,800	2,019	42.1%	442	9.2%	2,461	51.3%

## 5. 標本誤差

アンケート調査を行う場合、全母集団を対象とすることが望ましいが、実際には適切な数の標本を抽出して調査を行うことになる。そのため、アンケートの回答結果が、どの程度の精度を持った回答結果であるのかを検討することが必要となる。その精度は以下の式で表わされる標本誤差を算出することで把握できる。

通常のアンケートでは、信頼度として95%がとられるケースが多い。信頼度95%とは、100回に5回がその標本誤差の範囲におさまらないという意味である。

次の表は、本調査における信頼度95%の場合の標本早見表である。

回答の比率 (P) 回答数 (n)	90%または 10%前後	80%または 20%前後	70%または 30%前後	60%または 40%前後	50%前後
2,461	±1.18%	±1.58%	±1.80%	±1.93%	±1.97%
2,000	±1.31%	±1.75%	±2.00%	±2.14%	±2.19%
1,600	±1.47%	±1.96%	±2.24%	±2.40%	±2.45%
1,200	±1.69%	±2.26%	±2.59%	±2.77%	±2.82%
800	±2.08%	±2.77%	±3.17%	±3.39%	±3.46%
400	±2.94%	±3.92%	±4.49%	±4.80%	±4.90%

<標本誤差の算出方法>

$$b = 1.96 \sqrt{\frac{(N-n)}{(N-1)} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

b : 標本誤差

N : 母集団数 (宇都宮市の18歳以上80歳未満人口)

n : 比率算出の基礎 (回答者数)

P : 回答の比率 (%)

1.96 : 信頼度95%の場合 (信頼度99%の場合は2.58を使用)

<表の見方>

この表の見方としては、例えば、回答者数が2,461で宇都宮市が「好き」との答えが47.9%であった場合、「その回答比率の範囲は最高でも47.9%±1.97%以内(45.93%~49.87%)である」とみることができる。

## 6. 調査報告書の見方

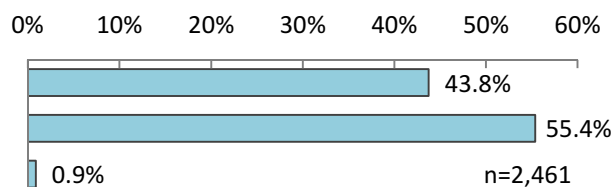
- 集計値は、小数点第2位を四捨五入とする。したがって、数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- 回答比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- 基数となるべき実数はnとして表示した。その比率は、件数を100.0%として算出した。



## II 調査回答者の属性

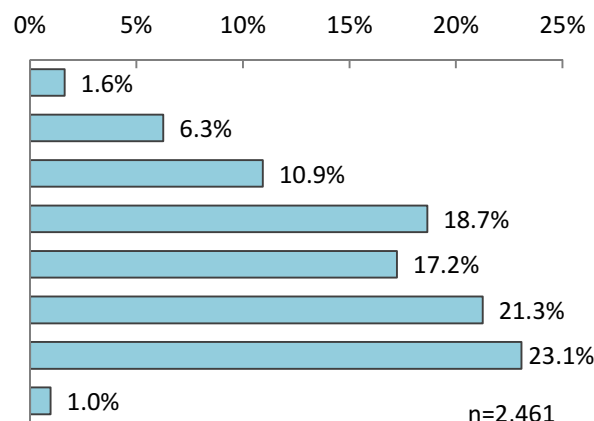
F 1 【性】 あなたの性別をお答えください。

	基 数	構成比
1 男	1,077	43.8%
2 女	1,363	55.4%
(無回答)	21	0.9%
合 計	2,461	100.0%



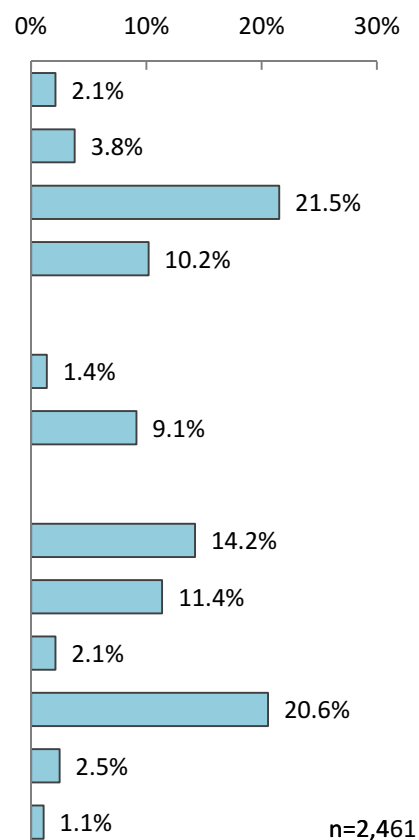
F 2 【年齢】 あなたの年齢はおいくつですか。

	基 数	構成比
1 10 歳代	40	1.6%
2 20 歳代	154	6.3%
3 30 歳代	269	10.9%
4 40 歳代	459	18.7%
5 50 歳代	424	17.2%
6 60 歳以上	523	21.3%
7 70 歳以上	568	23.1%
(無回答)	24	1.0%
合 計	2,461	100.0%

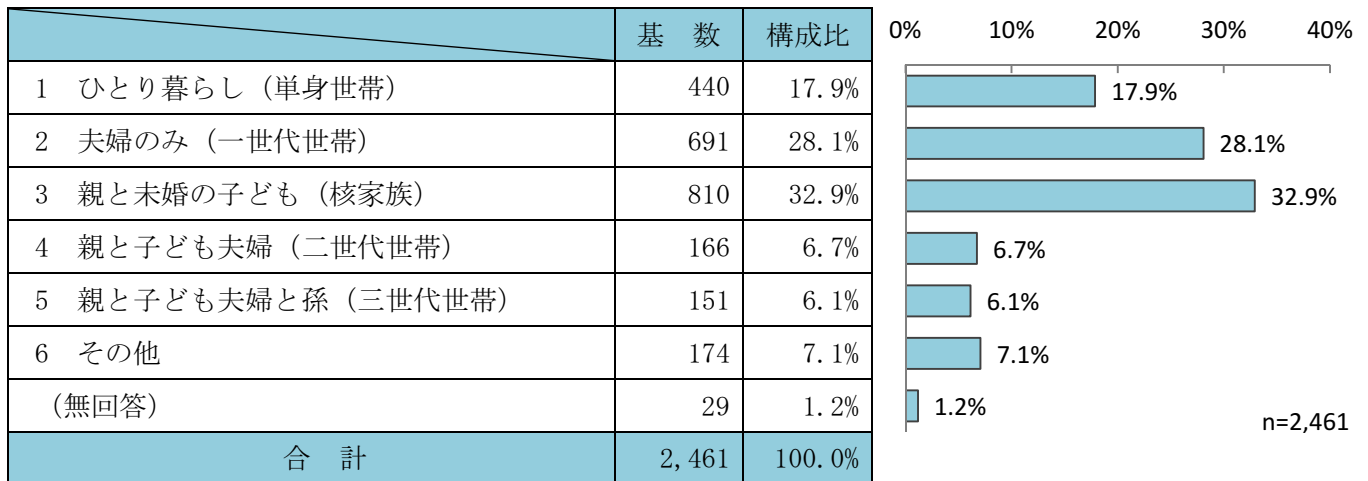


F 3 【職業】 あなたの職業は、次の分類ではどれになりますか。

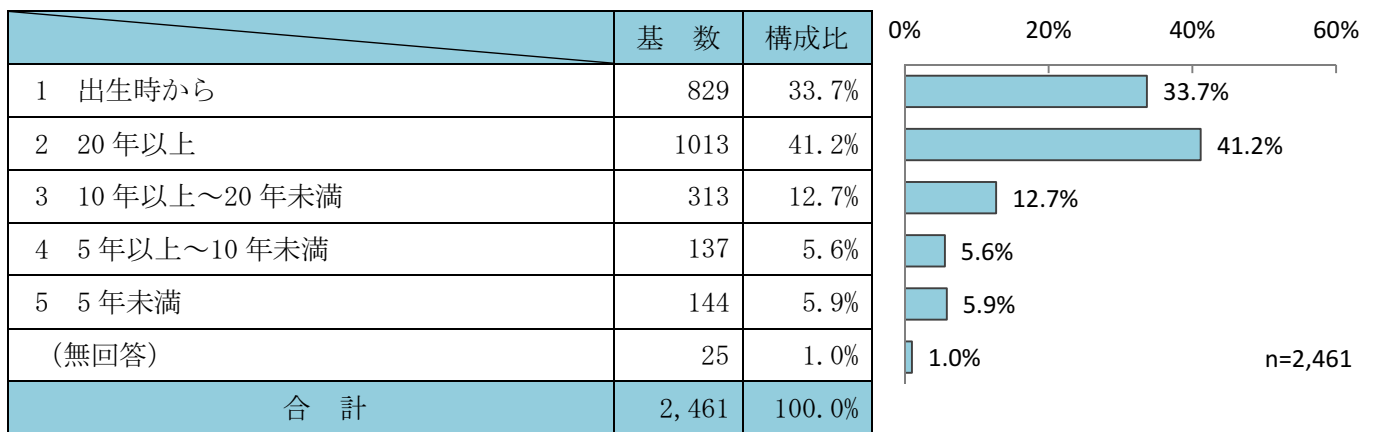
	基 数	構成比
1 専門職 (医師, 弁護士, 大学教授, 僧侶など)	52	2.1%
2 管理職 (官公庁や事業所の重役, 部課長など)	93	3.8%
3 事務・技術職 (一般事務員, 公務員, 技師, 保育士, 看護師など)	530	21.5%
4 販売・生産・労務職 (店員, 工員, 職人, 運転手, 作業員など)	251	10.2%
勤め人 (計)	926	37.6%
5 農林水産業従事者	34	1.4%
6 自営業・サービス業従事者	225	9.1%
自営業 (計)	259	10.5%
7 家事に専念している主婦, 主夫	350	14.2%
8 パート従事者	280	11.4%
9 学生	52	2.1%
10 無職	506	20.6%
11 その他	61	2.5%
(無回答)	27	1.1%
合 計	2,461	100.0%



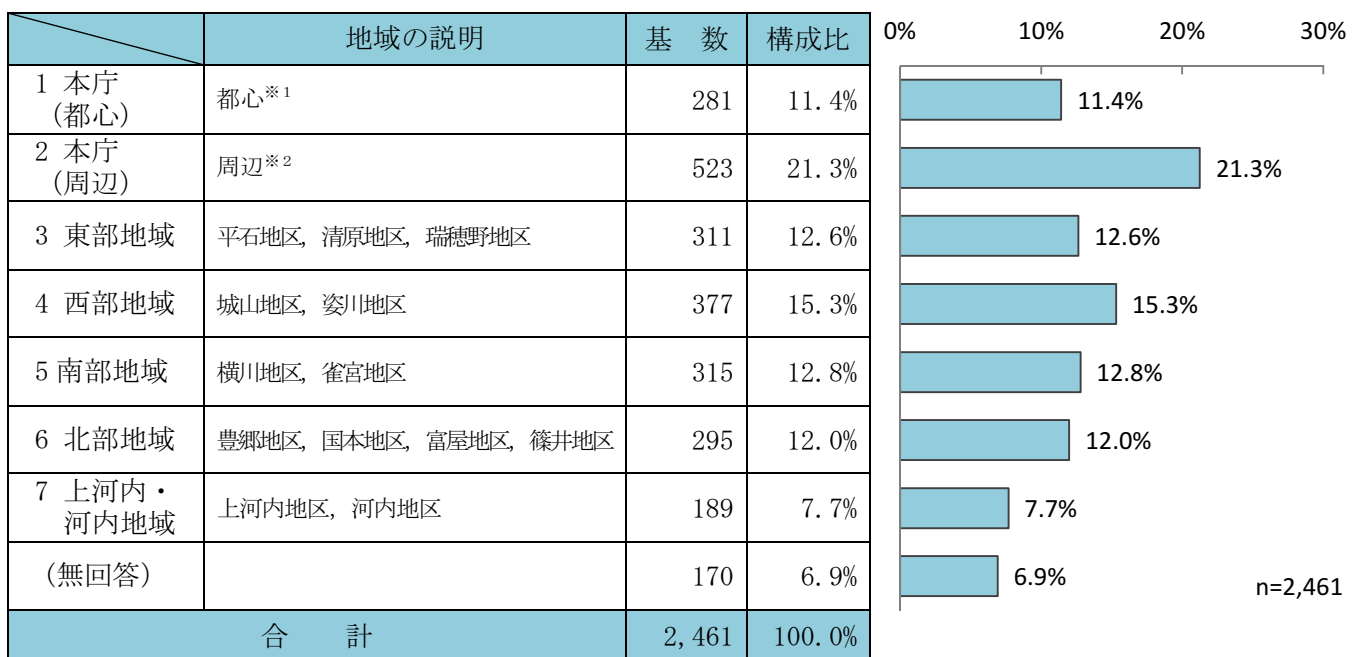
F 4 【家族構成】 あなたの家族構成はどれに該当しますか。



F 5 【居住年数】 あなたは、宇都宮市にお住まいになってどのくらいになりますか。



F 6 【居住地域】 あなたがお住まいの町はどちらですか。

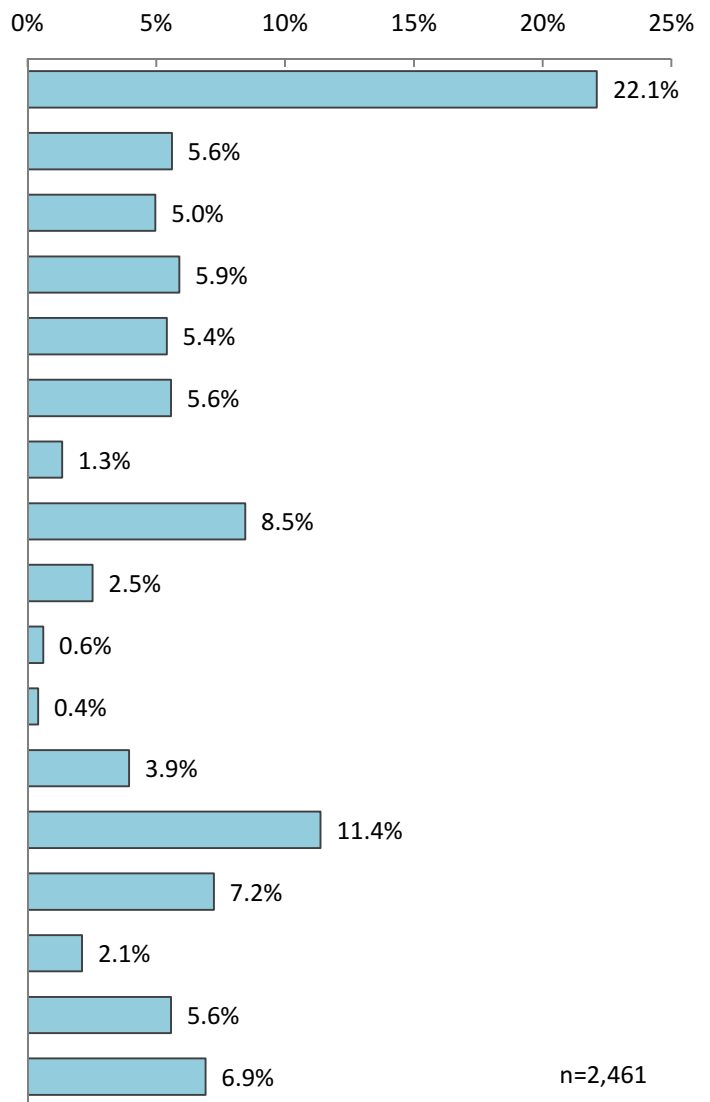


※1 本庁管内で、【東】国道4号バイパス・【西】桜通り・【南】平成通り・【北】競輪場通りで囲まれた地域

※2 本庁管内で、【東】国道4号バイパス・【西】桜通り・【南】平成通り・【北】競輪場通りより外側の地域

F 6 【居住地区】

	基 数	構 成 比
1 本庁	544	22.1%
2 宝木	138	5.6%
3 陽南	122	5.0%
4 平石	145	5.9%
5 清原	133	5.4%
6 横川	137	5.6%
7 瑞穂野	33	1.3%
8 豊郷	208	8.5%
9 国本	62	2.5%
10 富屋	15	0.6%
11 篠井	10	0.4%
12 城山	97	3.9%
13 姿川	280	11.4%
14 雀宮	178	7.2%
15 上河内	52	2.1%
16 河内	137	5.6%
(無回答)	170	6.9%
合 計	2,461	100.0%



---

<MEMO>

## III 調査結果のあらまし

### 第 53 回市政に関する世論調査の結果

#### 1. 宇都宮市に対する感じ方について

##### (1) 宇都宮市の好き・嫌い

「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた【好き（計）】は9割強であった。

##### (2) 好きな理由

宇都宮市の好きだと思うところについては、「自然災害の少なさ」が5割弱で最も高く、次いで「買い物など日常生活の便利さ」「自然環境の豊かさ」「慣れ親しんだところ」と続いている。

##### (3) 嫌いな理由

宇都宮市の嫌いだと思うところについては、「交通マナーの悪さ」が4割弱で最も高く、次いで「街に活気がないところ」「交通渋滞の多さ」「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」と続いている。

#### 2. 広報媒体の活用状況について

##### (1) 市政情報の各広報媒体の視聴状況

市政情報の各広報媒体の視聴状況については、「よく見る（聞く）」と「ときどき見る（聞く）」を合わせた【見る（聞く）ことがある（計）】は、「広報うつのみや」が8割半ばで最も高く、次いで「暮らしの便利帳」「インターネット（宇都宮市ホームページ）」と続いている。

##### (2) 「広報うつのみや」の入手方法

「広報うつのみや」の入手方法については、「新聞折込で自宅に届いている」が6割強で最も高く、「手に入れていない」は2割弱であった。

##### (3) 「広報うつのみや」を入手していない理由

「広報うつのみや」を入手していない理由は、「特に必要でないため」が5割であった。

##### (4) 「広報うつのみや」で読んでいる記事

「広報うつのみや」で主に読んでいる記事については、「市政情報」が6割半ばで最も高く、次いで「特集」「各施設の催し物」「情報カレンダー」「政策特集（広報うつのみやプラス）」「相談窓口」と続いている。

##### (5) 市ホームページや関連ページで詳細な情報を入手するためのQRコードや7桁のページIDの利用状況

市ホームページや関連ページで詳細な情報を入手するためのQRコードや7桁のページIDの利用状況は、「どちらも利用したことはない」が9割弱であった。

##### (6) 広報うつのみやに関する感想、取り上げてほしい話題・情報

生活、子育て、観光、LRT等の話題に関する意見のほか、新型コロナウイルス感染症関連情報の充実を求める声が多かった。

##### (7) 市のホームページを見るための主な手段

市のホームページを見るための主な手段は、「スマートフォン」が3割半ばであった。

### (8) ホームページで知りたい情報はどこから探すか

ホームページで知りたい情報をトップ画面のどこから探すかについては、「キーワード検索」が約5割であった。

### (9) ホームページで知りたい情報は探しやすいか

ホームページで知りたい情報は探しやすいかについては、「探しやすい」と「どちらかといえば探しやすい」を合わせた【探しやすい(計)】が約7割であった。

### (10) ホームページに関する感想、充実してほしい機能や情報

公共施設や子育て、生活、税制、観光、各種イベント等の充実や情報検索のしやすさを求める声が多かった。

### (11) 市政情報をどんな手段で知りたいか

市政情報をどんな手段で知りたいかについては、「広報うつのみや」が約6割であった。

## 3. 宇都宮市の景観について

### (1) 宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるか

宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるかについては、「非常に良くなった」と「どちらかかというとも良くなった」を合わせた【良くなった(計)】が約5割であった。一方、「変わらない」は3割半ばであった。

### (2) 「宇都宮らしい景観」とは何か

「宇都宮らしい景観」とは何かについては、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」が4割強で最も高く、次いで「鬼怒川など郊外の豊かな自然を感じる河川」が2割半ばと続いている。

### (3) 良好な都市景観の形成に必要なこと

良好な都市景観の形成に必要なことについては、「道路上の電柱・電線類の地中化」が約5割で最も高く、次いで「沿道や都心部の緑化の推進」が3割弱、「周辺景観に調和していない屋外広告物(看板)の撤去や規制」が2割強と続いている。

### (4) 屋外広告物についての印象

景観を形成する要素の一つである屋外広告物の印象については、「悪い」と「どちらかといえば悪い」を合わせた【悪い(計)】が5割弱であった。

### (5) よりよい景観形成のため屋外広告物の基準を強化する地域

よりよい景観形成のため屋外広告物の基準を強化する地域については、「豊かな自然景観を眺望できる地域」が約4割で最も高く、次いで「商業施設やオフィスビル等が立地する地域」が4割弱、「主要な道路や交差点周辺等の地域」が約3割と続いている。

## 4. 食品ロスの削減について

### (1) 「食品ロス」が問題となっていることの認知度

「食品ロス」が問題となっていることの認知度については、「よく知っている」と「ある程度知っている」を合わせた【知っている（計）】が9割弱であった。

### (2) 「食品ロス」を減らすために取り組んでいること

「食品ロス」を減らすために取り組んでいることについては、「残さずに食べる」が約6割で最も高く、次いで「冷凍保存を活用する」が6割弱と続いている。

### (3) フードバンク活動の認知度

フードバンク活動の認知度については、「よく知っている」と「ある程度知っている」を合わせた【知っている（計）】が約5割であった。

## 5. 特別支援教育について

### (1) 「発達障がい」についての認知度

「発達障がい」についての認知度については、「よく知っている」と「どのようなものか、ある程度知っている」を合わせた【知っている（計）】が7割半ばであった。

### (2) 「特別支援教育」についての認知度

「特別支援教育」についての認知度については、「よく知っている」と「どのようなものか、ある程度知っている」を合わせた【知っている（計）】が6割弱であった。

## 6. 結婚・出産・子育てに関する意識について

### (1) 結婚しているか

結婚しているかについては、「結婚している」が約6割、「結婚していない」が約2割、「結婚したことがあるが現在はしていない（離死別含む）」が2割弱であった。

### (2) 結婚するつもりがあるか

結婚するつもりがあるかについては、「いずれ結婚するつもり」が3割半ばであったのに対し、「結婚するつもりはない」が6割弱であった。

### (3) 結婚している場合、全部で何人のお子さんを持ちたいか

結婚している場合、全部で何人のお子さんを持ちたいかについては、「2人」が5割半ばであった。

### (4) 結婚を予定している場合、子どもは何人ほしいか

結婚を予定している場合、子どもは何人ほしいかについては、「2人」が4割半ばであった。

## 7. 空き家及び防犯・交通安全に関する意識について

### (1) 管理が不十分な空き家が増えていると感じるか

管理が不十分な空き家が増えていると感じるかについては、「変わらない」が約6割で、「増えている」が3割半ばであった。

## (2) 近所の空き家の活用方法

近所の空き家の活用方法については、「住宅のままの利用」が3割半ば、「管理されていれば空き家のままで良い」が3割強、「カフェなどの飲食店」が約3割であった。

## (3) 「宇都宮空き家会議」の認知度

宇都宮空き家会議の認知度については、「知っている」が1割強だったのに対し、「知らない」が9割弱であった。

## (4) 安心して暮らすことができていると思うか

安心して暮らすことができていると思うかについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う（計）】が約9割であった。

## (5) 自転車保険の加入状況

自転車保険の加入状況については、「普段自転車を利用しておらず保険には加入していない」が4割半ばであった。

## 8. いちご一会とちぎ国体・いちご一会とちぎ大会について

### (1) 栃木県で国体が開催されることの認知度

栃木県で国体が開催されることを知っているかについては、「知っている」が8割弱であった。

### (2) ボランティア活動で、とちぎ国体に参加したいか

ボランティア活動で、とちぎ国体に参加したいかについては、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う（計）】が2割半ばであった。

### (3) ボランティア情報の入手方法

ボランティア情報の入手方法については、「広報紙」が5割半ばで最も多く、次いで「新聞・広告」が5割弱、「TV、ラジオ」が4割強と続いている。

### (4) 国体を盛り上げるために重要だと思うこと

国体を盛り上げるために重要だと思うことについては、「来訪者に対する心のこもったおもてなしの提供」が約5割で最も多く、次いで「観光情報を発信する市の魅力紹介」、「会場周辺をきれいにする環境美化活動」が4割半ばと続いている。

## 9. 生物多様性について

### (1) 生物多様性という言葉の認知度

生物多様性という言葉の認知度については、「聞いたことはあるが、意味は知らない」が4割半ばで最も高く、次いで「言葉も意味も知っている」が3割半ばであった。

### (2) 外来種が及ぼす影響についての認知度

外来種が及ぼす影響についての認知度については、「知っている」が6割半ばで最も高く、次いで「聞いたことはあるが、具体的な影響はわからない」が約3割であった。

### (3) 生物多様性を保全する活動に参加したいか

生物多様性を保全する活動に参加したいかについては、「興味がない」が3割半ばで最も高く、次いで「関心はあるが、時間がなくて参加できない」が3割強であった。



## 10. 自転車のまちづくりについて

### (1) 自転車の利用頻度

自転車の利用頻度については、「ほとんど利用しない」が6割半ばであった。

### (2) 宇都宮市は自転車を使いやすいまちだと思うか

宇都宮市は自転車を使いやすいまちだと思うかについては、「あまりそう思わない」と「そうは思わない」を合わせた【そう思わない（計）】が約6割であった。

### (3) 自転車のまちづくりを進めていくために必要な取り組み

自転車のまちづくりを進めていくために必要な取り組みについては、「安全・安心に自転車を走行できる環境づくり」が7割弱で最も多く、次いで「自転車の走行ルール・マナーの徹底」が6割半ば、「中心市街地での駐輪しやすい環境づくり」が約4割と続いている。

## 11. 「大谷石文化」の日本遺産認定

### (1) 「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことに関する認知度

「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことに関する認知度については、「知っている」が5割強であった。

### (2) 「大谷石文化」を誇りに感じるか

「大谷石文化」を誇りに感じるかについては、「感じる」と「やや感じる」を合わせた【感じる（計）】が約7割であった。

## 12. 「まちづくり活動」への意識について

### (1) 「まちづくり活動」の参加状況

「まちづくり活動」の参加状況については、「現在、参加している」が2割半ば、「今は参加していないが、今後ぜひ参加したい」と「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」を合わせた【参加したい（計）】が3割強であった。

### (2) 参加中または興味があるまちづくり活動の種類

参加中または興味があるまちづくり活動については、「地域の安全・安心を守るための活動」が2割強で最も高く、次いで「地域の環境や自然等を守るための活動」、「スポーツ・文化・芸術の普及啓発等に関する活動」が約2割で続いている。

### (3) まちづくり活動に参加したいと思わない、または参加できない理由

まちづくり活動に参加したいと思わない、または参加できない理由については、「参加する事に興味や関心がない」が3割弱であった。

## 13. 「SDGs」（エス・ディー・ジーズ）について

### (1) 「SDGs」についての認知度

「SDGs」についての認知度については、「SDGsについて全く知らない(今回の調査で初めて認識)」が約7割であった。

## (2) SDGsについて知っている内容

SDGsについて知っている内容については、「17個のゴール（目標）があることを知っている」が7割弱で最も高く、次いで「国連で決められた国際社会全体の目標である」、「持続可能な開発に関する2030年を期限とする世界目標である」が6割強で続いている。

## (3) SDGsについて知った手段

SDGsについて知った手段については、「インターネット」が6割強であった。

## 14. 男女共同参画について

### (1) 家事・育児・介護それぞれに費やした時間

家事・育児・介護それぞれに費やした時間については、家事は、「7時間以上21時間未満」が約4割であった。育児は、「対象者なし」を除く「7時間以上21時間未満」が約1割であった。介護は、「対象者なし」を除く「0時間以上7時間未満」が1割弱に満たなかった。

### (2) 社会的な活動の実施状況

社会的な活動の実施状況については、「特になし」が約6割で最も高く、次いで「自治会やまちづくりなどの地域活動」が約2割、「文化、スポーツなどのグループ活動」が1割強と続いている。

### (3) 配偶者からの暴力を受けた経験

過去1年間に、配偶者から暴力を受けたことがあるかについて、「心理的攻撃」「経済的圧迫」「身体的暴行」「性的強要」いずれも「まったくない」は6割半ば以上であった。「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせた【経験あり（計）】は、「心理的攻撃」が最も高かったが1割弱に満たなかった。

### (3) LGBT（エルジービーティイー）の認知度

LGBT（エルジービーティイー）の認知度については、「言葉も内容も知っている」が5割強で最も高く、次いで「言葉だけは聞いたことがある」が約3割、「全く知らない」が1割半ばであった。

## 15. 雨水貯留・浸透施設の補助金制度について

### (1) 雨水貯留・浸透施設の認知度

雨水貯留・浸透施設の認知度については、「知っている」が約4割で最も高く、次いで「名前は聞いたことがある」が3割強、「全く知らない」が3割弱と続いている。

### (2) 雨水貯留・浸透施設の設置に対する補助金制度の認知度

雨水貯留・浸透施設の設置に対する補助金制度の認知度については、「知っている」が約3割だったのに対し、「知らない」が約7割であった。

### (3) 雨水貯留・浸透施設の設置効果についての認知度

雨水貯留・浸透施設の設置が浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につながるものの認知度については、「知っている」が3割半ばだったのに対し、「知らない」が6割半ばであった。

### (4) 雨水貯留・浸透施設を設置したいと思うか

雨水貯留・浸透施設を設置したいと思うかについては、「わからない」が約6割であった。

---

#### **(5) 雨水貯留・浸透施設の設置希望・既設置の理由**

雨水貯留・浸透施設を設置したい、または既に設置してある理由については、「雨水を庭木の水やりに利用するため」が5割弱で最も高く、次いで「水の節約になるため」、「浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につながるため」が4割半ばで続いている。

#### **(6) 雨水貯留・浸透施設を設置したくない理由**

雨水貯留・浸透施設を設置したくない理由については、「敷地に設置できる場所がないため」が5割半ばで最も高く、次いで「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」が5割弱、「自己負担があるため」が約3割で続いている。

---

<MEMO>

## IV 第53回市政に関する世論調査の結果

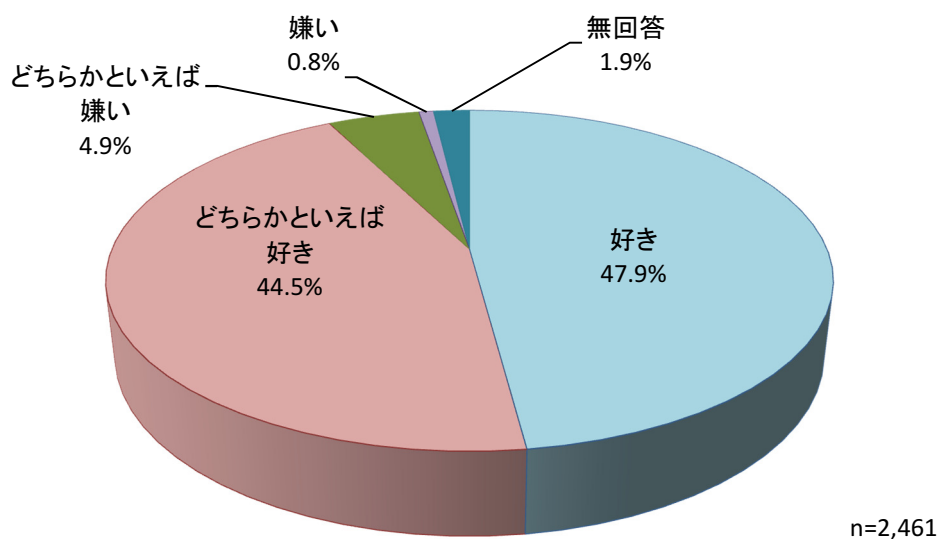
### 1. 宇都宮市に対する感じ方について

#### (1) 宇都宮市の好き・嫌い

◇「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた【好き(計)】が9割強

問1	宇都宮市を好きですか、それとも嫌いですか。	(○は1つ)
		n=2,461
1	好き	47.9%
2	どちらかといえば好き	44.5%
3	どちらかといえば嫌い	4.9%
4	嫌い	0.8%
	(無回答)	1.9%

<図IV-1-1>全体



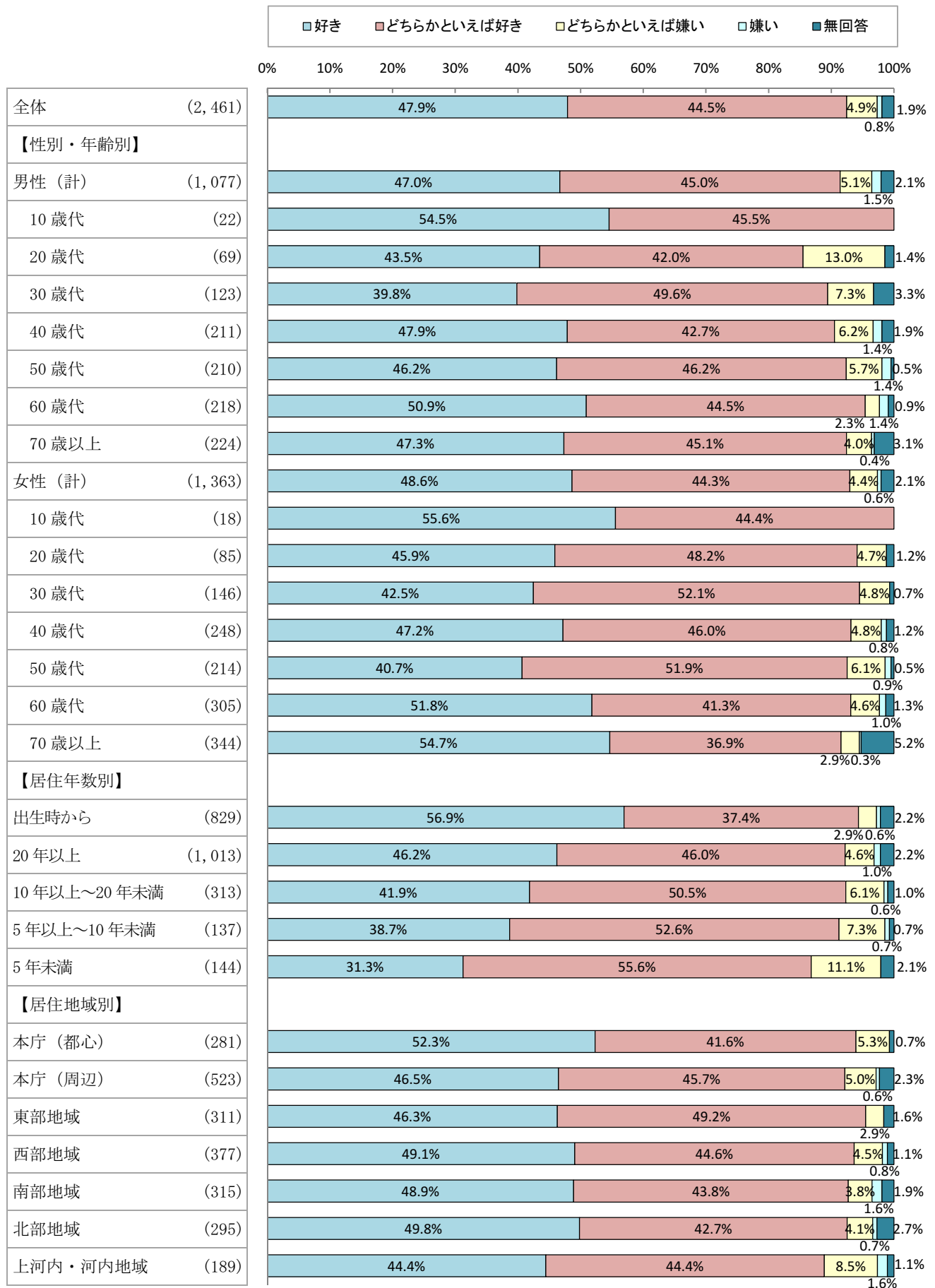
宇都宮市を好きか、嫌いか聞いたところ、「好き」が47.9%、「どちらかといえば好き」が44.5%で、これらを合わせた【好き(計)】が92.4%であった。一方、「どちらかといえば嫌い」4.9%、「嫌い」0.8%で、これらを合わせた【嫌い(計)】は5.7%と1割に満たない。(図IV-1-1)

性別・年齢別で見ると、【好き(計)】は<男性/10歳代>と<女性/10歳代>がいずれも100.0%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が95.4%であった。【好き(計)】は、性別・年齢別に関係なく8割半ば以上となっている。一方、【嫌い(計)】は<男性/20歳代>が13.0%で最も高く、<男性/40歳代>が7.6%、<男性/30歳代>が7.3%と続いている。(図IV-1-2)

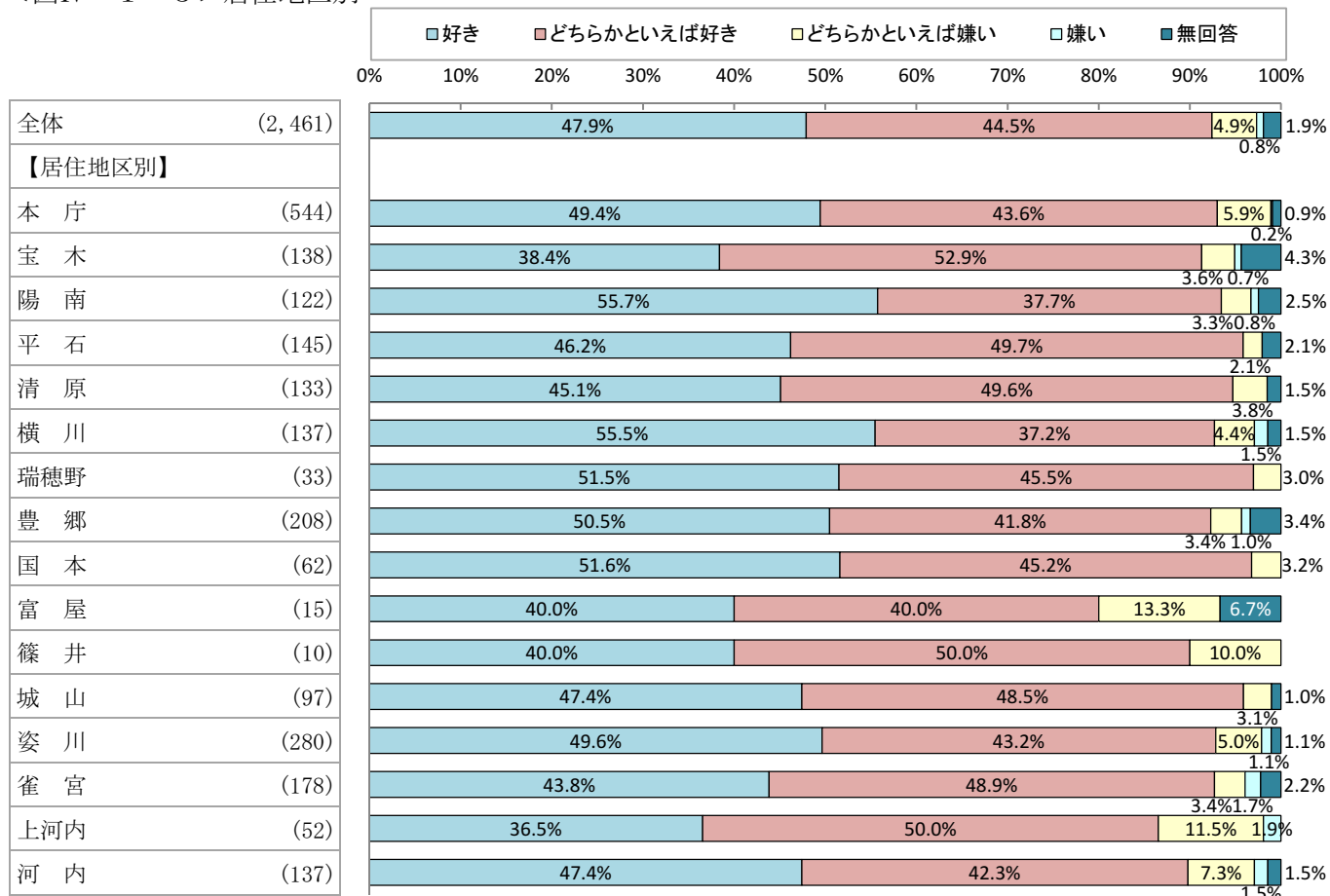
居住年数別で見ると、【好き(計)】は<出生時から>が94.3%で最も高く、次いで<10年以上~20年未満>が92.4%であった。一方、【嫌い(計)】は<5年未満>が11.1%で最も高く、次いで<5年以上~10年未満>が8.0%であった。(図IV-1-2)

居住地域別で見ると、【好き(計)】は<東部地域>が95.5%で最も高く、次いで<本庁(都心)>が93.9%であった。一方、【嫌い(計)】は<上河内・河内地域>が10.1%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が5.6%であった。(図IV-1-2)

<図IV-1-2>性別・年齢別/居住年数別/居住地域別



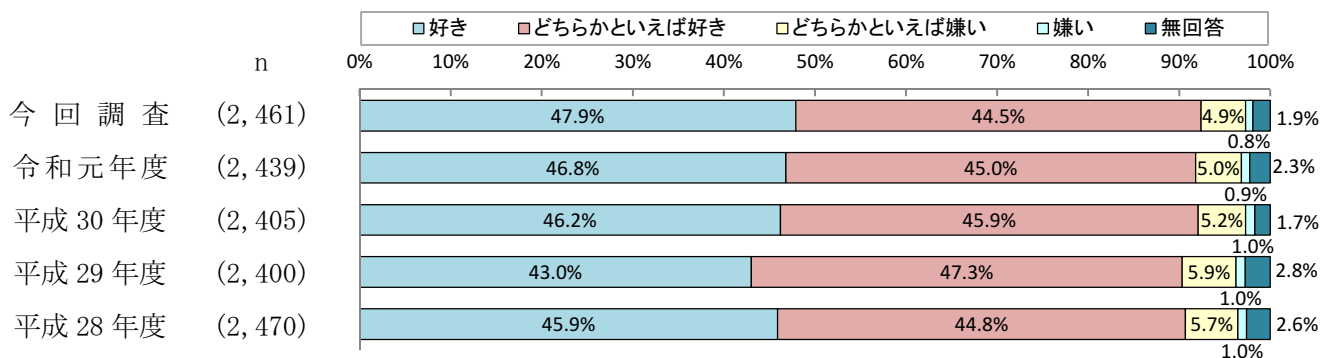
<図IV-1-3>居住地区別



【経年比較】

選択項目	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い	無回答
令和2年度	47.9%	44.5%	4.9%	0.8%	1.9%
令和元年度	46.8%	45.0%	5.0%	0.9%	2.3%
平成30年度	46.2%	45.9%	5.2%	1.0%	1.7%
平成29年度	43.0%	47.3%	5.9%	1.0%	2.8%
平成28年度	45.9%	44.8%	5.7%	1.0%	2.6%

<図IV-1-4>経年比較



【好き(計)】及び【嫌い(計)】については、過去4年間と比較しても、特に大きな違いは見られない。(図IV-1-4)

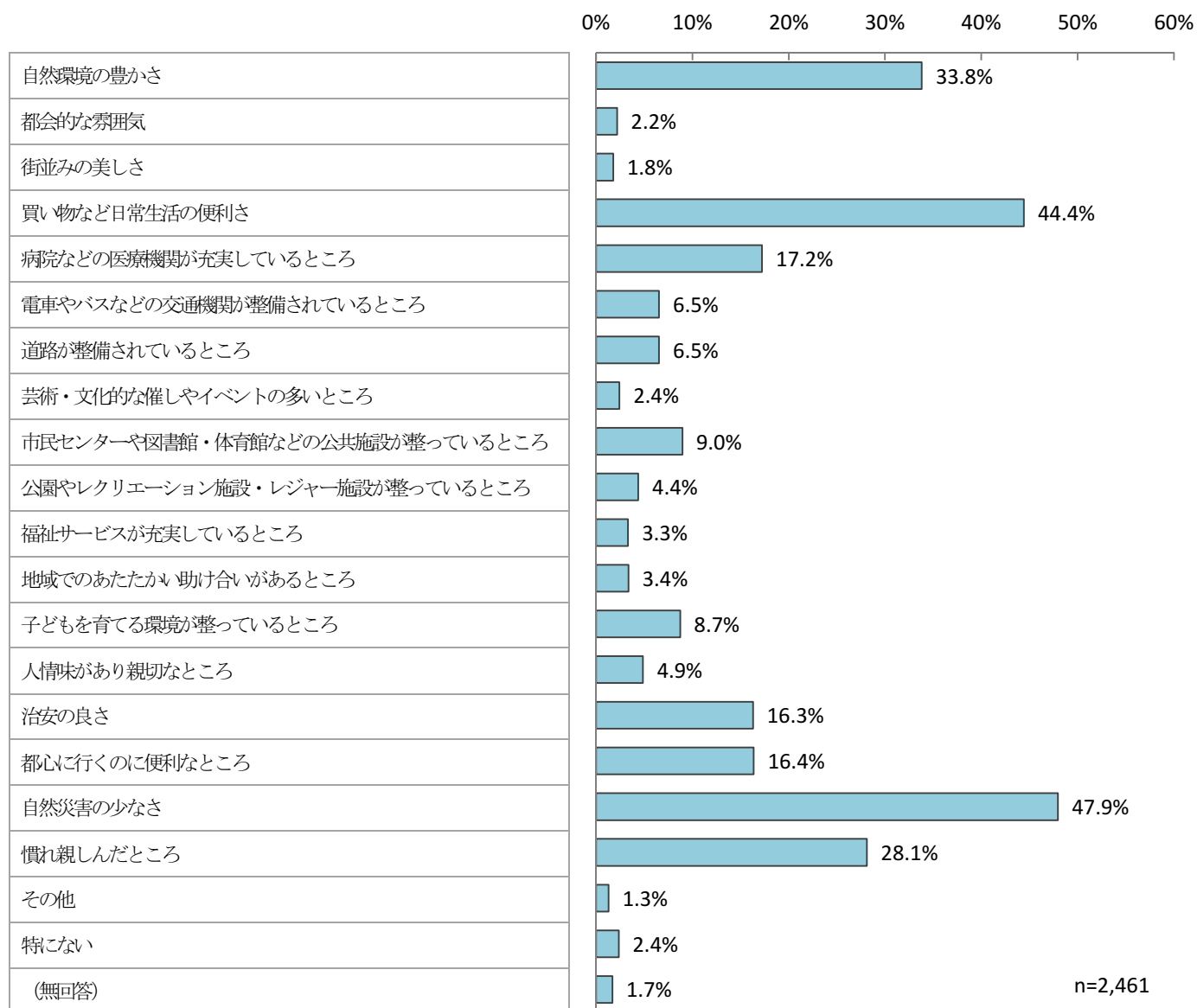
(2) 好きな理由

◇ 「自然災害の少なさ」が5割弱

問2 宇都宮市の好きだと思うところをあげてください。		(○は3つまで)
		n=2,461
1	自然環境の豊かさ	33.8%
2	都会的な雰囲気	2.2%
3	街並みの美しさ	1.8%
4	買い物など日常生活の便利さ	44.4%
5	病院などの医療機関が充実しているところ	17.2%
6	電車やバスなどの交通機関が整備されているところ	6.5%
7	道路が整備されているところ	6.5%
8	芸術・文化的な催しやイベントの多いところ	2.4%
9	市民センターや図書館・体育館などの公共施設が整っているところ	9.0%
10	公園やレクリエーション施設・レジャー施設が整っているところ	4.4%
11	福祉サービスが充実しているところ	3.3%
12	地域でのあたたかい助け合いがあるところ	3.4%
13	子どもを育てる環境が整っているところ	8.7%
14	人情味があり親切なところ	4.9%
15	治安の良さ	16.3%
16	都心に行くのに便利なところ	16.4%
17	自然災害の少なさ	47.9%
18	慣れ親しんだところ	28.1%
19	その他	1.3%
20	特にない	2.4%
	(無回答)	1.7%



<図IV-1-5>全体



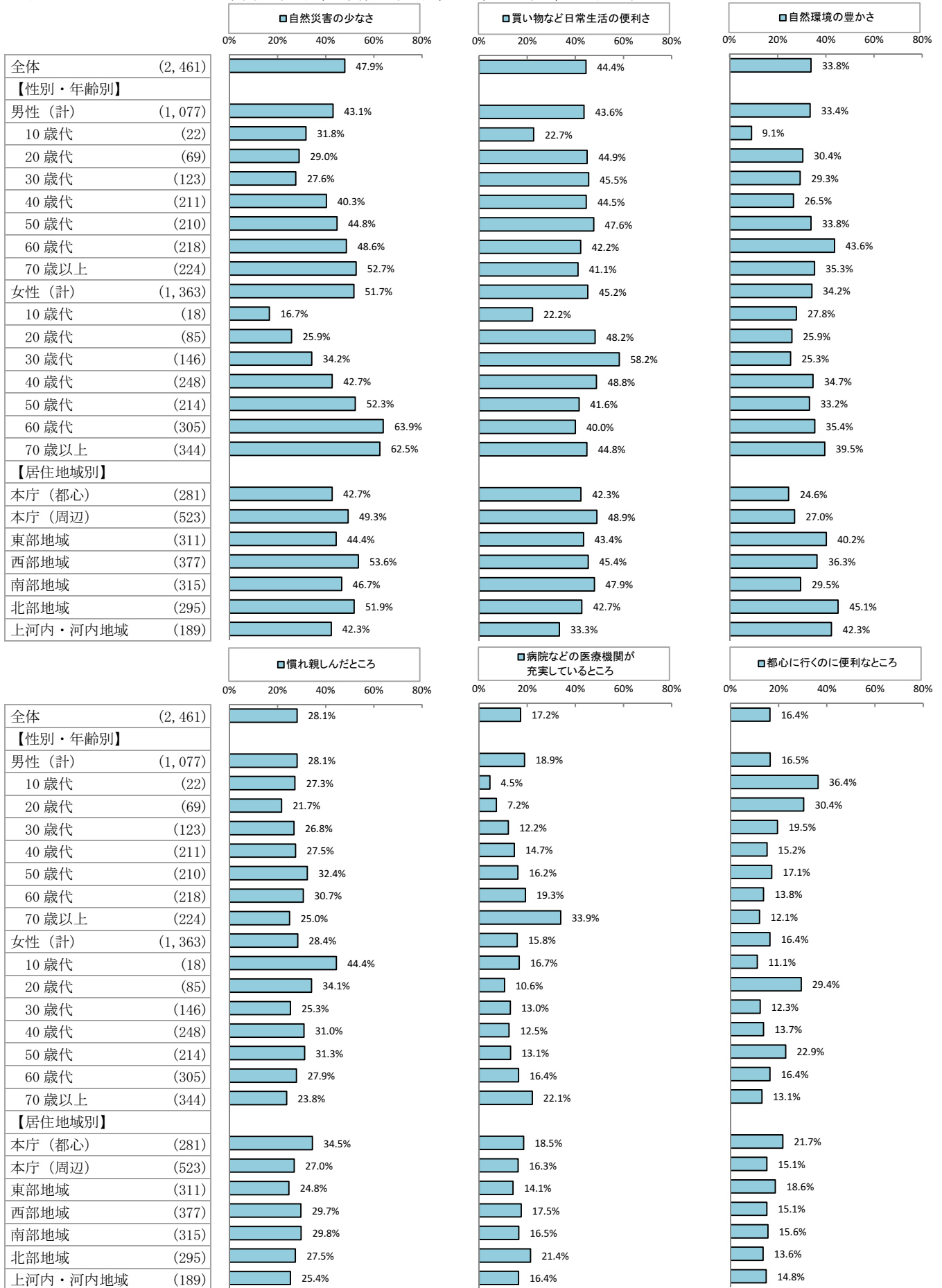
宇都宮市で好きだと思うところについて、1位が「自然災害の少なさ」で47.9%、2位「買い物など日常生活の便利さ」で44.4%、3位「自然環境の豊かさ」で33.8%、4位「慣れ親しんだところ」で28.1%、5位「病院などの医療機関が充実しているところ」で17.2%、6位「都心に行くのに便利なところ」で16.4%という順であった。(図IV-1-5)

上位6項目について性別・年齢別でみると、「自然災害の少なさ」は<女性/60歳代>が63.9%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が62.5%であった。「買い物など日常生活の便利さ」は<女性/30歳代>が58.2%で最も高かった。「自然環境の豊かさ」は<男性/60歳代>が43.6%で最も高く、「慣れ親しんだところ」は<女性/10歳代>が44.4%、「病院などの医療機関が充実しているところ」は<男性/70歳以上>が33.9%、「都心に行くのに便利なところ」は<男性/10歳代>が36.4%で最も高かった。(図IV-1-6)

居住地域別でみると、「自然災害の少なさ」は、各地域で4割強から5割半ばとなっているが、<西部地域>が53.6%で最も高く、「買い物など日常生活の便利さ」は<本庁(周辺)>が48.9%、「自然環境の豊かさ」は<北部地域>が45.1%、「慣れ親しんだところ」は<本庁(都心)>が34.5%、「病院などの医療機関が充実しているところ」は<北部地域>が21.4%、「都心に行くのに便利なところ」は<本庁(都心)>が21.7%で最も高かった。(図IV-1-6)

その他の意見では、「都会すぎず田舎すぎないところ」「将来に向けて活気がある」などがあった。

<図IV-1-6>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別（上位6項目）

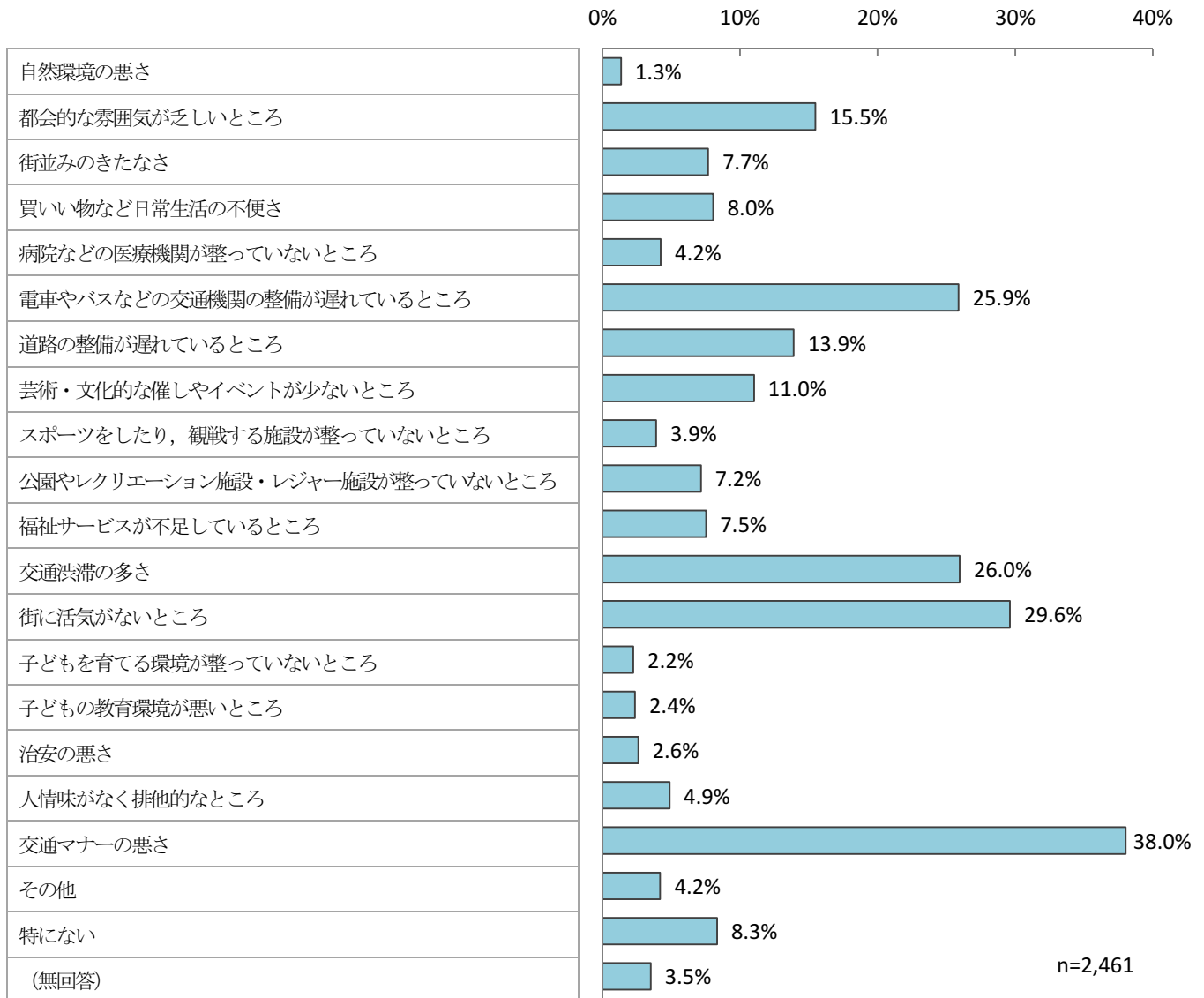


(3) 嫌いな理由

◇ 「交通マナーの悪さ」が4割弱

問3 宇都宮市の嫌いだと思うところをあげてください。		(○は3つまで)
		n=2,461
1	自然環境の悪さ	1.3%
2	都会的な雰囲気が乏しいところ	15.5%
3	街並みのきたなさ	7.7%
4	買い物など日常生活の不便さ	8.0%
5	病院などの医療機関が整っていないところ	4.2%
6	電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ	25.9%
7	道路の整備が遅れているところ	13.9%
8	芸術的・文化的な催しやイベントが少ないところ	11.0%
9	スポーツをしたり、観戦する施設が整っていないところ	3.9%
10	公園やレクリエーション施設、レジャー施設が整っていないところ	7.2%
11	福祉サービスが不足しているところ	7.5%
12	交通渋滞の多さ	26.0%
13	街に活気がないところ	29.6%
14	子どもを育てる環境が整っていないところ	2.2%
15	子どもの教育環境が悪いところ	2.4%
16	治安の悪さ	2.6%
17	人情味がなく排他的なところ	4.9%
18	交通マナーの悪さ	38.0%
19	その他	4.2%
20	特にない	8.3%
	(無回答)	3.5%

<図IV-1-7>全体



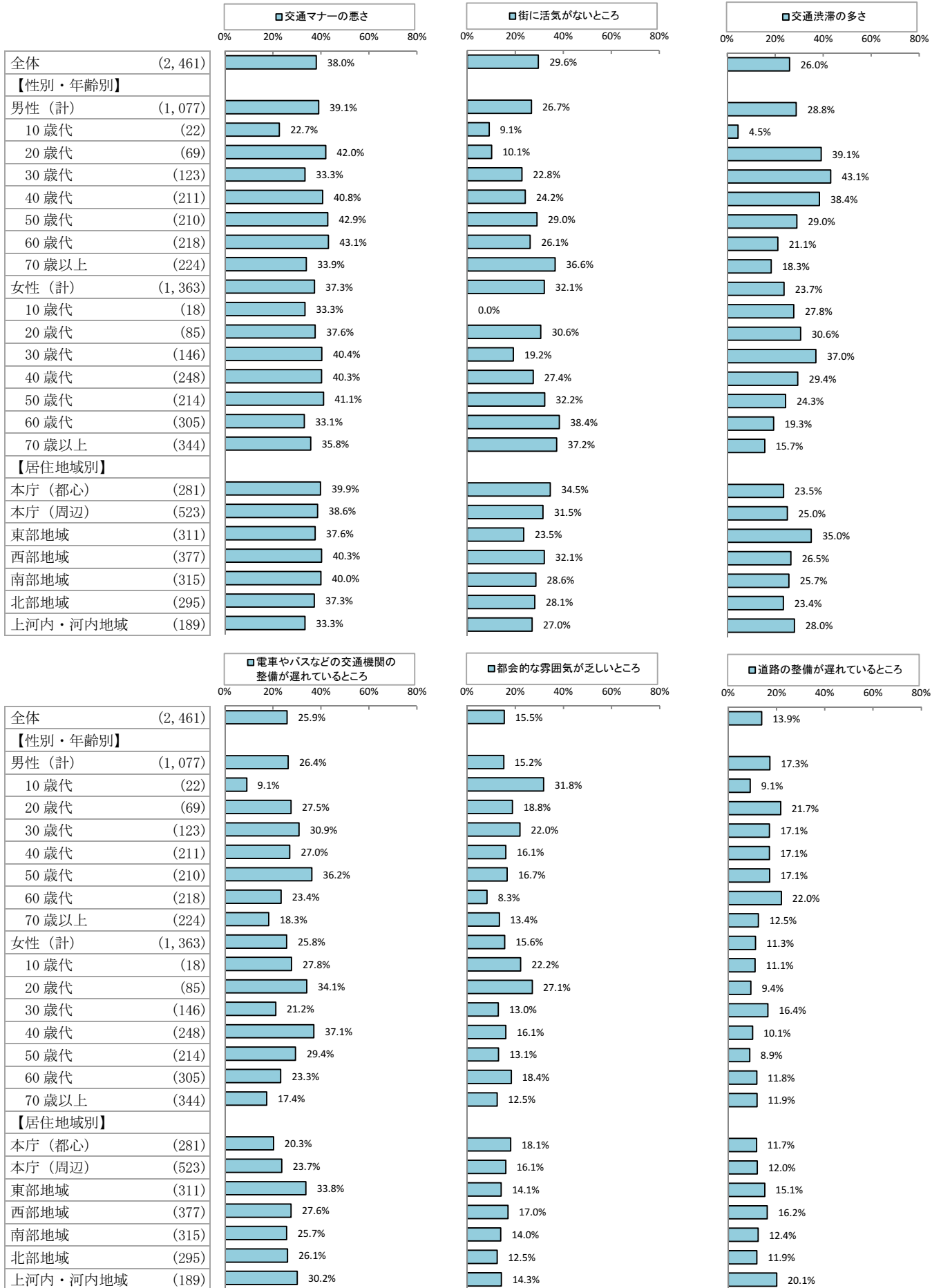
宇都宮市の嫌いだと思うところについては、1位が「交通マナーの悪さ」で38.0%、2位「街に活気がないところ」で29.6%、3位「交通渋滞の多さ」で26.0%、4位「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」で25.9%、5位「都会的な雰囲気が乏しいところ」で15.5%、6位「道路の整備が遅れているところ」で13.9%という順であった。(図IV-1-7)

性別・年齢別でみると、「交通マナーの悪さ」は<男性/60歳代>が43.1%で最も高く、次いで<男性/50歳代>が42.9%であった。「街に活気がないところ」は<女性/60歳代>が38.4%で最も高く、「交通渋滞の多さ」は<男性/30歳代>が43.1%で最も高かった。「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」は<女性/40歳代>が37.1%で最も高かった。「都会的な雰囲気が乏しいところ」は<男性/10歳代>が31.8%で最も高かった。「道路の整備が遅れているところ」は<男性/60歳代>が22.0%で最も高かった。(図IV-1-8)

居住地域別でみると、「交通マナーの悪さ」は<西部地域>が40.3%で最も高かった。「街に活気がないところ」は<本庁(都心)>が34.5%で最も高く、「交通渋滞の多さ」は<東部地域>が35.0%で最も高かった。「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」は<東部地域>が33.8%で最も高かった。「都会的な雰囲気が乏しいところ」は<本庁(都心)>が18.1%で最も高かった。「道路の整備が遅れているところ」は<上河内・河内地域>が20.1%で最も高かった。(図IV-1-8)

その他の意見では、「公共交通(バス、LRTなど)や道路整備に対する不満」「行政に対する不満」「街並みに対する不満」「施設不足」「税金・公共料金が高い」などがあつた。

<図IV-1-8>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別（上位6項目）



## 2. 広報媒体の活用状況について

### (1) 市政情報の各広報媒体の視聴状況

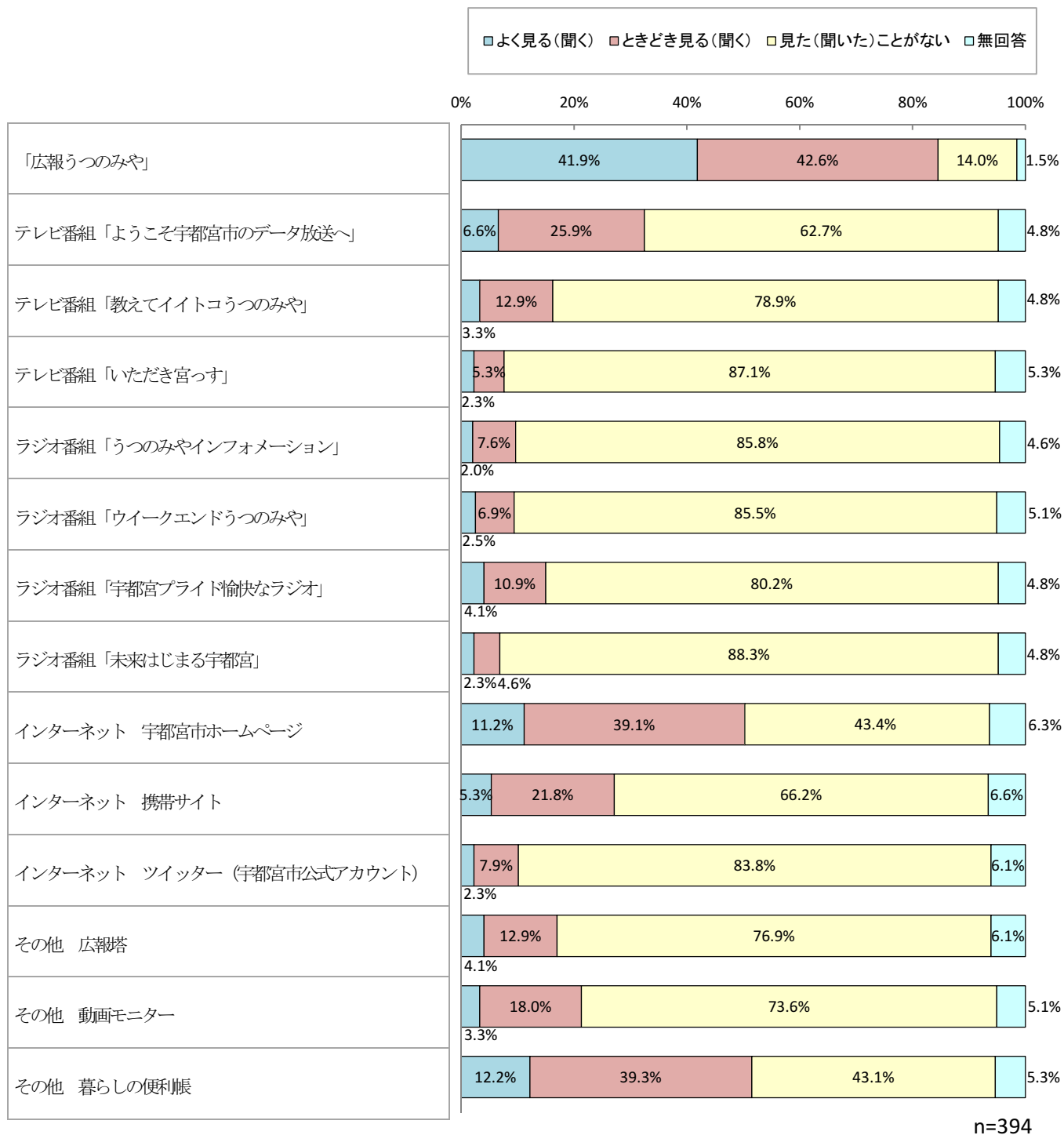
#### ◇【見る(聞く)ことがある(計)】は「広報うつのみや」が8割半ば

問4 宇都宮市では、次のような手段を使って、市政情報を市民の皆様様に提供しています。次の各広報媒体について、それぞれの視聴状況にあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

n=394

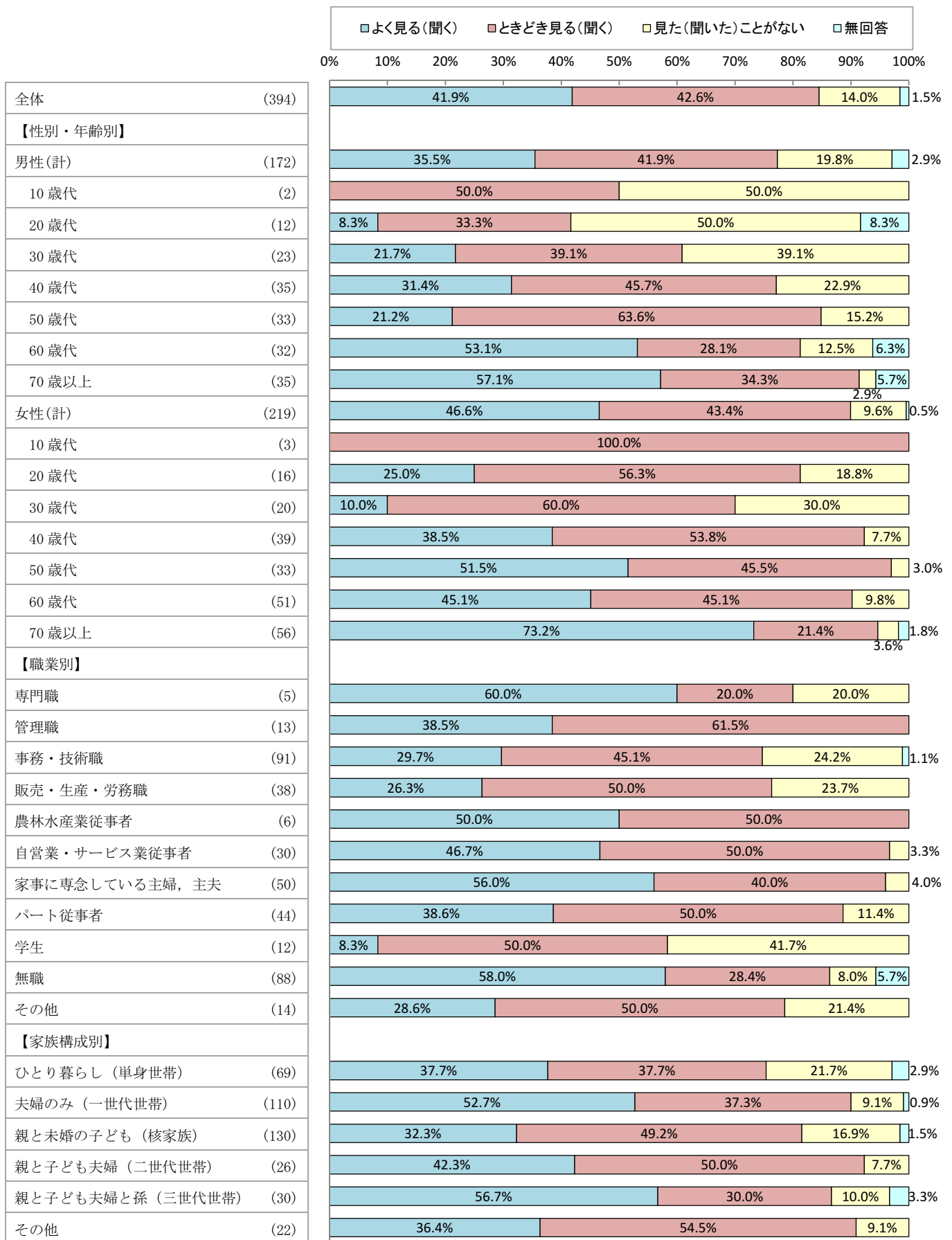
広報媒体		よく見る (聞く)	ときどき 見る(聞く)	見た (聞いた) ことがない	(無回答)	合計
広報誌	1 「広報うつのみや」 毎月1回, 新聞折込での配布や電子書籍等	41.9%	42.6%	14.0%	1.5%	100.0%
テレビ番組	2 「ようこそ宇都宮市のデータ放送へ」 とちぎテレビ(データ放送): テレビ放映中は常時提供	6.6%	25.9%	62.7%	4.8%	100.0%
	3 「教えてイトコうつのみや」 (とちぎテレビ: 毎月第4金曜日午後7時15分~)	3.3%	12.9%	78.9%	4.8%	100.0%
	4 「いただき宮っす」 (宇都宮ケーブルテレビ: 毎月第4月曜日から7日間, 1日7回)	2.3%	5.3%	87.1%	5.3%	100.0%
ラジオ番組	5 「うつのみやインフォメーション」 (栃木放送: 毎週月曜日午前10時15分~)	2.0%	7.6%	85.8%	4.6%	100.0%
	6 「ウイークエンドうつのみや」 (栃木放送: 毎週金曜日午後0時35分~)	2.5%	6.9%	85.5%	5.1%	100.0%
	7 「宇都宮プライド愉快的ラジオ」 (エフエム栃木: 毎週金曜日正午~)	4.1%	10.9%	80.2%	4.8%	100.0%
	8 「未来はじまる宇都宮」 (コミュニティFMミヤラジ: 毎週水曜日午前11時~)	2.3%	4.6%	88.3%	4.8%	100.0%
インター ネット	9 宇都宮市ホームページ	11.2%	39.1%	43.4%	6.3%	100.0%
	10 携帯サイト	5.3%	21.8%	66.2%	6.6%	100.0%
	11 ツイッター(宇都宮市公式アカウント)	2.3%	7.9%	83.8%	6.1%	100.0%
その他	12 広報塔 JR宇都宮駅西口, 鹿沼インター通り(鹿沼インター東), 平成通り(中央卸売市場前)に設置	4.1%	12.9%	76.9%	6.1%	100.0%
	13 動画モニター 市役所本庁舎1階市民課や地区市民センターの窓口などに設置	3.3%	18.0%	73.6%	5.1%	100.0%
	14 「暮らしの便利帳」 2年に1度発行し, 行政情報や地域情報などを掲載	12.2%	39.3%	43.1%	5.3%	100.0%

<図IV-2-1>全体



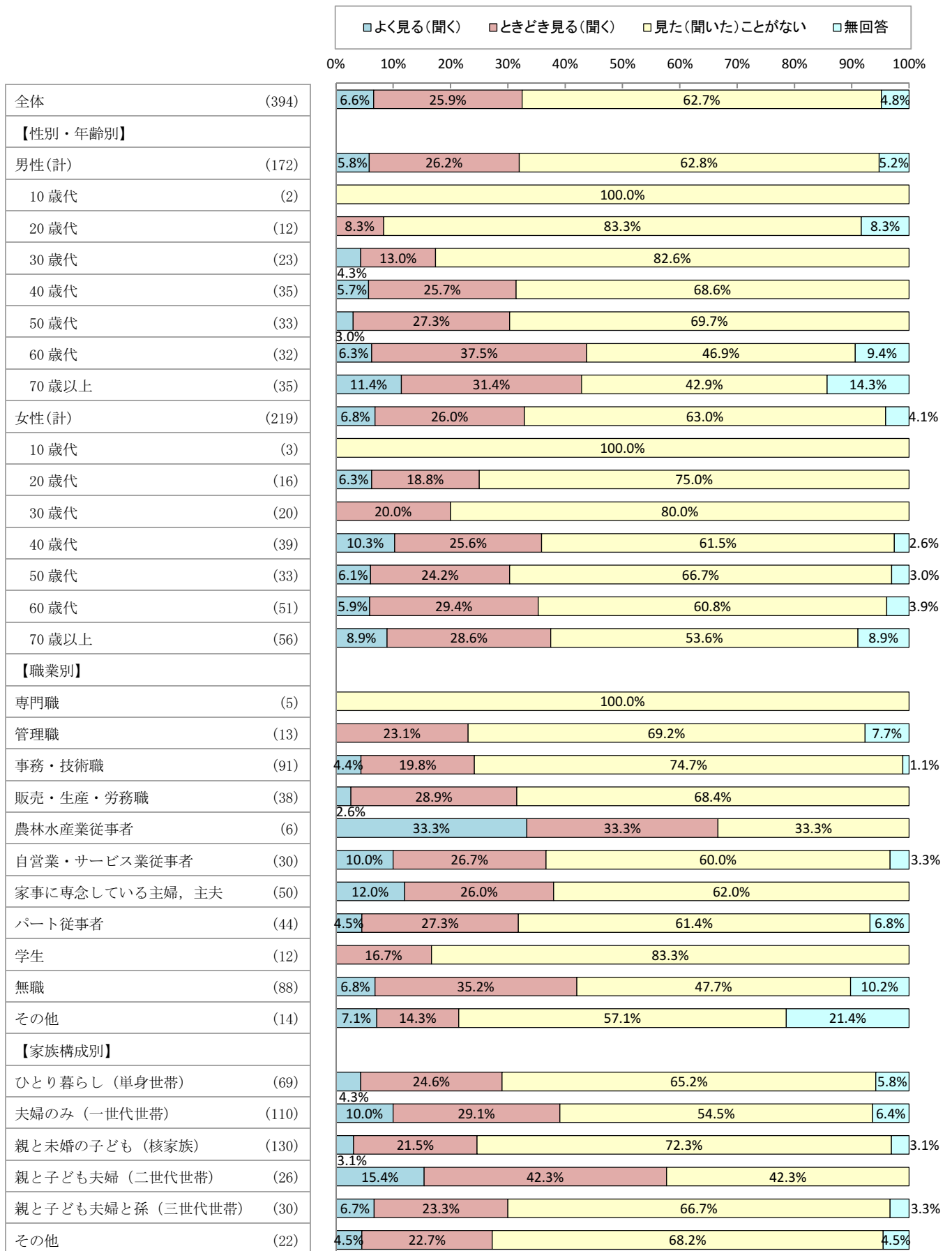
「広報うつのみや」以外の13種類の広報媒体について、それぞれの視聴状況については、「よく見る(聞く)」と「ときどき見る(聞く)」の2つを合わせた【見る(聞く)ことがある(計)】は、「広報うつのみや」が84.5%で最も高く、次いで「暮らしの便利帳」が51.5%、「インターネット(宇都宮市ホームページ)」が50.3%と続いている。(図IV-2-1)

<図IV-2-2>性別・年齢別／職業別／家族構成別「広報紙「広報うつのみや」

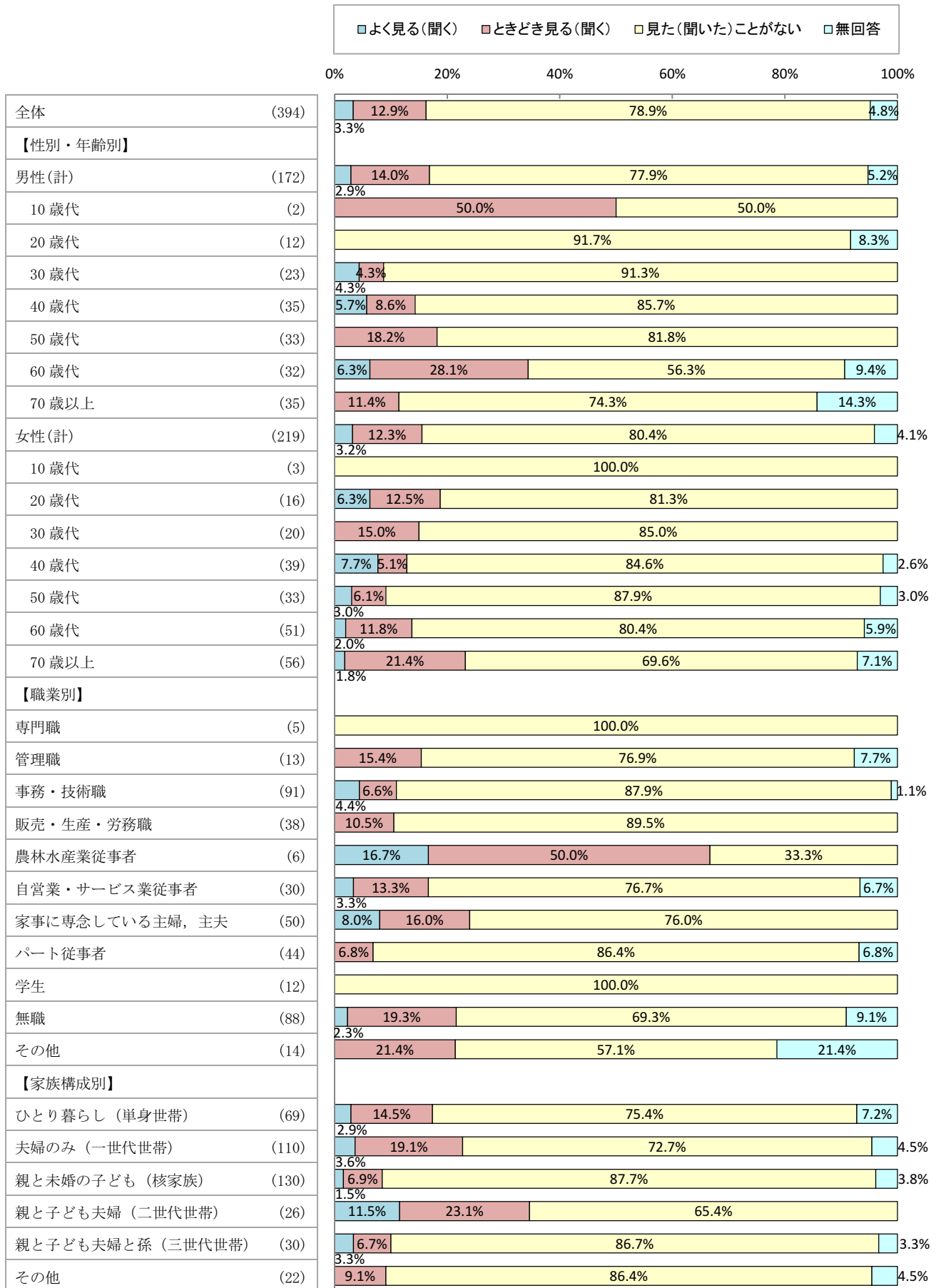




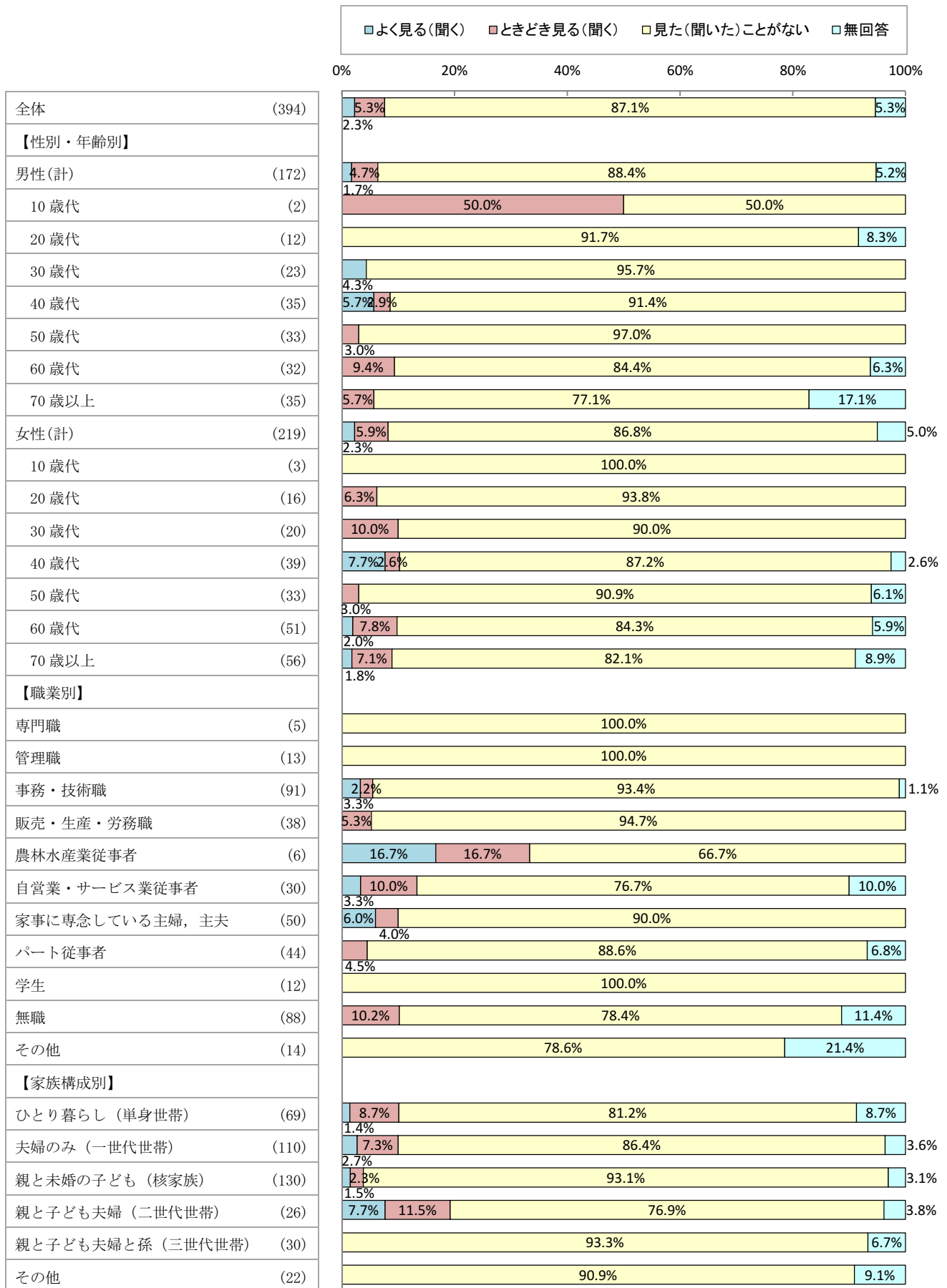
<図IV-2-3>性別・年齢別／職業別／家族構成別「テレビ番組「ようこそ宇都宮市のデータ放送へ」」



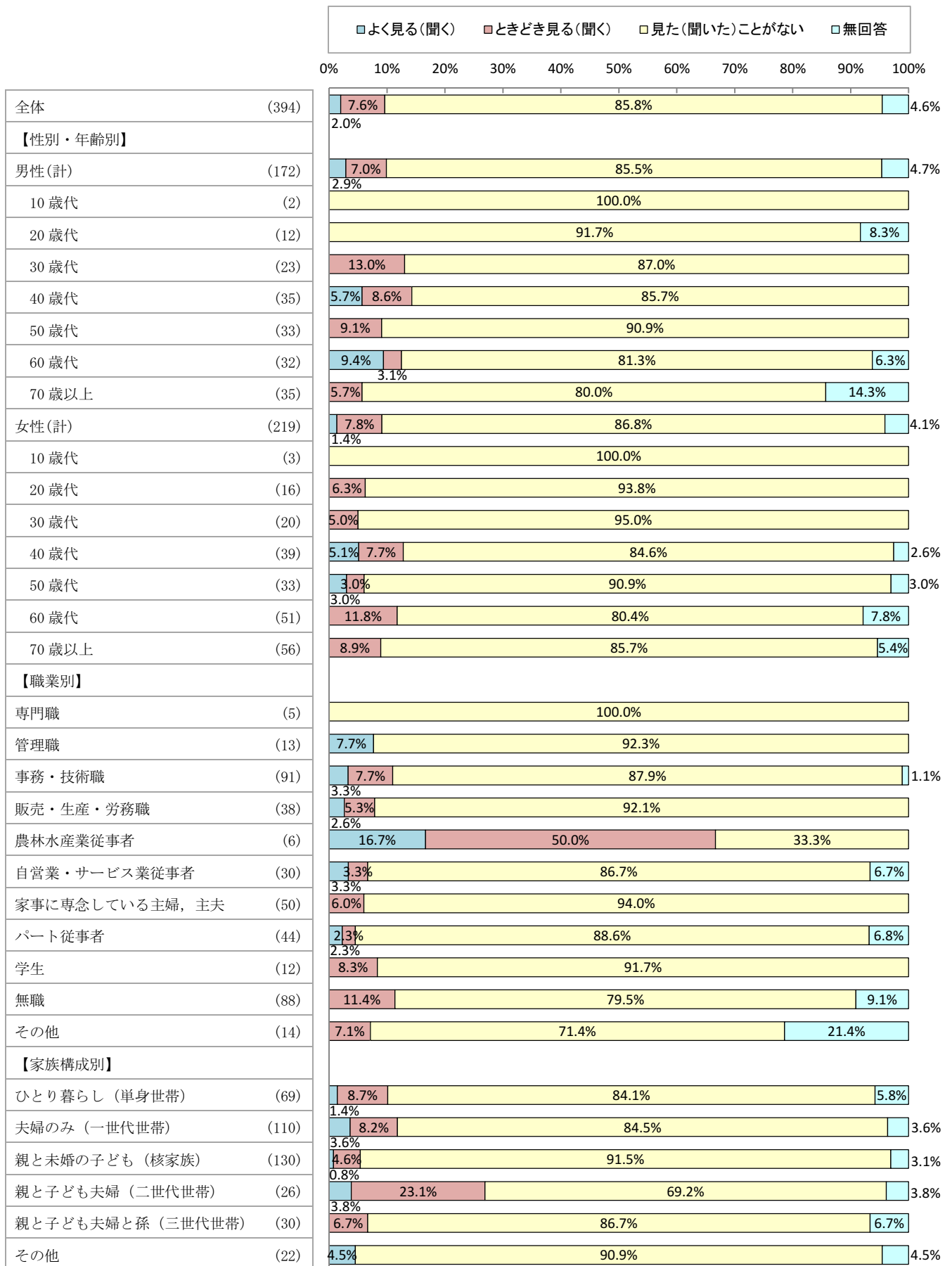
<図IV-2-4>性別・年齢別／職業別／家族構成別「テレビ番組「教えてイイトコうつのみや」



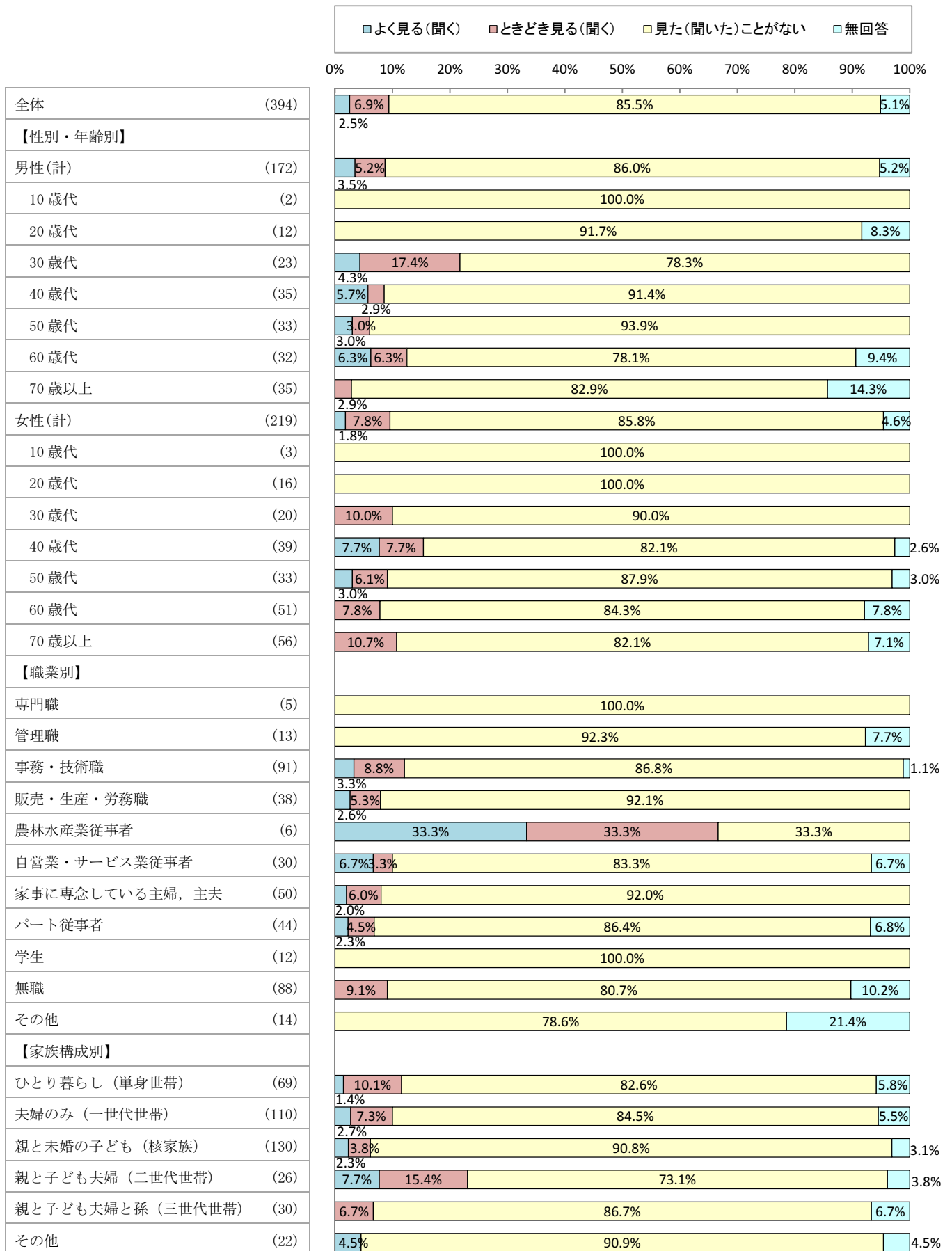
<図IV-2-5>性別・年齢別／職業別／家族構成別「テレビ番組「いただき宮っす」」



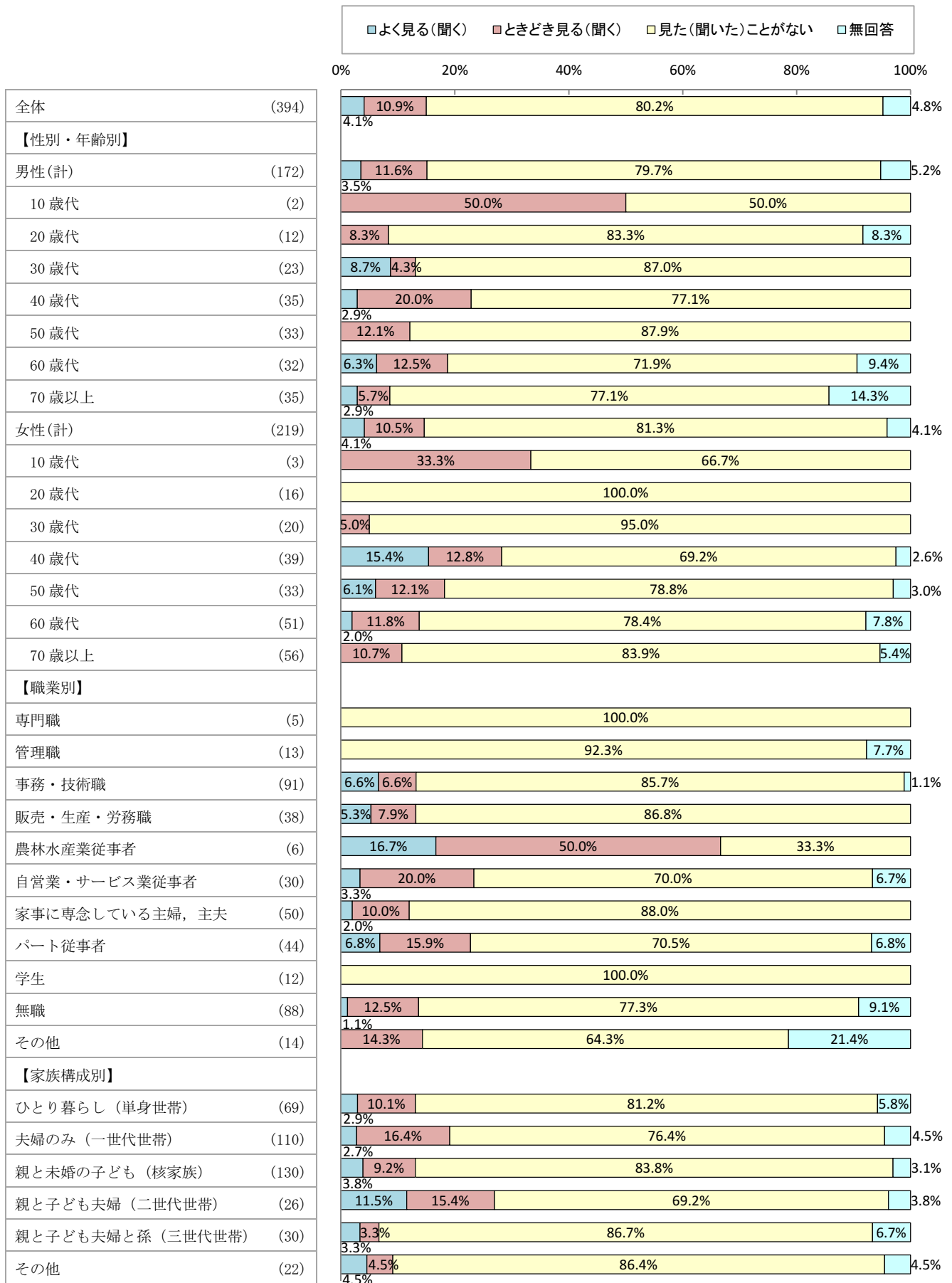
<図IV-2-6>性別・年齢別／職業別／家族構成別「ラジオ番組「うつのみやインフォメーション」」



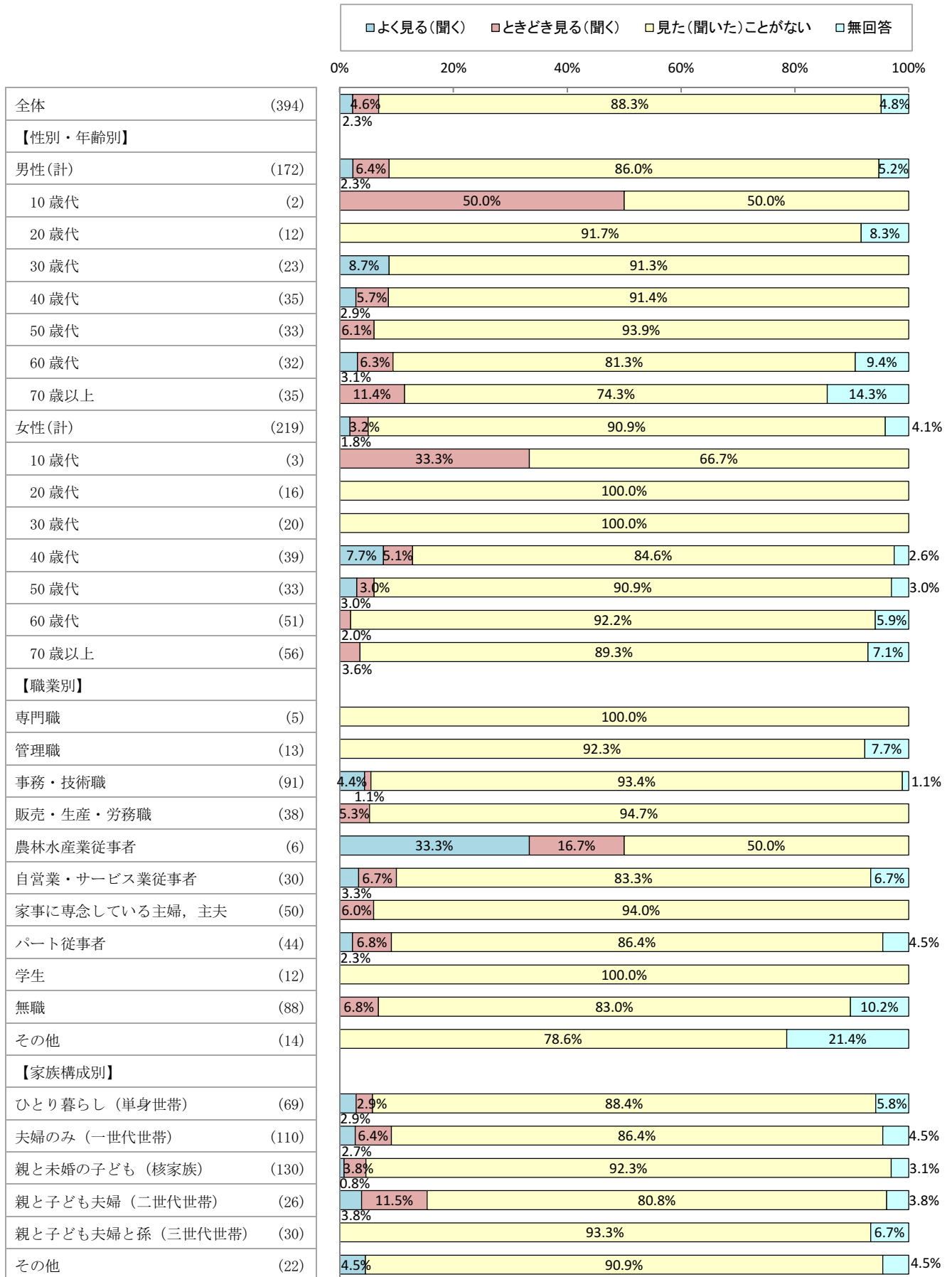
<図IV-2-7>性別・年齢別／職業別／家族構成別「ラジオ番組「ウイークエンドうつつのみや」



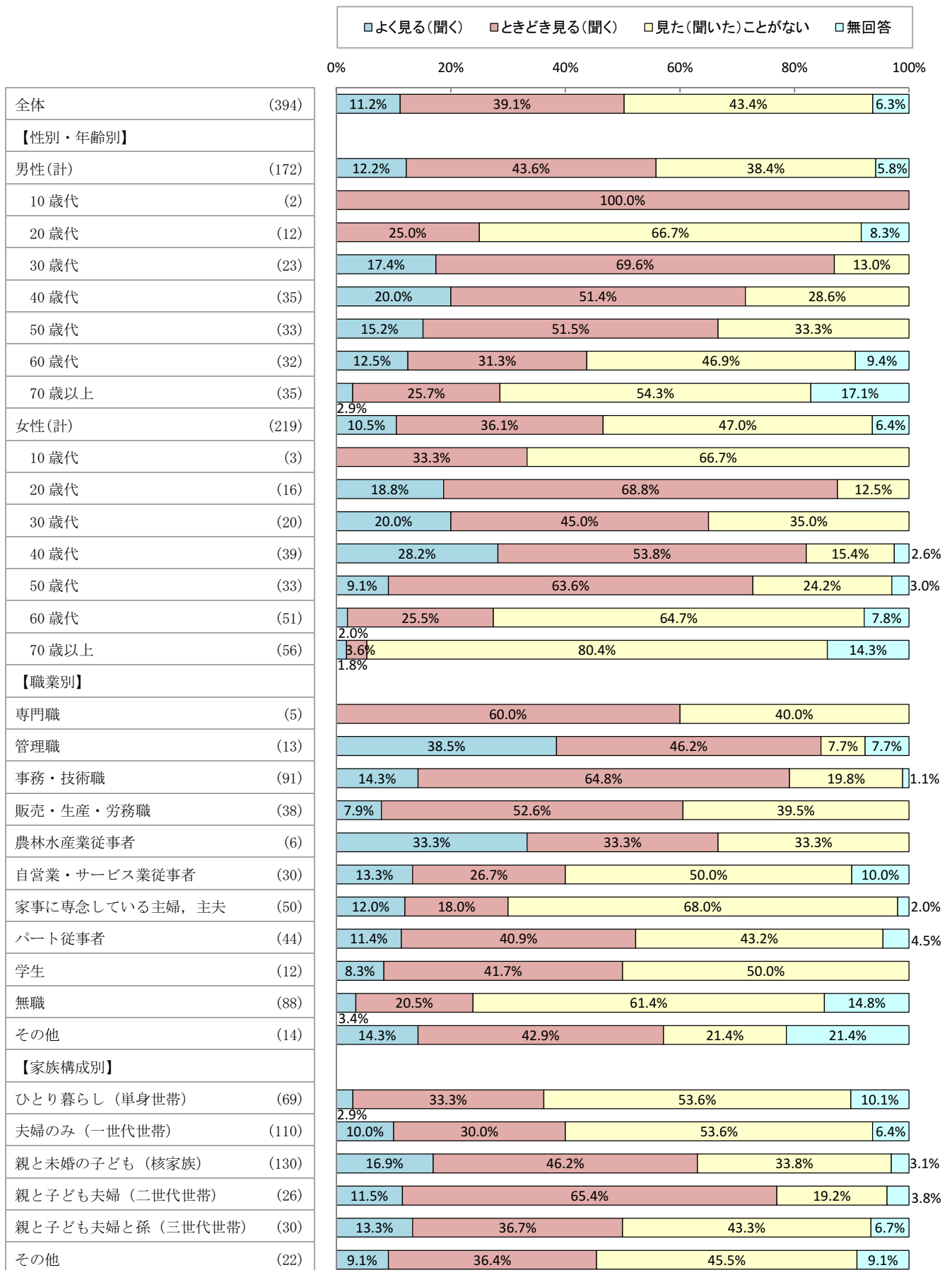
<図IV-2-8>性別・年齢別／職業別／家族構成別「ラジオ番組「宇都宮プライド愉快的なラジオ」



<図IV-2-9>性別・年齢別／職業別／家族構成別「ラジオ番組「未来はじまる宇都宮」」

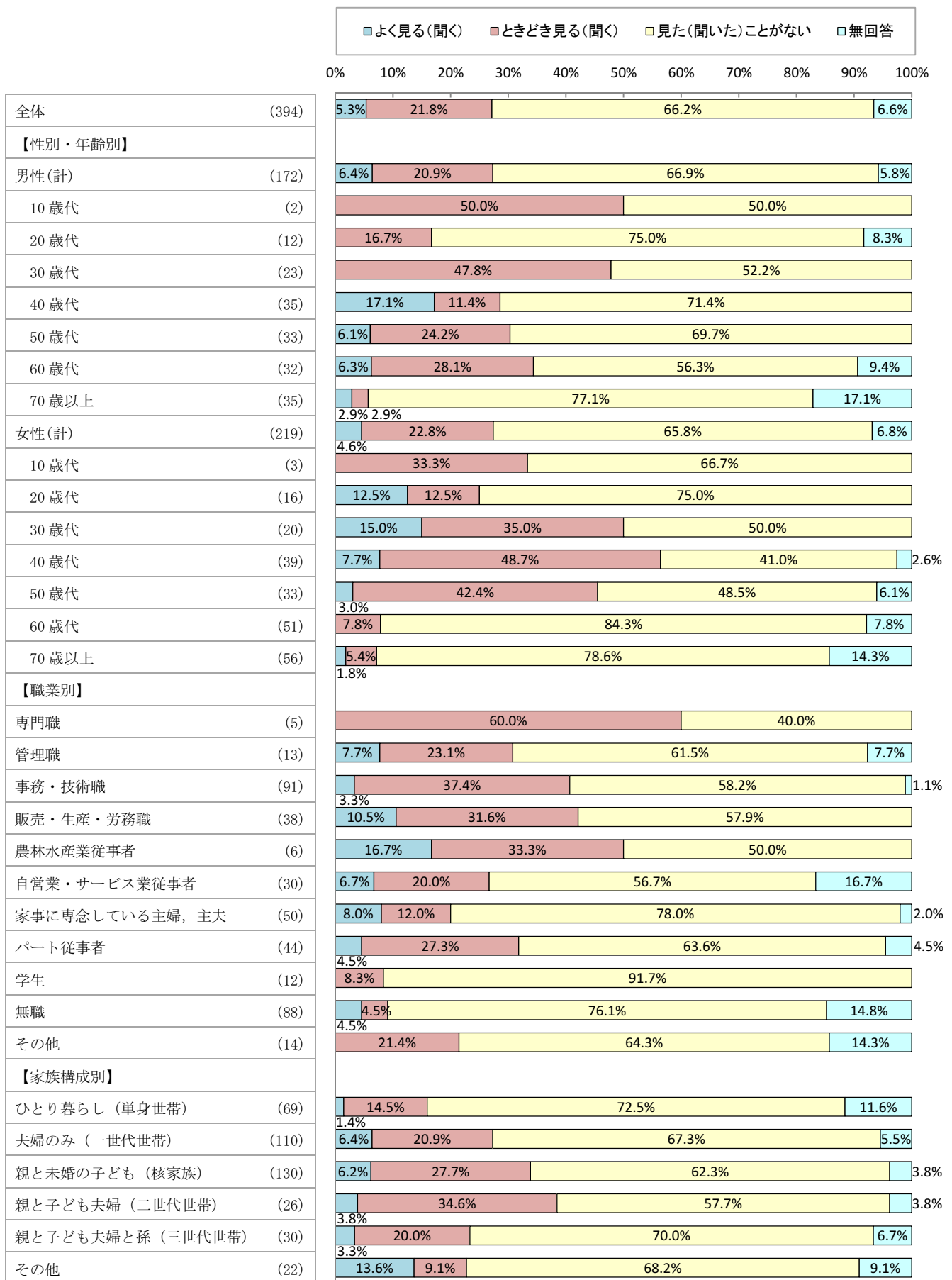


<図IV-2-10>性別・年齢別/職業別/家族構成別「インターネット「宇都宮市ホームページ」」

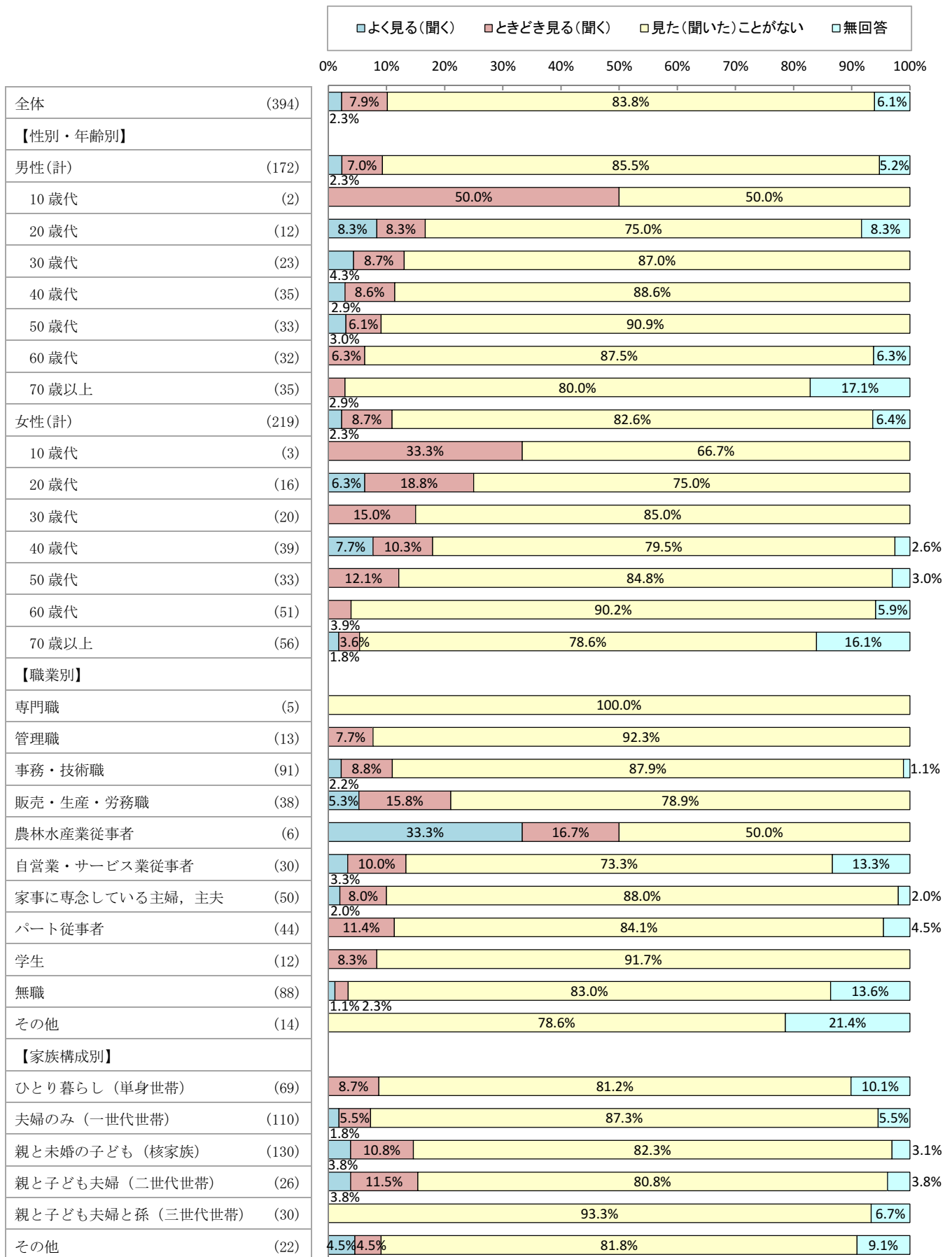




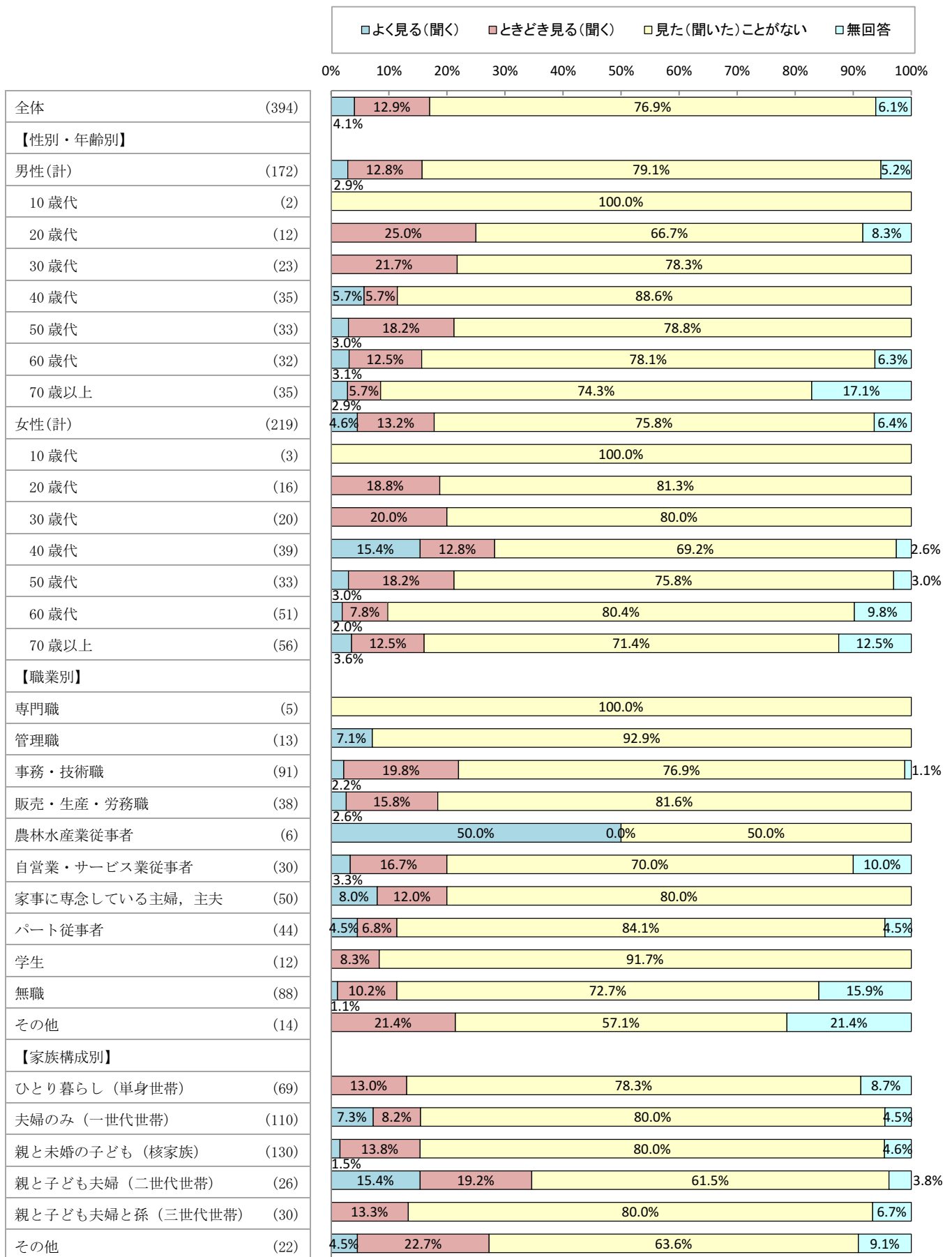
<図IV-2-11>性別・年齢別／職業別／家族構成別「インターネット「携帯サイト」」



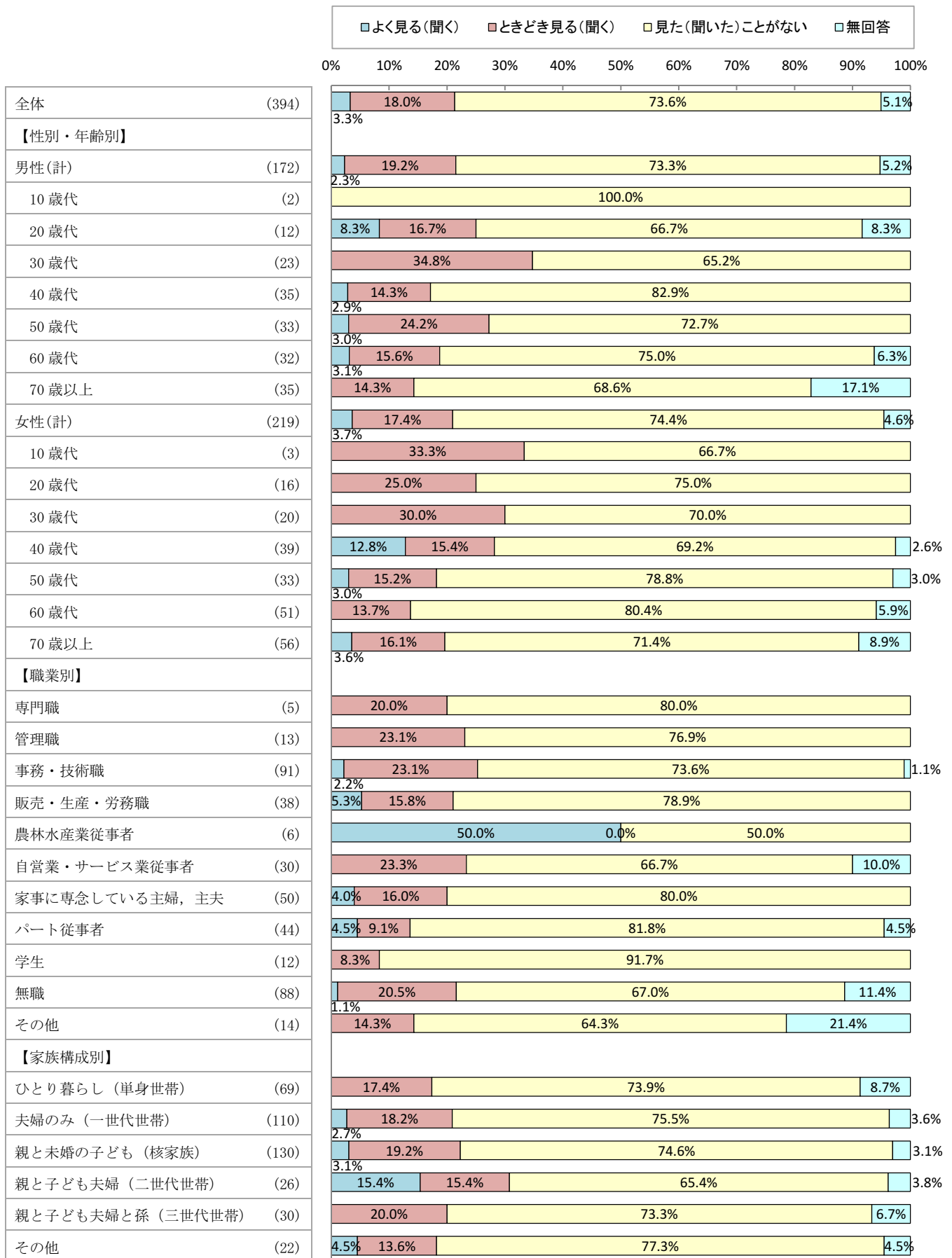
<図IV-2-12>性別・年齢別／職業別／家族構成別「インターネット「ツイッター(宇都宮市公式アカウント)」」



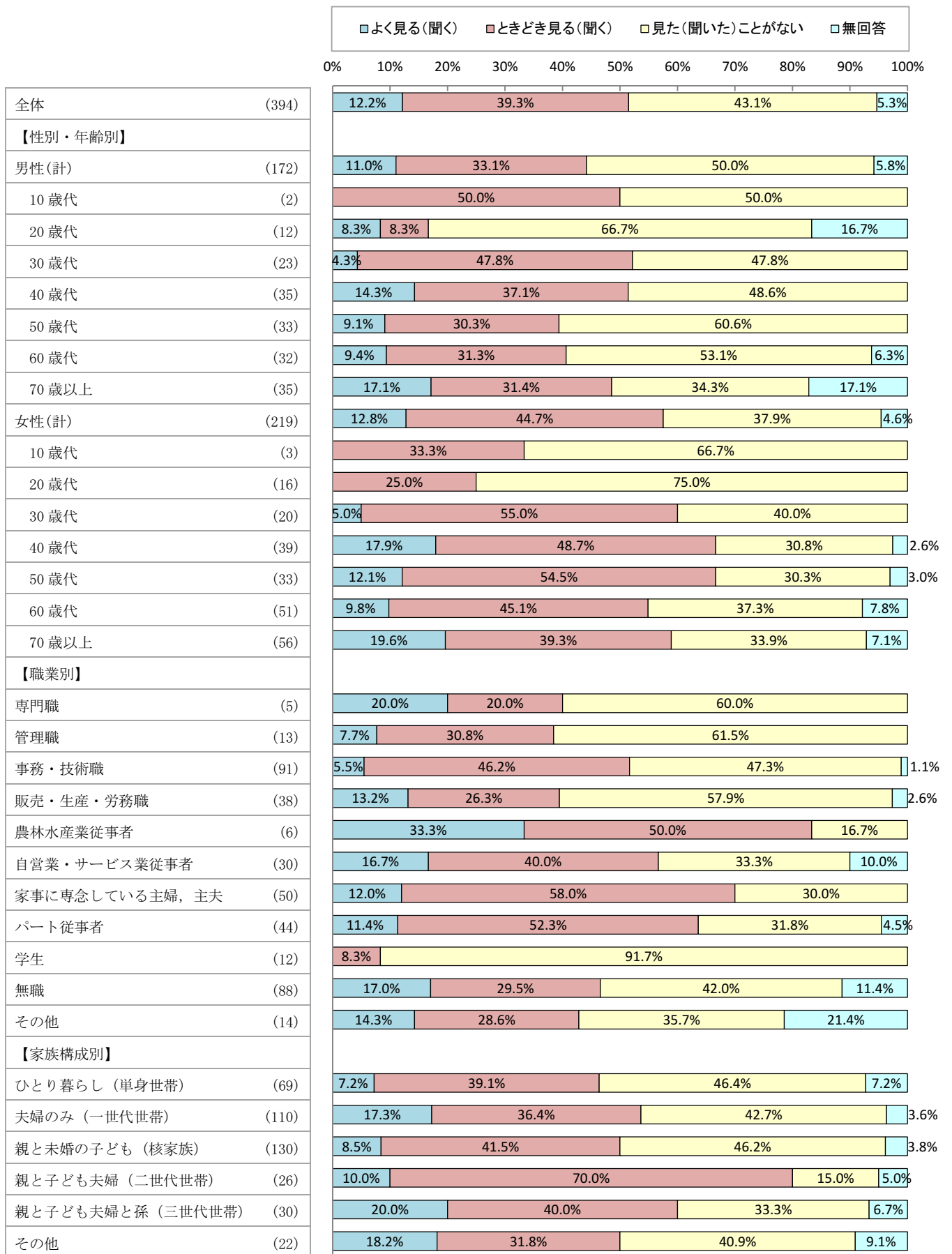
<図IV-2-13>性別・年齢別／職業別／家族構成別「その他「広報塔」」



<図IV-2-14>性別・年齢別／職業別／家族構成別「その他「動画モニター」」



<図IV-2-15>性別・年齢別/職業別/家族構成別「その他「暮らしの便利帳」」

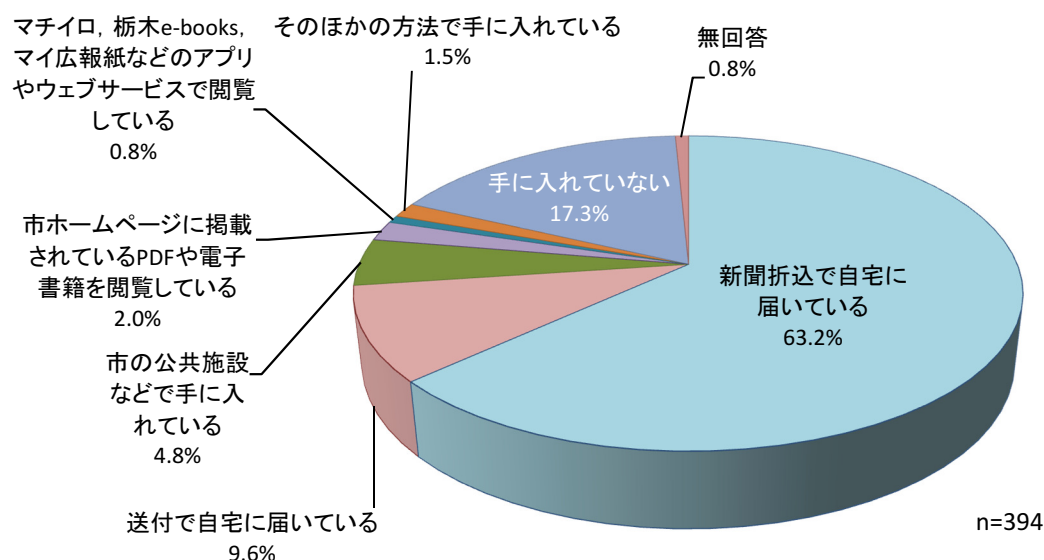


(2)「広報うつのみや」の入手方法

◇「新聞折込で自宅に届いている」が6割強

問5	あなたはどのような方法で、「広報うつのみや」を手に入れていますか。	(○は1つ)
		n=394
1	新聞折込で自宅に届いている	63.2%
2	送付で自宅に届いている	9.6%
3	市の公共施設などで手に入れている	4.8%
4	市ホームページに掲載されているPDFや電子書籍を閲覧している	2.0%
5	マチイロ、栃木e-books、マイ広報誌などのアプリやウェブサービスで閲覧している	0.8%
6	そのほかの方法で手に入れている	1.5%
7	手に入っていない	17.3%
	(無回答)	0.8%

<図IV-2-16>全体



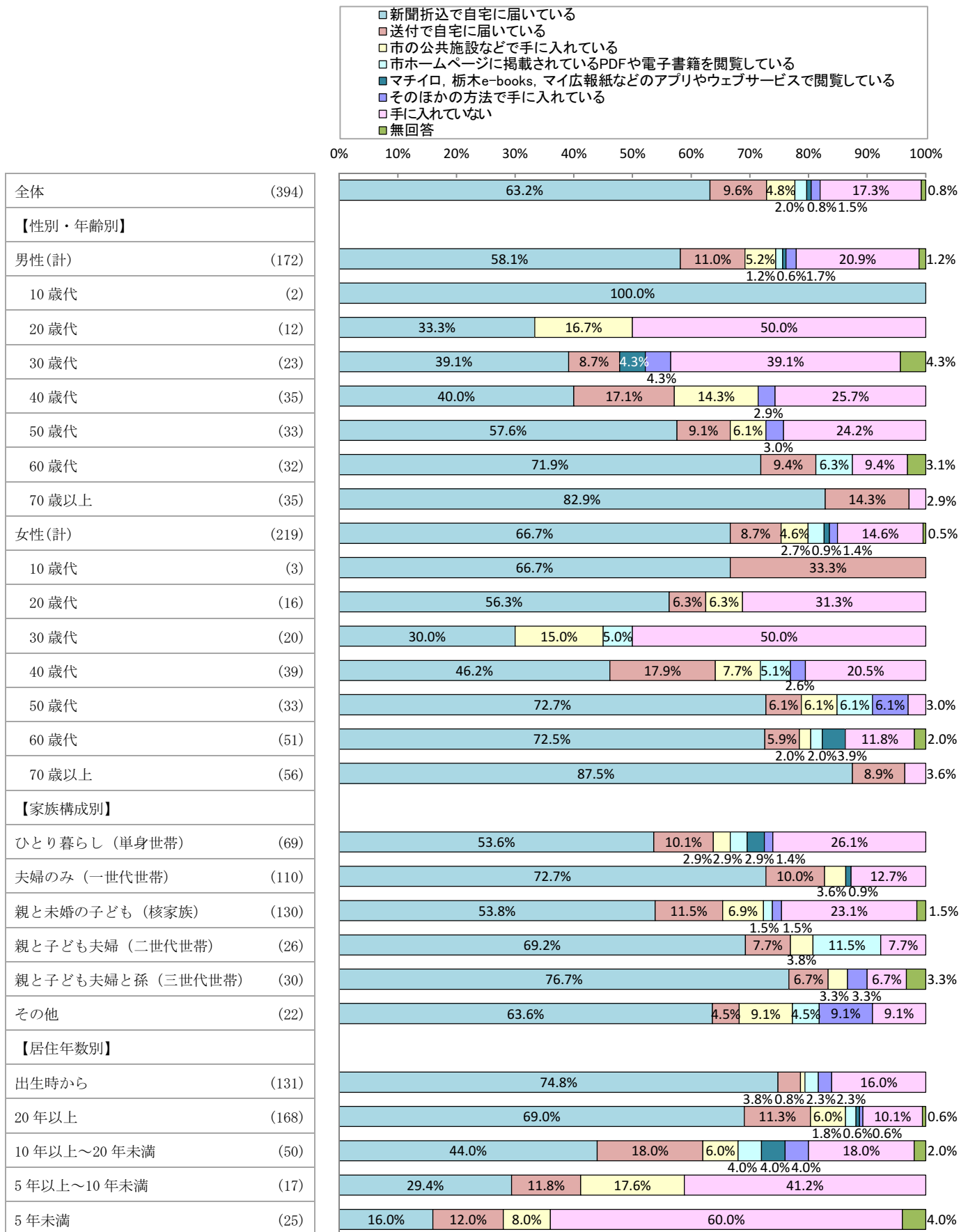
「広報うつのみや」の入手方法については、「新聞折込で自宅に届いている」が63.2%で最も高かった。一方、「手に入っていない」は17.3%であった。(図IV-2-16)

性別・年齢別でみると、「新聞折込で自宅に届いている」は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が87.5%、<男性/70歳以上>が82.9%と続いている。一方、「手に入っていない」は<男性/20歳代>と<女性/30歳代>が50.0%で最も高かった。(図IV-2-17)

家族構成別でみると、「新聞折込で自宅に届いている」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が76.7%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世代世帯)>が72.7%であった。(図IV-2-17)

居住年数別でみると、「新聞折込で自宅に届いている」は<出生時から>が74.8%で最も高く、次いで<20年以上>が69.0%であった。(図IV-2-17)

<図IV-2-17>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別



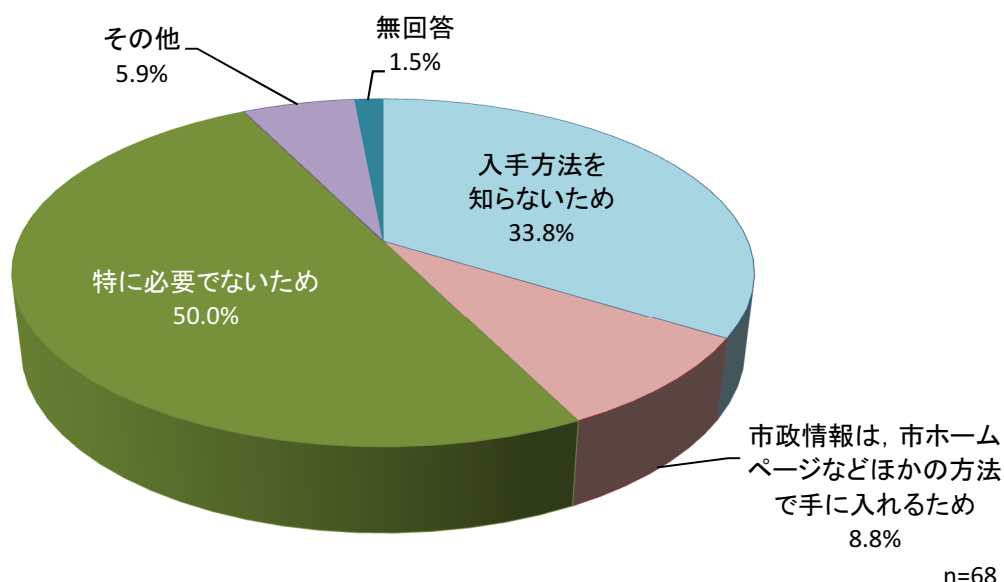
(3) 「広報うつのみや」を入手していない理由

◇ 「特に必要でないため」が5割

問6 問5で「7 手に入れていない」に○をつけた方にお伺いします。「広報うつのみや」の情報を入手していない理由を教えてください。(○は1つ)

	n=68
1 入手方法を知らないため	33.8%
2 市政情報は、市ホームページなどほかの方法で手に入れるため	8.8%
3 特に必要でないため	50.0%
4 その他	5.9%
(無回答)	1.5%

<図IV-2-18>全体



「広報うつのみや」を入手していない理由は、「特に必要でないため」が 50.0%で最も高かった。(図IV-2-18)

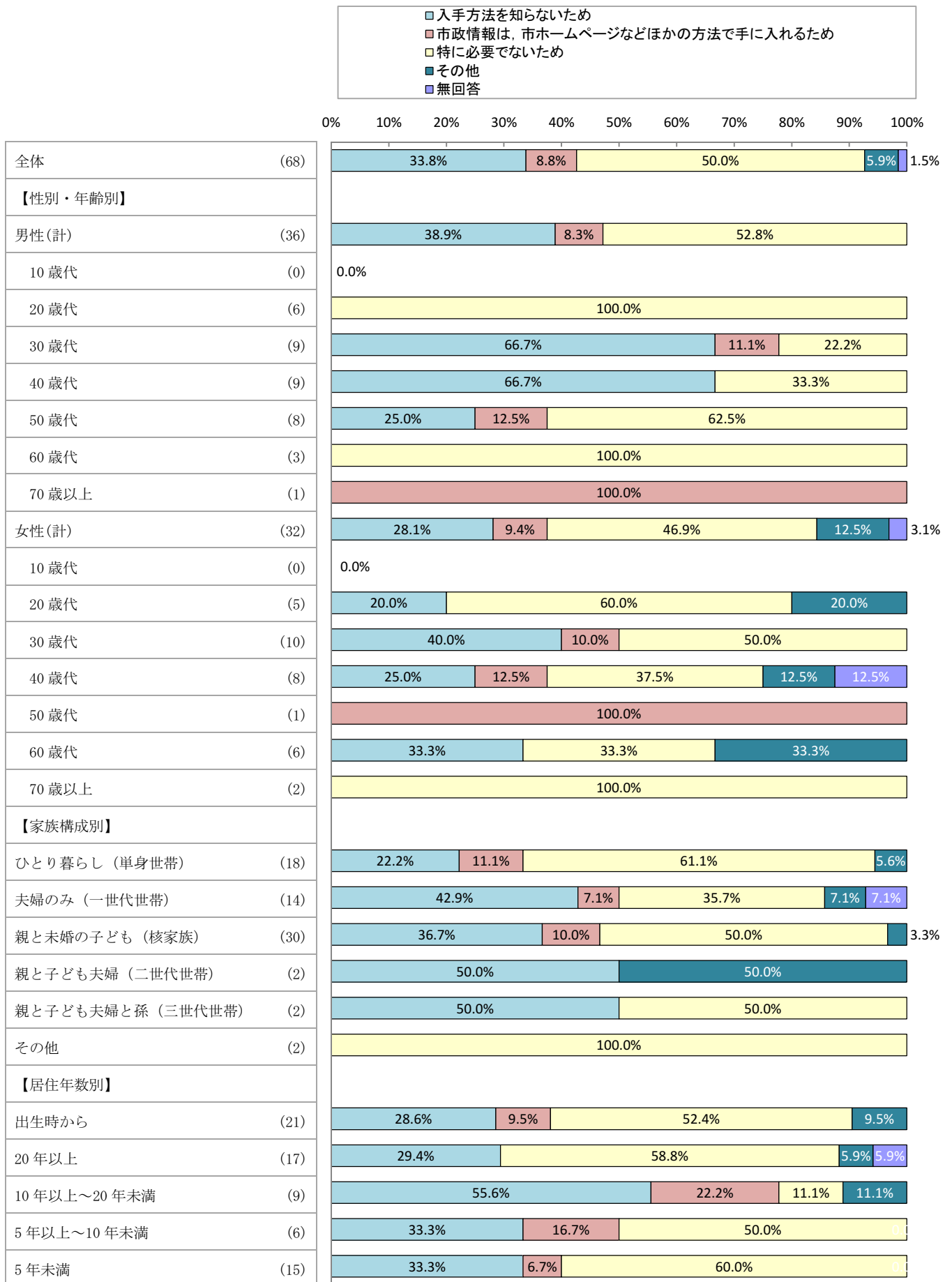
性別・年齢別でみると、最も回答の多かった<女性/30歳代>は「特に必要でないため」が 50.0%で最も高く、次いで回答の多かった<男性/30歳代>と<男性/40歳代>はいずれも「入手方法を知らないため」が 66.7%で最も高かった。(図IV-2-19)

家族構成別にみると、最も回答の多かった<親と未婚の子ども(核家族)>は「特に必要でないため」が 50.0%で最も高かった。(図IV-2-19)

居住年数別でみると、「入手方法を知らないため」は<10年以上~20年未満>が 55.6%で最も高く、次いで<5年以上~10年未満>と<5年未満>が 33.3%であった。「特に必要でないため」は<5年未満>が 60.0%で最も高く、次いで<20年以上>が 58.8%であった。(図IV-2-19)



<図IV-2-19>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別



(4)「広報うつのみや」で読んでいる記事

◇「市政情報」（健康・福祉・国保・年金）が6割半ば

問7 問5で、1～6に○をつけた方にお伺いします。

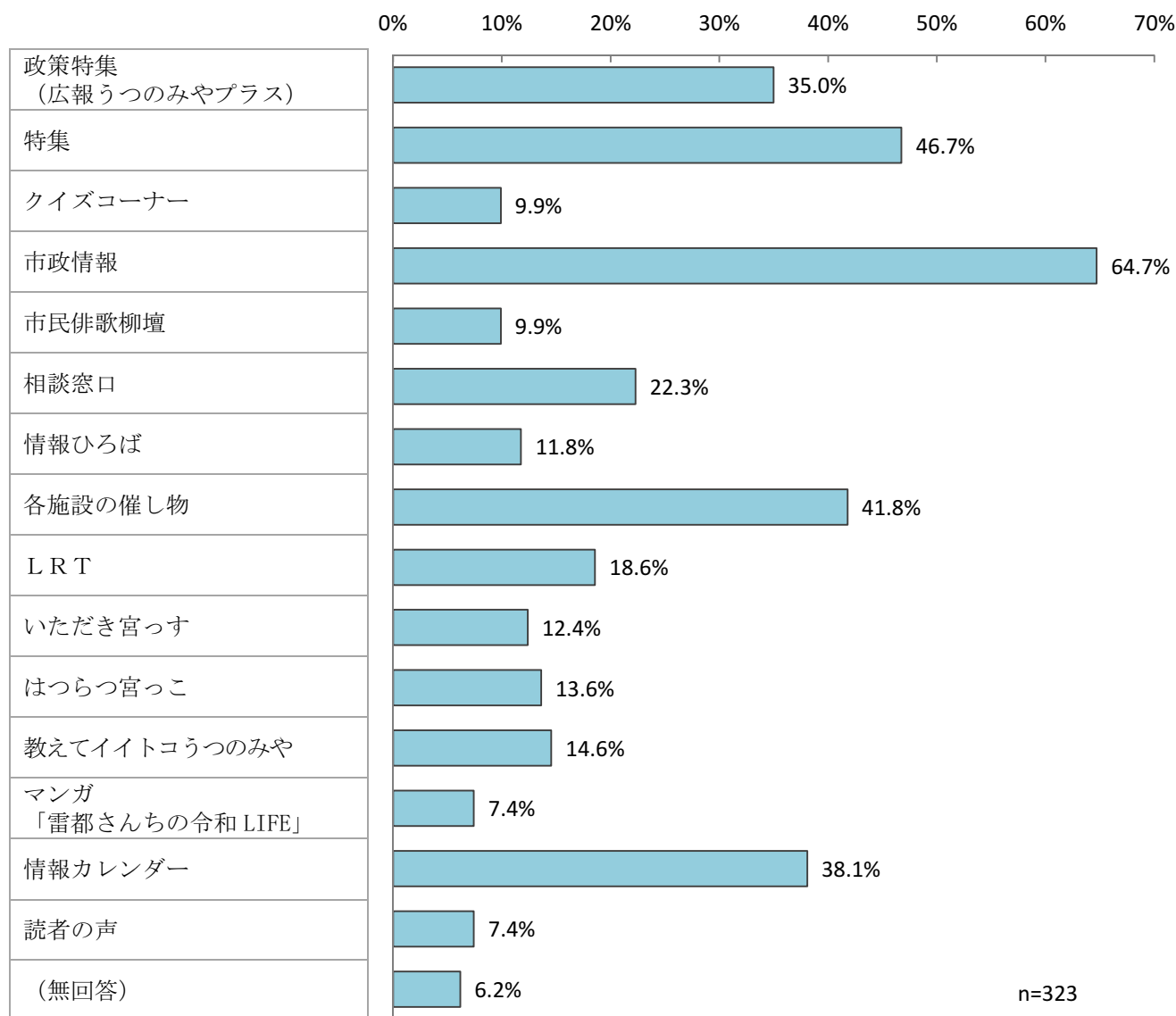
「広報うつのみや」では、どのような記事を主に読んでいますか。項目の番号に○をつけてください。

(○はいくつでも)

n=323

項目	ページ等	内容	
1 政策特集 (広報うつのみやプラス)	巻頭カラー	年に4回ほど掲載。 市の課題を問題提起し、市民の意見を掲載	35.0%
2 特集	巻頭カラー	毎月掲載。 市の重点事業や旬な話題など	46.7%
3 クイズコーナー	目次	宇都宮にまつわる知識等をクイズ形式で紹介	9.9%
4 市政情報	—	健康・子ども・住まい・暮らし・税・文化・スポーツ・施設の教室・講座など	64.7%
5 市民俳歌柳壇	—	市民から投稿された俳句・短歌・川柳を紹介	9.9%
6 相談窓口	—	法律・行政・健康・福祉・子ども・女性など	22.3%
7 情報ひろば	—		11.8%
8 各施設の催し物	巻末カラー	宇都宮美術館、ろまんちっく村、図書館など	41.8%
9 LRT	巻末カラー	LRT 事業について掲載	18.6%
10 いただき宮っす	巻末カラー	宇都宮ケーブルテレビ連動企画。「うつのみや地産地消推進店」を通じ、宇都宮の美味しいものを紹介	12.4%
11 はつらつ宮っこ	巻末カラー	輝いている市民を紹介	13.6%
12 教えてイトコうつのみや	巻末カラー	とちぎテレビ連動企画。リポーター井上マーさんが街を歩き宇都宮のイトコを紹介	14.6%
13 マンガ 「雷都さんちの令和 LIFE」	巻末カラー	マンガを通じて、耳寄り情報などを紹介	7.4%
14 情報カレンダー	巻末カラー	市のイベントカレンダー	38.1%
15 読者の声	巻末カラー	広報うつのみやを読んだ方からの意見紹介	7.4%
(無回答)			6.2%

<図IV-2-20>全体



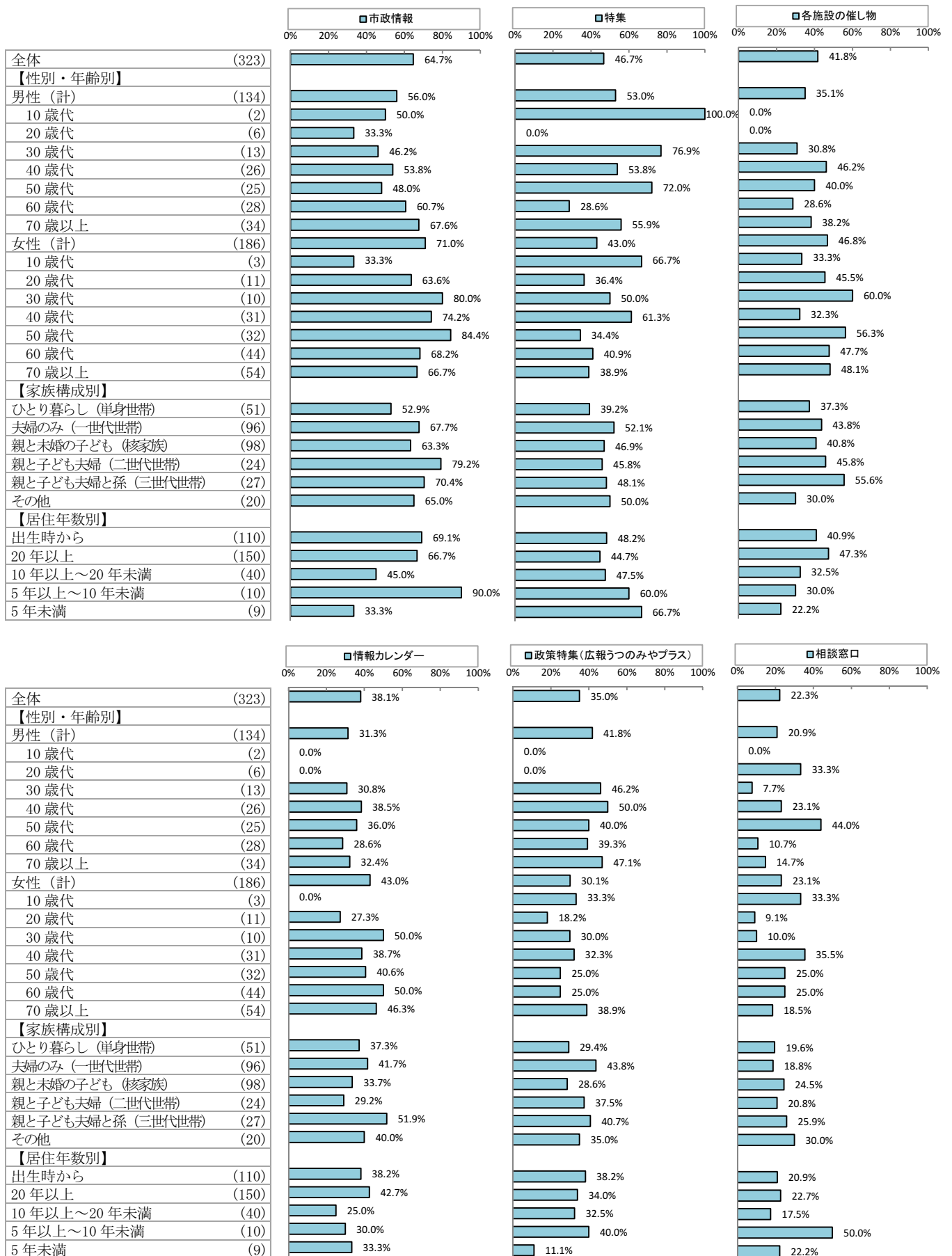
問5で「広報うつのみや」を入手していると答えた人(323人)に、どのような記事を主に読んでいるかについて聞いたところ、1位が「市政情報」で64.7%、2位「特集」で46.7%、3位「各施設の催し物」で41.8%、4位「情報カレンダー」で38.1%、5位「政策特集(広報うつのみやプラス)」で35.0%、6位「相談窓口」の22.3%であった。(図IV-2-20)

上位6項目について性別・年齢別でみると、「市政情報」は<女性/50歳代>が84.4%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が80.0%であった。「特集」は<男性/10歳代>が100.0%、「各施設の催し物」は<女性/30歳代>が60.0%、「情報カレンダー」は<女性/30歳代>と<女性/60歳代>が50.0%で最も高かった。(図IV-2-21)

上位6項目について家族構成別でみると、「市政情報」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が79.2%で最も高く、「特集」は<夫婦のみ(一世帯世帯)>が52.1%、「各施設の催し物」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世代)>が55.6%であった。(図IV-2-21)

上位6項目について居住年数別でみると、「市政情報」は<5年~10年未満>が90.0%で最も高く、「特集」は<5年未満>が66.7%、「各施設の催し物」は<20年以上>が47.3%であった。(図IV-2-21)

<図IV-2-21>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別（上位6項目）



(5) 市ホームページや関連ページで詳細な情報を入手するためのQRコードや7桁のページIDの利用状況

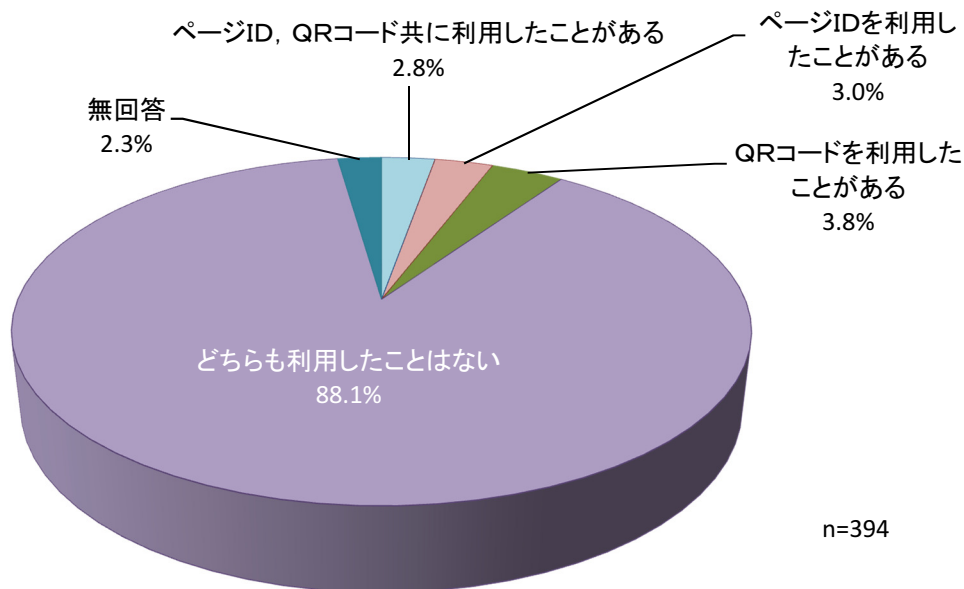
◇ 「どちらも利用したことはない」が9割弱

問8 「広報うつのみや」では、市ホームページや関連ページで詳細な情報を入手できるよう、QRコードや7桁のページIDを掲載していますが、利用したことはありますか。(〇は1つ)

n=394

1	ページID, QRコード共に利用したことがある	2.8%
2	ページIDを利用したことがある	3.0%
3	QRコードを利用したことがある	3.8%
4	どちらも利用したことはない (無回答)	88.1% 2.3%

<図IV-2-22>全体



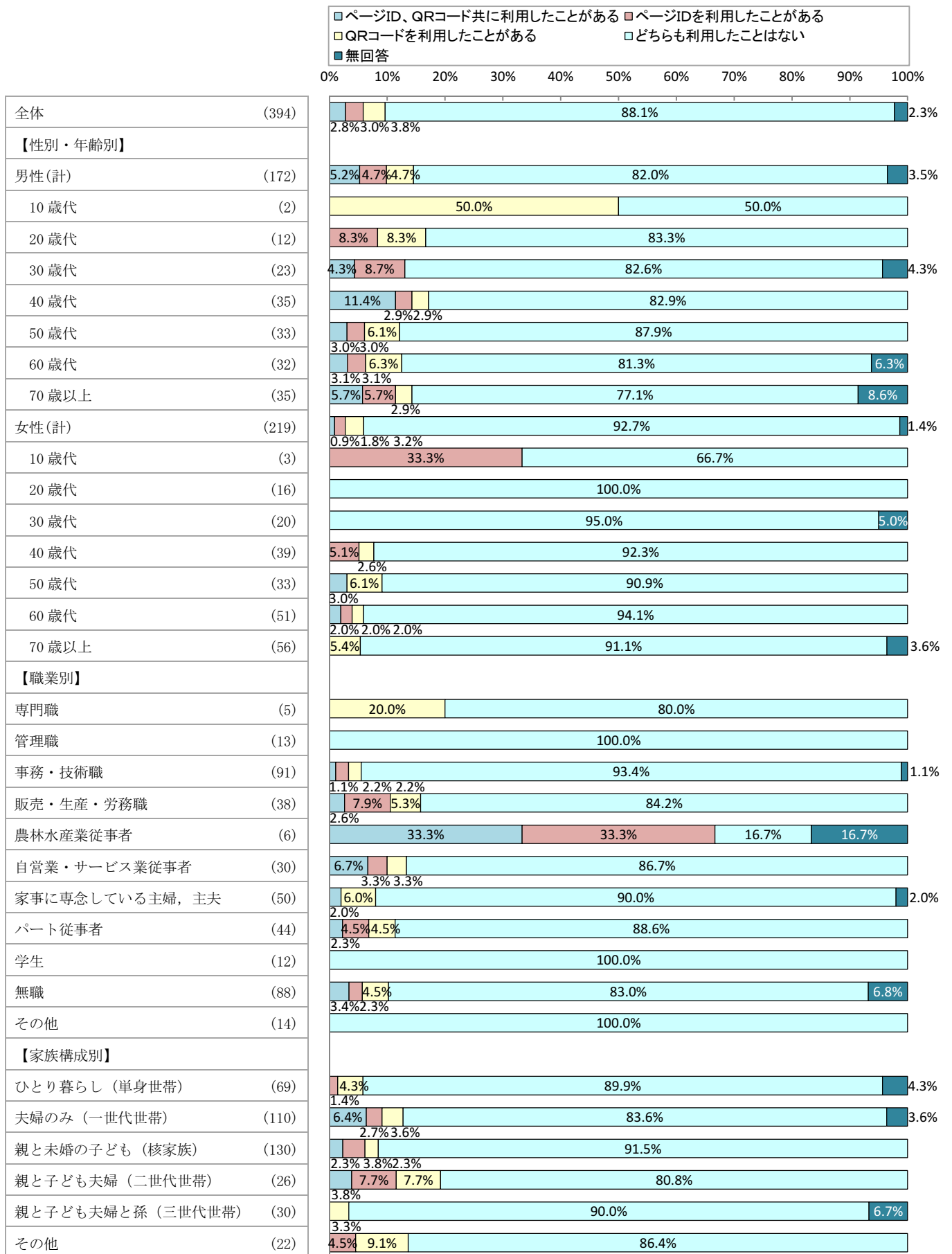
市ホームページや関連ページで詳細な情報を入手するためのQRコードや7桁のページIDの利用状況は、「どちらも利用したことがない」が88.1%で最も高かった。(図IV-2-22)

性別・年齢別でみると、「どちらも利用したことはない」は<女性/20歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が95.0%であった。(図IV-2-23)

職業別でみると、「どちらも利用したことはない」は、<農林水産業従事者>16.7%を除くその他の職業は8割以上となっている。(図IV-2-23)

家族構成別でみると、「どちらも利用したことはない」は、すべての家族構成で8割を超えている。(図IV-2-23)

<図IV-2-23>性別・年齢別／職業別／家族構成別



---

## (6) 広報うつのみやに関する感想、取り上げてほしい話題・情報

問9 広報うつのみやに関する感想、取り上げて欲しい話題や情報などをお書きください。

広報紙やホームページで充実してほしい記事や情報、改善してほしい点などについては、以下のような意見があった。(原文のまま)

### 【情報】

- ◆ うつのみやの自然、生物
- ◆ コロナのこと、もっと詳しく知りたい。
- ◆ 市内のおすすめスポットの紹介（レストランなど）
- ◆ グルメなどおいしく安い店などの紹介。コロナに関する情報など。
- ◆ 生活情報多いほうがいいです。
- ◆ 福祉サービス（相談）窓口の情報※（要）介護度の基準等
- ◆ 職員募集
- ◆ グルメ
- ◆ 見やすく、毎回読んでいます。小中学生が興味もてる内容がほしいです。（給食とか）
- ◆ 子供や犬が楽しめる場所の情報（カフェ、飲食店、公園、宿泊施設など）
- ◆ 地元の楽しい行事など新しい発見があります。むかしから伝わる行事や言い伝えなど知りたいと思います。
- ◆ サービス業の低迷中、新しい取組をしている店のことを取り上げて欲しい。
- ◆ 宇都宮にあるカフェなどのお店特集
- ◆ エシカル消費や食品ロス対策など、消費者の知っておくべき問題などの特集を取り上げてほしい。
- ◆ 福祉関係の情報をくわしく知りたい。
- ◆ 困っている人の情報
- ◆ 講座を楽しみたい。コーラス、ダンス、手芸 少ないように思います。
- ◆ 各種イベント、祭り、を事前に知りたい。
- ◆ あまり見たことがない。新型コロナウイルスの予防など。
- ◆ 年間のスケジュールの予定を取り上げてほしい。カレンダーに記入したい。
- ◆ 医療機関のイベント情報。宇都宮インター周辺の空地进行をどのようにするのか。
- ◆ 百人一首、カクテル、駅弁、LRT、スポーツ
- ◆ QR コードの勉強会をおこなってほしい。
- ◆ 今、コロナ関連の情報が提供されていてありがたい。この状況は続くと思うので、コロナウイルスワクチンや薬などの情報がほしい。
- ◆ 地域によって、かなりの情報が違って、いつも活動的なところと全然情報のない（田舎方面）ところを感じます。

- 
- ◆ 市政情報はなくてはならない情報として活用させて頂いています。今後はスマホでチェックしたいと思います。市の未来予想図みたいなもの。LRT や街づくりもですが、高齢化社会において車が乗れなくなった後の移動、生活手段を具体的に描いてほしいです。
  - ◆ 無料で行えるサービスなど
  - ◆ 学ぶことをもっと取り上げてほしい。
  - ◆ 一般成人が参加できるようなイベント、ボランティア等の情報
  - ◆ 新型コロナウイルスに関する情報をわかりやすくチャート形式で載せてほしい。
  - ◆ 新店舗オープン情報や、今話題のお店等を取り上げてほしい。
  - ◆ LRT に関する意見を反対、賛成問わず取り上げるべき。
  - ◆ LRT を必要とする意味、市内すみずみまで LRT を広げず、高齢者の為に細かい路線にバスを通さない理由、市民と市長のやりとりを載せてほしい。
  - ◆ 新卒求人情報をより詳しく取り上げて下さると嬉しいです。
  - ◆ ろまんちっく村の情報は助かります。
  - ◆ 隠れた観光スポット
  - ◆ 人口減少
  - ◆ 外国人の動きや話題
  - ◆ あまり詳しく読んでいないので、何とも言えないが、今の状況だと LRT 事業について、悪い面についても教えてほしい。
  - ◆ 宇都宮市の中長期的な将来についての方針、計画について



---

### 【見やすさ・分かりやすさ】

- ◆ 表紙の写真が素人撮影できれいではない。写真の達人は宇都宮市民にも大勢います。その人達に頼んではいかがですか。
- ◆ もっと快適に暮らしたいので、もっとわかりやすい行政が知りたいです。あと、すごく読みやすいです（広報うつのみや）毎回、すてきな情報をありがとうございます。
- ◆ マンガは読みやすくて良い。
- ◆ もう少し、市議会の論議を一定ページに示すべき。（各種委員会を中心に）市議会は何を議論しているかがわかるように。
- ◆ イベントカレンダーなど、もう少し範囲を広げて知らせてほしい。

### 【その他】

- ◆ 郵送にしてほしい。
- ◆ あまり興味ある内容の物がなく、ぱらぱらとしか目を通していない。
- ◆ 市民の活動や活躍している様子がわかる記事をより多く載せて欲しい。市役所各部各課からの「お知らせ」が中心で、読んで面白いと思える広報になっていないと思う。他の市町の広報には、もっと面白いと思えるものがある。その方がより身近に感じられる。
- ◆ いつもすばらしい広報をのせていただけてうれしく思います。
- ◆ 広報紙を新聞折込や希望者だけでなく、全世帯に配布するようになれば、市政をより知るようになると思います（コストの面はあると思いますが）。
- ◆ あまり利用したことがないので、よく分かりません。
- ◆ 60代～70代くらいの方が興味もてる事が少ないように思えるかな？
- ◆ 高齢者にとっては“ホームページでの情報を・・・”と言われても進んで見る事はなく、折込での“広報うつのみや”を見るのみで、いまいち自分の情報は乏しくなる。
- ◆ 我が家では残念ながら広報うつのみやをただ貰ってほとんど見ることもなくゴミになっています。紙媒体で何年も定期的に送り続けるのを止めて、年に1回程度の頻度で再申請をしないと配布を中止するような事を考えていただけないでしょうか？今のやり方は単に配布枚数を増やすことが目的になっていないでしょうか？必要な人に必要な情報を最適な方法で提供すべきだと思います。

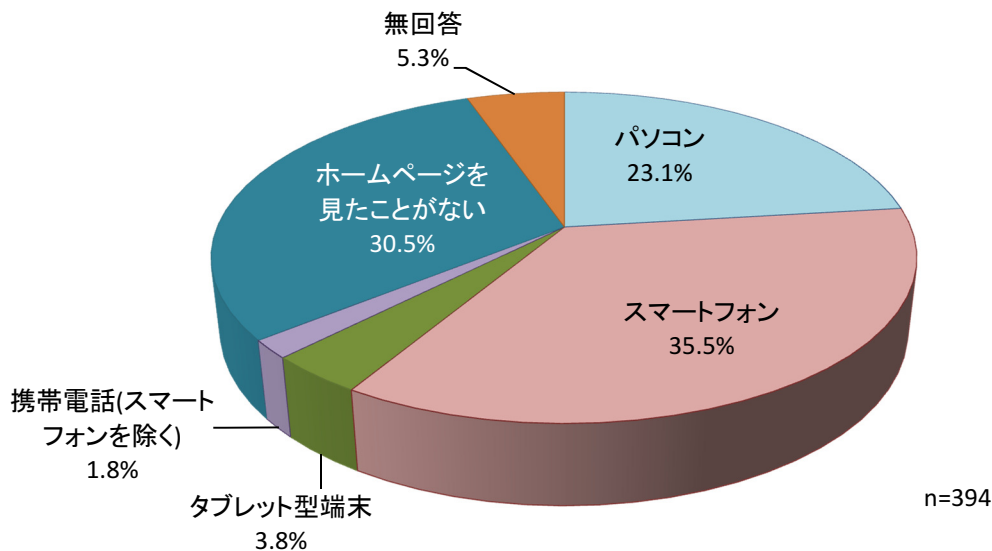
(7) 市のホームページを見るための主な手段

◇ 「スマートフォン」が3割半ば

問10 市ではホームページを開設しています。ホームページを見るための主な手段は何ですか。  
(○は1つ)

	n=394
1 パソコン	23.1%
2 スマートフォン	35.5%
3 タブレット型端末	3.8%
4 携帯電話（スマートフォンを除く）	1.8%
5 ホームページを見たことがない	30.5%
(無回答)	5.3%

<図IV-2-24>全体

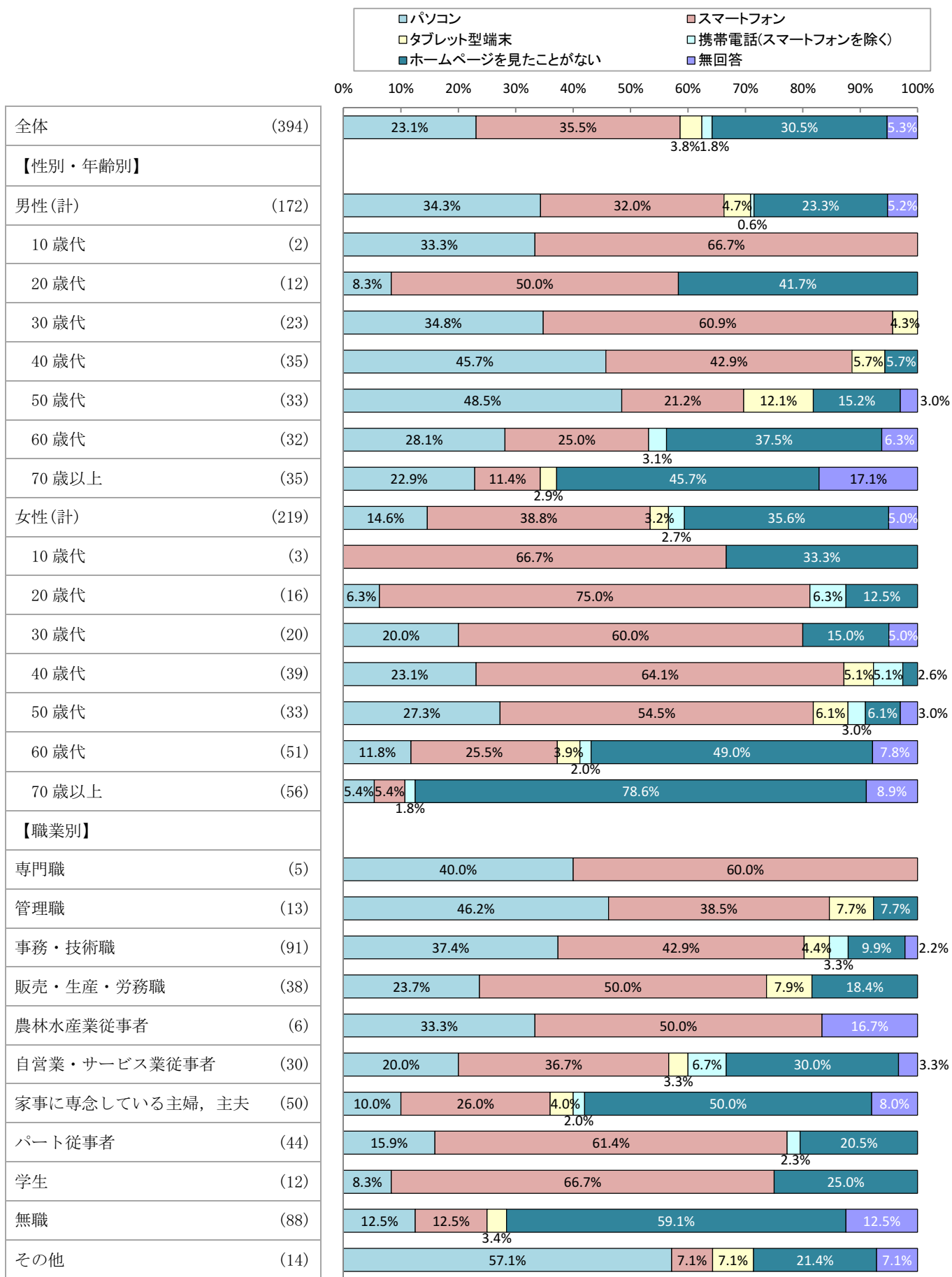


市のホームページを見るための主な手段は、「スマートフォン」が 35.5%で最も高かった。一方、「ホームページを見たことがない」は 30.5%であった。(図IV-2-24)

性別・年齢別でみると、「スマートフォン」は<女性/20歳代>が 75.0%で最も高く、次いで<男性/10歳代>と<女性/10歳代>が 66.7%であった。「パソコン」は<男性/50歳代>が 48.5%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が 45.7%であった。(図IV-2-25)

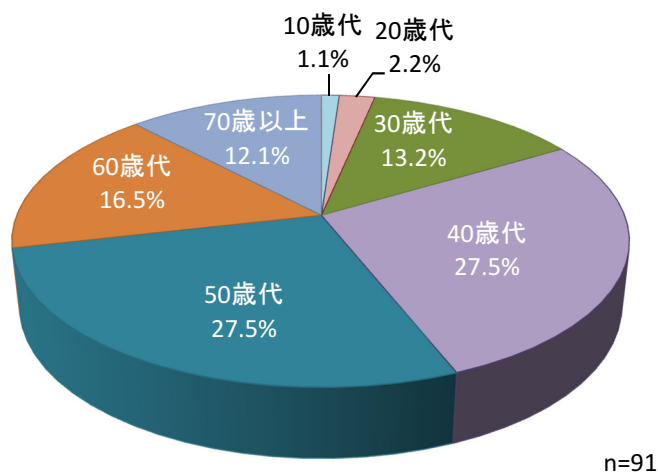
職業別でみると、「スマートフォン」は<学生>が 66.7%で最も高かった。「パソコン」は<その他>を除くと、<管理職>が 46.2%で最も高かった。(図IV-2-25)

<図IV-2-25>性別・年齢別/職業別



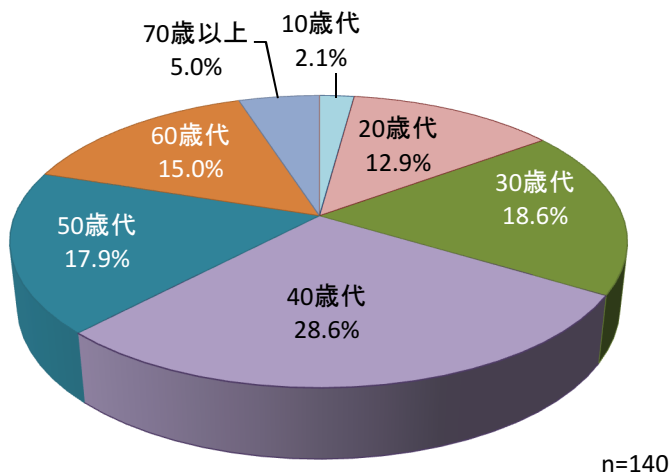
<図IV-2-26> 【パソコン】年齢別

【年齢別】	
10歳代	1.1%
20歳代	2.2%
30歳代	13.2%
40歳代	27.5%
50歳代	27.5%
60歳代	16.5%
70歳以上	12.1%
無回答	0.0%



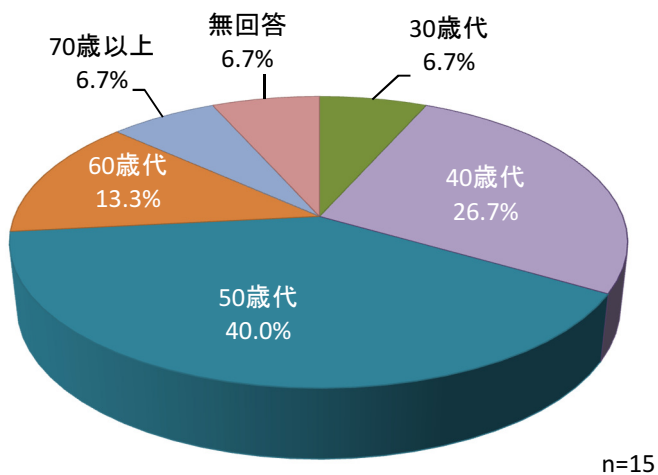
<図IV-2-27> 【スマートフォン】年齢別

【年齢別】	
10歳代	2.1%
20歳代	12.9%
30歳代	18.6%
40歳代	28.6%
50歳代	17.9%
60歳代	15.0%
70歳以上	5.0%
無回答	0.0%



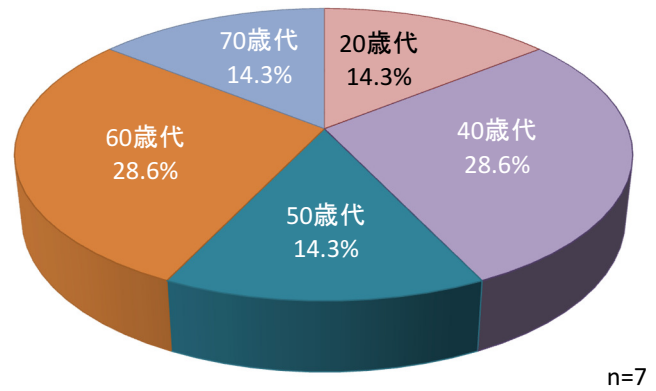
<図IV-2-28> 【タブレット型端末】年齢別

【年齢別】	
10歳代	0.0%
20歳代	0.0%
30歳代	6.7%
40歳代	26.7%
50歳代	40.0%
60歳代	13.3%
70歳以上	6.7%
無回答	6.7%



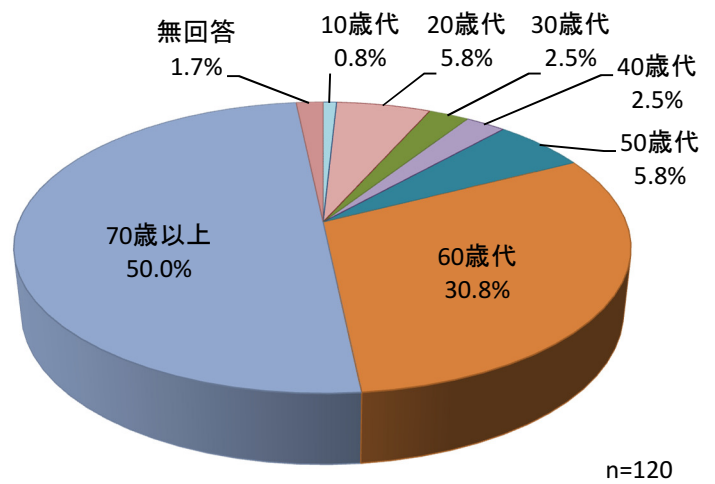
<図Ⅳ-2-29> 【携帯電話（スマートフォンを除く）】年齢別

【年齢別】	
10 歳代	0.0%
20 歳代	14.3%
30 歳代	0.0%
40 歳代	28.6%
50 歳代	14.3%
60 歳代	28.6%
70 歳以上	14.3%
無回答	0.0%



<図Ⅳ-2-30> 【ホームページを見たことがない】年齢別

【年齢別】	
10 歳代	0.8%
20 歳代	5.8%
30 歳代	2.5%
40 歳代	2.5%
50 歳代	5.8%
60 歳代	30.8%
70 歳以上	50.0%
無回答	1.7%

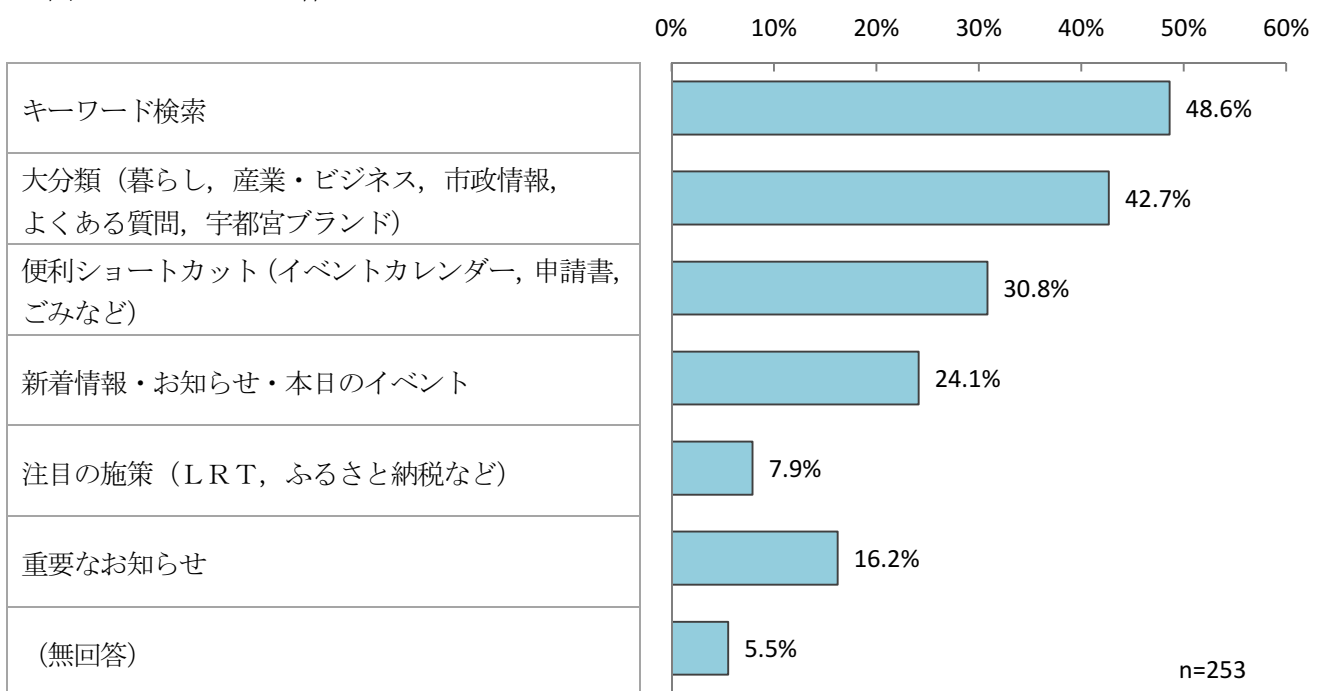


(8) ホームページで知りたい情報はどこから探すか

◇ 「キーワード検索」が約5割

問11	問10で1～4に○をつけた方に伺います。ホームページで知りたい情報をトップ画面のどこから探しますか。	(○は3つまで)	n=253
1	キーワード検索		48.6%
2	大分類 (暮らし, 産業・ビジネス, 市政情報, よくある質問, 宇都宮ブランド)		42.7%
3	便利ショートカット (イベントカレンダー, 申請書, ごみなど)		30.8%
4	新着情報・お知らせ・本日のイベント		24.1%
5	注目の施策 (LRT, ふるさと納税など)		7.9%
6	重要なお知らせ		16.2%
	(無回答)		5.5%

<図IV-2-31>全体

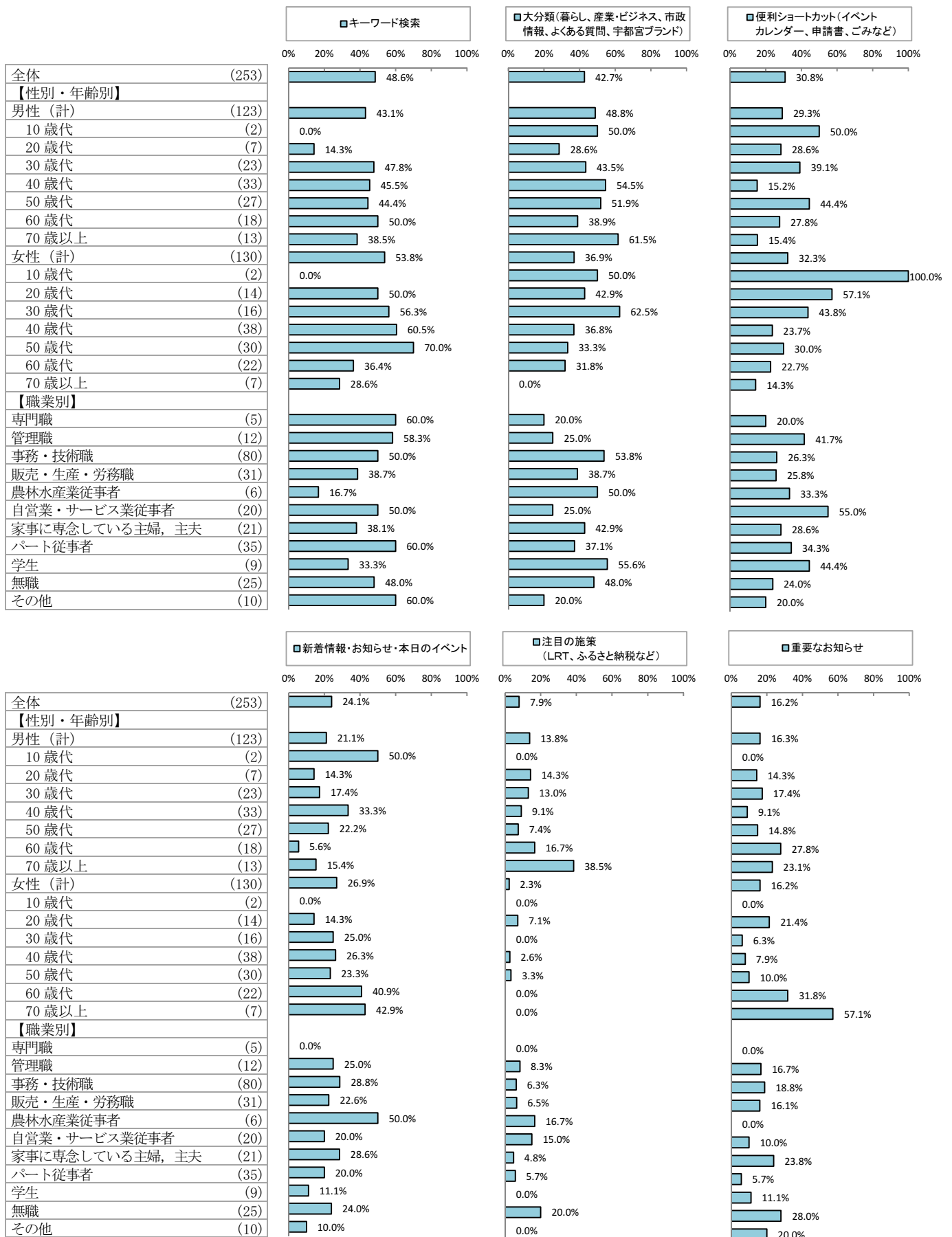


ホームページで知りたい情報はどこから探すかは、「キーワード検索」が48.6%で最も高く、次いで「大分類 (暮らし, 産業・ビジネス, 市政情報, よくある質問, 宇都宮ブランド)」が42.7%であった。(図IV-2-31)

性別・年齢別でみると、「キーワード検索」は<女性/50歳代>が70.0%で最も高く、次いで<女性/40歳代>が60.5%であった。「大分類 (暮らし, 産業・ビジネス, 市政情報, よくある質問, 宇都宮ブランド)」は<女性/30歳代>が62.5%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が61.5%であった。(図IV-2-32)

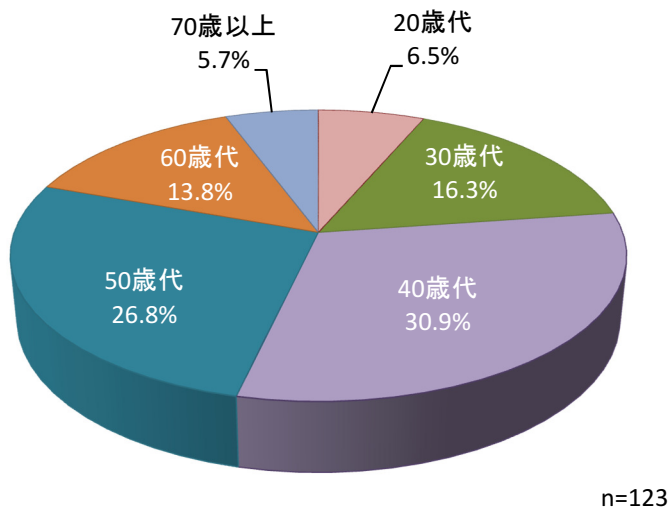
職業別でみると、「キーワード検索」は<専門職><パート従業者><その他>が60.0%で最も高かった。「大分類 (暮らし, 産業・ビジネス, 市政情報, よくある質問, 宇都宮ブランド)」は<学生>が55.6%で最も高く、次いで<事務・技術職>が53.8%であった。(図IV-2-32)

<図IV-2-32>性別・年齢別／職業別



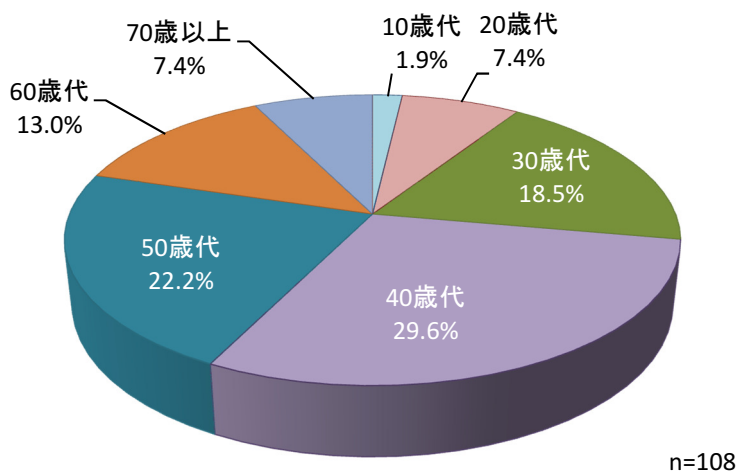
<図IV-2-33> 【キーワード検索】年齢別

【年齢別】	
10 歳代	0.0%
20 歳代	6.5%
30 歳代	16.3%
40 歳代	30.9%
50 歳代	26.8%
60 歳代	13.8%
70 歳以上	5.7%
無回答	0.0%



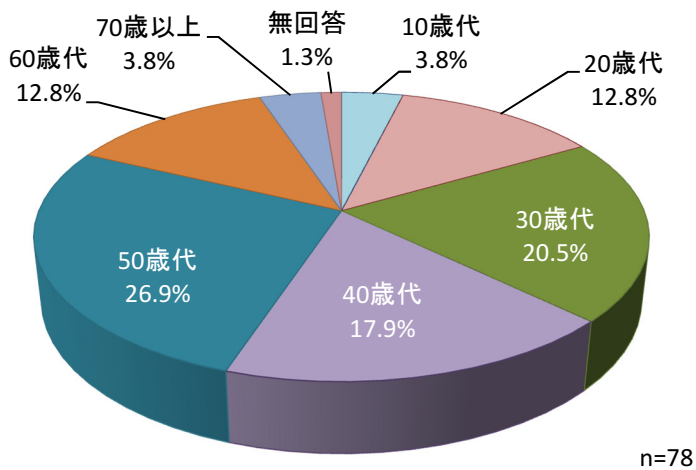
<図IV-2-34> 【大分類（暮らし，産業・ビジネス，市政情報，よくある質問，宇都宮ブランド）】年齢別

【年齢別】	
10 歳代	1.9%
20 歳代	7.4%
30 歳代	18.5%
40 歳代	29.6%
50 歳代	22.2%
60 歳代	13.0%
70 歳以上	7.4%
無回答	0.0%



<図IV-2-35> 【便利ショートカット（イベントカレンダー，申請書，ごみなど）】年齢別

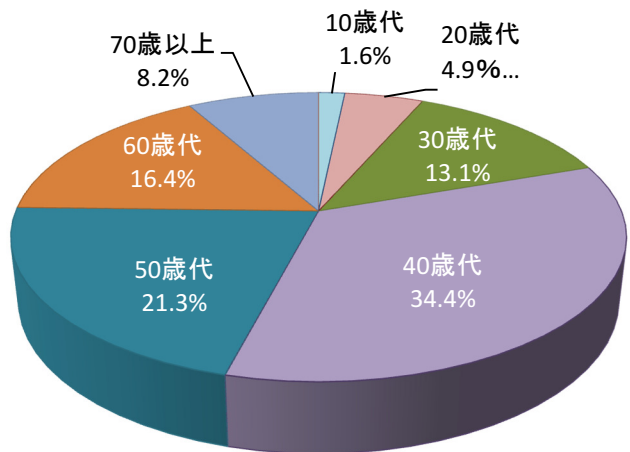
【年齢別】	
10 歳代	3.8%
20 歳代	12.8%
30 歳代	20.5%
40 歳代	17.9%
50 歳代	26.9%
60 歳代	12.8%
70 歳以上	3.8%
無回答	1.3%





<図IV-2-36> 【新着情報・お知らせ・本日のイベント】年齢別

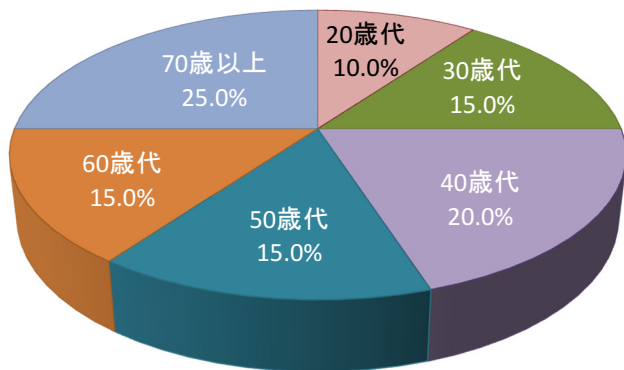
【年齢別】	
10歳代	1.6%
20歳代	4.9%
30歳代	13.1%
40歳代	34.4%
50歳代	21.3%
60歳代	16.4%
70歳以上	8.2%
無回答	0.0%



n=61

<図IV-2-37> 【注目の施策（LRT，ふるさと納税など）】年齢別

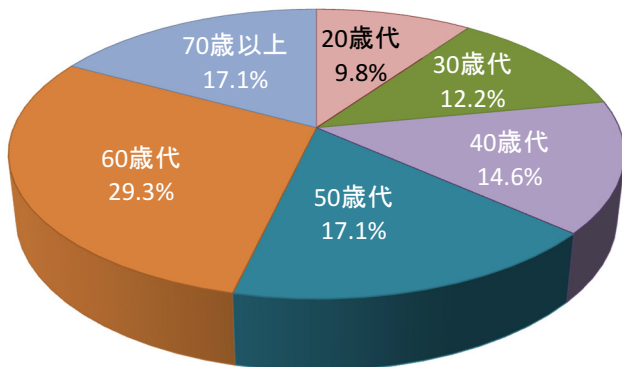
【年齢別】	
10歳代	0.0%
20歳代	10.0%
30歳代	15.0%
40歳代	20.0%
50歳代	15.0%
60歳代	15.0%
70歳以上	25.0%
無回答	0.0%



n=20

<図IV-2-38> 【重要なお知らせ】年齢別

【年齢別】	
10歳代	0.0%
20歳代	9.8%
30歳代	12.2%
40歳代	14.6%
50歳代	17.1%
60歳代	29.3%
70歳以上	17.1%
無回答	0.0%



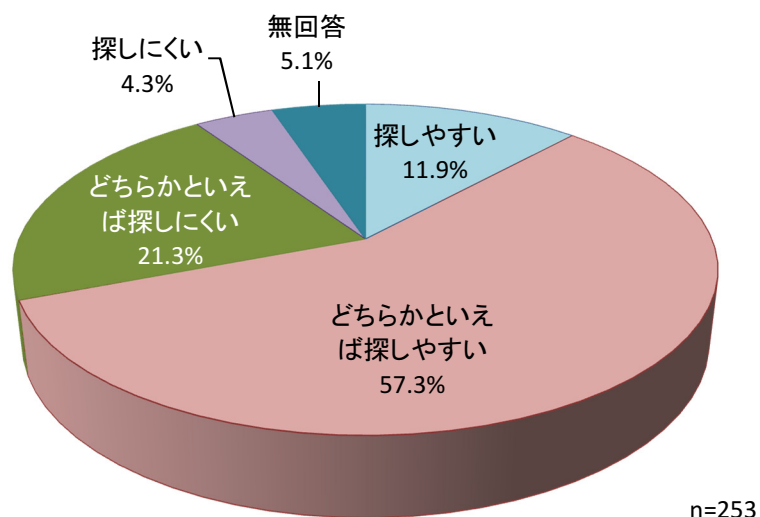
n=41

(9) ホームページで知りたい情報は探しやすいか

◇ 「探しやすい」と「どちらかといえば探しやすい」を合わせた【探しやすい(計)】が約7割

問12	問10で1～4に○をつけた方に伺います。ホームページを利用して知りたい情報は探しやすいですか。	(○は1つ)
		n=253
1	探しやすい	11.9%
2	どちらかといえば探しやすい	57.3%
3	どちらかといえば探しにくい	21.3%
4	探しにくい	4.3%
	(無回答)	5.1%

<図IV-2-39>全体

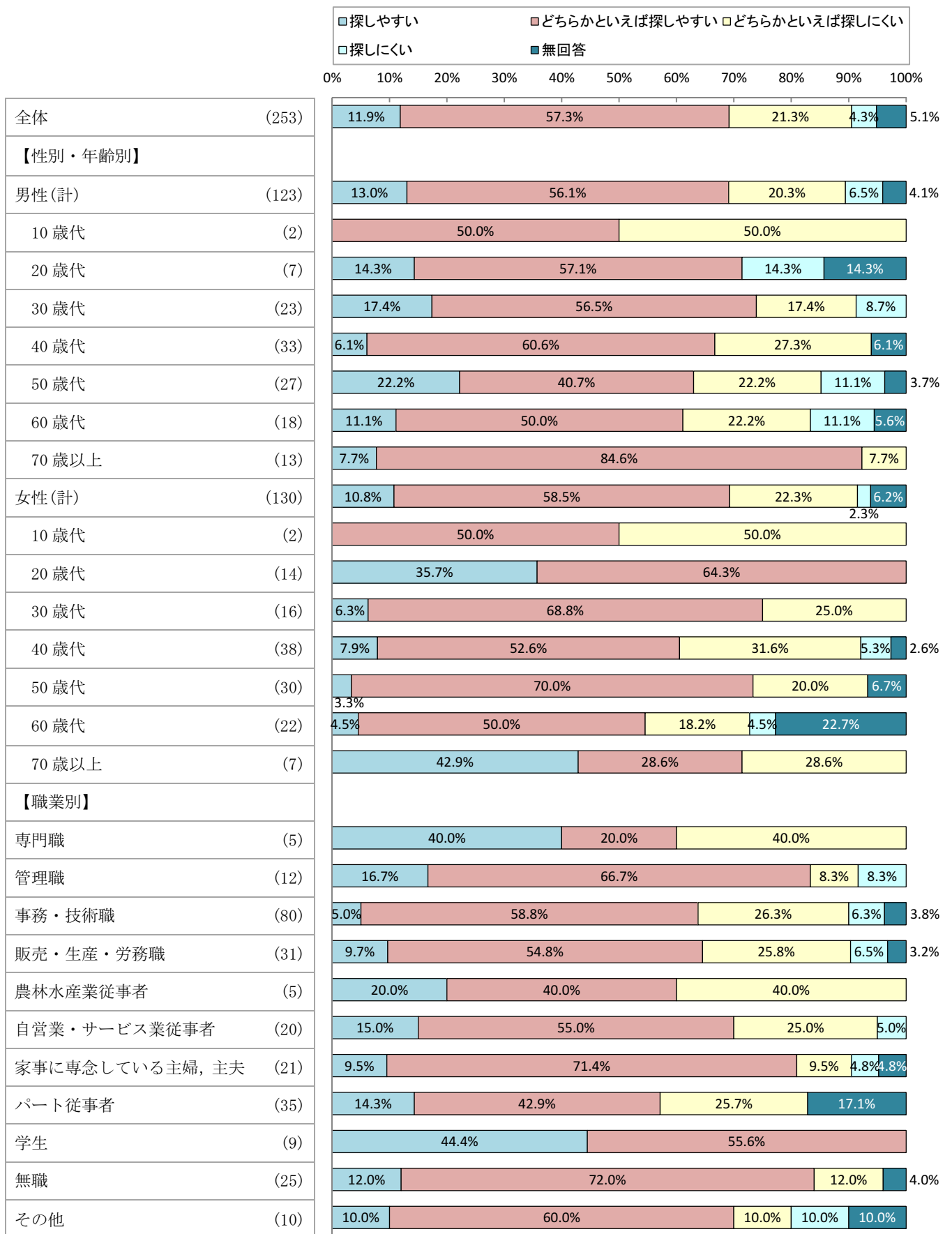


ホームページで知りたい情報は探しやすいかについて、「探しやすい」が11.9%、「どちらかといえば探しやすい」が57.3%で、これらを合わせた【探しやすい(計)】が69.2%であった。一方、「どちらかといえば探しにくい」21.3%、「探しにくい」4.3%で、これらを合わせた【探しにくい(計)】は25.6%であった。(図IV-2-39)

性別・年齢別で見ると、【探しやすい(計)】は<女性/20歳以上>が100.0%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が92.3%であった。一方、【探しにくい(計)】は<男性/10歳代><女性/10歳代>が50.0%で最も高く、次いで<女性/40歳代>が36.9%であった。(図IV-2-40)

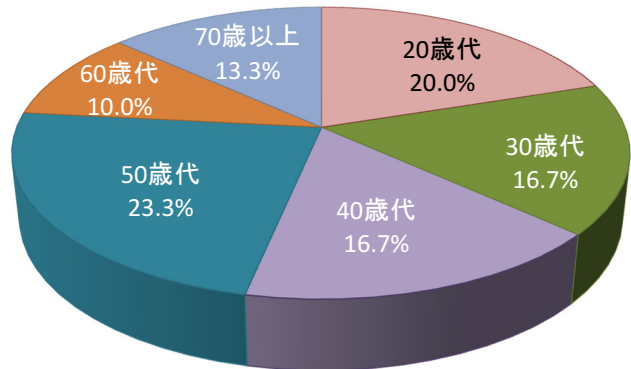
職業別で見ると、【探しやすい(計)】は、いずれの職業でも6割弱を超えている。一方、【探しにくい(計)】は<専門職><農林水産業従事者>が40.0%で最も高く、次いで<事務・技術職>が32.6%であった。(図IV-2-40)

<図IV-2-40>性別・年齢別／職業別



<図IV-2-41> 【探しやすい】年齢別

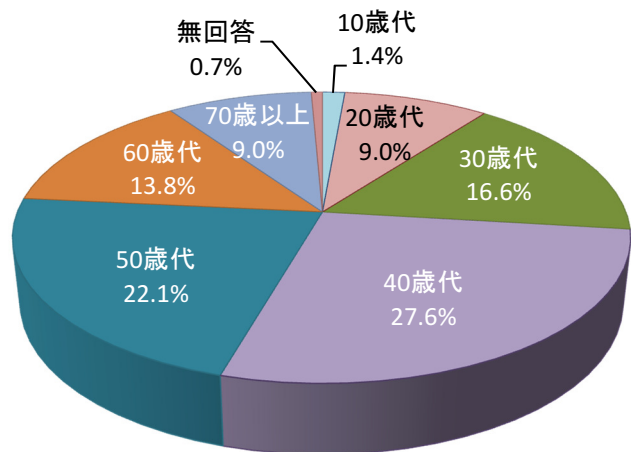
【年齢別】	
10歳代	0.0%
20歳代	20.0%
30歳代	16.7%
40歳代	16.7%
50歳代	23.3%
60歳代	10.0%
70歳以上	13.3%
無回答	0.0%



n=30

<図IV-2-42> 【どちらかといえば探しやすい】年齢別

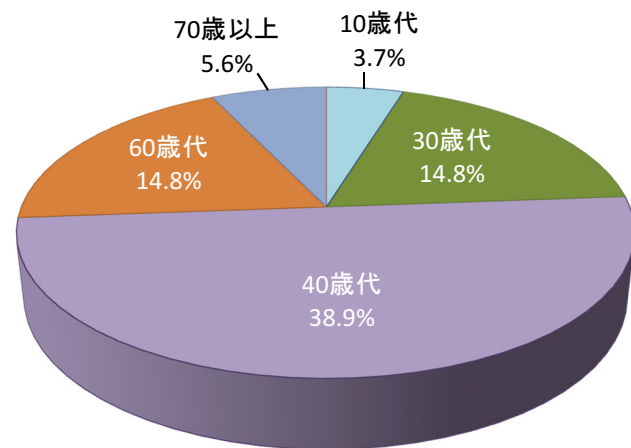
【年齢別】	
10歳代	1.4%
20歳代	9.0%
30歳代	16.6%
40歳代	27.6%
50歳代	22.1%
60歳代	13.8%
70歳以上	9.0%
無回答	0.7%



n=145

<図IV-2-43> 【どちらかといえば探しにくい】年齢別

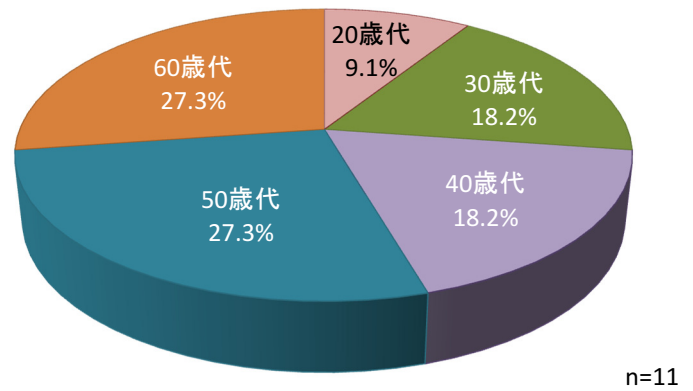
【年齢別】	
10歳代	3.7%
20歳代	0.0%
30歳代	14.8%
40歳代	38.9%
50歳代	0.0%
60歳代	14.8%
70歳以上	5.6%
無回答	0.0%



n=54

<図Ⅳ-2-44> 【探しにくい】年齢別

【年齢別】	
10 歳代	0.0%
20 歳代	9.1%
30 歳代	18.2%
40 歳代	18.2%
50 歳代	27.3%
60 歳代	27.3%
70 歳以上	0.0%
無回答	0.0%



## (10) ホームページに関する感想, 充実してほしい機能や情報

問13 ホームページに関する感想, 充実してほしい機能や情報などをお書きください。

ホームページに関する感想, 充実してほしい機能や情報などについては, 以下のような意見があった。(原文のまま)

### 【情報】

- ◆ 職員募集
- ◆ 今はコロナです。あとは暮らしに関する事、介護保険や介護のことなど。
- ◆ グルメ
- ◆ 高齢者（男性）に関する、老害についてのコラムなど。
- ◆ 新型コロナウイルスで3密を避けるためにも、庁舎の混雑状況や見込みをホームページに掲載してもらえると助かります。
- ◆ コロナの状況が即座に分らない。個人のツイッターやLINEのコロナ状況の方が早い。情報公開が遅い。
- ◆ 農業に関する情報
- ◆ 新型コロナウイルス関係について、もう少し詳細について伝えてほしい。また、データの分析も、もう少し伝えてほしい。(市内の町村別の状況とか、現在の段階での産業別の感染分布とか)
- ◆ ホームページにおける、市の暮らしやイベントに関する情報を拝見して、とても参考になりました。今後とも拝見していきたいです。
- ◆ この調査で、ホームページをきちんと確認したが、たくさんの情報が掲載されていて、驚いた。ゴミ収集の際、まちがって出されていて、収集後、残っていることがある。分別について充実してほしい。(今現在も充実しているが、品物より、何に分別されるか?のところをもう少し詳しくしてほしい。)
- ◆ 見なければ得をしない情報だけでなく、まんべんなく、市民が住みやすい暮らしやすい情報。
- ◆ 常に新しい情報が欲しい

### 【見やすさ・分かりやすさ】

- ◆ ホームページから検索するのではなく検索サイトから直接ページにとぶのでトップ画面はシンプルでいい。
- ◆ 分類やショートカットから探しにくい。例えば市の職員、会計年度任用職員の募集についてのページなどにすぐたどり着けないが、もっとわかりやすくすれば、多くの人が見て人材も集まるのではと思う。
- ◆ 健康診断で知りたいことがあったので、ホームページを開いたのですが、ゴチャゴチャしていてたどり着けず電話ですませた。
- ◆ なかなかホームページの利用が出来ませんが、高齢者が取り残されない事を望む
- ◆ スムーズに検索できるようにして頂けるとありがたいです。
- ◆ キーワード検索した後に表示される一覧が見づらいので見やすく、わかりやすくしてほしい。

- 
- ◆ 仕事で申請書等を検索するのですが、すごくわかりづらい。見たいと思う作り方になっていないと思う。おかたい感じ。
  - ◆ 大分類など項目ごとに分かれていて、とても見やすく、よく拝見させて頂いています。
  - ◆ 検索した場合、ヒット数が多すぎて見つけにくい。
  - ◆ そんなには見ないので、特に要望はないが、全体的に見やすいと思います。
  - ◆ よく検索される項目はすぐヒットするよう整えて欲しい
  - ◆ ホームページを見て特に不便とは思わない。

【その他】

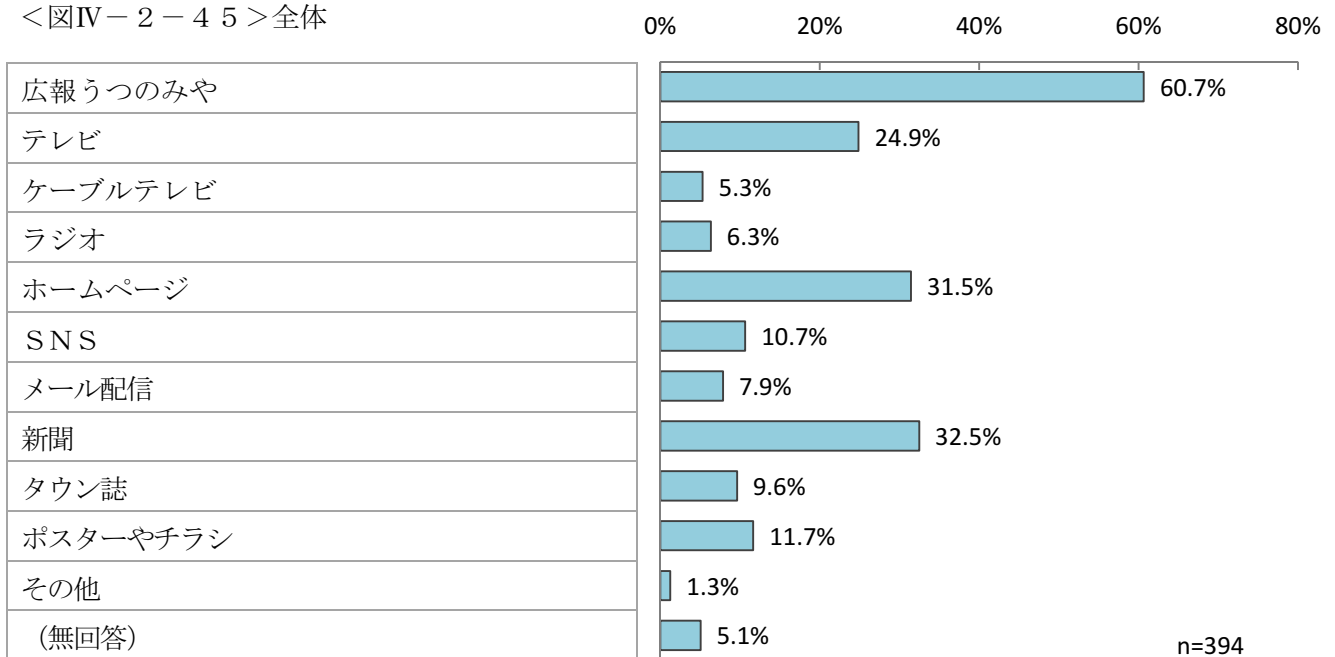
- ◆ 内容は忘れたが、見つからなかった事があった。
- ◆ 我が家にホームページは御座いません。
- ◆ 特に思いつかない。

(11) 市政情報をどんな手段で知りたいか

◇ 「広報うつのみや」が約6割

問14	今後、市政情報をどんな手段で知りたいですか。	(○は3つまで)
		n=394
1	広報うつのみや	60.7%
2	テレビ	24.9%
3	ケーブルテレビ	5.3%
4	ラジオ	6.3%
5	ホームページ	31.5%
6	SNS	10.7%
7	メール配信	7.9%
8	新聞	32.5%
9	タウン誌	9.6%
10	ポスターやチラシ	11.7%
11	その他	1.3%
	(無回答)	5.1%

<図IV-2-45>全体



今後、市政情報をどんな手段で知りたいかは、「広報うつのみや」が 60.7%で最も高く、次いで「新聞」が 32.5%であった。(図IV-2-45)

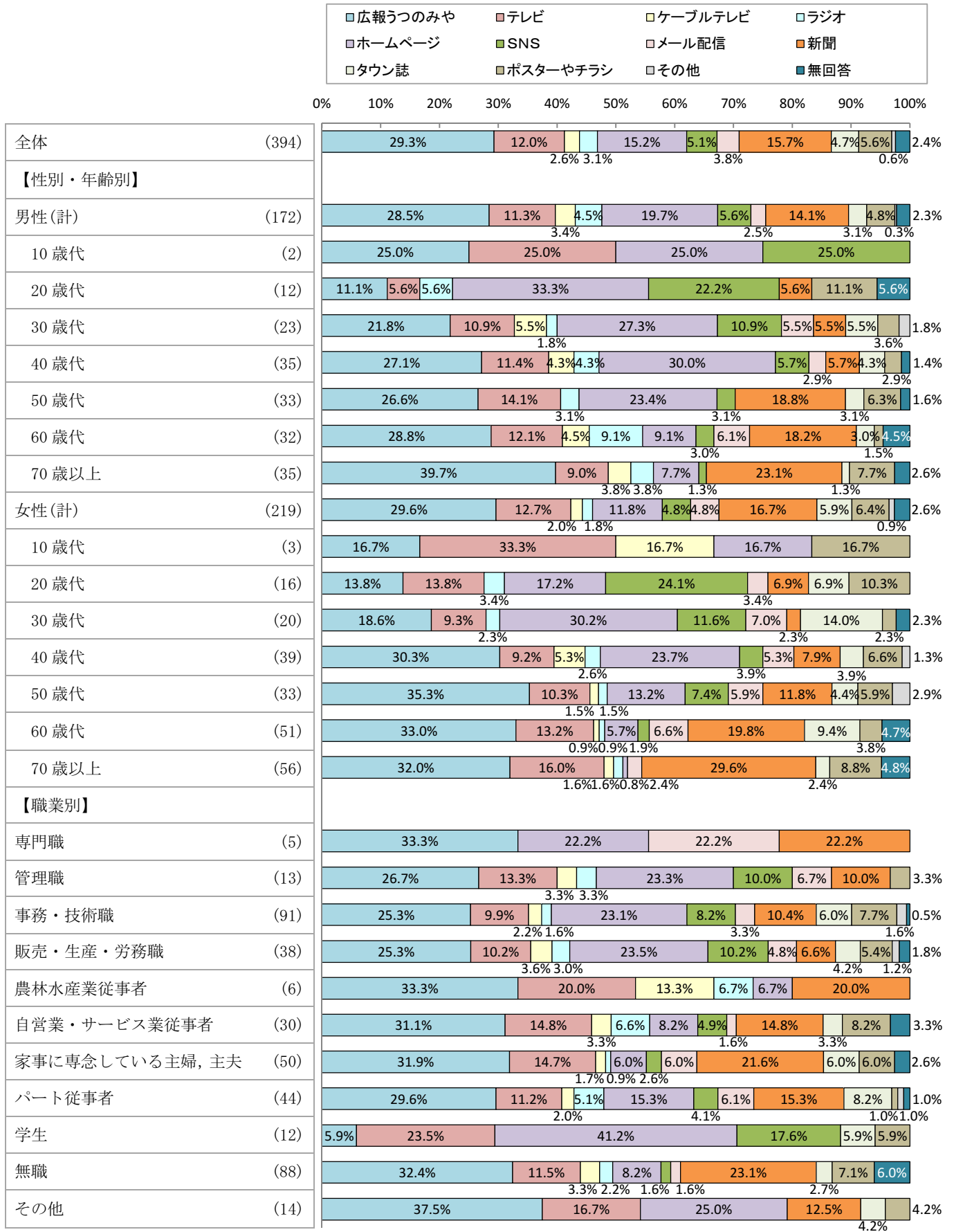
その他の意見としては、「出張所」「回覧板」「ライン」「郵送」があった。

性別・年齢別でみると、「広報うつのみや」は<男性/70歳以上>が 39.7%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が 35.3%であった。「新聞」は<女性/70歳以上>が 29.6%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が 23.1%であった。(図IV-2-46)

職業別でみると、「広報うつのみや」は<その他>を除くと、<専門職><農林水産業従事者>が 33.3%で最も高かった。「新聞」は<無職>が 23.1%で最も高かった。(図IV-2-46)



<図IV-2-46>性別・年齢別／職業別



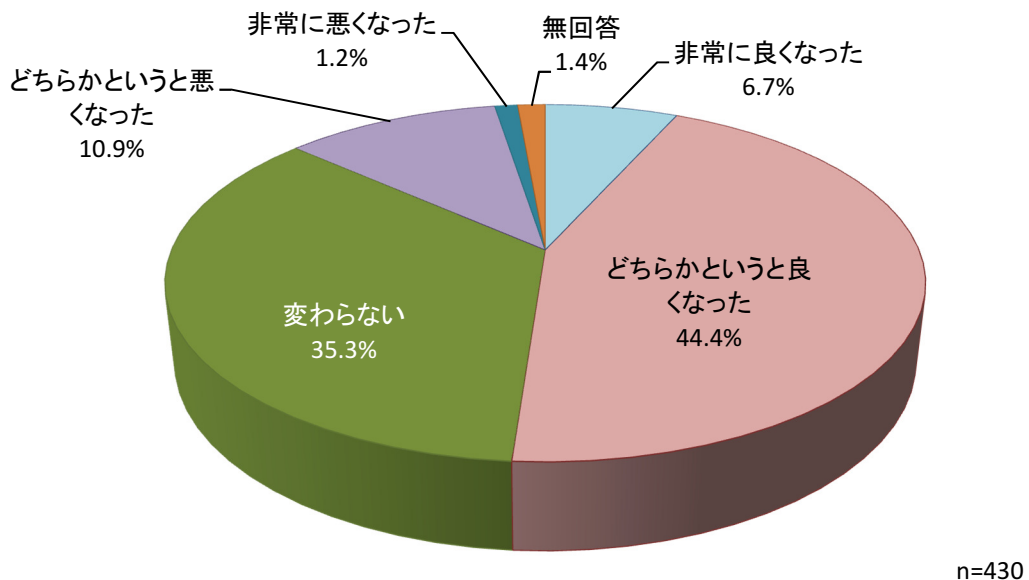
### 3. 宇都宮市の景観について

(1) 宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるか

◇ 「非常に良くなった」と「どちらかというと言良くなった」を合わせた【良くなった(計)】が約5割

問15	宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じますか。	(○は1つ)
		n=430
1	非常に良くなった	6.7%
2	どちらかというと言良くなった	44.4%
3	変わらない	35.3%
4	どちらかというと言悪くなった	10.9%
5	非常に悪くなった	1.2%
	(無回答)	1.4%

<図IV-3-1>全体



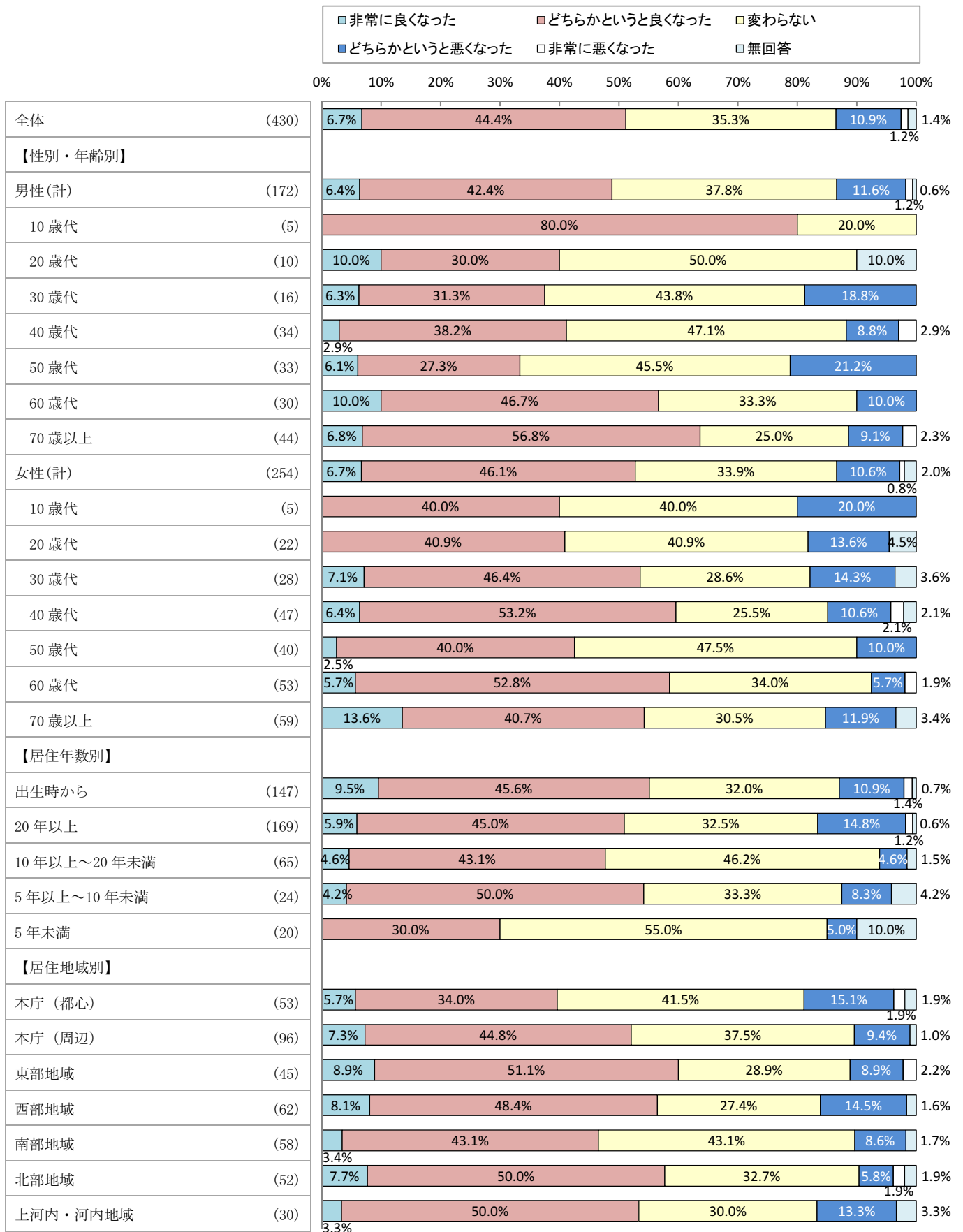
宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるかについては、「非常に良くなった」が6.7%、「どちらかというと言良くなった」が44.4%で、これらを合わせた【良くなった(計)】は51.1%であった。一方、「変わらない」は35.3%であった。(図IV-3-1)

性別・年齢別でみると、【良くなった(計)】は<男性/10歳代>が80.0%で最も高かった。一方、「どちらかというと言悪くなった」と「非常に悪くなった」を合わせた【悪くなった(計)】は<男性/50歳代>が21.2%で最も高かった。(図IV-3-2)

居住年数別でみると、【良くなった(計)】は<出生時から>が55.1%で最も高く、次いで<5年以上～10年未満>が54.2%であった。(図IV-3-2)

居住地域別でみると、【良くなった(計)】は<東部地域>が60.0%で最も高かった。(図IV-3-2)

<図IV-3-2>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別

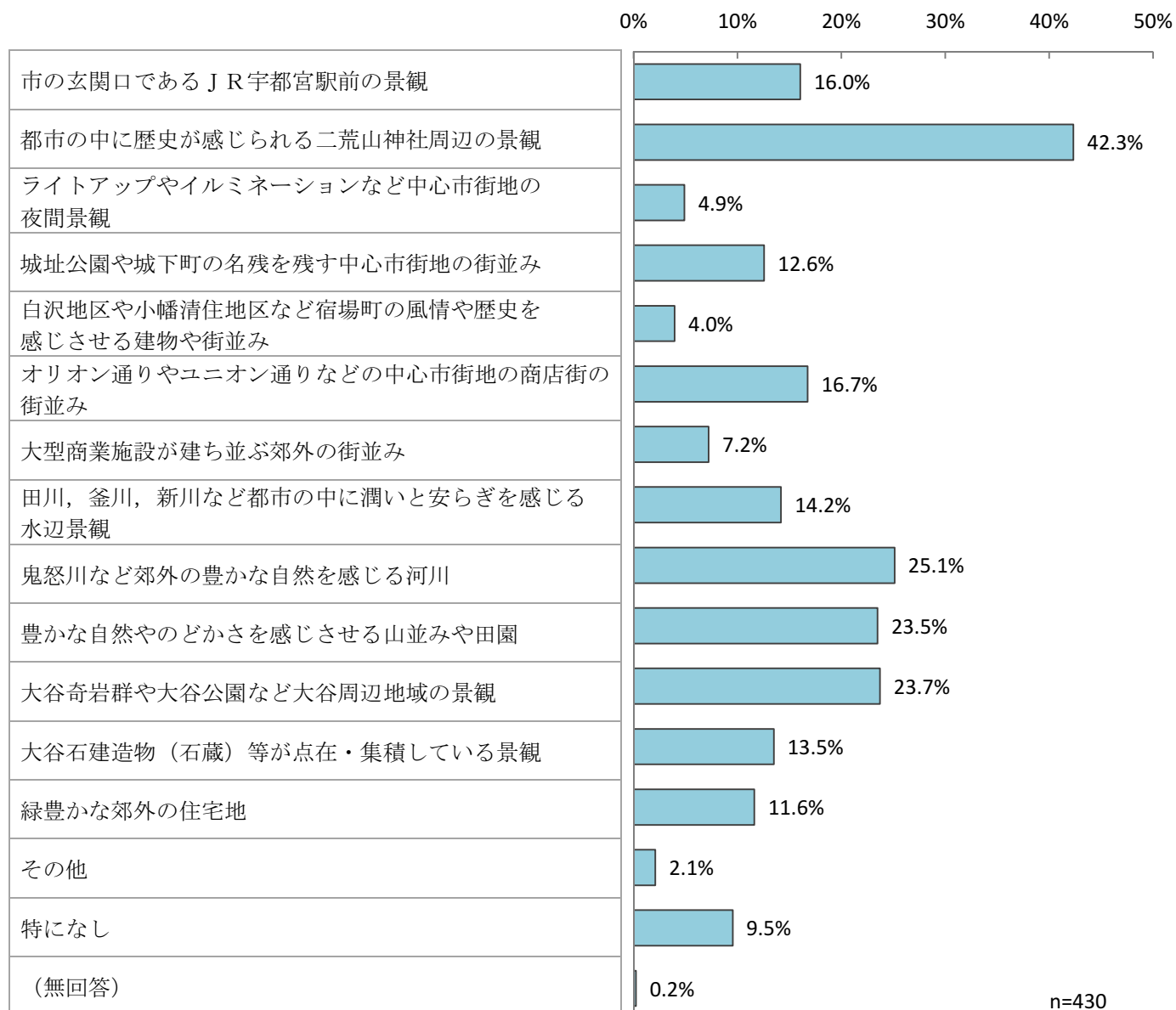


(2)「宇都宮らしい景観」とは何か

◇「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」が4割強

問16	宇都宮市内で愛着や誇りを感じる「宇都宮らしい景観」は何ですか。	(○は3つまで)
		n=430
1	市の玄関口であるJR宇都宮駅前の景観	16.0%
2	都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観	42.3%
3	ライトアップやイルミネーションなど中心市街地の夜間景観	4.9%
4	城址公園や城下町の名残を残す中心市街地の街並み	12.6%
5	白沢地区や小幡清住地区など宿場町の風情や歴史を感じさせる建物や街並み	4.0%
6	オリオン通りやユニオン通りなどの中心市街地の商店街の街並み	16.7%
7	大型商業施設が建ち並ぶ郊外の街並み	7.2%
8	田川, 釜川, 新川など都市の中に潤いと安らぎを感じる水辺景観	14.2%
9	鬼怒川など郊外の豊かな自然を感じる河川	25.1%
10	豊かな自然やのどかさを感じさせる山並みや田園	23.5%
11	大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観	23.7%
12	大谷石建造物(石蔵)等が点在・集積している景観	13.5%
13	緑豊かな郊外の住宅地	11.6%
14	その他	2.1%
15	特になし	9.5%
	(無回答)	0.2%

<図IV-3-3>全体



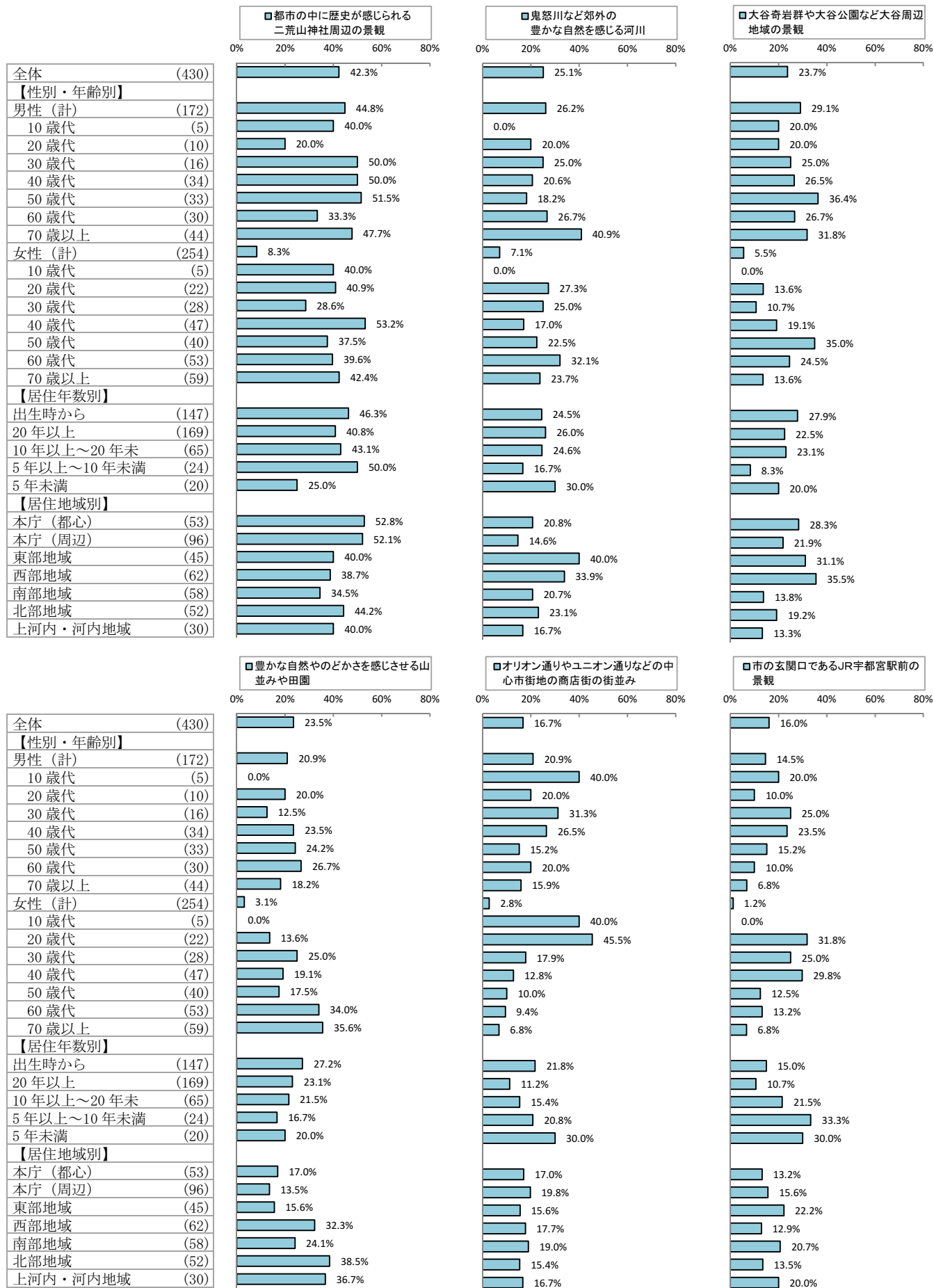
「宇都宮らしい景観」とは何かについては、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」が42.3%で最も高く、次いで「鬼怒川など郊外の豊かな自然を感じる河川」が25.1%であった。（図IV-3-3）

性別・年齢別で見ると、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」は<女性/40歳代>が53.2%で最も高く、次いで<男性/50歳以上>が51.5%であった。「鬼怒川など郊外の豊かな自然を感じる河川」は<男性/70歳以上>が40.9%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が32.1%であった。（図IV-3-4）

居住年数別で見ると、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」は<5年以上～10年未満>が50.0%で最も高かった。「鬼怒川など郊外の豊かな自然を感じる河川」は<5年未満>が30.0%で最も高かった。（図IV-3-4）

居住地域別で見ると、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」は<本庁（都心）>が52.8%で最も高かった。「鬼怒川など郊外の豊かな自然を感じる河川」は<東部地域>が40.0%で最も高かった。（図IV-3-4）

<図IV-3-4>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別（上位6項目）

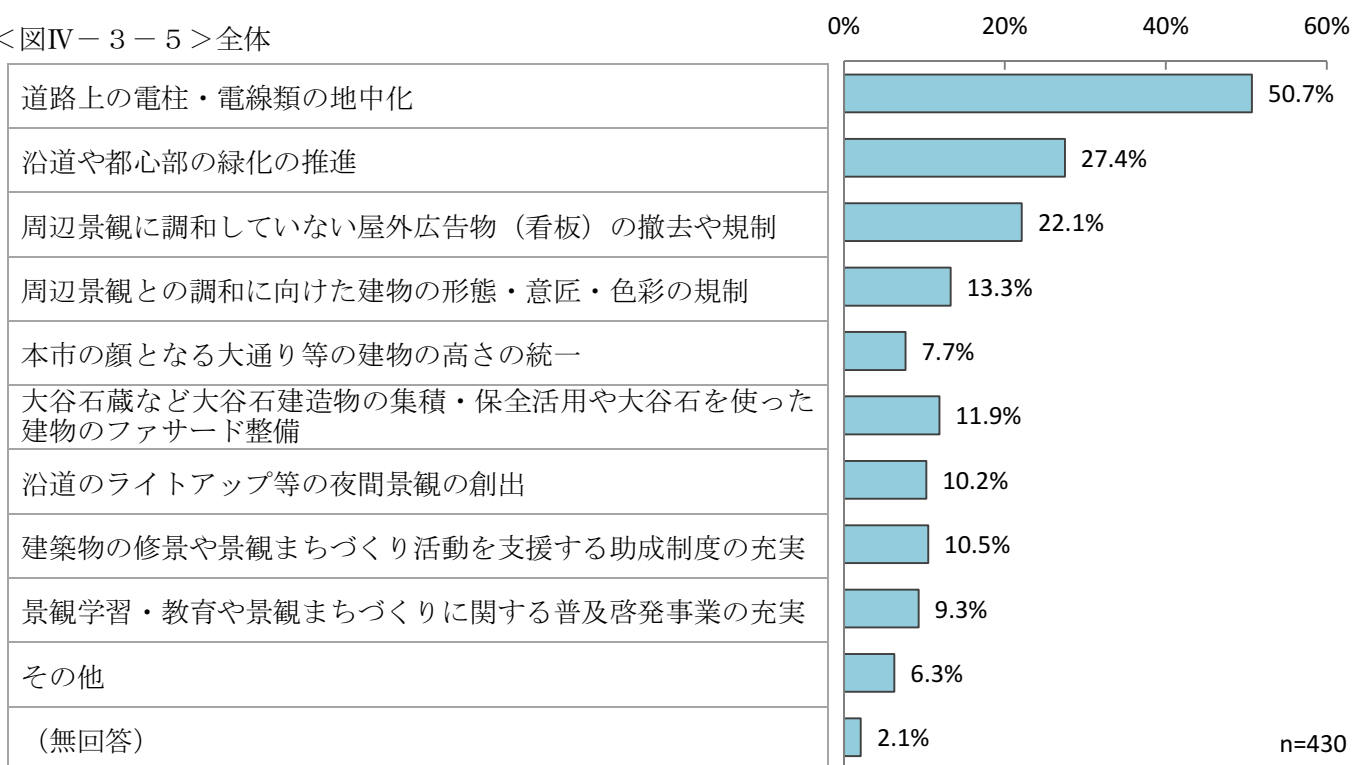


### (3) 良好な都市景観の形成に必要なこと

#### ◇ 「道路上の電柱・電線類の地中化」が約5割

問17	良好な都市景観の形成に必要なことは何だと思えますか。	(○は2つまで)	n=430
1	道路上の電柱・電線類の地中化		50.7%
2	沿道や都心部の緑化の推進		27.4%
3	周辺景観に調和していない屋外広告物(看板)の撤去や規制		22.1%
4	周辺景観との調和に向けた建物の形態・意匠・色彩の規制		13.3%
5	本市の顔となる大通り等の建物の高さの統一		7.7%
6	大谷石蔵など大谷石建造物の集積・保全活用や大谷石を使った建物のファサード整備		11.9%
7	沿道のライトアップ等の夜間景観の創出		10.2%
8	建築物の修景や景観まちづくり活動を支援する助成制度の充実		10.5%
9	景観学習・教育や景観まちづくりに関する普及啓発事業の充実		9.3%
10	その他		6.3%
	(無回答)		2.1%

<図IV-3-5>全体



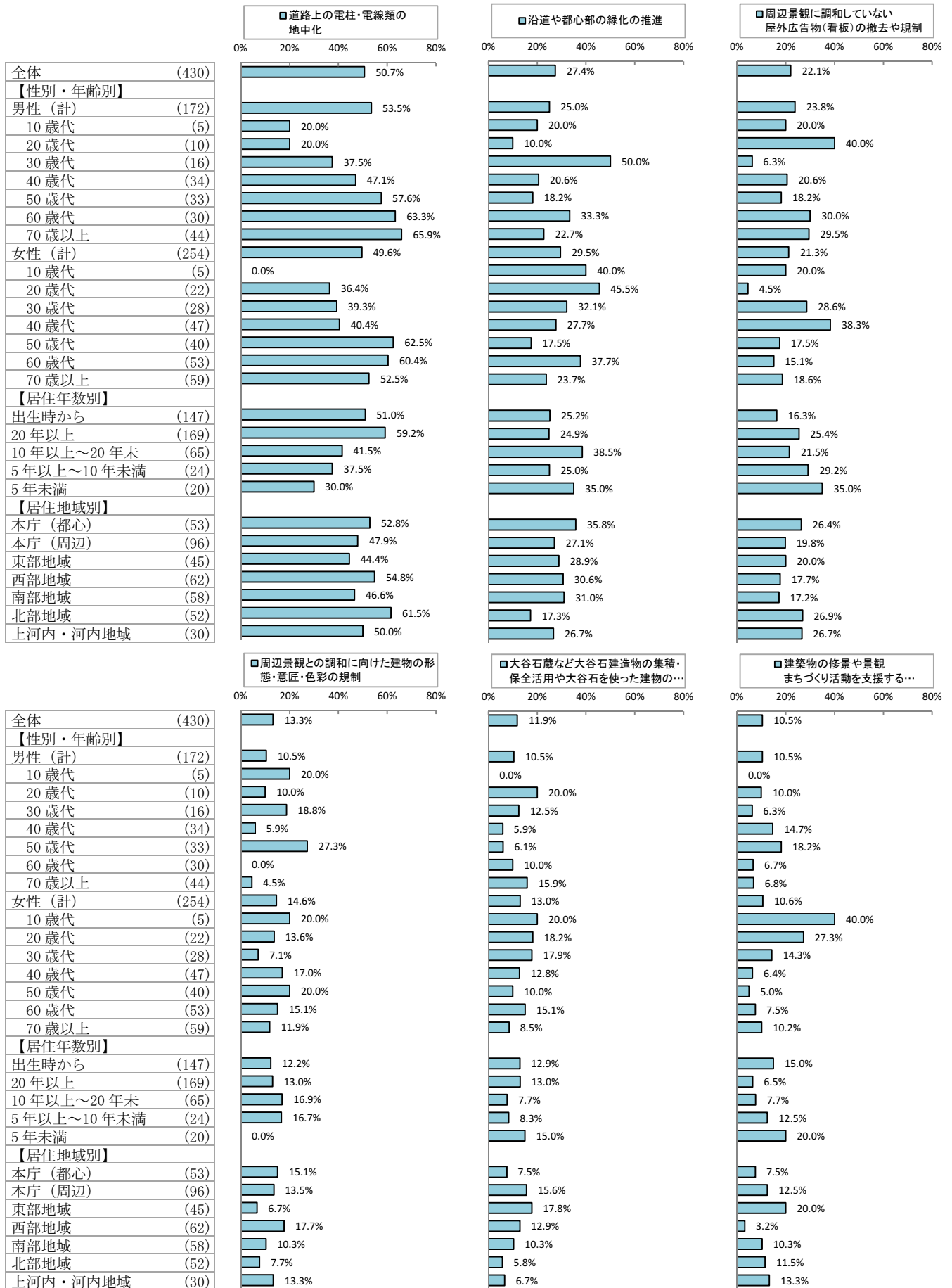
良好な都市景観の形成に必要なことについては、「道路上の電柱・電線類の地中化」が50.7%で最も高く、次いで「沿道や都心部の緑化の推進」が27.4%、「周辺景観に調和していない屋外広告物(看板)の撤去や規制」が22.1%と続いている。(図IV-3-5)

性別・年齢別でみると、「道路上の電柱・電線類の地中化」は<男性/70歳以上>が65.9%で最も高かった。「沿道や都心部の緑化の推進」は<男性/30歳代>が50.0%で最も高かった。(図IV-3-6)

居住年数別でみると、「道路上の電柱・電線類の地中化」は<20年以上>が59.2%で最も高かった。「沿道や都心部の緑化の推進」は<10年以上~20年未満>が38.5%で最も高かった。(図IV-3-6)

居住地域別でみると、「道路上の電柱・電線類の地中化」は<北部地域>が61.5%で最も高かった。「沿道や都心部の緑化の推進」は<本庁(都心)>が35.8%で最も高かった。(図IV-3-6)

<図IV-3-6>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別（上位6項目）



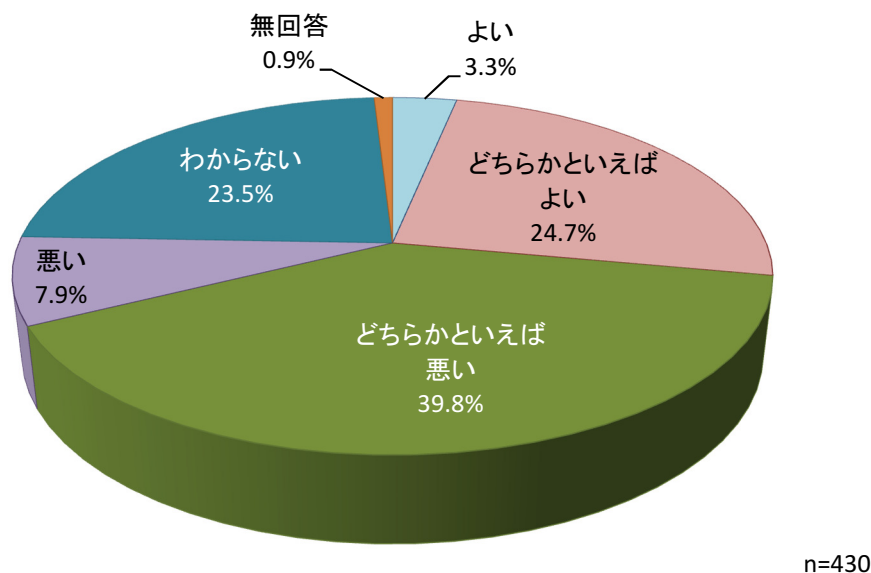


(4) 屋外広告物についての印象

◇ 「どちらかといえば悪い」と「悪い」を合わせた【悪い(計)】が5割弱

問18 景観を形成する要素の一つである屋外広告物(看板等)について、あなたは、全般的にどのような印象をお持ちですか。(○は1つ)		n=430
1	よい	3.3%
2	どちらかといえばよい	24.7%
3	どちらかといえば悪い	39.8%
4	悪い	7.9%
5	わからない	23.5%
	(無回答)	0.9%

<図IV-3-7>全体



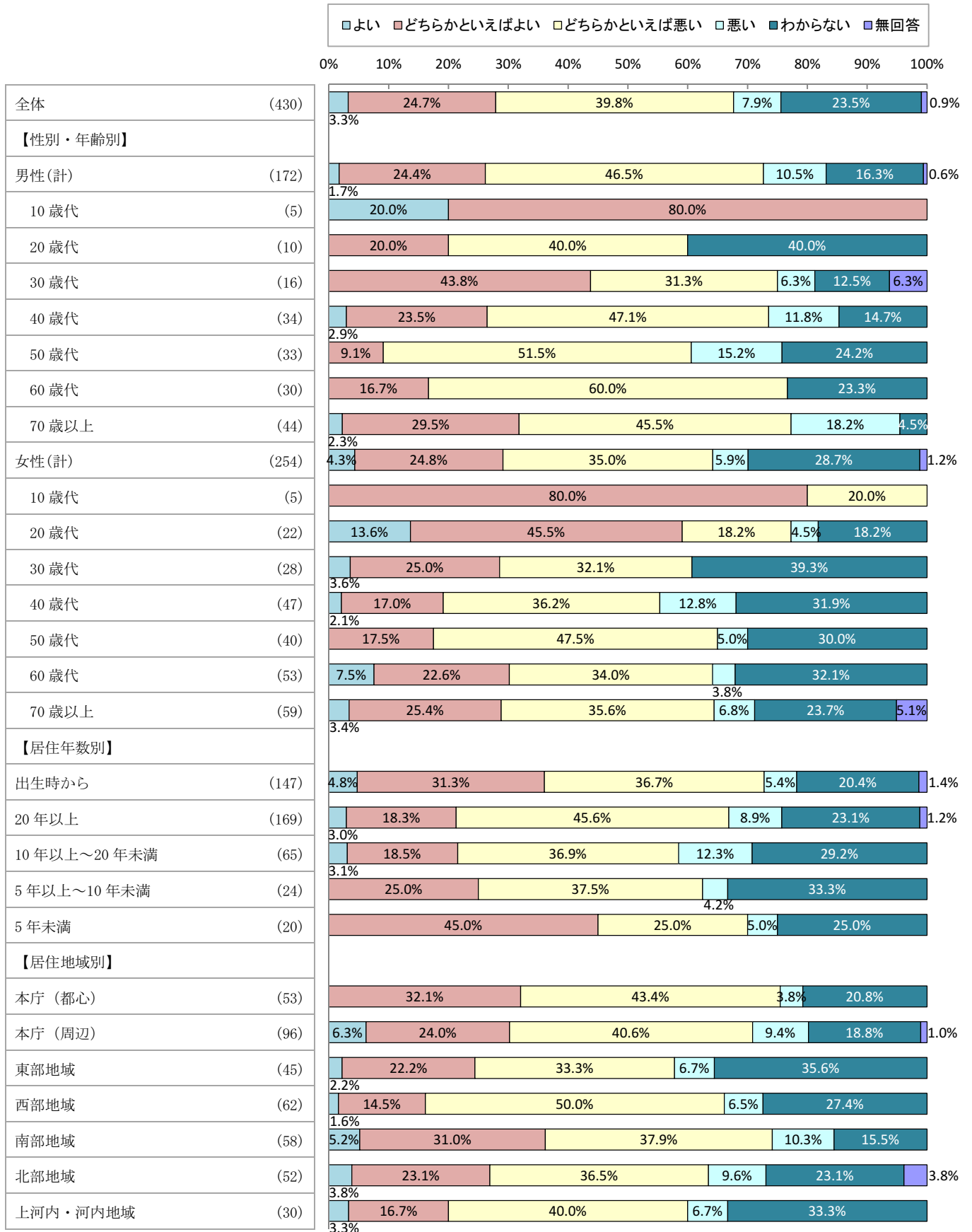
屋外広告物の全般的な印象については、「どちらかといえば悪い」が39.8%、「悪い」が7.9%で、これらを合わせた【悪い(計)】は47.7%であった。一方、「よい」は3.3%、「どちらかといえばよい」は24.7%で、これらを合わせた【よい(計)】は28.0%であった。(図IV-3-7)

性別・年齢別でみると、【悪い(計)】は<男性/50歳代>が66.7%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が63.6%であった。【よい(計)】は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/10歳以上>が80.0%であった。(図IV-3-8)

居住年数別でみると、【悪い(計)】は<20年以上>が54.5%で最も高かった。【よい(計)】は<5年未満>が45.0%で最も高かった。(図IV-3-8)

居住地域別でみると、【悪い(計)】は<西部地域>が56.5%で最も高かった。【よい(計)】は<南部地域>が36.2%で最も高かった。(図IV-3-8)

<図IV-3-8>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別

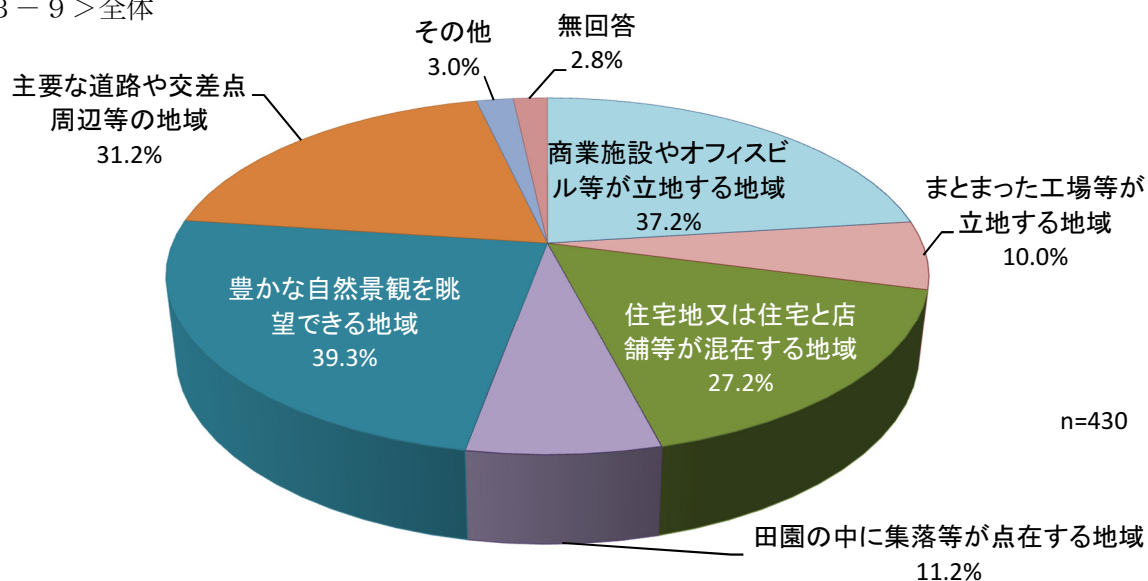


(5) よりよい景観形成のため屋外広告物の基準を強化する地域

◇ 「豊かな自然景観を眺望できる地域」が約4割

問19	屋外広告物(看板等)は、表示面積(大きさ)や高さ、色彩などの基準が地域ごとに条例で定められています。今後、よりよい景観形成のためそれらの基準を強化するとしたら、どの地域がよいか、あなたの意見に一番近いものはどれですか。(〇は2つまで)	n=430
1	商業施設やオフィスビル等が立地する地域	37.2%
2	まとまった工場等が立地する地域	10.0%
3	住宅地又は住宅と店舗等が混在する地域	27.2%
4	田園の中に集落等が点在する地域	11.2%
5	豊かな自然景観を眺望できる地域	39.3%
6	主要な道路や交差点周辺等の地域	31.2%
7	その他	3.0%
	(無回答)	2.8%

<図IV-3-9>全体



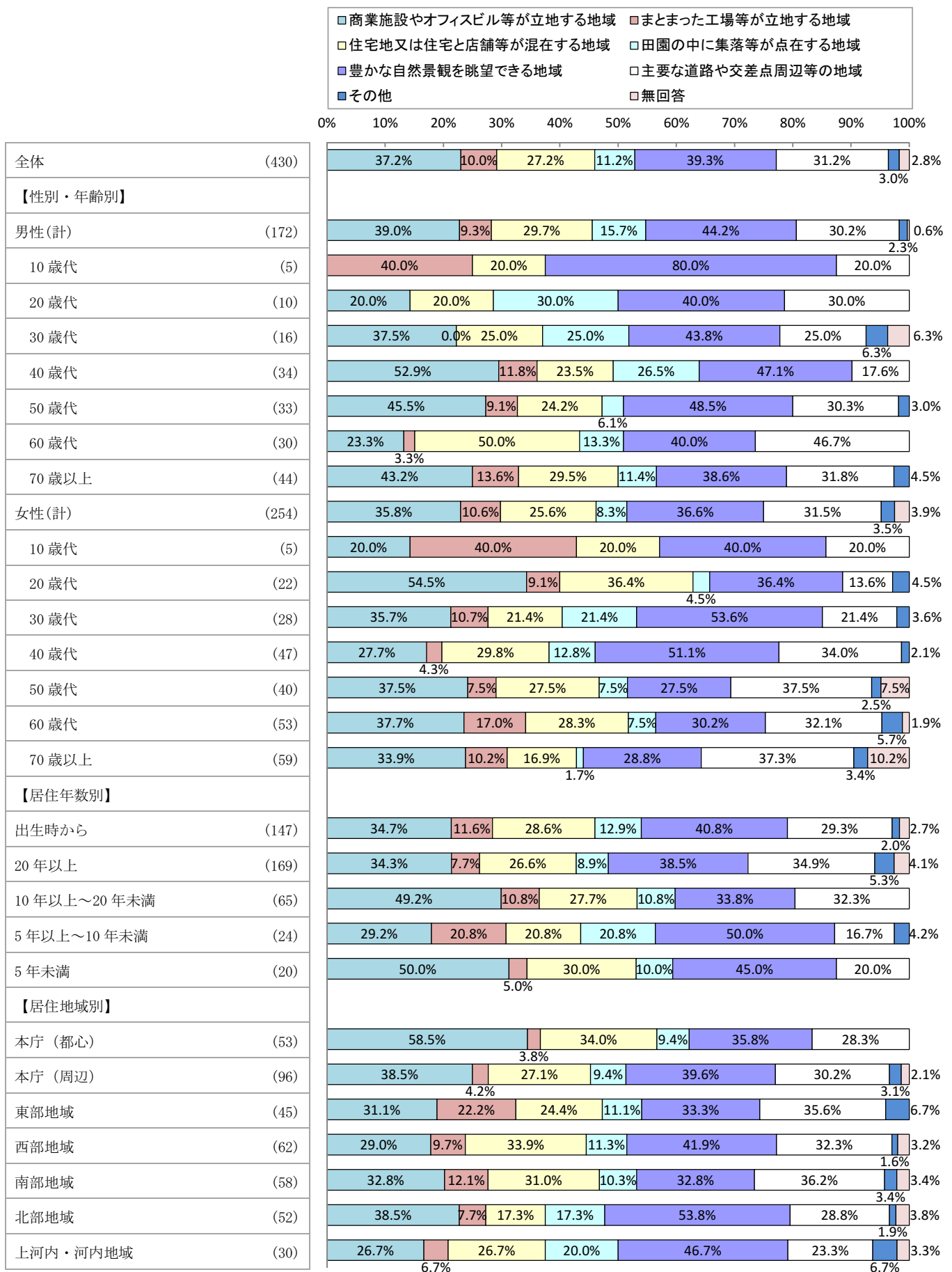
よりよい景観形成のため屋外広告物の基準を強化する地域については、「豊かな自然景観を眺望できる地域」が39.3%で最も高く、次いで「商業施設やオフィスビル等が立地する地域」が37.2%、「主要な道路や交差点周辺等の地域」が31.2%と続いている。(図IV-3-9)

性別・年齢別でみると、「豊かな自然景観を眺望できる地域」は<男性/10歳代>が80.0%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が53.6%であった。「商業施設やオフィスビル等が立地する地域」は<女性/20歳代>が54.5%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が52.9%であった。(図IV-3-10)

居住年数別でみると、「豊かな自然景観を眺望できる地域」は<5年以上~10年未満>が50.0%で最も高かった。「商業施設やオフィスビル等が立地する地域」は<5年未満>が50.0%で最も高かった。(図IV-3-10)

居住地域別でみると、「豊かな自然景観を眺望できる地域」は<北部地域>が53.8%で最も高かった。「商業施設やオフィスビル等が立地する地域」は<本庁(都心)>が58.5%で最も高かった。(図IV-3-10)

<図IV-3-10>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別



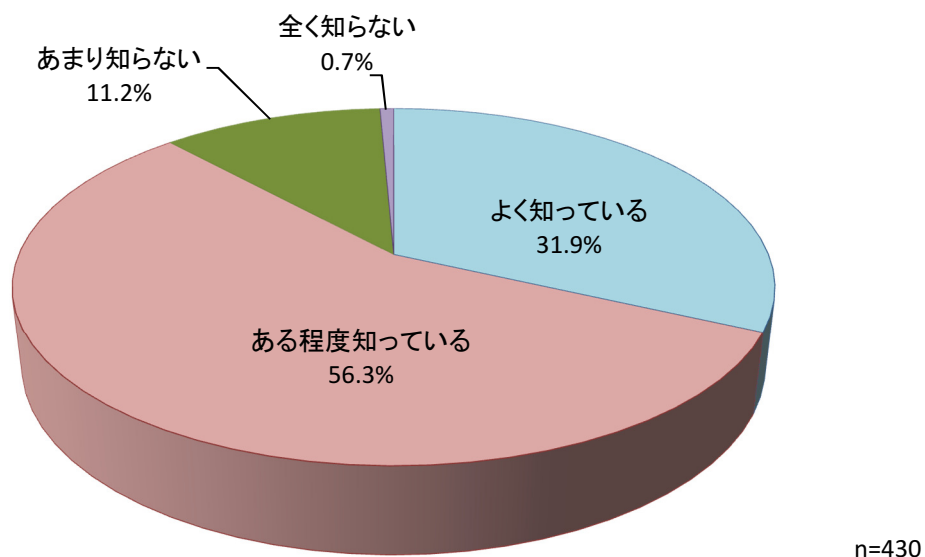
## 4. 食品ロスの削減について

(1) 「食品ロス」が問題となっていることの認知度

◇ 「よく知っている」と「ある程度知っている」を合わせた【知っている（計）】が9割弱

問20	「食品ロス」が問題となっていることを知っていますか。	(○は1つ)
		n=430
1	よく知っている	31.9%
2	ある程度知っている	56.3%
3	あまり知らない	11.2%
4	全く知らない	0.7%
	(無回答)	0.0%

<図IV-4-1>全体



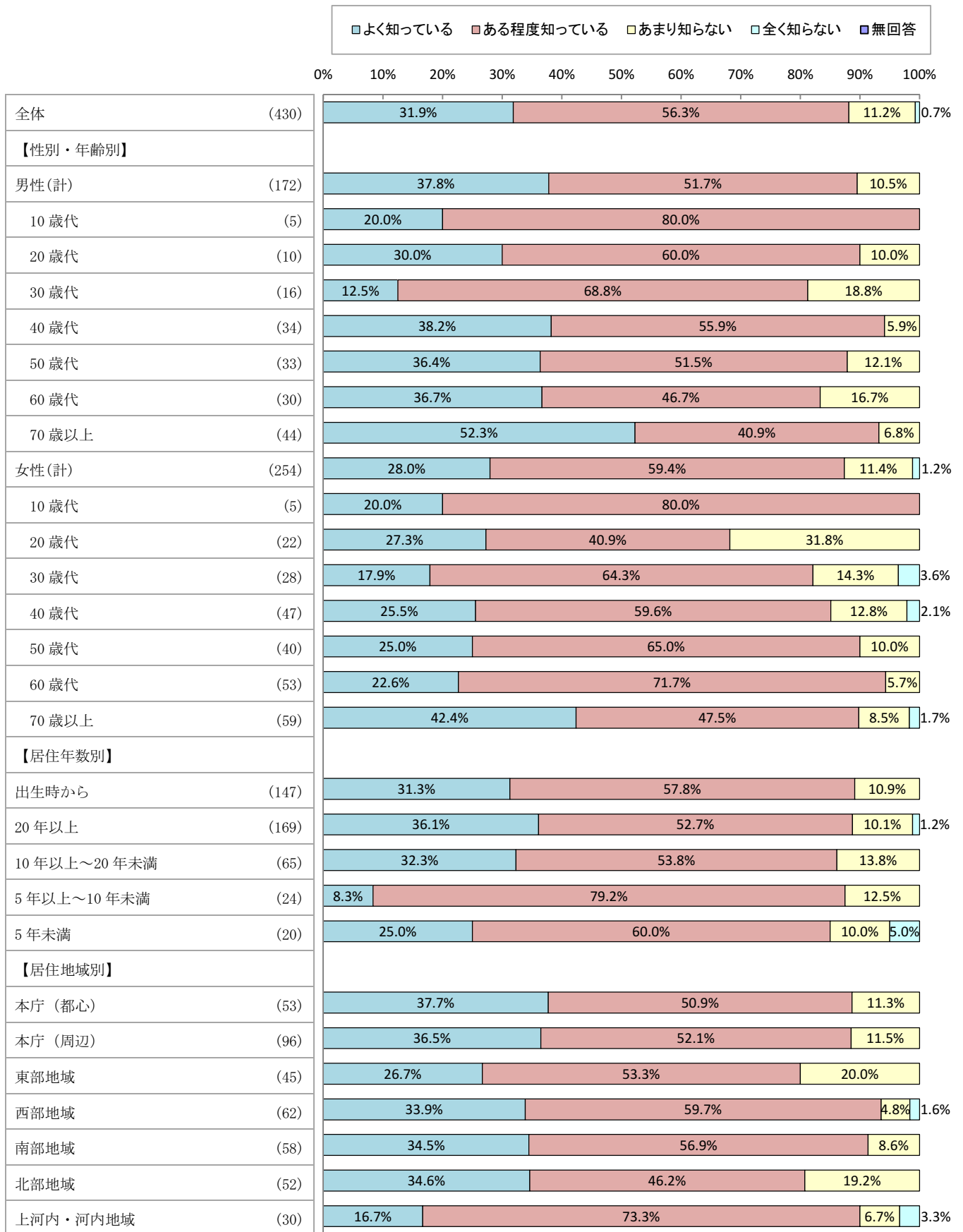
「食品ロス」が問題となっていることを知っているかについては、「よく知っている」が 31.9%、「ある程度知っている」が 56.3%で、これらを合わせた【知っている（計）】は 88.2%であった。一方、「あまり知らない」が 11.2%で、「全く知らない」の 0.7%と合わせた【知らない（計）】は 11.9%であった。（図IV-4-1）

性別・年齢別でみると、【知っている（計）】は<男性/10歳代><女性/10歳代>が 100.0%で最も高かった。【知らない（計）】は<女性/20歳代>が 31.8%で最も高かった（図IV-4-2）

居住年数別でみると、【知っている（計）】は<出生時から>が 89.1%で最も高かった。【知らない（計）】は<5年未満>が 15.0%で最も高かった。（図IV-4-2）

居住地域別でみると、【知っている（計）】は<西部地域>が 93.6%で最も高かった。【知らない（計）】は<東部地域>が 20.0%で最も高かった。（図IV-4-2）

<図IV-4-2>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別

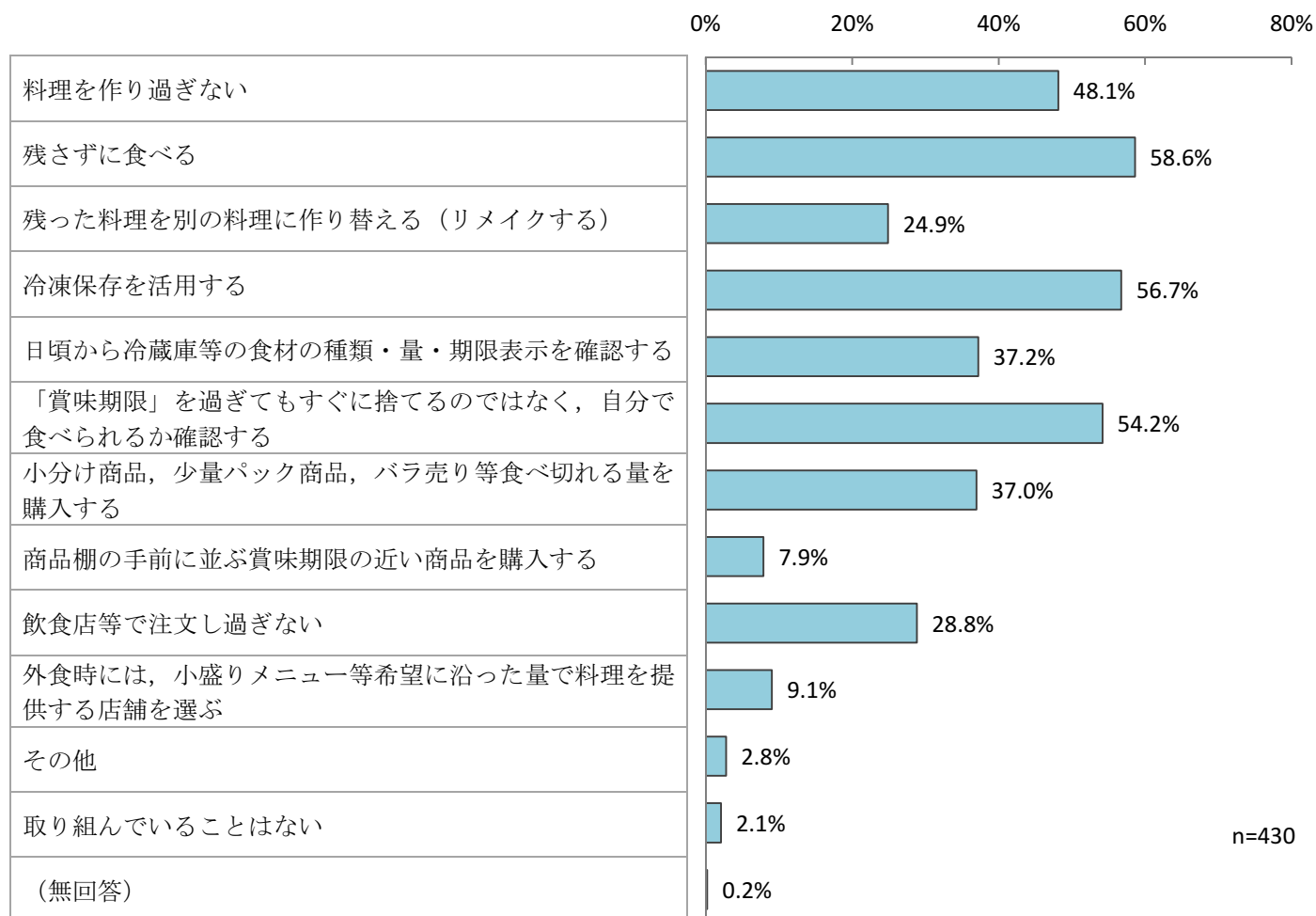


(2) 「食品ロス」を減らすために取り組んでいること

◇ 「残さずに食べる」が約6割

問 2 1	「食品ロス」を減らすために取り組んでいることはありますか。	(○はいくつでも)
		n=430
1	料理を作り過ぎない	48.1%
2	残さずに食べる	58.6%
3	残った料理を別の料理に作り替える (リメイクする)	24.9%
4	冷凍保存を活用する	56.7%
5	日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する	37.2%
6	「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか確認する	54.2%
7	小分け商品, 少量パック商品, バラ売り等食べ切れる量を購入する	37.0%
8	商品棚の手前に並ぶ賞味期限の近い商品を購入する	7.9%
9	飲食店等で注文し過ぎない	28.8%
10	外食時には, 小盛りメニュー等希望に沿った量で料理を提供する店舗を選ぶ	9.1%
11	その他	2.8%
12	取り組んでいることはない	2.1%
	(無回答)	0.2%

<図IV-4-3>全体



「食品ロス」を減らすために取り組んでいることについては、「残さずに食べる」が 58.6%で最も高く、次いで「冷凍保存を活用する」が 56.7%、「賞味期限」を過ぎててもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか確認する」が 54.2%であった。（図IV-4-3）

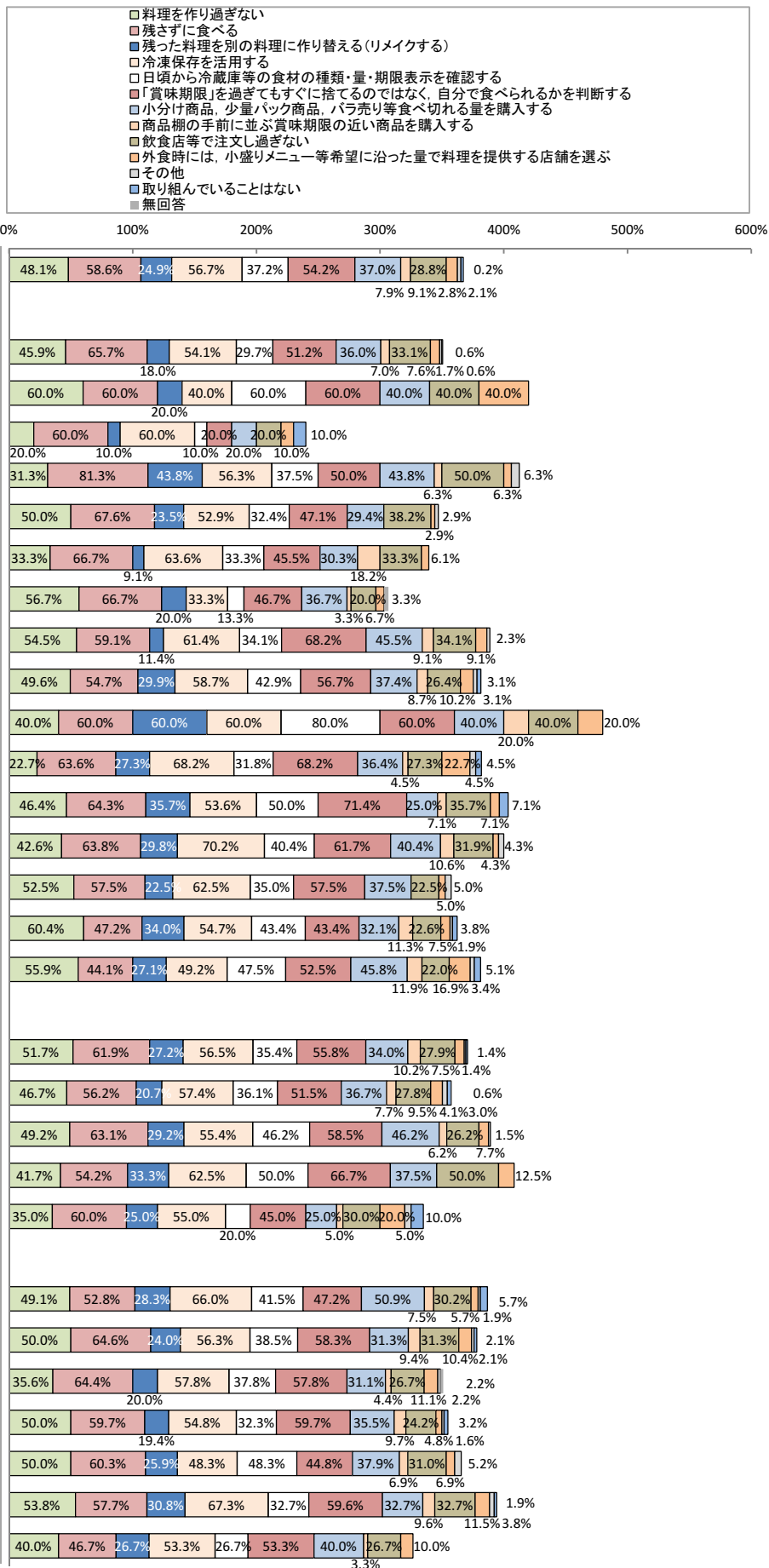
性別・年齢別でみると、「残さずに食べる」は<男性/30歳代>が 81.3%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が 67.6%であった。「冷凍保存を活用する」は<女性/40歳代>が 70.2%で最も高く、次いで<女性/20歳代>が 68.2%であった。（図IV-4-4）

居住年数別でみると、「残さずに食べる」は<10年以上～20年未満>が 63.1%で最も高く、次いで<出生時から>が 61.9%であった。「冷凍保存を活用する」は<5年以上～10年未満>が 62.5%で最も高かった。（図IV-4-4）

居住地域別でみると、「残さずに食べる」は<本庁（周辺）>が 64.6%で最も高かった。「冷凍保存を活用する」は<北部地域>が 67.3%で最も高かった。（図IV-4-4）



<図IV-4-4>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別

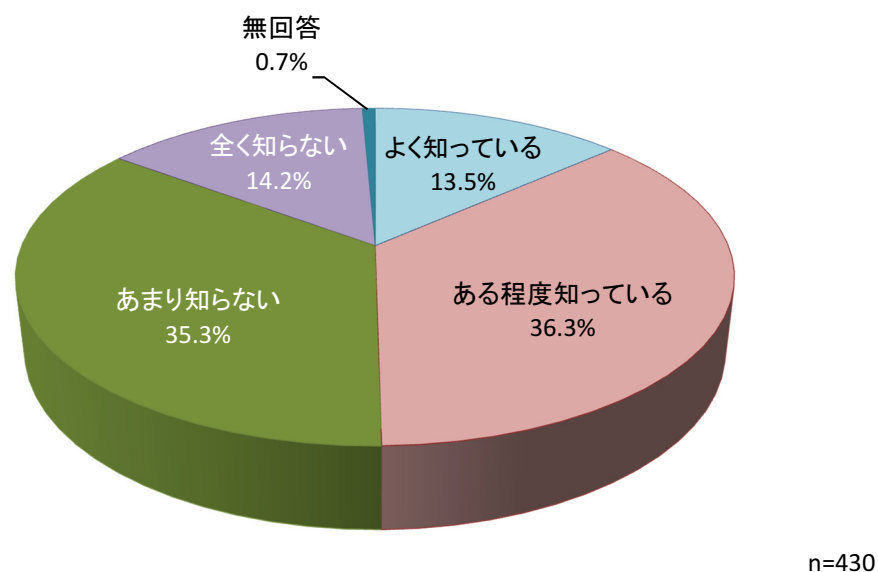


(3) フードバンク活動の認知度

◇ 「よく知っている」と「ある程度知っている」を合わせた【知っている（計）】が約5割

問 2 2	フードバンク活動を知っていますか。	(○は1つ)
		n=430
1	よく知っている	13.5%
2	ある程度知っている	36.3%
3	あまり知らない	35.3%
4	全く知らない	14.2%
	(無回答)	0.7%

<図IV-4-5>全体



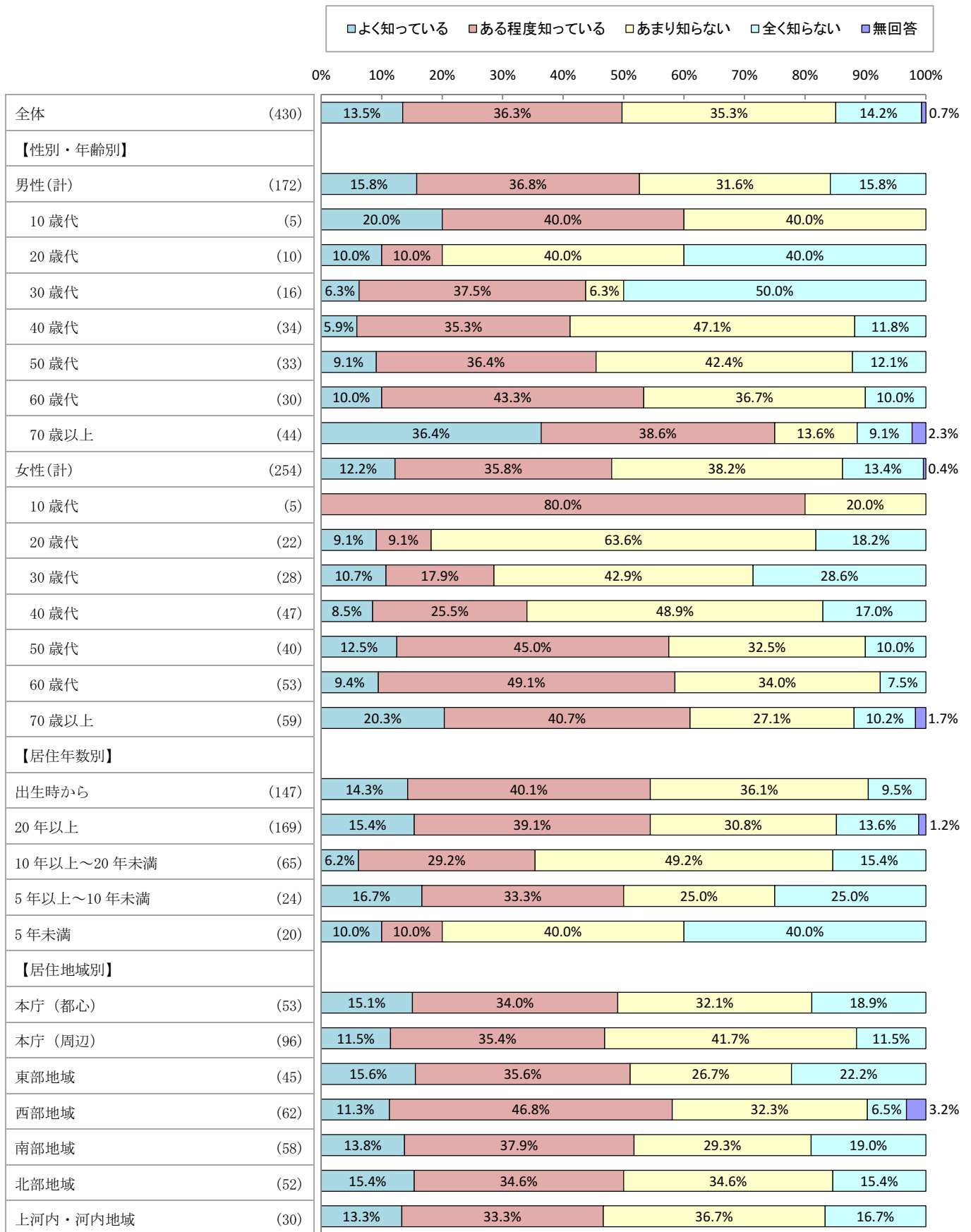
フードバンク活動を知っているかについては、「よく知っている」が 13.5%、「ある程度知っている」が 36.3%で、これらを合わせた【知っている（計）】は 49.8%であった。一方、「あまり知らない」が 35.3%で、「全く知らない」の 14.2%と合わせた【知らない（計）】は 49.5%であった。(図IV-4-5)

性別・年齢別でみると、【知っている（計）】は<女性/10歳代>が 80.0%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が 75.0%であった。【知らない（計）】は<女性/20歳代>が 81.8%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が 80.0%であった。(図IV-4-6)

居住年数別でみると、【知っている（計）】は<20年以上>が 54.5%で最も高かった。【知らない（計）】は<5年未満>が 80.0%で最も高かった。(図IV-4-6)

居住地域別でみると、【知っている（計）】は<西部地域>が 58.1%で最も高かった。【知らない（計）】は<上河内・河内地域>が 53.4%で最も高かった。(図IV-4-6)

<図IV-4-6>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別



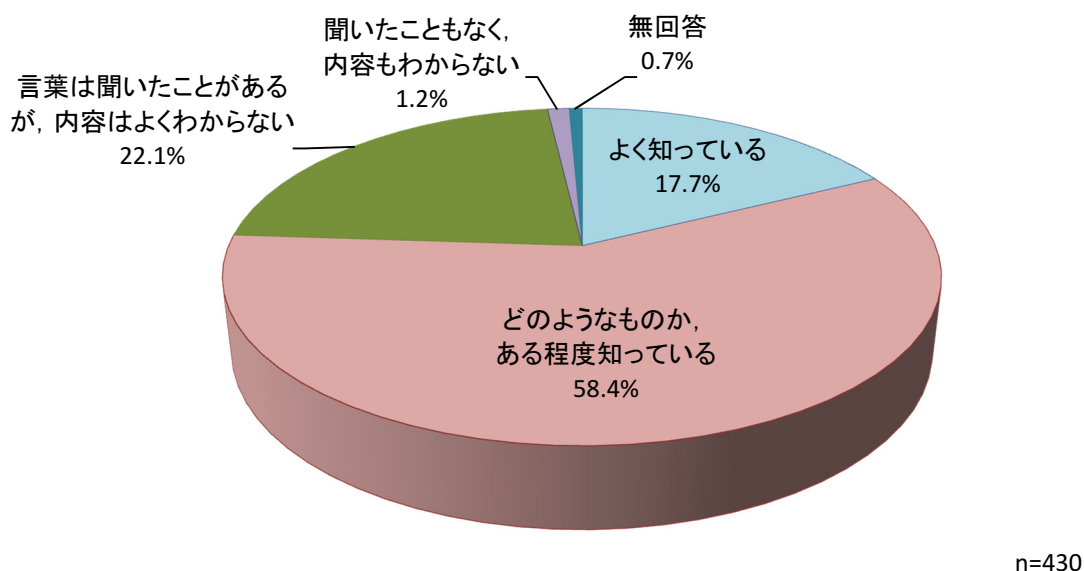
## 5. 特別支援教育について

### (1) 「発達障がい」についての認知度

◇ 「よく知っている」と「どのようなものか、ある程度知っている」を合わせた【知っている（計）】が7割半ば

問 2 3	「発達障がい」について知っていますか。	(○は1つ)
		n=430
1	よく知っている	17.7%
2	どのようなものか、ある程度知っている	58.4%
3	言葉は聞いたことがあるが、内容はよくわからない	22.1%
4	聞いたこともなく、内容もわからない	1.2%
	(無回答)	0.7%

<図IV-5-1>全体

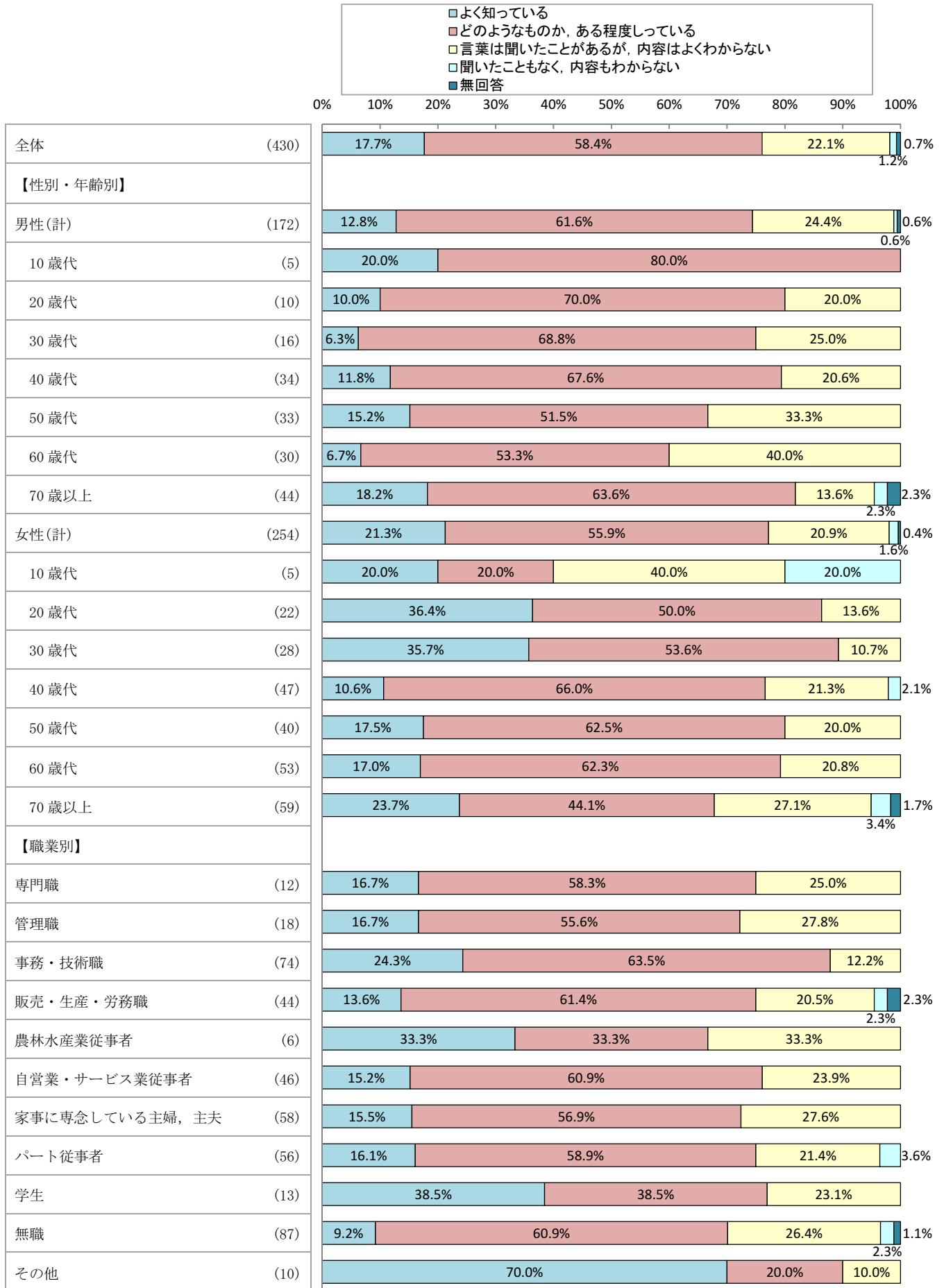


「発達障がい」について知っているかについては、「よく知っている」が 17.7%、「どのようなものか、ある程度知っている」が 58.4%で、これらを合わせた【知っている（計）】は 76.1%であった。一方「言葉は聞いたことがあるが、内容はよくわからない」が 22.1%、「聞いたこともなく、内容もわからない」が 1.2%で、これらを合わせた【わからない（計）】は 23.3%であった。（図IV-5-1）

性別・年齢別でみると、【知っている（計）】は<男性/10歳代>が 100.0%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が 89.3%であった。一方、【わからない（計）】は<女性/10歳代>が 60.0%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が 40.0%であった。（図IV-5-2）

職業別でみると、【知っている（計）】は<その他>を除くと、<事務・技術職>が 87.8%で最も高く、次いで<学生>が 77.0%であった。一方、【わからない（計）】は<農林水産業従事者>が 33.3%で最も高く、次いで<無職>が 28.7%であった。（図IV-5-2）

<図IV-5-2>性別・年齢別／職業別

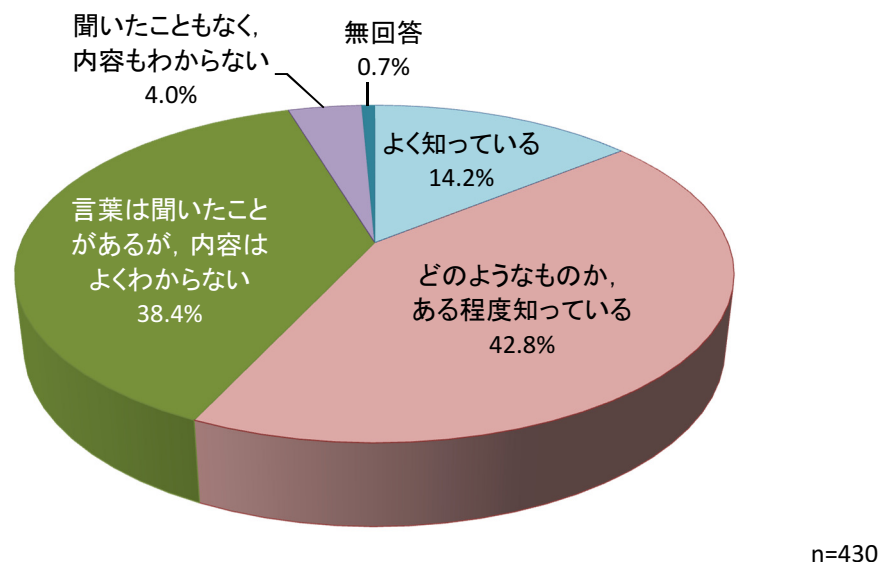


(2) 「特別支援教育」についての認知度

◇ 「よく知っている」と「どのようなものか、ある程度知っている」を合わせた【知っている（計）】が6割弱

問 2 4	「特別支援教育」について知っていますか。	(○は1つ)
		n=430
1	よく知っている	14.2%
2	どのようなものか、ある程度知っている	42.8%
3	言葉は聞いたことがあるが、内容はよくわからない	38.4%
4	聞いたこともなく、内容もわからない	4.0%
	(無回答)	0.7%

<図IV-5-3>全体

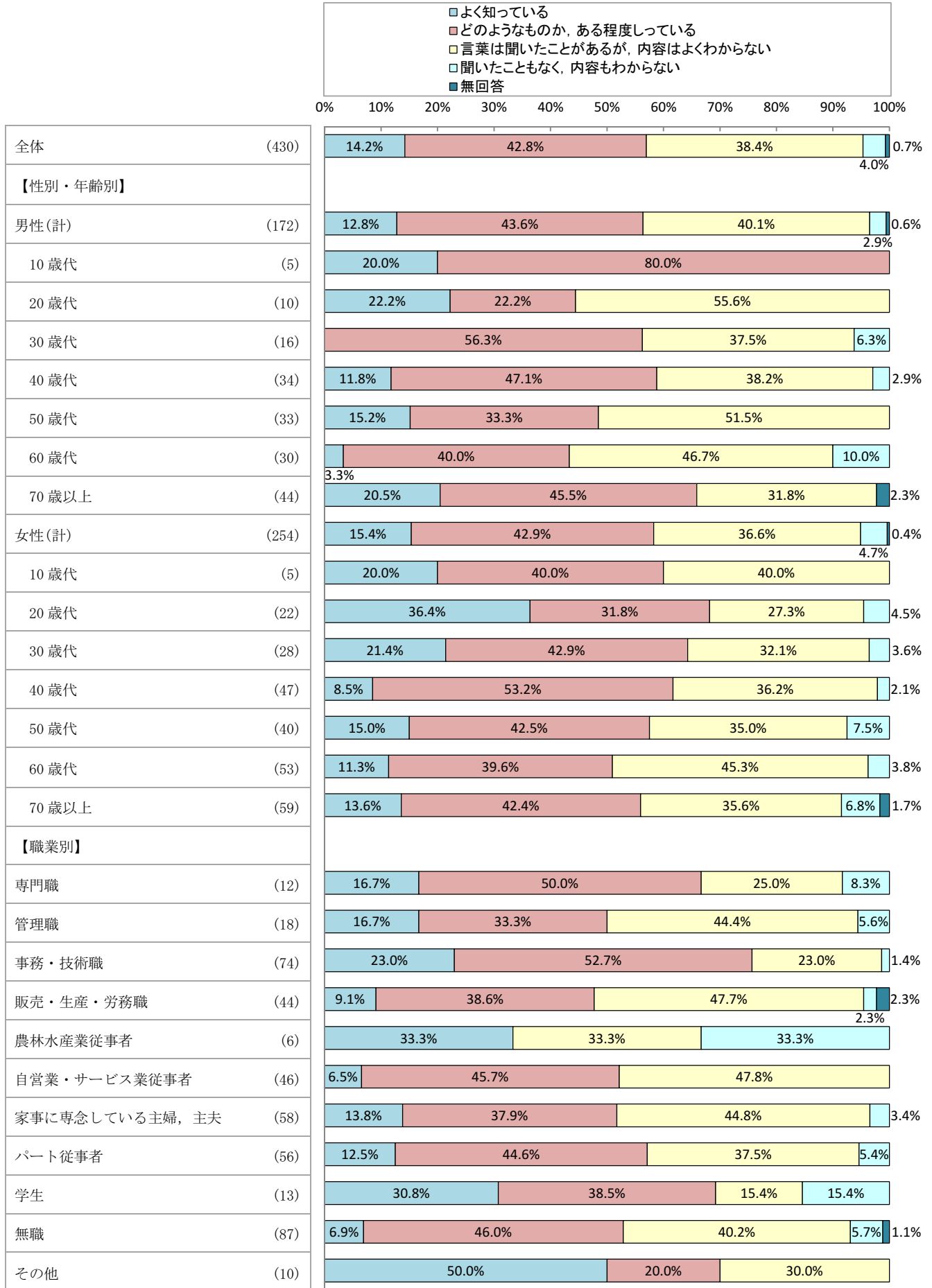


「特別支援教育」について知っているかについては、「よく知っている」が14.2%、「どのようなものか、ある程度知っている」が42.8%で、これらを合わせた【知っている（計）】は57.0%であった。一方「言葉は聞いたことがあるが、内容はよくわからない」が38.4%、「聞いたこともなく、内容もわからない」が4.0%で、これらを合わせた【わからない（計）】は42.4%であった。(図IV-5-3)

性別・年齢別でみると、【知っている（計）】は<男性/10歳以上>が100.0%で最も高く、次いで<女性/20歳代>が68.2%であった。一方、【わからない（計）】は<男性/60歳代>が56.7%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が55.6%であった。(図IV-5-4)

職業別でみると、【知っている（計）】は<事務・技術職>が75.7%で最も高かった。一方、【わからない（計）】は<農林水産業従事者>が66.6%で最も高かった。(図IV-5-4)

<図IV-5-4>性別・年齢別／職業別



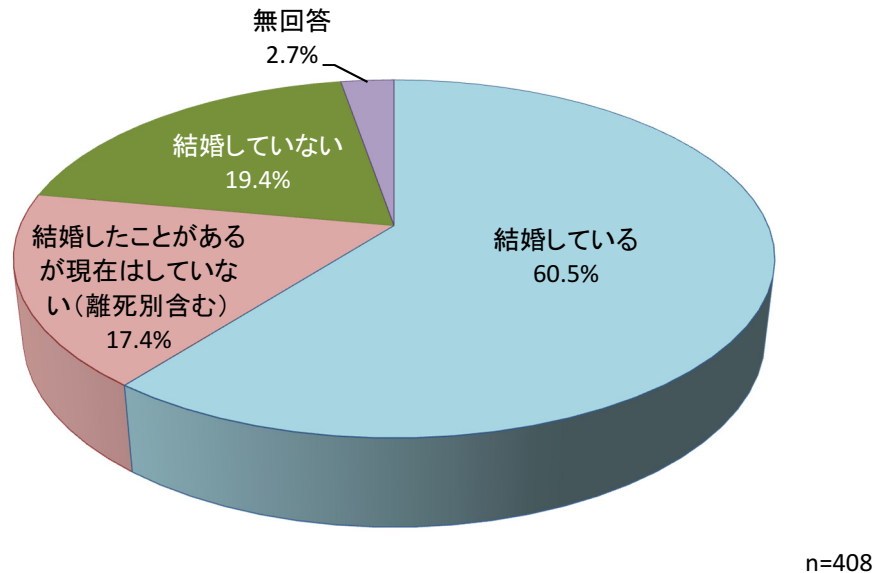
## 6. 結婚・出産・子育てに関する意識について

### (1) 結婚しているか

◇ 「結婚している」が約6割

問 2 5	あなたは結婚していますか。	(○は1つ)
		n=408
1	結婚している	60.5%
2	結婚したことがあるが現在はしていない (離死別含む)	17.4%
3	結婚していない	19.4%
	(無回答)	2.7%

<図IV-6-1>全体



結婚しているかについては、「結婚している」が60.5%となっており、「結婚していない」が19.4%、「結婚したことがあるが現在はしていない(離死別含む)」が17.4%であった。(図IV-6-1)

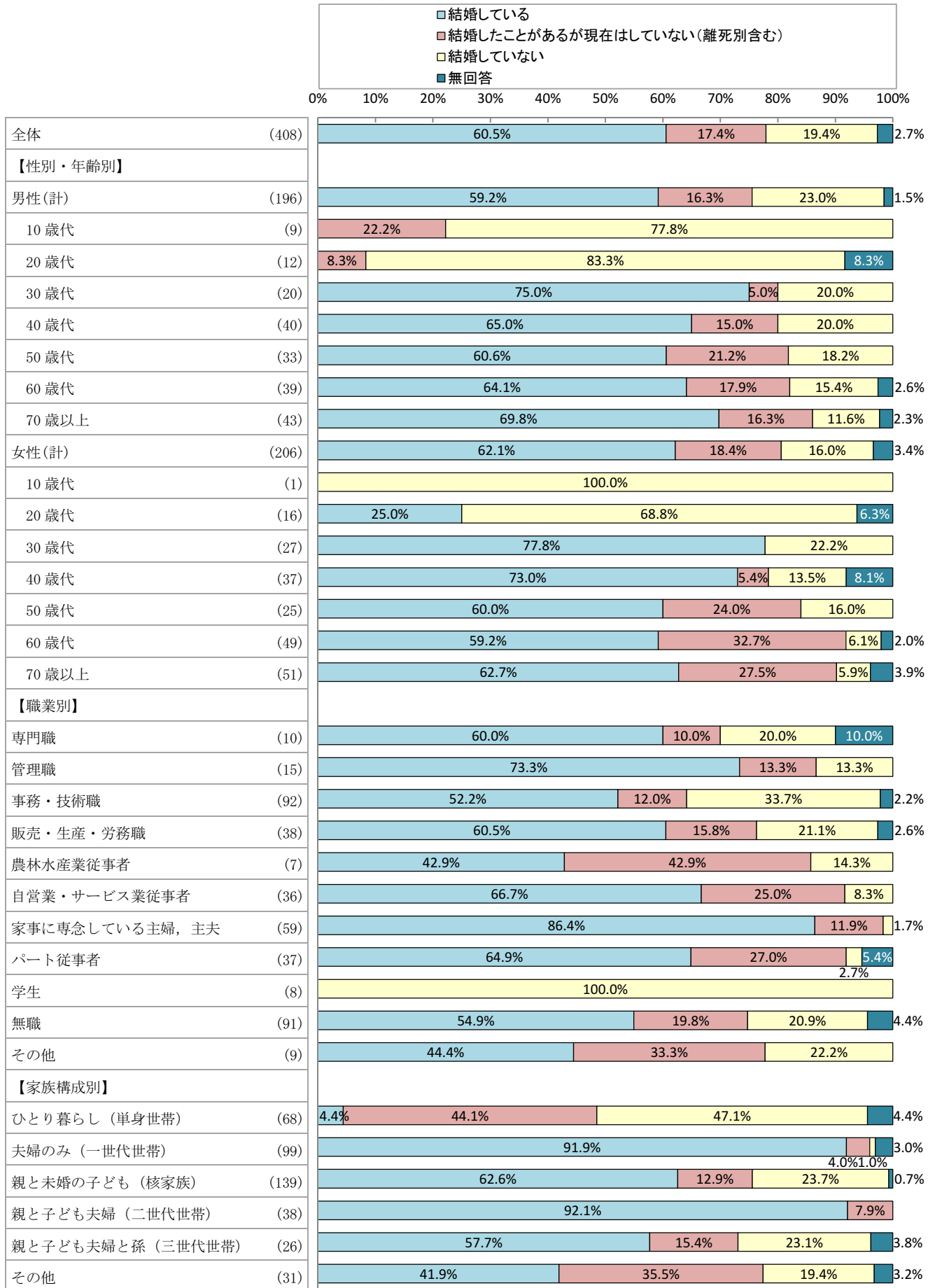
性別・年齢別でみると、「結婚している」は<女性/30歳代>が77.8%で最も高く、次いで<男性/30歳代>が75.0%であった。一方、「結婚していない」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、「結婚したことがあるが現在はしていない(離死別含む)」は<女性/60歳代>が32.7%で最も高かった。(図IV-6-2)

職業別でみると、「結婚している」は<家事に専念している主婦、主夫>が86.4%で最も高く、次いで<管理職>が73.3%であった。「結婚していない」は<学生>が100.0%で最も高く、次いで<事務・技術職>が33.7%であった。(図IV-6-2)

家族構成別でみると、「結婚している」は、<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が92.1%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が91.9%であった。(図IV-6-2)



<図IV-6-2>性別・年齢別／職業別／家族構成別

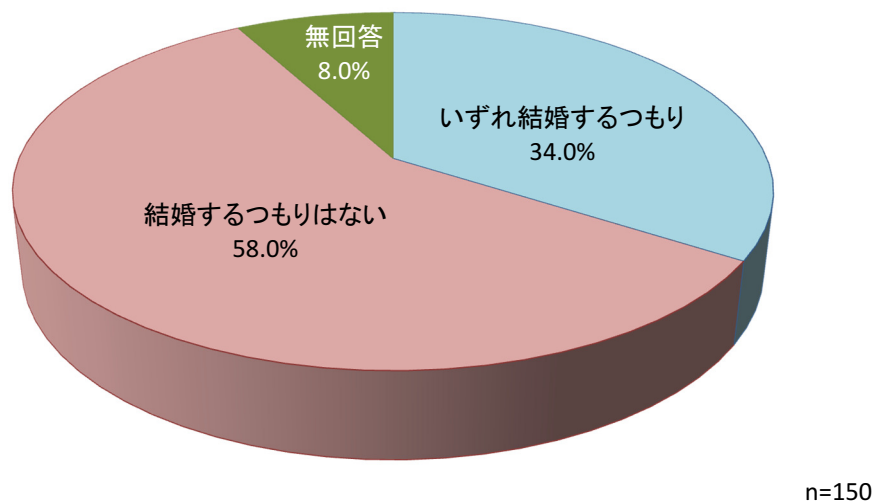


## (2) 結婚するつもりがあるか

### ◇ 「結婚するつもりはない」が6割弱

問26	問25で「2 結婚したことがあるが現在はしていない（離死別含む）」「3 結婚していない」と答えた方にお伺いします。あなたの結婚に対する考えは、次のうちどちらですか。 (○は1つ)	n=150
1	いずれ結婚するつもり	34.0%
2	結婚するつもりはない (無回答)	58.0% 8.0%

<図IV-6-3>全体



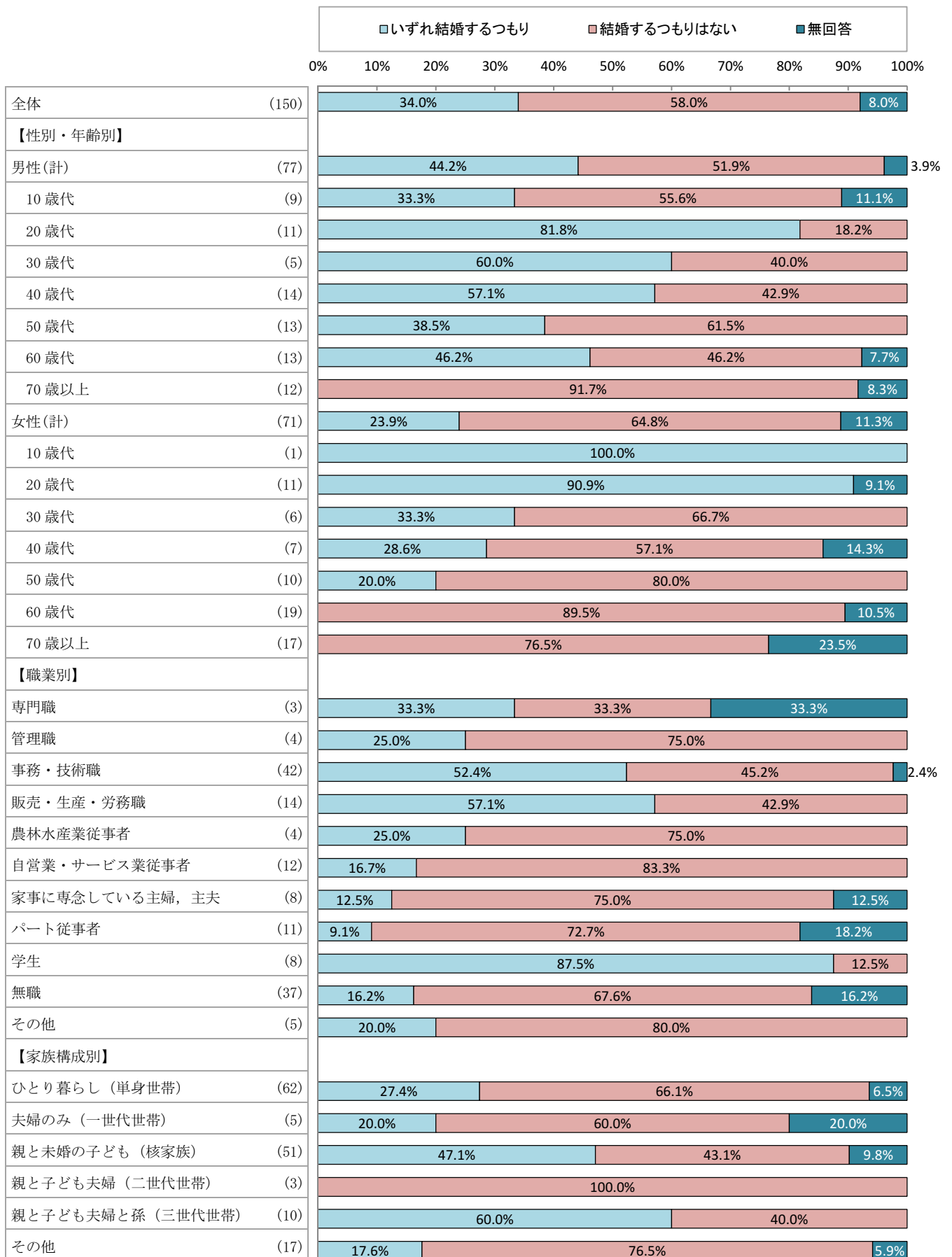
結婚するつもりがあるかについては、「いずれ結婚するつもり」が 34.0%、「結婚するつもりはない」が 58.0%であった。(図IV-6-3)

性別・年齢別でみると、「いずれ結婚するつもり」は<女性/10歳代>が 100.0%で最も高く、次いで<女性/20歳代>が 90.9%、<男性/20歳代>が 81.8%と続いている。一方、「結婚するつもりはない」は<男性/70歳以上>が 91.7%で最も高かった。(図IV-6-4)

職業別でみると、「いずれ結婚するつもり」は<学生>が 87.5%で最も高く、次いで<販売・生産・労務職>が 57.1%であった。一方、「結婚するつもりはない」は<自営業・サービス業従事者>が 83.3%で最も高かった。(図IV-6-4)

家族構成別でみると、「いずれ結婚するつもり」は、<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が 60.0%で最も高かった。一方、「結婚するつもりはない」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が 100.0%で最も高かった。(図IV-6-4)

<図IV-6-4>性別・年齢別／職業別／家族構成別



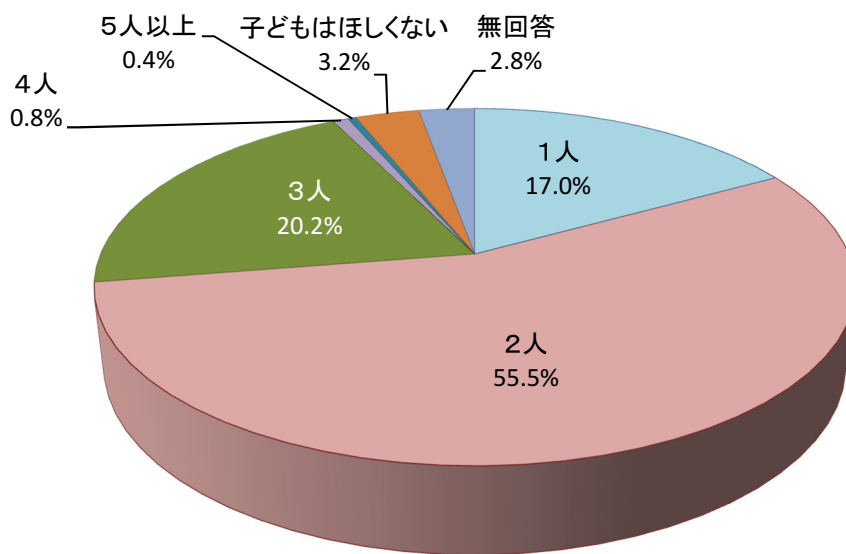
(3) 結婚している場合、全部で何人のお子さんを持ちたいか

◇ 「2人」が5割半ば

問27 問25で「1 結婚している」と答えた方にお伺いします。「これまでに生んだお子さん」と「今後のお子さんの予定」の数を合わせて、全部で何人のお子さんを持つおつもりですか。(〇は1つ)

回答	割合	n
1 1人	17.0%	247
2 2人	55.5%	
3 3人	20.2%	
4 4人	0.8%	
5 5人以上	0.4%	
6 子どもはほしくない	3.2%	
(無回答)	2.8%	

<図IV-6-5>全体



n=247

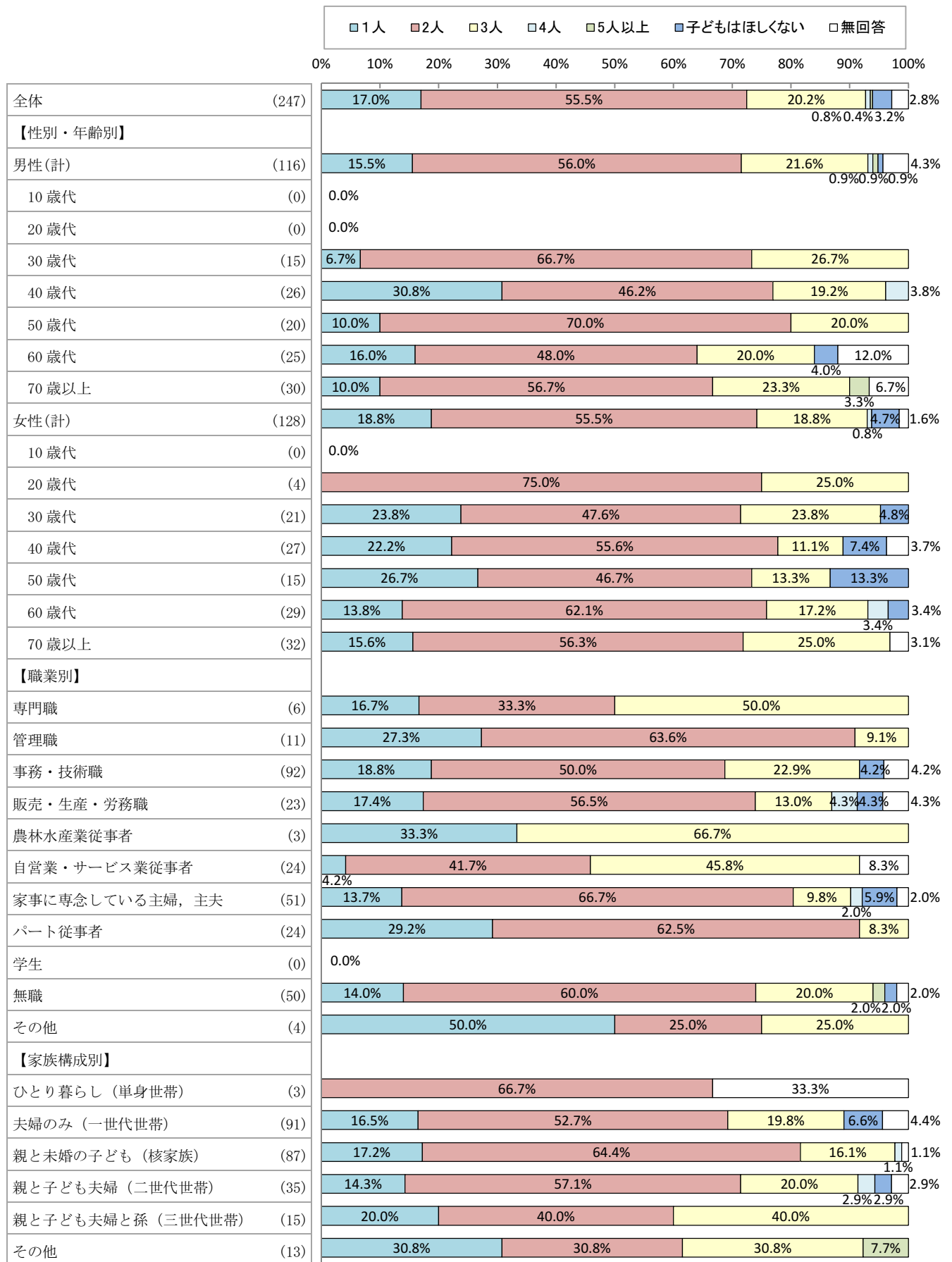
結婚している場合、全部で何人のお子さんを持ちたいかについては、「2人」が55.5%と最も多く、次いで「3人」が20.2%、「1人」が17.0%と続いている。(図IV-6-5)

性別・年齢別で見ると、「2人」は<女性/20歳代>が75.0%で最も高く、次いで<男性/50歳代>が70.0%、<男性/30歳代>が66.7%と続いている。「3人」は<男性/30歳代>が26.7%で最も高かった。(図IV-6-6)

職業別で見ると、「2人」は<家事に専念している主婦、主夫>が66.7%で最も高く、「3人」は<農林水産業従事者>が66.7%で最も高かった。(図IV-6-6)

家族構成別で見ると、「2人」は、<ひとり暮らし(単身世帯)>が66.7%で最も高く、「3人」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が40.0%で最も高かった。(図IV-6-6)

<図IV-6-6>性別・年齢別／職業別／家族構成別

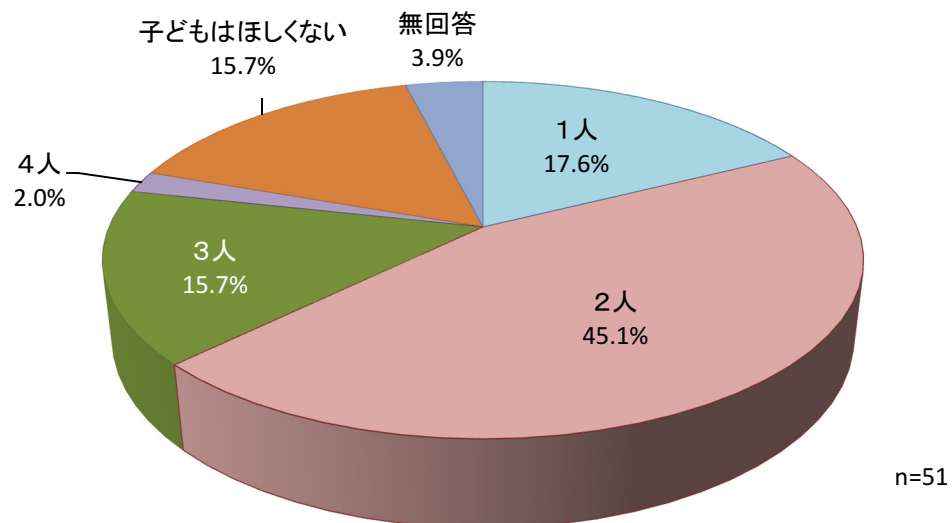


(4) 結婚を予定している場合、子どもは何人ほしいか

◇ 「2人」が4割半ば

問28	問26で「1 いずれ結婚するつもり」と答えた方にお伺いします。子どもは何人ほしいですか。	(○は1つ)
		n=51
1	1人	17.6%
2	2人	45.1%
3	3人	15.7%
4	4人	2.0%
5	5人以上	0.0%
6	子どもはほしくない (無回答)	15.7% 3.9%

<図IV-6-7>全体



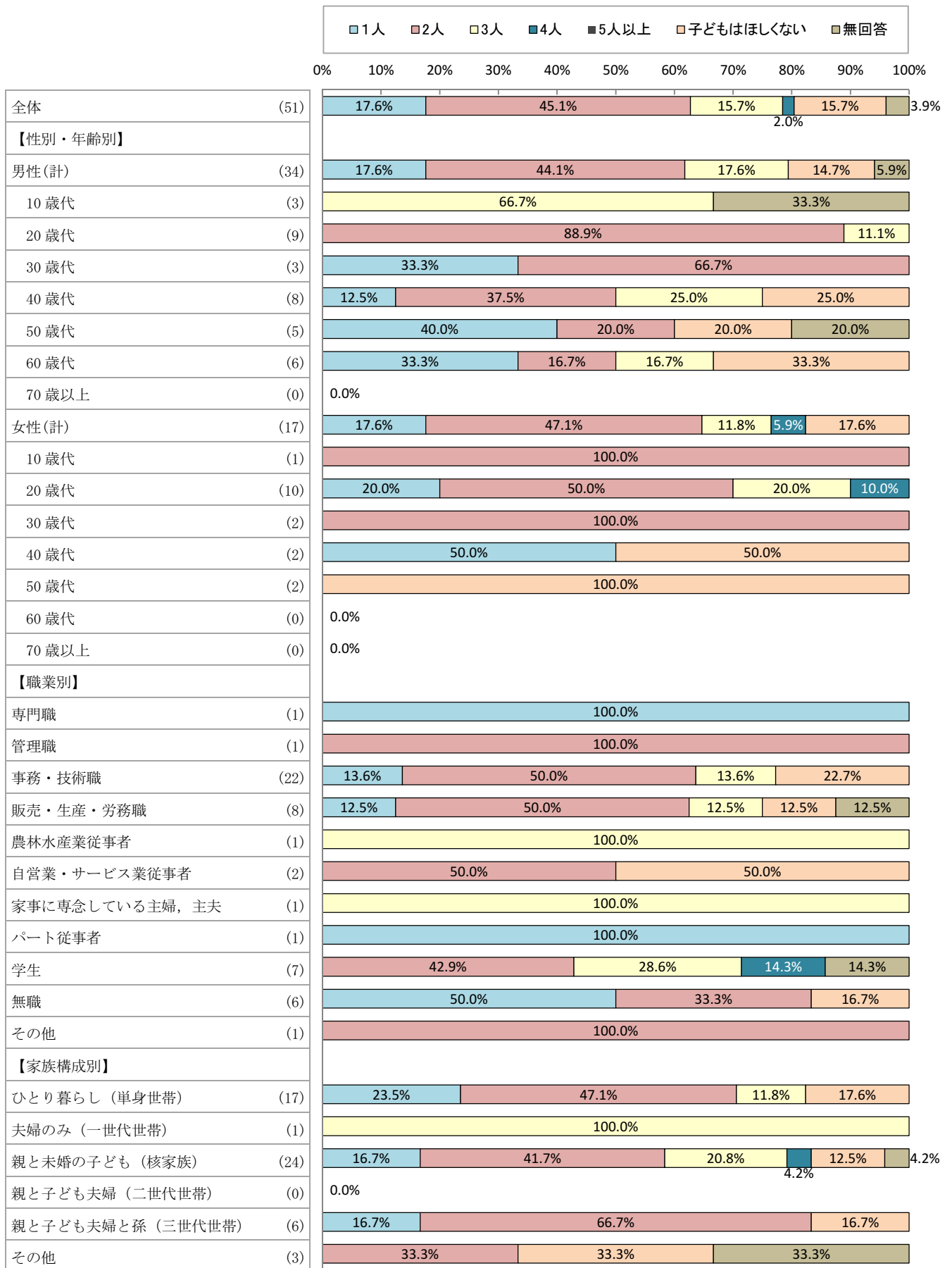
結婚を予定している場合、子どもは何人ほしいかについては、「2人」が45.1%と最も高く、次いで「3人」が15.7%、「1人」が17.6%と続いている。(図IV-6-7)

性別・年齢別でみると、「2人」は<女性/10歳代><女性/30歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が88.9%であった。「3人」は<男性/10歳代>が66.7%で最も高かった。(図IV-6-8)

職業別でみると、「2人」は<管理職>が100.0%で最も高く、「3人」は<農林水産業従事者><家事に専念している主婦、主夫>が100.0%で最も高かった。(図IV-6-8)

家族構成別でみると、「2人」は、<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が66.7%で最も高く、「3人」は<夫婦のみ(一世帯世帯)>が100.0%で最も高かった。(図IV-6-8)

<図IV-6-8>性別・年齢別／職業別／家族構成別



## 7. 空き家及び防犯・交通安全に関する意識について

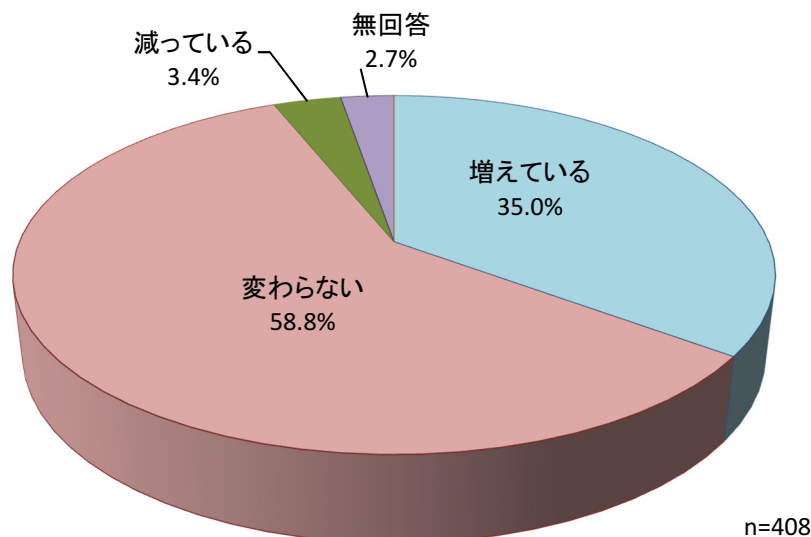
### (1) 管理が不十分な空き家が増えていると感じるか

◇ 「変わらない」が約6割

問 2 9 あなたの住まいの近所で、建物の一部が敷地外に崩れ落ちたり、生い茂った草木が隣地にはみ出したりするなど、管理が不十分な空き家が増えていると感じますか (○は1つ)

		n=408
1	増えている	35.0%
2	変わらない	58.8%
3	減っている	3.4%
	(無回答)	2.7%

<図IV-7-1>全体



管理が不十分な空き家が増えていると感じるかについては、「変わらない」が 58.8%と最も高く、「増えている」が 35.0%、「減っている」が 3.4%であった。(図IV-7-1)

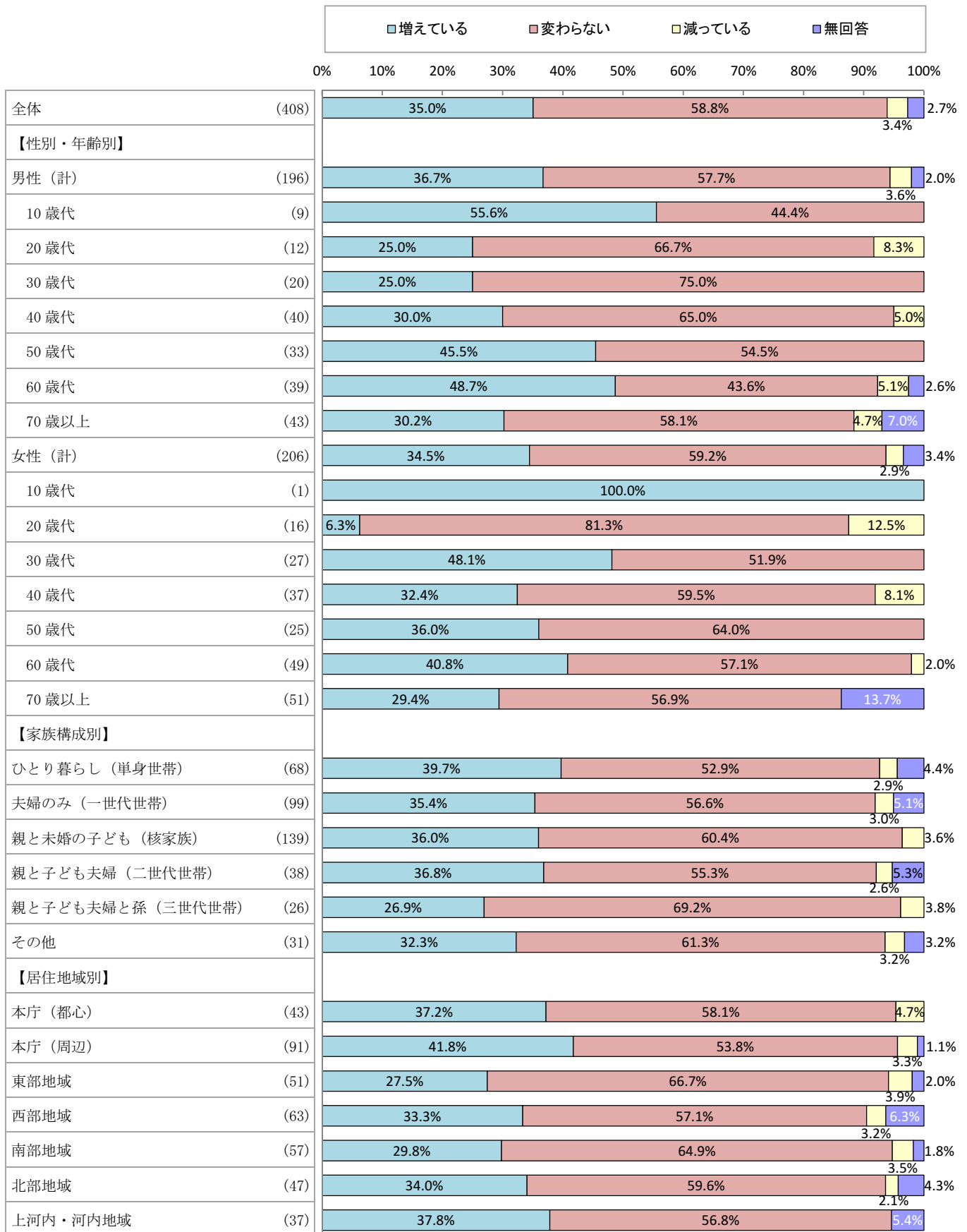
性別・年齢別でみると、「変わらない」は<女性/20歳代>が 81.3%で最も高く、次いで<男性/30歳代>が 75.0%であった。「増えている」は<女性/10歳代>が 100.0%で最も高く、次いで<男性/10歳代>が 55.6%であった。(図IV-7-2)

家族構成別でみると、「変わらない」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が 69.2%で最も高かった。「増えている」は<ひとり暮らし(単身世帯)>が 39.7%で最も高かった。(図IV-7-2)

居住地域別でみると、「変わらない」は<東部地域>が 66.7%で最も高かった。「増えている」は<本庁(周辺)>が 41.8%で最も高かった。(図IV-7-2)



<図IV-7-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

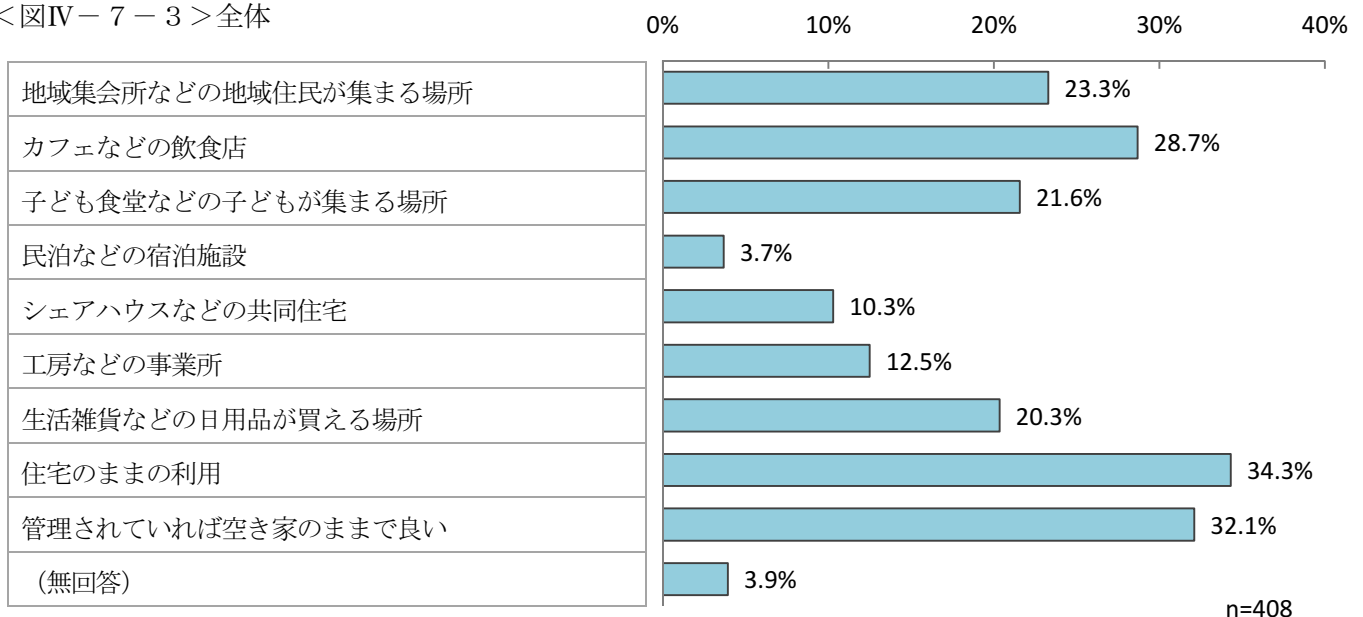


## (2) 近所の空き家の活用方法

### ◇ 「住宅のままの利用」が3割半ば

問30	近所の空き家が、どのように活用されると良いと思いますか。	(○はいくつでも)
		n=408
1	地域集会所などの地域住民が集まる場所	23.3%
2	カフェなどの飲食店	28.7%
3	子ども食堂などの子どもが集まる場所	21.6%
4	民泊などの宿泊施設	3.7%
5	シェアハウスなどの共同住宅	10.3%
6	工房などの事業所	12.5%
7	生活雑貨などの日用品が買える場所	20.3%
8	住宅のままの利用	34.3%
9	管理されていれば空き家のままで良い	32.1%
	(無回答)	3.9%

<図IV-7-3>全体



近所の空き家の活用方法については、「住宅のままの利用」が34.3%で最も高く、次いで「管理されていれば空き家のままで良い」が32.1%、「カフェなどの飲食店」が28.7%と続いている。(図IV-7-3)

性別・年齢別でみると、「住宅のままの利用」は<男性/30歳代>が50.0%で最も高く、次いで<女性/40歳代>が48.6%と続いている。「管理されていれば空き家のままで良い」は<男性/10歳代>が44.4%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が44.2%であった。(図IV-7-4)

家族構成別でみると、「住宅のままの利用」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が39.4%で最も高かった。「管理されていれば空き家のままで良い」も<夫婦のみ(一世代世帯)>が34.3%で最も高かった。(図IV-7-4)

居住地域別でみると、「住宅のままの利用」は<北部地域>が46.8%で最も高かった。「管理されていれば空き家のままで良い」は<南部地域>が42.1%で最も高かった。(図IV-7-4)

<図IV-7-4>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

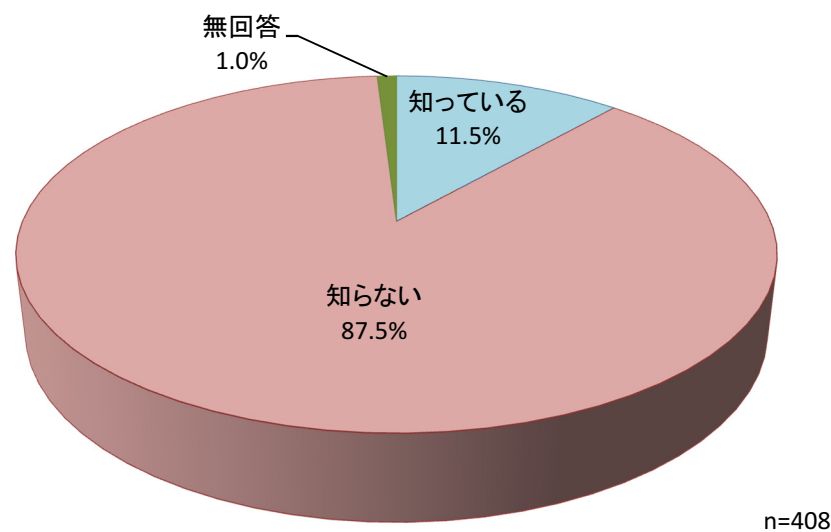


### (3) 「宇都宮空き家会議」の認知度

#### ◇ 「知らない」が9割弱

問3 1	空き家の所有者と利用希望者をマッチングする事業や空き家を活用して地域集会所の整備支援などに取り組んでいる官民連携組織「宇都宮空き家会議」を知っていますか。(○は1つ)	n=408
1	知っている	11.5%
2	知らない	87.5%
	(無回答)	1.0%

<図IV-7-5>全体



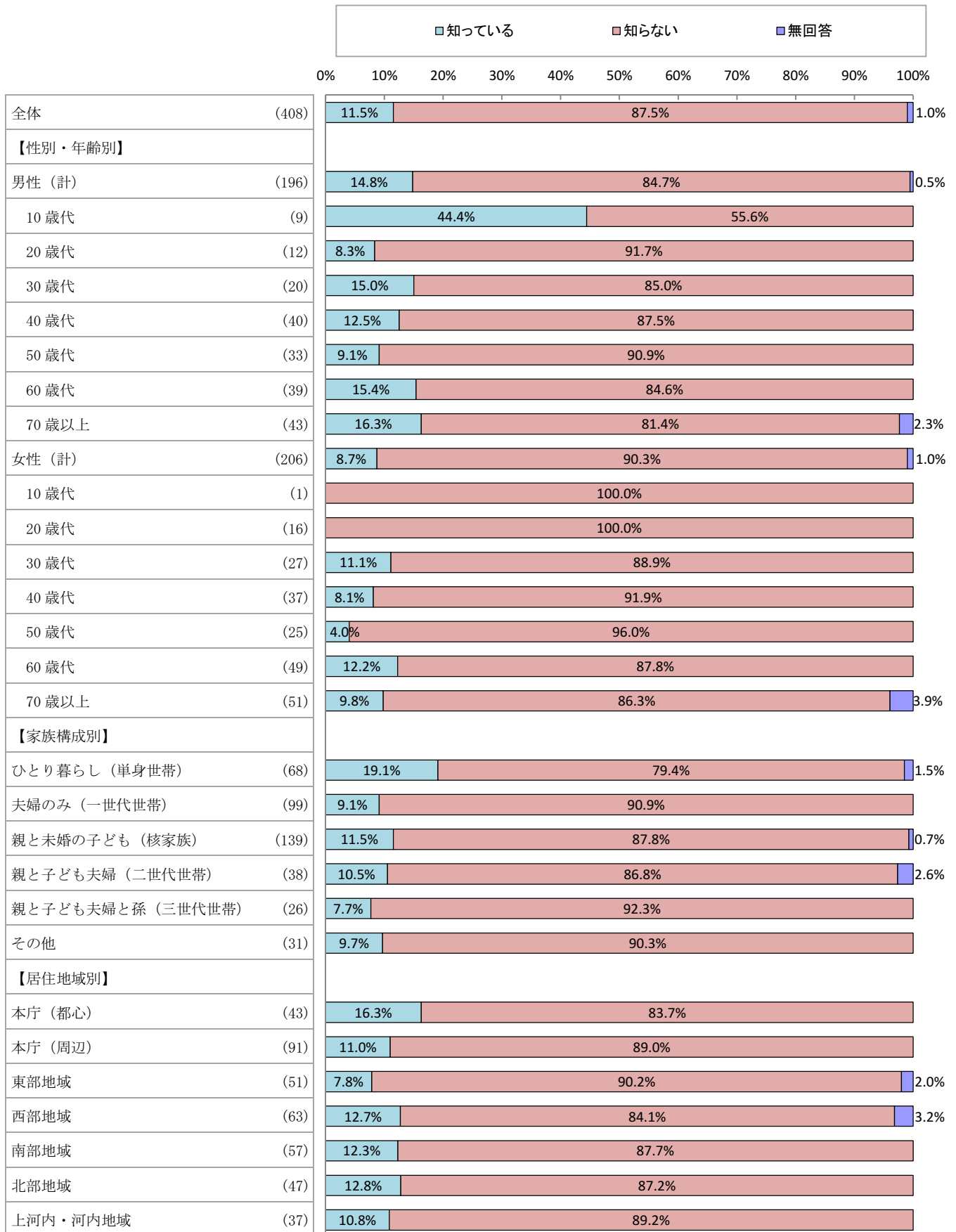
官民連携組織「宇都宮空き家会議」を知っているかについては、「知らない」が 87.5%、「知っている」が 11.5%であった。(図IV-7-5)

性別・年齢別でみると、「知らない」は<女性/10歳代><女性/20歳代>が 100.0%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が 96.0%であった。「知っている」は<男性/10歳代>が 44.4%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が 16.3%であった。(図IV-7-6)

家族構成別でみると、「知らない」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が 92.3%で最も高かった。「知っている」は<ひとり暮らし(単身世帯)>が 19.1%で最も高かった。(図IV-7-6)

居住地域別でみると、「知らない」は<東部地域>が 90.2%で最も高かった。「知っている」は<本庁(都心)>が 16.3%で最も高かった。(図IV-7-6)

<図IV-7-6>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

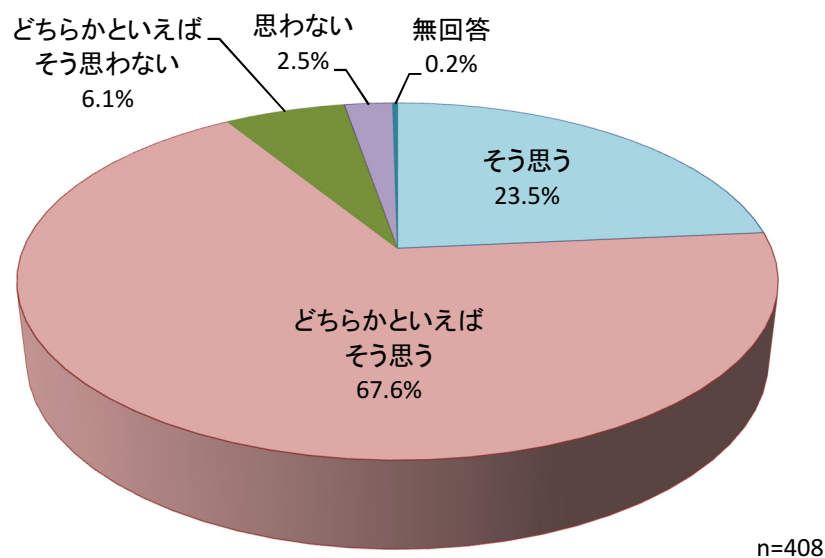


(4) 安心して暮らすことができていると思うか

◇ 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う(計)】が約9割

問3 2	宇都宮市では、犯罪のない安全で安心なまちづくりを目指した取組を推進していますが、あなたは普段、宇都宮市で生活する中で、安心して暮らすことができていると思いますか。(〇は1つ)	n=408
1	そう思う	23.5%
2	どちらかといえばそう思う	67.6%
3	どちらかといえばそう思わない	6.1%
4	思わない	2.5%
	(無回答)	0.2%

<図IV-7-7>全体



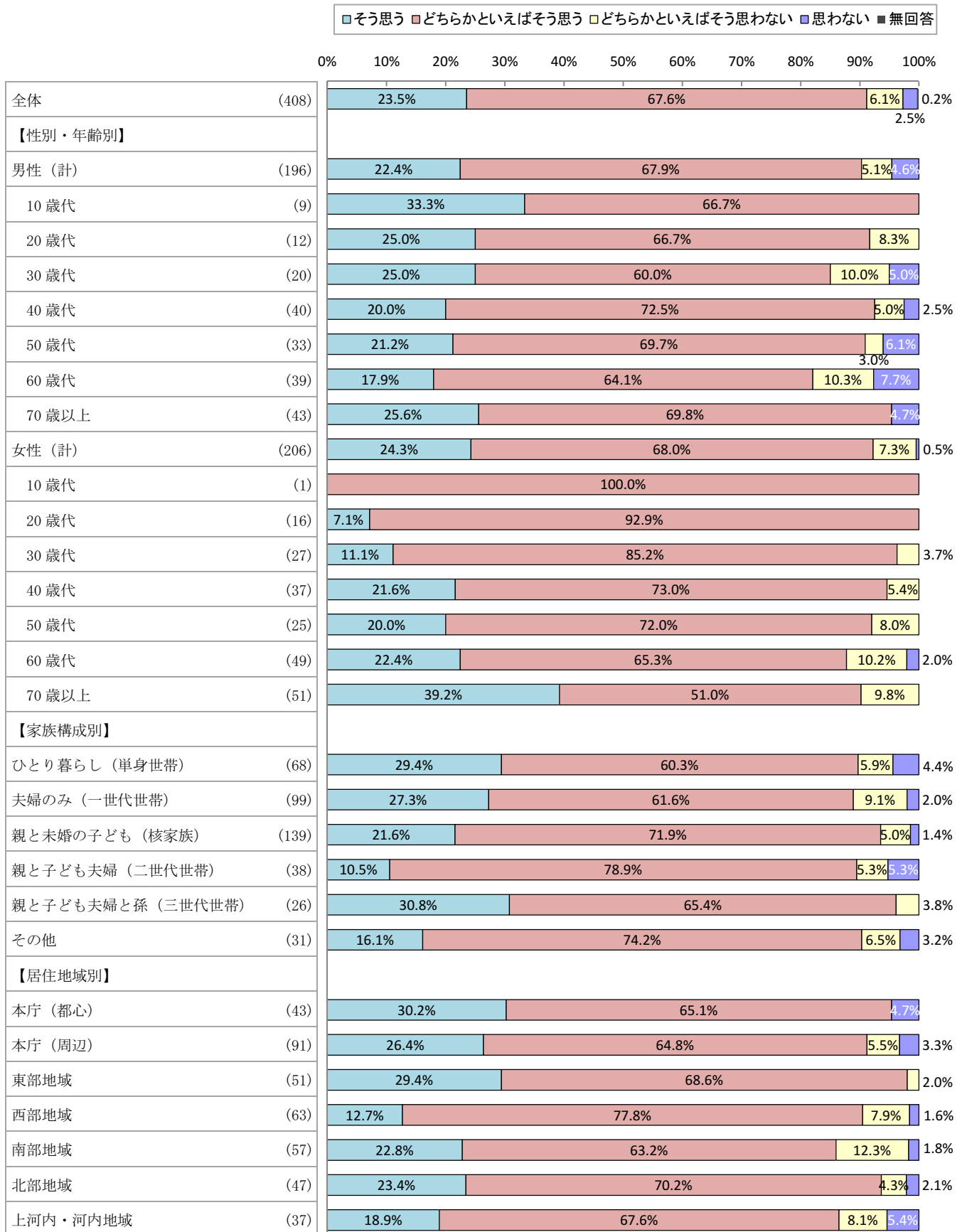
安心して暮らすことができていると思うかについては、「そう思う」が 23.5%、「どちらかといえばそう思う」が 67.6%で、これらを合わせた【そう思う(計)】は 91.1%であった。一方、「どちらかといえばそう思わない」が 6.1%で、「思わない」の 2.5%と合わせた【そう思わない(計)】は 8.6%であった。(図IV-7-7)

性別・年齢別でみると、【そう思う(計)】は<男性/10歳代><女性/10歳代><女性/20歳代>が 100.0%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が 96.3%であった。【そう思わない(計)】は<男性/60歳代>が 18.0%で最も高く、次いで<男性/30歳代>が 15.0%であった。(図IV-7-8)

家族構成別でみると、【そう思う(計)】は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が 96.2%で最も高かった。【そう思わない(計)】は<夫婦のみ(一世代世帯)>が 11.1%で最も高かった。(図IV-7-8)

居住地域別でみると、【そう思う(計)】は<東部地域>が 98.0%で最も高かった。【そう思わない(計)】は<南部地域>が 14.1%で最も高かった。(図IV-7-8)

<図IV-7-8>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

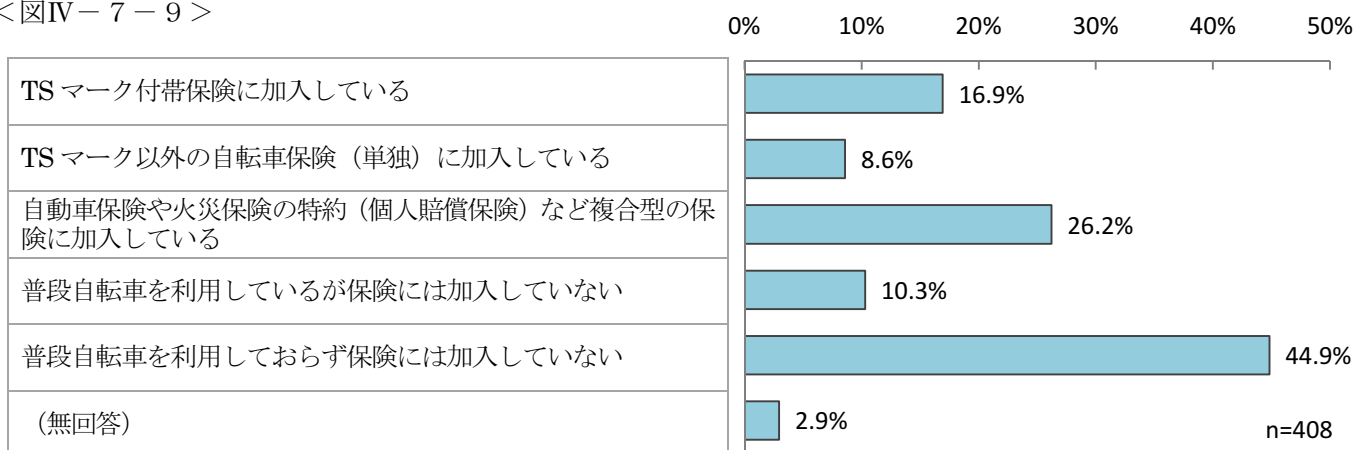


### (5) 自転車保険の加入状況

#### ◇ 「普段自転車を利用しておらず保険には加入していない」が4割半ば

問 3 3	宇都宮市では、「交通事故のない社会」を目指し、総合的な交通安全対策を推進していますが、あなたは、自転車乗用中に事故を起こしたとき、相手のけがの治療費などを補償する保険（自転車保険）に加入していますか。	(○はいくつでも)	n=408
1	TS マーク付帯保険に加入している		16.9%
2	TS マーク以外の自転車保険（単独）に加入している		8.6%
3	自動車保険や火災保険の特約（個人賠償保険）など複合型の保険に加入している		26.2%
4	普段自転車を利用しているが保険には加入していない		10.3%
5	普段自転車を利用しておらず保険には加入していない		44.9%
9	(無回答)		2.9%

<図IV-7-9>



自転車保険に加入しているかについては、「普段自転車を利用しておらず保険には加入していない」が44.9%で最も高く、次いで「自動車保険や火災保険の特約（個人賠償保険）など複合型の保険に加入している」が26.2%、「TS マーク付帯保険に加入している」が16.9%と続いている。（図IV-7-9）

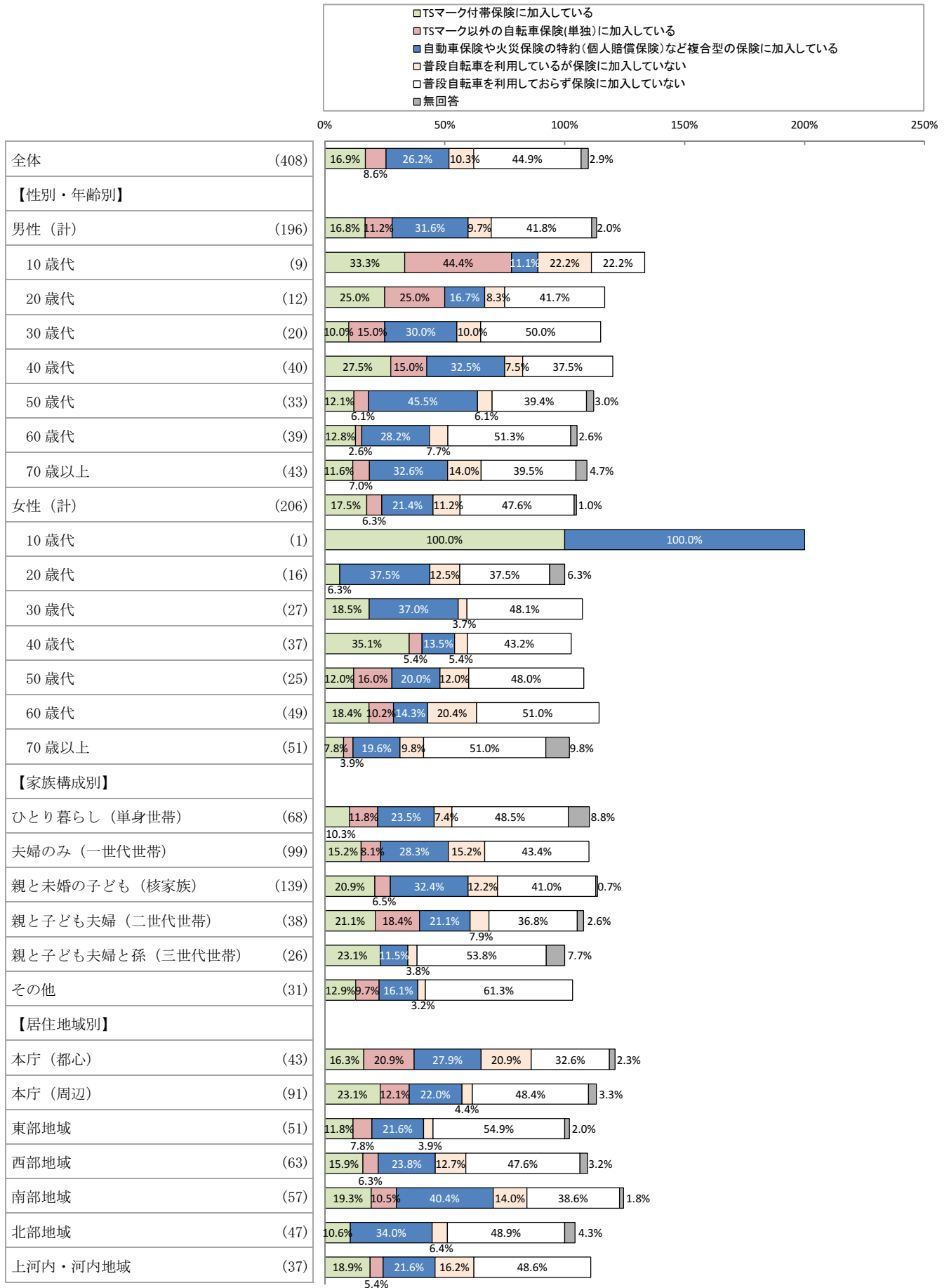
性別・年齢別でみると、「普段自転車を利用しておらず保険には加入していない」は<男性/60歳代>が51.3%で最も高く、次いで<女性/60歳代><女性/70歳以上>が51.0%と続いている。「自動車保険や火災保険の特約（個人賠償保険）など複合型の保険に加入している」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/50歳代>が45.5%であった。（図IV-7-10）

家族構成別でみると、「普段自転車を利用しておらず保険には加入していない」はその他を除くと、<親と子ども夫婦と孫（三世代世帯）>が53.8%で最も高かった。「自動車保険や火災保険の特約（個人賠償保険）など複合型の保険に加入している」は<親と未婚の子ども（核家族）>が32.4%で最も高かった。（図IV-7-10）

居住地域別でみると、「普段自転車を利用しておらず保険には加入していない」は<東部地域>が54.9%で最も高かった。「自動車保険や火災保険の特約（個人賠償保険）など複合型の保険に加入している」は<南部地域>が40.4%で最も高かった。（図IV-7-10）



<図IV-7-10>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



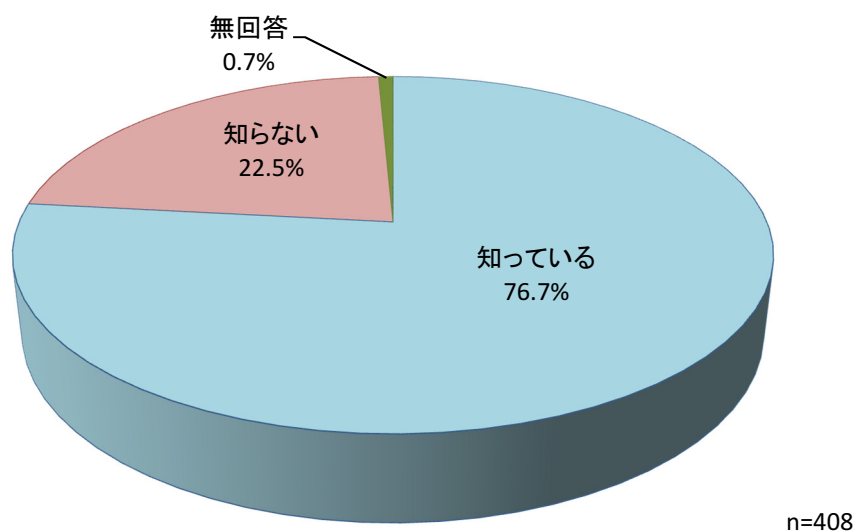
## 8. いちご一会とちぎ国体・いちご一会とちぎ大会について

### (1) 栃木県で国体が開催されることの認知度

#### ◇ 「知っている」が8割弱

問3 4	あなたは、栃木県で国体が開催されることを知っていますか。	(○は1つ)
		n=408
1	知っている	76.7%
2	知らない	22.5%
3	(無回答)	0.7%

<図IV-8-1>全体



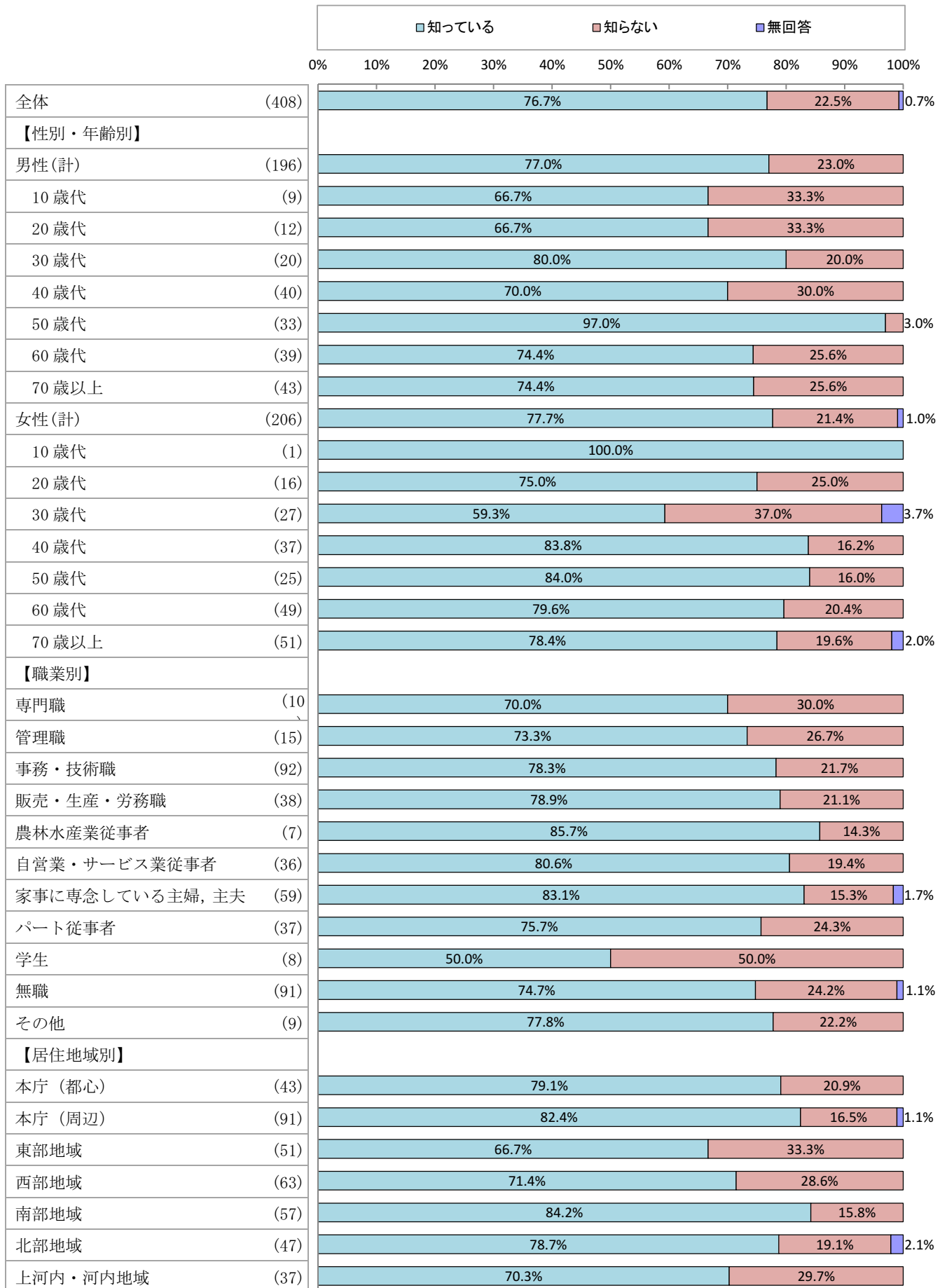
栃木県で国体が開催されることを知っているかについては、「知っている」が 76.7%で、一方、「知らない」は 22.5%であった。(図IV-8-1)

性別・年齢別でみると、「知っている」は<女性/10歳以上>が 100.0%で最も高く、次いで<男性/50歳代>が 97.0%であった。一方、「知らない」は<女性/30歳代>が 37.0%で最も高く、次いで<男性/10歳代><男性/20歳代>が 33.3%であった。(図IV-8-2)

職業別でみると、「知っている」は<農林水産業従事者>が 85.7%で最も高く、次いで<家事に専念している主婦、主夫>が 83.1%であった。一方、「知らない」は<学生>が 50.0%で最も高く、次いで<専門職>が 30.0%であった。(図IV-8-2)

居住地域別でみると、「知っている」は<南部地域>が 84.2%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が 82.4%であった。一方、「知らない」は<東部地域>が 33.3%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が 29.7%であった。(図IV-8-2)

<図IV-8-2>性別・年齢別／職業別／居住地域別

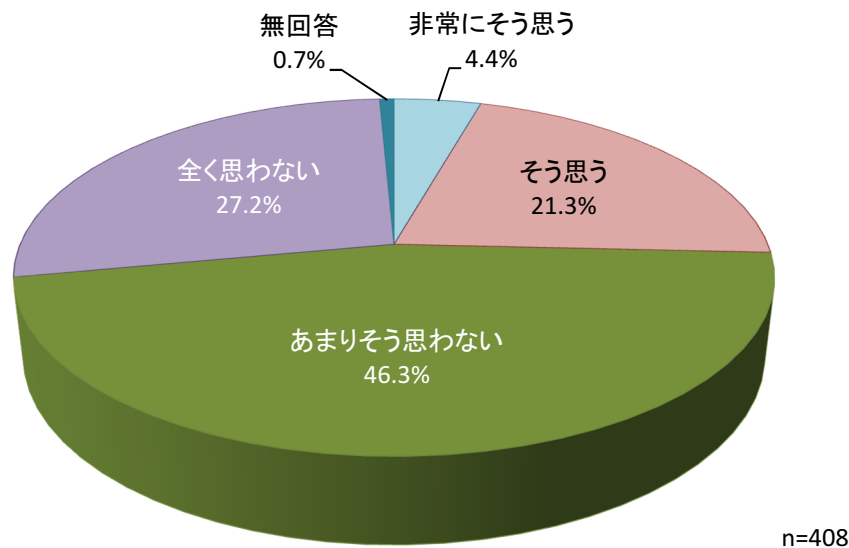


(2) ボランティア活動で、とちぎ国体に参加したいか

◇ 「非常にそう思う」「そう思う」を合わせた【そう思う(計)】が2割半ば

問35	あなたは、ボランティア活動(花いっぱい運動・環境美化活動・競技運営の補助など)で、とちぎ国体に参加したいと思いますか。	(○は1つ)	n=408
1	非常にそう思う		4.4%
2	そう思う		21.3%
3	あまりそう思わない		46.3%
4	全く思わない		27.2%
	(無回答)		0.7%

<図IV-8-3>全体



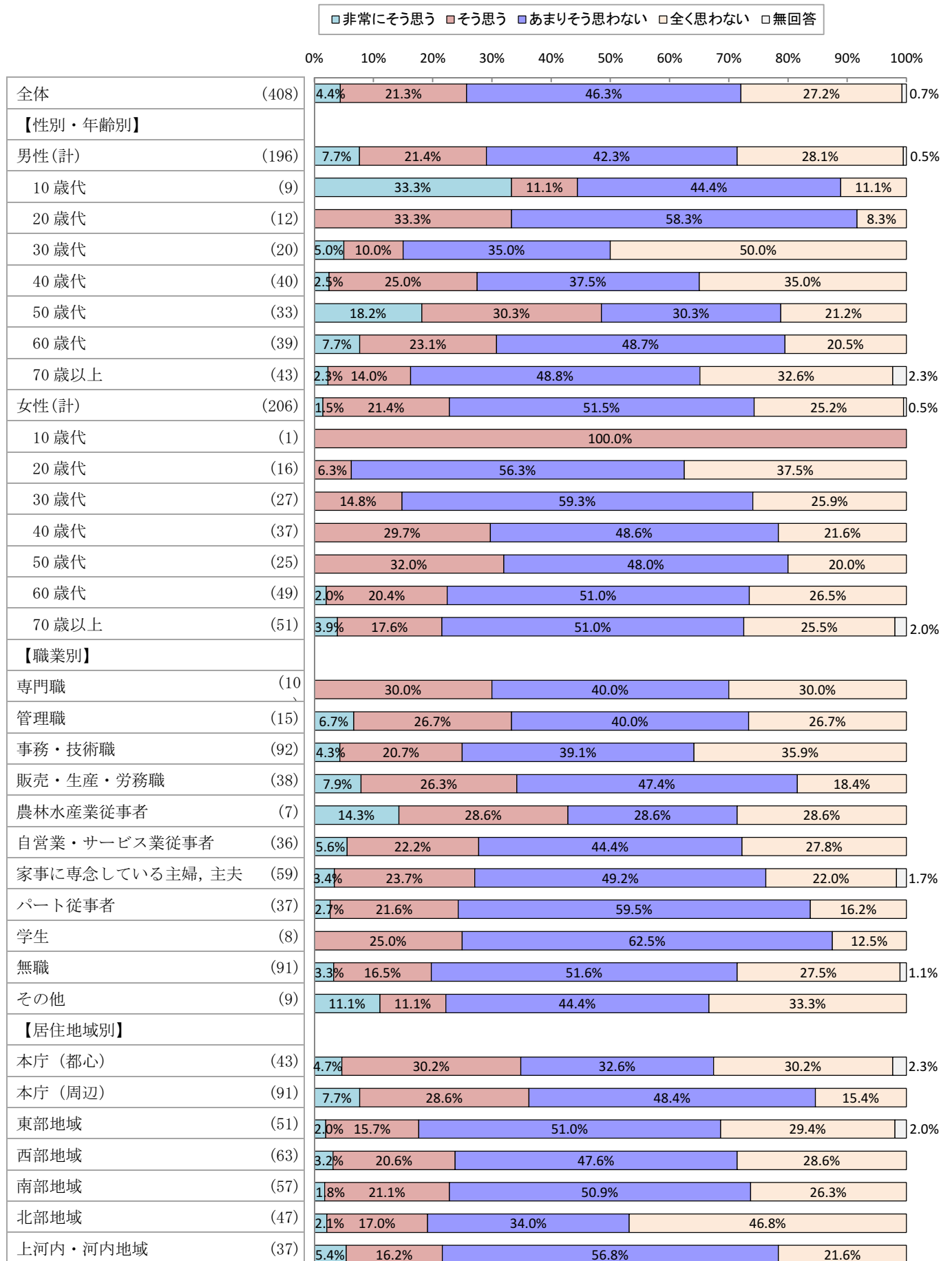
ボランティア活動で、とちぎ国体に参加したいかについては、「非常にそう思う」が4.4%、「そう思う」が21.3%で、これらを合わせた【そう思う(計)】が25.7%であった。一方、「あまりそう思わない」46.3%、「全く思わない」27.2%で、これらを合わせた【そう思わない(計)】は73.5%であった。(図IV-8-3)

性別・年齢別でみると、【そう思う(計)】は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/50歳以上>が48.5%であった。一方、【そう思わない(計)】は<女性/20歳代>が93.8%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が85.2%であった。(図IV-8-4)

職業別でみると、【そう思う(計)】は<農林水産業従事者>が42.9%で最も高く、次いで<販売・生産・労務職>が34.2%であった。一方、【そう思わない(計)】は<無職>が79.1%で最も高く、次いで<その他>が77.7%、<パート従事者>が75.7%と続いている。(図IV-8-4)

居住地域別でみると、【そう思う(計)】は<本庁(周辺)>が36.3%で最も高く、次いで<本庁(都心)>が34.9%であった。一方、【そう思わない(計)】は<北部地域>が80.8%で最も高く、次いで<東部地域>が80.4%であった。(図IV-8-4)

<図IV-8-4>性別・年齢別／職業別／居住地域別

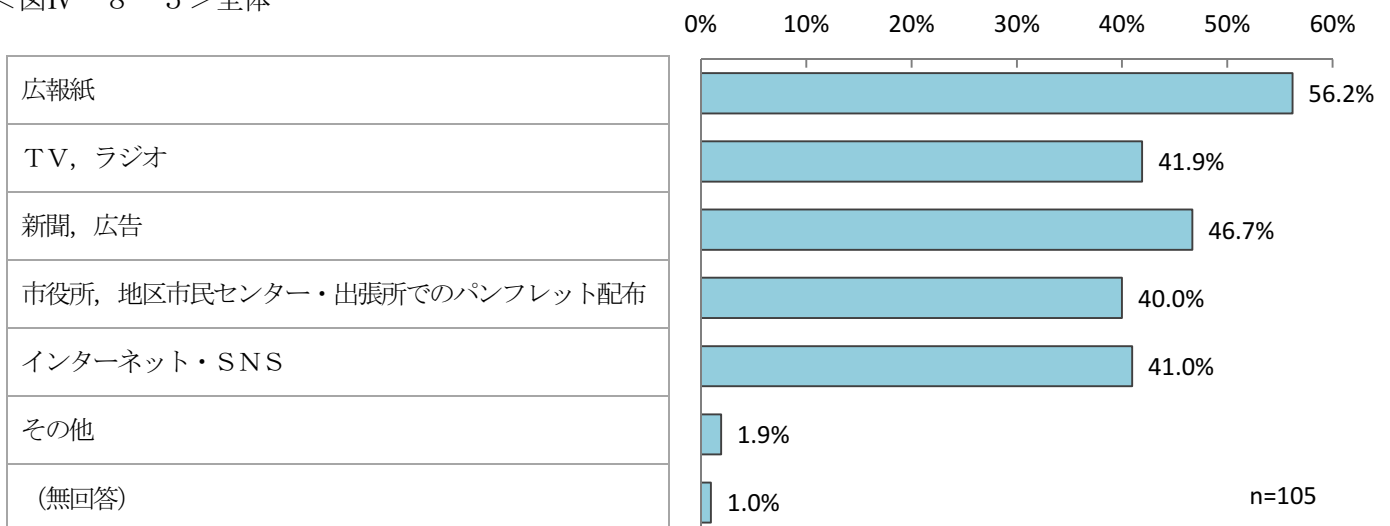


### (3) ボランティア情報の入手方法

#### ◇ 「広報紙」が5割半ば

問36	問35で「①非常にそう思う」「②そう思う」と答えた方にお聞きします。 あなたがボランティア情報を得るには、どのような方法が情報を得やすいですか。 (〇はいくつでも)	n=105
1	広報紙	56.2%
2	TV, ラジオ	41.9%
3	新聞, 広告	46.7%
4	市役所, 地区市民センター・出張所でのパンフレット配布	40.0%
5	インターネット・SNS	41.0%
6	その他	1.9%
	(無回答)	1.0%

<図IV-8-5>全体



ボランティア情報の入手方法については、「広報紙」が56.2%で最も多く、次いで「新聞・広告」が46.7%、「TV, ラジオ」が41.9%と続いている。(図IV-8-5)

性別・年齢別でみると、「広報紙」は<女性/10歳代><女性/20歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/40歳代>が72.7%であった。「新聞・広告」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が75.0%であった。(図IV-8-6)

職業別でみると、最も回答者数の多かった<事務・技術職>は「インターネット・SNS」が60.9%、「広報紙」が56.5%であった。(図IV-8-6)

居住地域別でみると、最も回答者数の多かった<本庁(周辺)>は「新聞・広告」が51.5%、「広報紙」が48.5%であった。(図IV-8-6)

<図IV-8-6>性別・年齢別／職業別／居住地域別

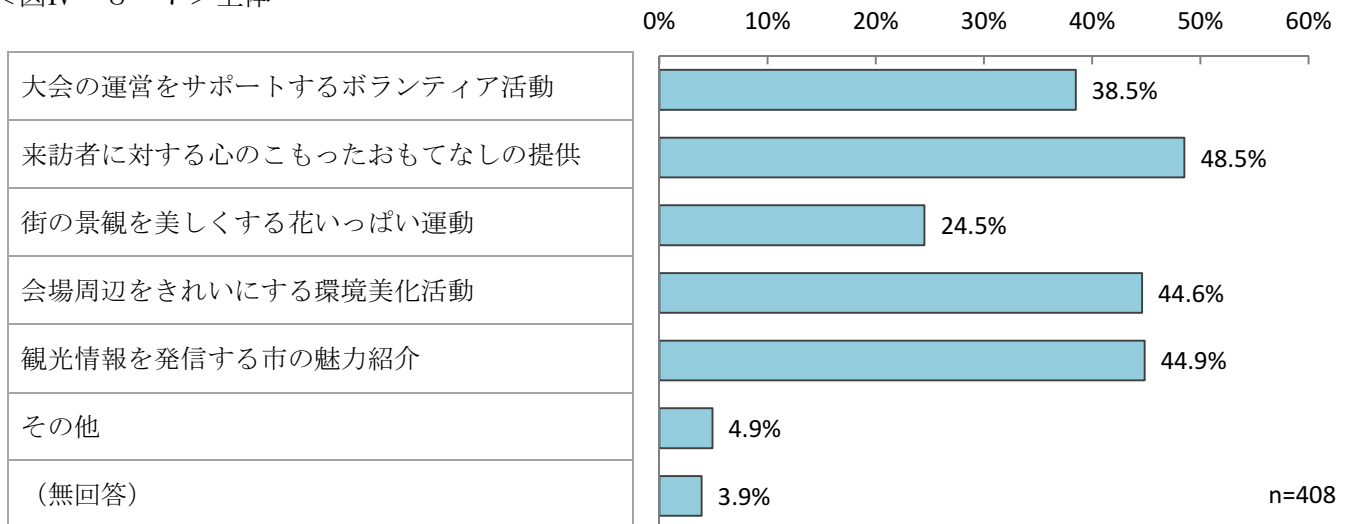


(4) 国体を盛り上げるために重要だと思うこと

◇ 「来訪者に対する心のこもったおもてなしの提供」が約5割

問37	あなたは、多くの大会参加者・観覧者が来訪する国体を盛り上げるために、何が重要だと思いますか。 (○はいくつでも)	n=408
1	大会の運営をサポートするボランティア活動	38.5%
2	来訪者に対する心のこもったおもてなしの提供	48.5%
3	街の景観を美しくする花いっぱい運動	24.5%
4	会場周辺をきれいにする環境美化活動	44.6%
5	観光情報を発信する市の魅力紹介	44.9%
6	その他	4.9%
	(無回答)	3.9%

<図IV-8-7>全体



国体を盛り上げるために重要だと思うことについては、「来訪者に対する心のこもったおもてなしの提供」が48.5%で最も高く、次いで「観光情報を発信する市の魅力紹介」が44.9%、「会場周辺をきれいにする環境美化活動」が44.6%と続いている。(図IV-8-7)

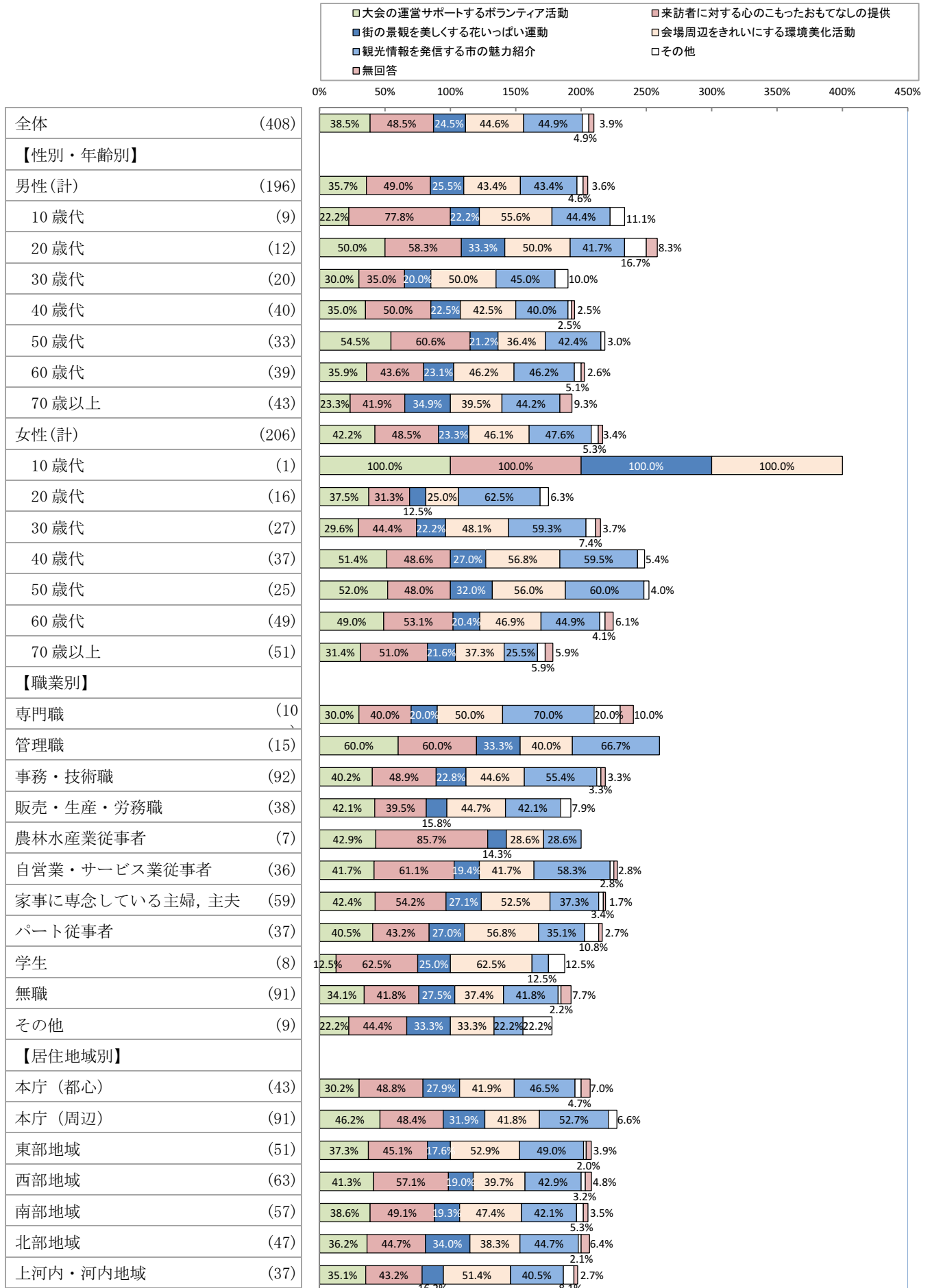
性別・年齢別でみると、「来訪者に対する心のこもったおもてなしの提供」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/10歳代>が77.8%であった。「観光情報を発信する市の魅力紹介」は<女性/20歳代>が62.5%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が60.0%であった。(図IV-8-8)

職業別でみると、「来訪者に対する心のこもったおもてなしの提供」は<農林水産業従事者>が85.7%で最も高く、次いで<学生>が62.5%であった。「観光情報を発信する市の魅力紹介」は<専門職>が70.0%で最も高く、次いで<管理職>が66.7%であった。(図IV-8-8)

居住地域別でみると、「来訪者に対する心のこもったおもてなしの提供」は<西部地域>が57.1%で最も高く、次いで<南部地域>が49.1%であった。「観光情報を発信する市の魅力紹介」は<本庁(周辺)>が52.7%で最も高く、次いで<東部地域>が49.0%であった。(図IV-8-8)



<図IV-8-8>性別・年齢別／職業別／居住地域別



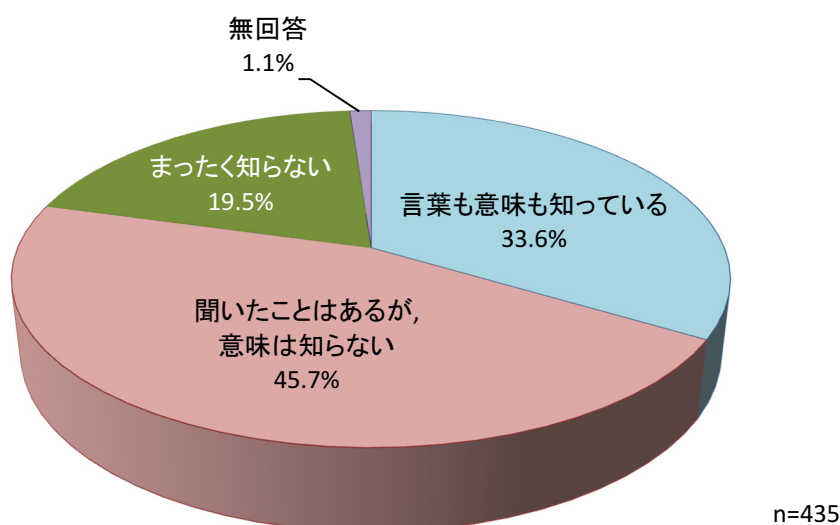
## 9. 生物多様性について

### (1) 生物多様性という言葉の認知度

◇ 「聞いたことはあるが、意味は知らない」が4割半ば

問38	生物多様性という言葉を知っていますか。	(○は1つ)
		n=435
1	言葉も意味も知っている	33.6%
2	聞いたことはあるが、意味は知らない	45.7%
3	まったく知らない	19.5%
	(無回答)	1.1%

<図IV-9-1>全体



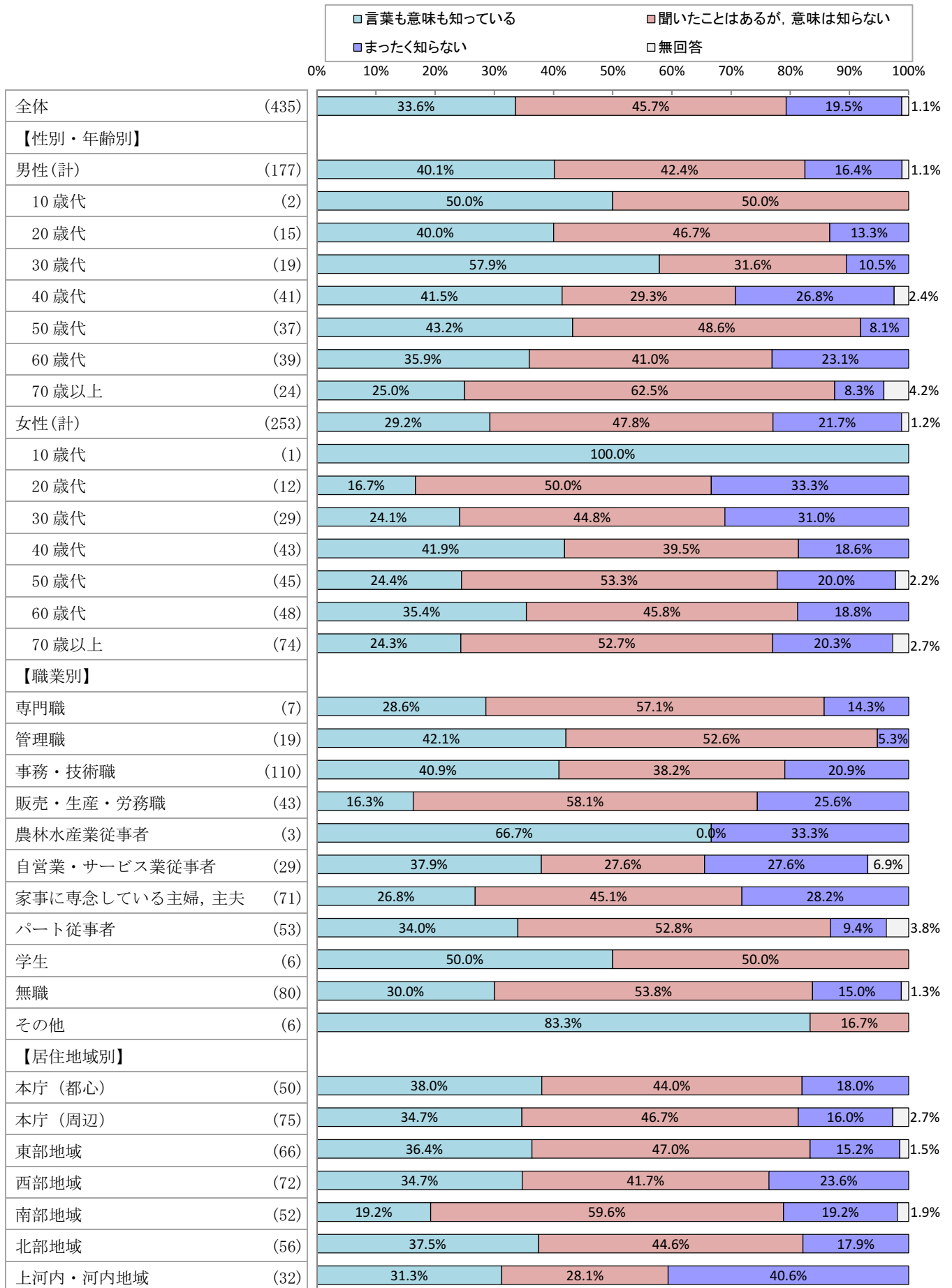
生物多様性の認知度については、「聞いたことはあるが、意味は知らない」が45.7%で最も高く、「言葉も意味も知っている」が33.6%、「まったく知らない」が19.5%であった。(図IV-9-1)

性別・年齢別でみると、「聞いたことはあるが、意味は知らない」は<男性/70歳以上>が62.5%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が53.3%であった。「言葉も意味も知っている」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/30歳代>が57.9%であった。(図IV-9-2)

職業別でみると、「聞いたことはあるが、意味は知らない」は<販売・生産・労務職>が58.1%で最も高く、次いで<専門職>が57.1%であった。「言葉も意味も知っている」は<その他>を除くと、<農林水産業従事者>が66.7%で最も高く、次いで<学生>が50.0%であった。(図IV-9-2)

居住地域別でみると、「聞いたことはあるが、意味は知らない」は<南部地域>が59.6%で最も高く、次いで<東部地域>が47.0%であった。「言葉も意味も知っている」は<本庁(都心)>が38.0%で最も高く、次いで<北部地域>が37.5%であった。(図IV-9-2)

<図IV-9-2>性別・年齢別／職業別／居住地域別

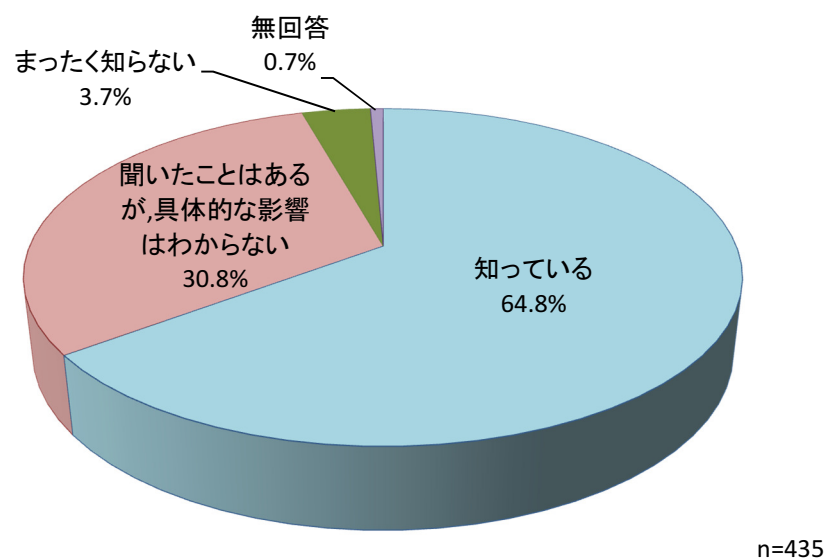


## (2) 外来種が及ぼす影響についての認知度

### ◇ 「知っている」が6割半ば

問39	外来種が及ぼす影響を知っていますか。	(○は1つ)
		n=435
1	知っている	64.8%
2	聞いたことはあるが、具体的な影響はわからない	30.8%
3	まったく知らない	3.7%
	(無回答)	0.7%

<図IV-9-3>全体



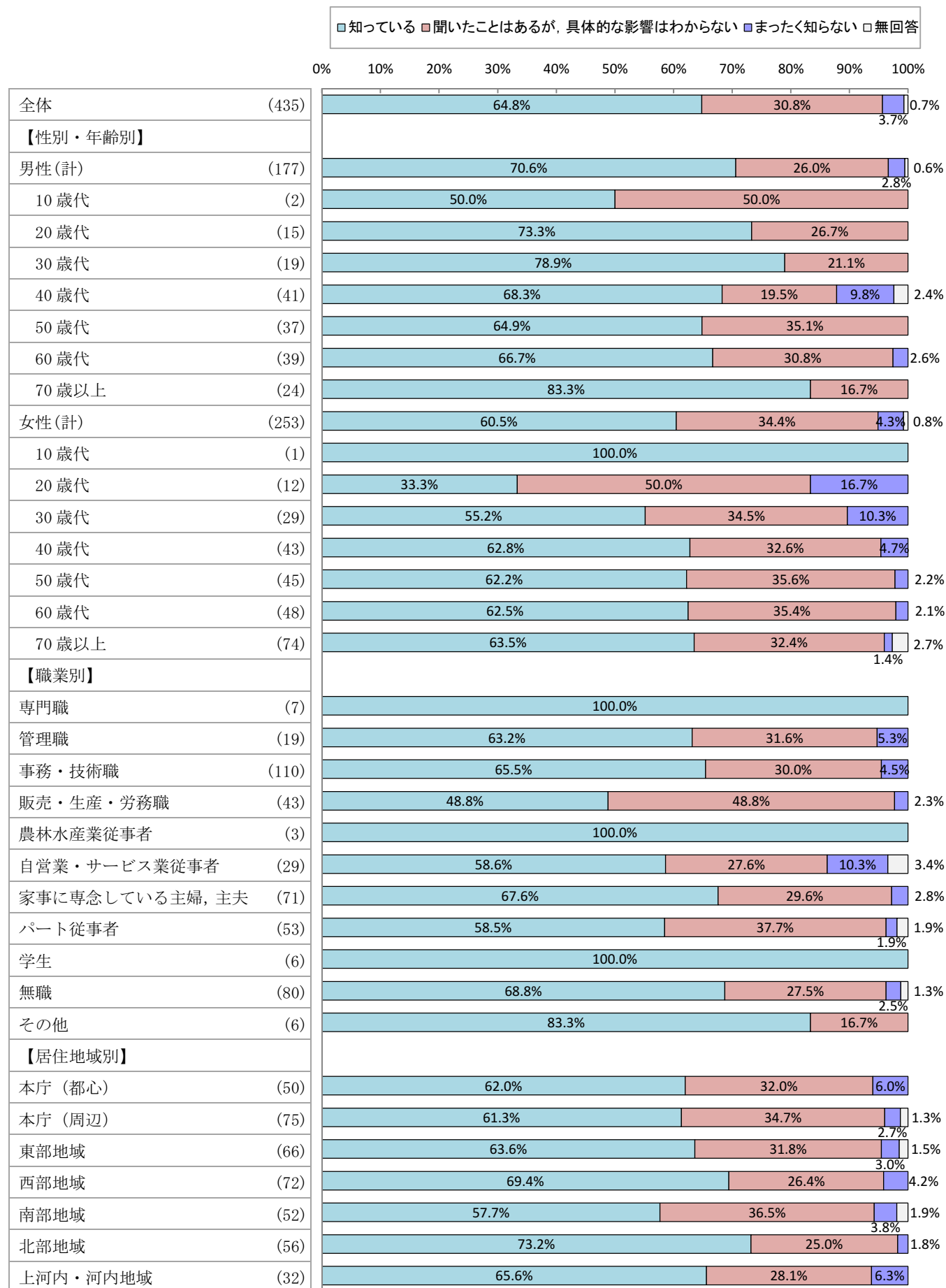
外来種が及ぼす影響の認知度については、「知っている」が64.8%で最も高く、「聞いたことはあるが、具体的な影響はわからない」が30.8%、「まったく知らない」が3.7%であった。(図IV-9-3)

性別・年齢別でみると、「知っている」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が83.3%であった。「聞いたことはあるが、具体的な影響はわからない」は<男性/10歳代><女性/20歳代>がそれぞれ50.0%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が35.6%であった。(図IV-9-4)

職業別でみると、「知っている」は<専門職><農林水産業従事者><学生>がそれぞれ100.0%で最も高かった。「聞いたことはあるが、具体的な影響はわからない」は<販売・生産・労務職>が48.8%で最も高く、次いで<パート従事者>が37.7%であった。(図IV-9-4)

居住地域別でみると、「知っている」は<北部地域>が73.2%で最も高く、次いで<西部地域>が69.4%であった。「聞いたことはあるが、具体的な影響はわからない」は<南部地域>が36.5%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が34.7%であった。(図IV-9-4)

<図IV-9-4>性別・年齢別／職業別／居住地域別

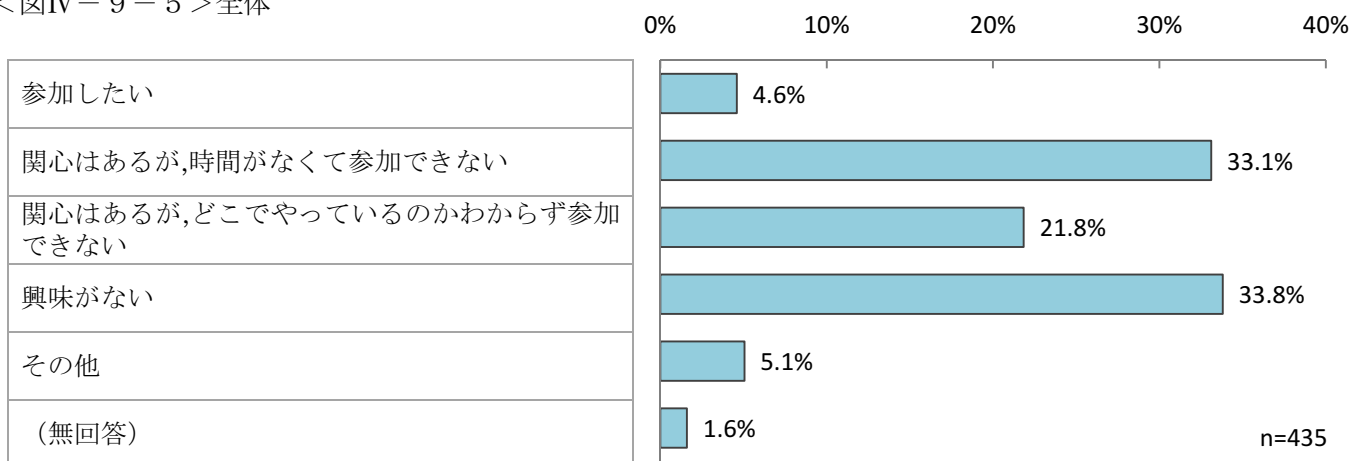


(3) 生物多様性を保全する活動に参加したいか

◇ 「興味がない」が3割半ば

問40	生物多様性を保全する活動（動植物やその生息・生育環境を保全する活動）に参加したいと思いますか。 (○はいくつでも)	n=435
1	参加したい	4.6%
2	関心はあるが、時間がなくて参加できない	33.1%
3	関心はあるが、どこでやっているのかわからず参加できない	21.8%
4	興味がない	33.8%
5	その他 (無回答)	5.1% 1.6%

<図IV-9-5>全体



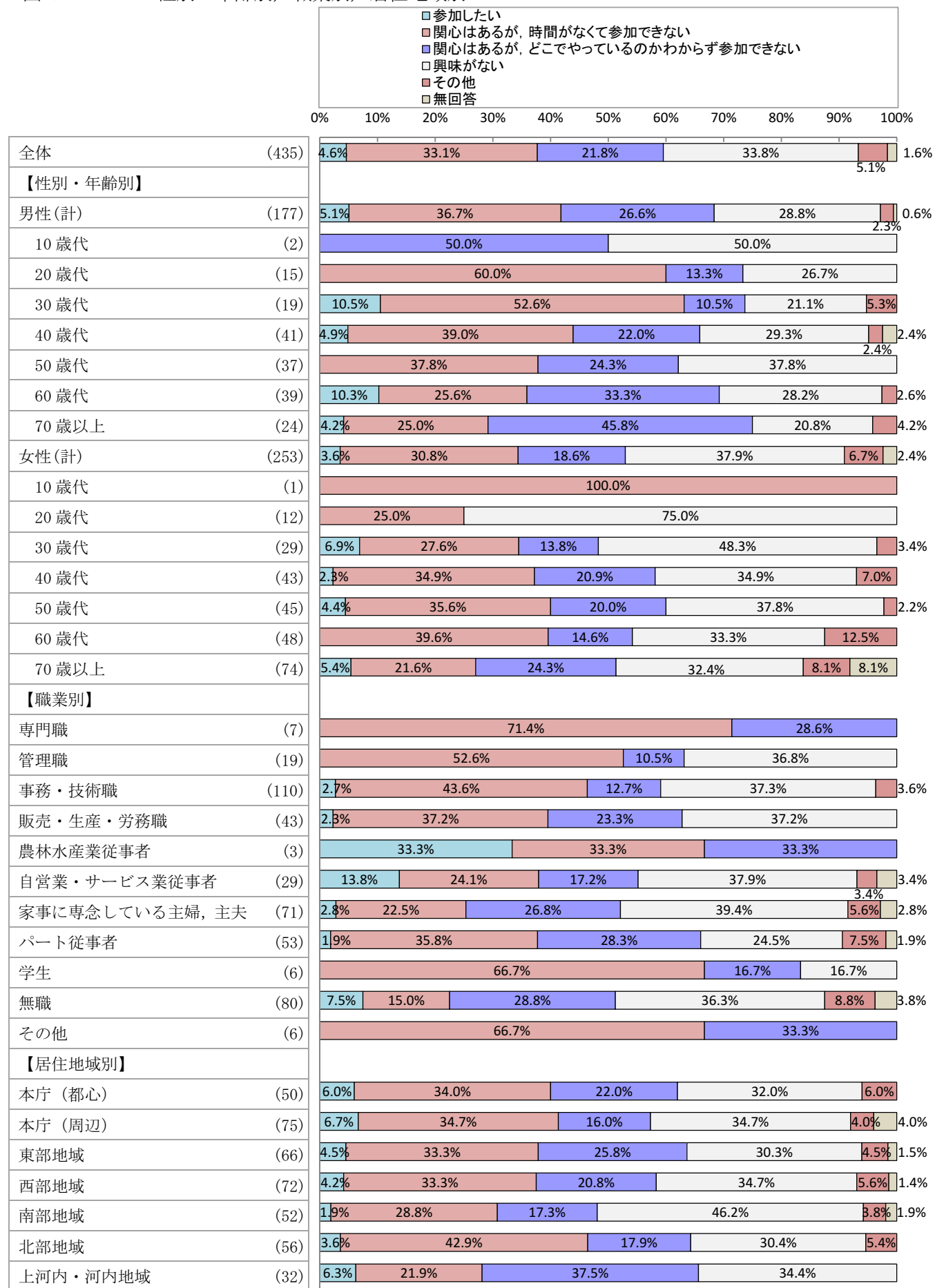
生物多様性を保全する活動に参加したいかについては、「興味がない」が33.8%で最も高く、次いで「関心はあるが、時間がなくて参加できない」が33.1%、「関心はあるが、どこでやっているのかわからず参加できない」が21.8%と続いている。(図IV-9-5)

性別・年齢別でみると、「興味がない」は<女性/20歳代>が75.0%で最も高く、次いで<男性/10歳代>が50.0%であった。「関心はあるが、時間がなくて参加できない」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が60.0%であった。(図IV-9-6)

職業別でみると、「興味がない」は<家事に専念している主婦、主夫>が39.4%で最も高く、次いで<自営業・サービス業従事者>が37.9%であった。「関心はあるが、時間がなくて参加できない」は<専門職>が71.4%で最も高く、次いで<学生>が66.7%であった。(図IV-9-6)

居住地域別でみると、「興味がない」は<南部地域>が46.2%で最も高く、次いで<本庁(周辺)><西部地域>がそれぞれ34.7%であった。「関心はあるが、時間がなくて参加できない」は<北部地域>が42.9%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が34.7%であった。(図IV-9-6)

<図IV-9-6>性別・年齢別／職業別／居住地域別



## 10. 自転車のまちづくりについて

### (1) 自転車の利用頻度

#### ◇ 「ほとんど利用しない」が6割半ば

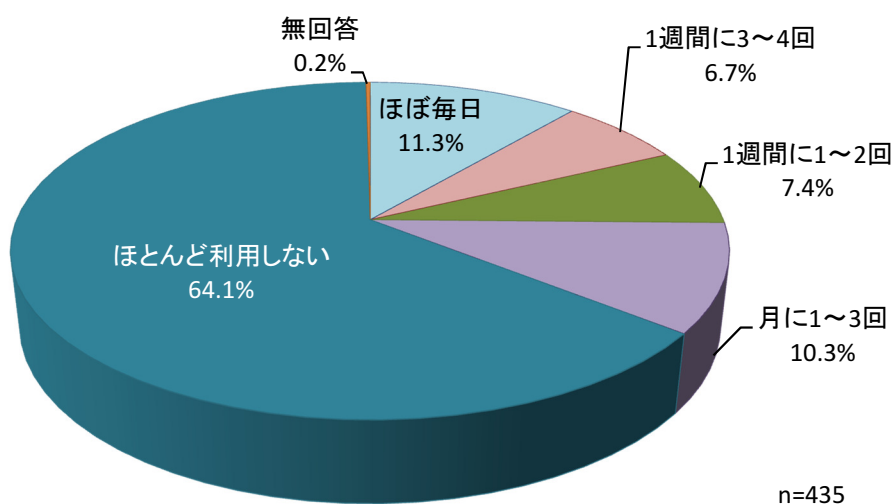
問4 1 どのくらいの頻度で自転車を利用されていますか。

(○は1つ)

n=435

1	ほぼ毎日	11.3%
2	1週間に3～4回	6.7%
3	1週間に1～2回	7.4%
4	月に1～3回	10.3%
5	ほとんど利用しない	64.1%
	(無回答)	0.2%

<図IV-10-1>全体



自転車の利用頻度については、「ほとんど利用しない」が64.1%で最も高く、次いで「ほぼ毎日」が11.3%、「月に1～3回」が10.3%と続いている。(図IV-10-1)

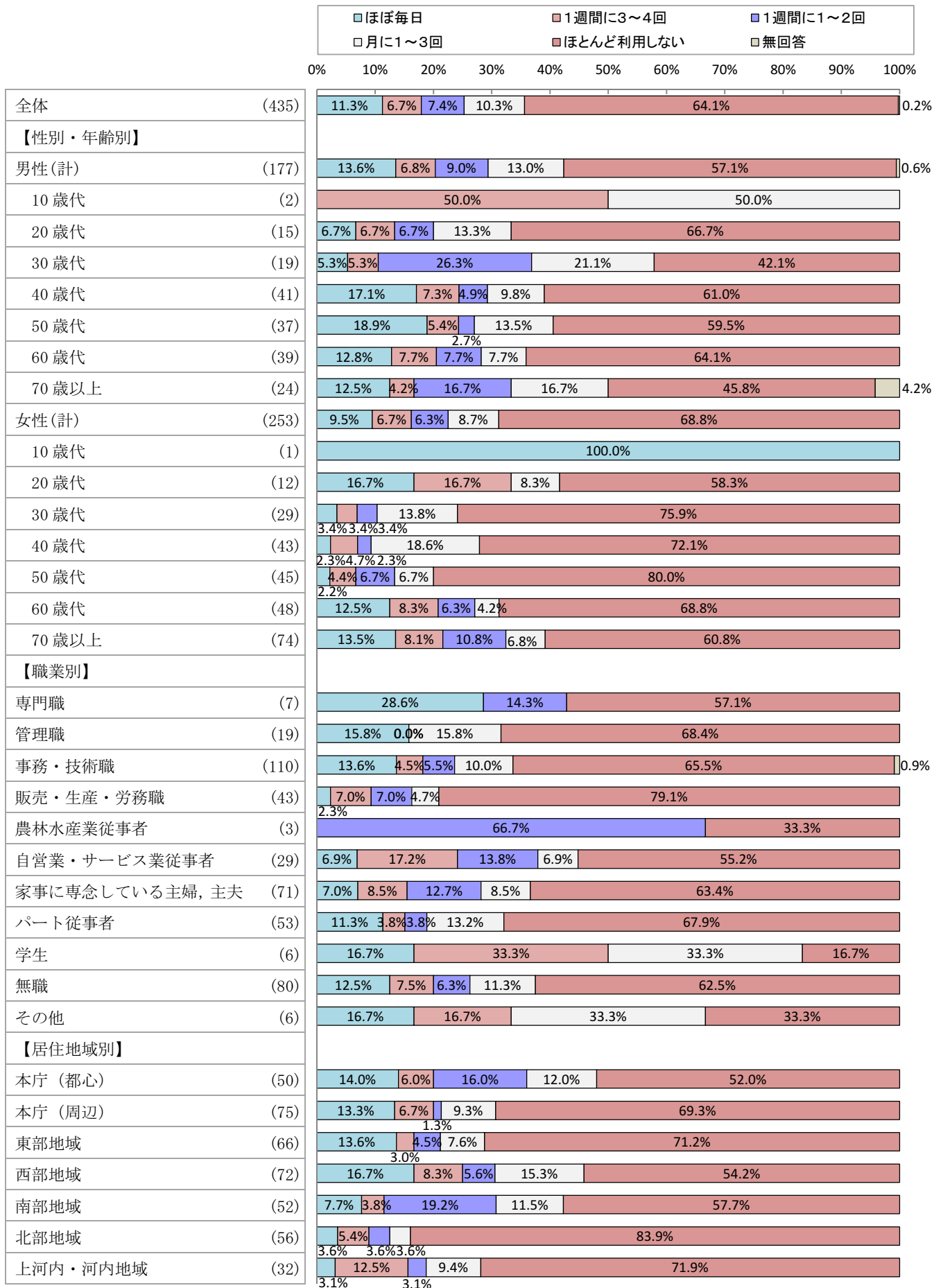
性別・年齢別でみると、「ほとんど利用しない」は<女性/50歳代>が80.0%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が75.9%であった。「ほぼ毎日」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/50歳代>が18.9%であった。(図IV-10-2)

職業別でみると、「ほとんど利用しない」は<販売・生産・労務職>が79.1%で最も高く、次いで<管理職>が68.4%であった。「ほぼ毎日」は<専門職>が28.6%で最も高く、次いで<学生>が16.7%であった。(図IV-10-2)

居住地域別でみると、「ほとんど利用しない」は<北部地域>が83.9%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が71.9%であった。「ほぼ毎日」は<西部地域>が16.7%で最も高く、次いで<東部地域>が13.6%であった。(図IV-10-2)



<図IV-10-2>性別・年齢別／職業別／居住地域別



(2) 宇都宮市は自転車を使いやすいまちだと思うか

◇ 「あまりそう思わない」と「そうは思わない」を合わせた【そう思わない(計)】が約6割

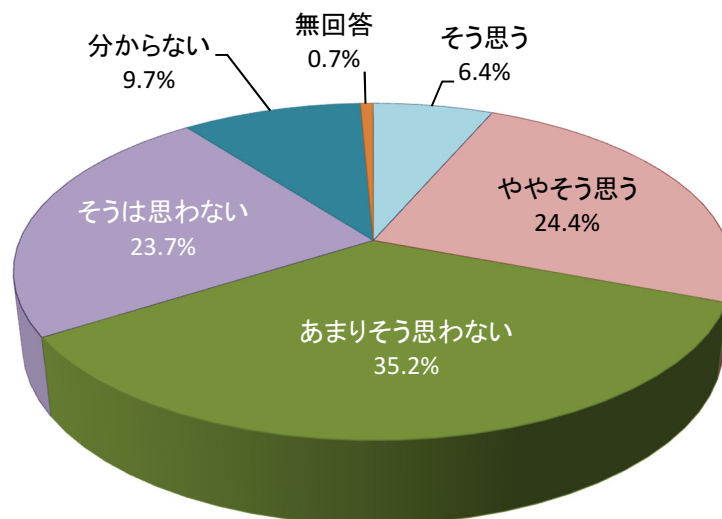
問4 2 宇都宮市は自転車を使いやすいまちだと思いますか。

(○は1つ)

n=435

1	そう思う	6.4%
2	ややそう思う	24.4%
3	あまりそう思わない	35.2%
4	そうは思わない	23.7%
5	分からない	9.7%
	(無回答)	0.7%

<図IV-10-3>全体



n=435

宇都宮市は自転車を使いやすいまちだと思うかについては、「そう思う」が6.4%、「ややそう思う」が24.4%で、これらを合わせた【そう思う(計)】は30.8%であった。一方、「あまりそう思わない」35.2%、「そうは思わない」23.7%で、これらを合わせた【そう思わない(計)】は58.9%であった。(図IV-10-3)

性別・年齢別でみると、【そう思う(計)】は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が37.9%であった。【そう思わない(計)】は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/50歳代>が72.9%であった。(図IV-10-4)

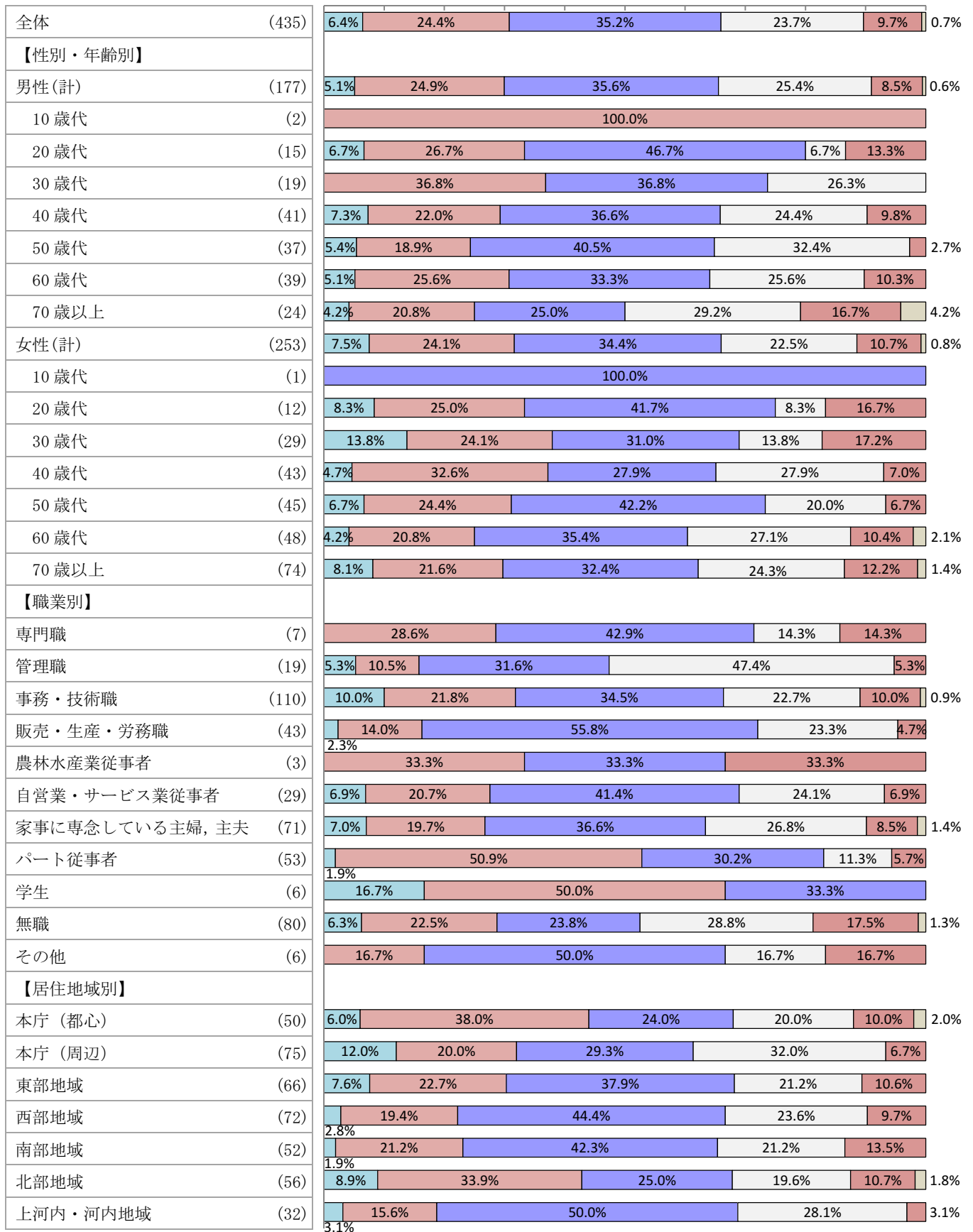
職業別でみると、【そう思う(計)】は<学生>が66.7%で最も高く、次いで<パート従事者>が52.8%であった。【そう思わない(計)】は<販売・生産・労務職>が79.1%で最も高く、次いで<管理職>が79.0%であった。(図IV-10-4)

居住地域別でみると、【そう思う(計)】は<本庁(都心)>が44.0%で最も高く、次いで<北部地域>が42.8%であった。【そう思わない(計)】は<上河内・河内地域>が78.1%で最も高く、次いで<西部地域>が68.0%であった。(図IV-10-4)

<図IV-10-4>性別・年齢別／職業別／居住地域別

□ そう思う □ ややそう思う □ あまりそう思わない □ そうは思わない □ 分からない □ 無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

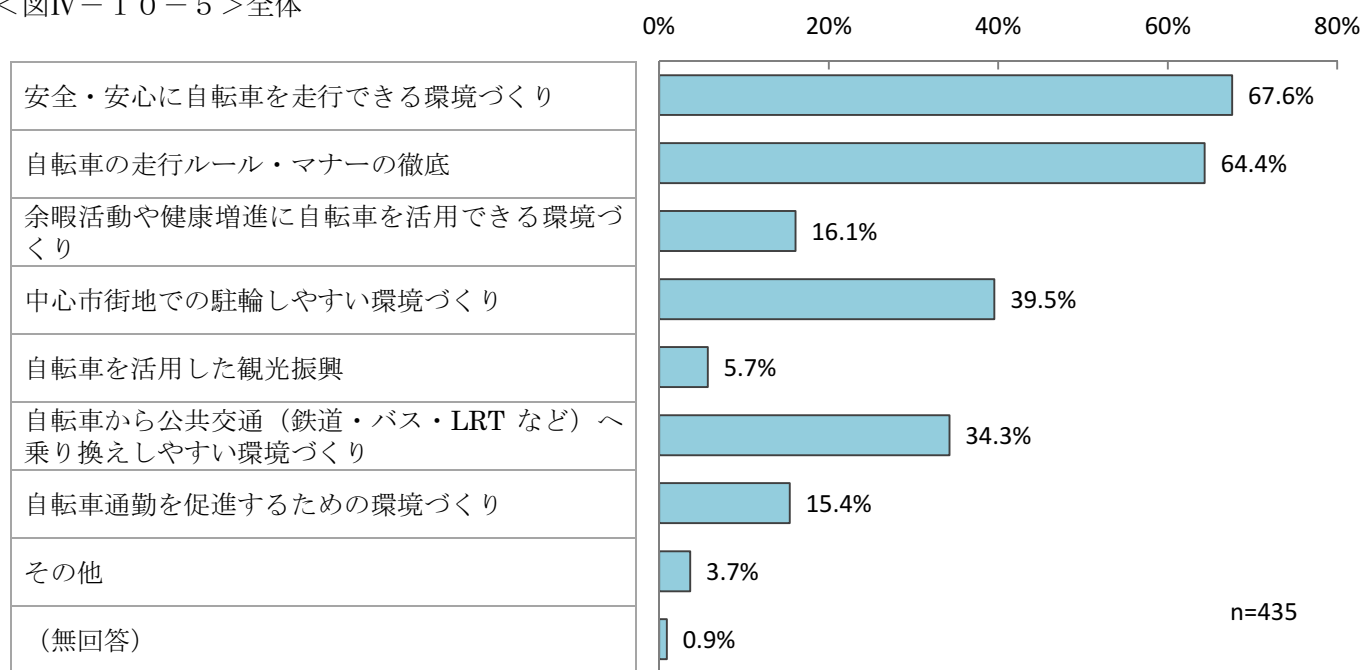


(3) 自転車のまちづくりを進めていくために必要な取り組み

◇ 「安全・安心に自転車を走行できる環境づくり」が7割弱

問43	宇都宮市では、自転車を活用したまちづくりに向けて、レンタサイクルや駐輪場の整備など様々な取り組みを行っています。今後、新たに、自転車のまちづくりを進めていくために、必要だと思う取り組みは何ですか。	(○は3つまで)
		n=435
1	安全・安心に自転車を走行できる環境づくり	67.6%
2	自転車の走行ルール・マナーの徹底	64.4%
3	余暇活動や健康増進に自転車を活用できる環境づくり	16.1%
4	中心市街地での駐輪しやすい環境づくり	39.5%
5	自転車を活用した観光振興	5.7%
6	自転車から公共交通(鉄道・バス・LRTなど)へ乗り換えしやすい環境づくり	34.3%
7	自転車通勤を促進するための環境づくり	15.4%
8	その他	3.7%
	(無回答)	0.9%

<図IV-10-5>全体



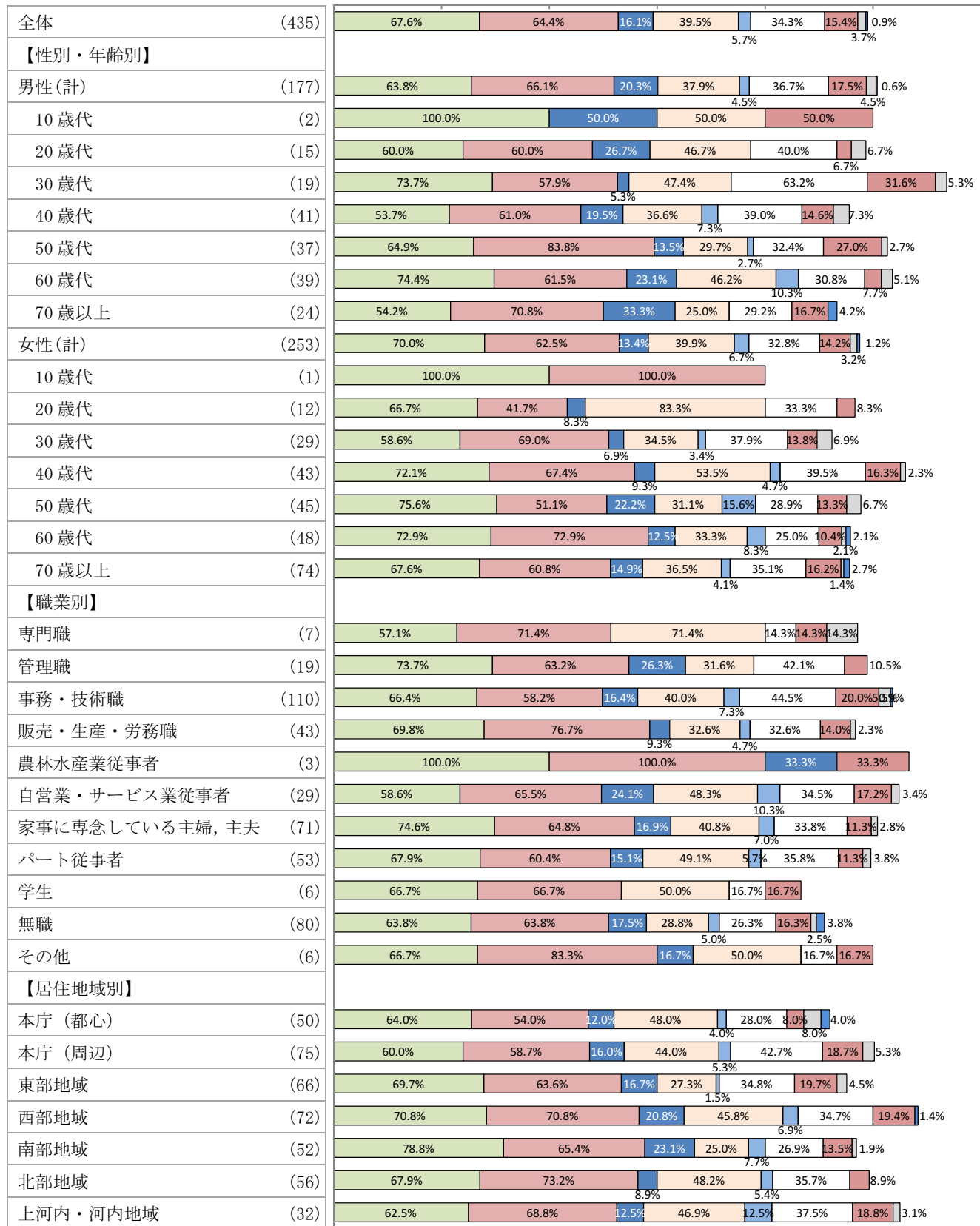
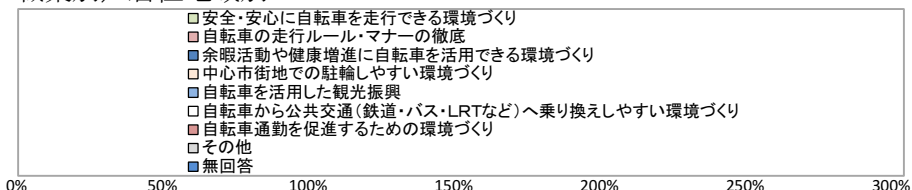
自転車のまちづくりを進めていくために必要な取り組みについては、「安全・安心に自転車を走行できる環境づくり」が67.6%で最も高く、次いで「自転車の走行ルール・マナーの徹底」が64.4%、「中心市街地での駐輪しやすい環境づくり」が39.5%と続いている。(図IV-10-5)

性別・年齢別でみると、「安全・安心に自転車を走行できる環境づくり」は<男性/10歳代><女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が75.6%であった。「自転車の走行ルール・マナーの徹底」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/50歳代>が83.8%であった。(図IV-10-6)

職業別でみると、「安全・安心に自転車を走行できる環境づくり」は<農林水産業従事者>が100.0%で最も高く、次いで<家事に専念している主婦、主夫>が74.6%であった。「自転車の走行ルール・マナーの徹底」も<農林水産業従事者>が100.0%で最も高く、次いで<その他>が83.3%、<販売・生産・労務職>が76.7%であった。(図IV-10-6)

居住地域別でみると、「安全・安心に自転車を走行できる環境づくり」は<南部地域>が78.8%で最も高く、次いで<西部地域>が70.8%であった。「自転車の走行ルール・マナーの徹底」は<北部地域>が73.2%で最も高く、次いで<西部地域>が70.8%であった。(図IV-10-6)

<図IV-10-6>性別・年齢別／職業別／居住地域別



## 1 1. 「大谷石文化」の日本遺産認定

### (1) 「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことに関する認知度

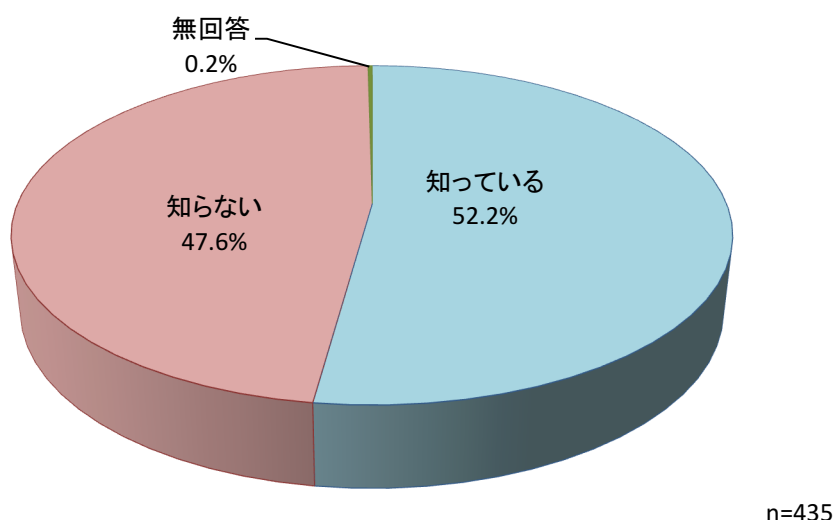
平成30年5月に、本市の暮らしに息づく「大谷石文化」のストーリーが日本遺産に認定されました。日本遺産は、日本各地の風習や伝統に根付いたストーリーを文化庁が認定する制度です。

本市には、大谷石採掘や彫刻細工など、大谷石を「ほる」文化が古代から受け継がれるとともに、カトリック松が峰教会等の建造物や石蔵、石塀など、暮らしやまちづくりの中で大谷石を变幻自在に使いこなしてきた独自の「大谷石文化」が息づいています。

#### ◇ 「知っている」が5割強

問4 4 「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことを知っていますか。	(○は1つ)
	n=435
1 知っている	52.2%
2 知らない	47.6%
3 (無回答)	0.2%

<図IV-11-1>全体



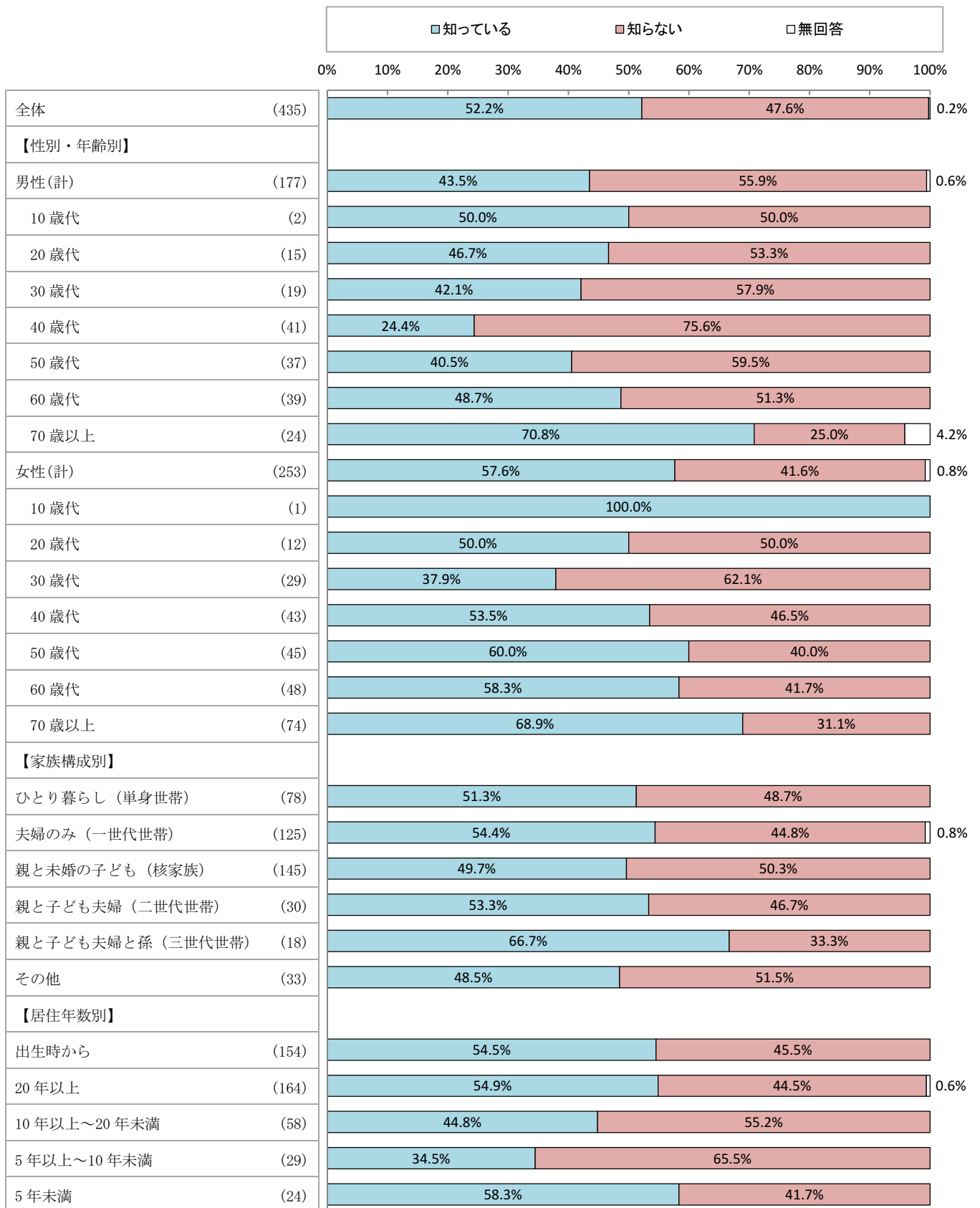
「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことに関する認知度については、「知っている」が52.2%、一方、「知らない」は47.6%であった。(図IV-11-1)

性別・年齢別でみると、「知っている」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が70.8%であった。一方、「知らない」は<男性/40歳代>が75.6%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が62.1%であった。(図IV-11-2)

家族構成別でみると、「知っている」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が66.7%で最も高かった。一方、「知らない」は<その他>を除くと、<親と未婚の子ども(核家族)>が50.3%で最も高かった。(図IV-11-2)

居住年数別でみると、「知っている」は<5年未満>が58.3%で最も高かった。一方、「知らない」は<5年以上~10年未満>が65.5%で最も高かった。(図IV-11-2)

<図IV-11-2>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別



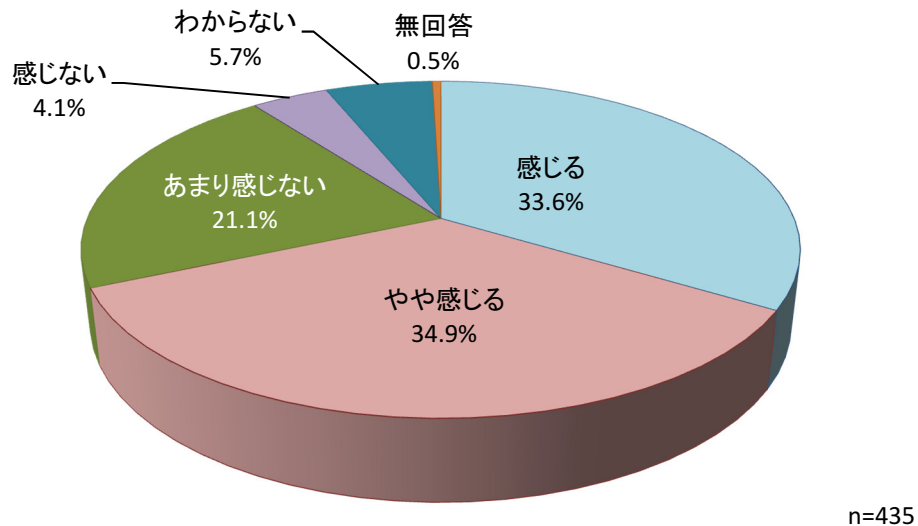


(2) 「大谷石文化」を誇りに感じるか

◇ 「感じる」と「やや感じる」を合わせた【感じる(計)】が約7割

問45 宇都宮市の暮らしに息づいている「大谷石文化」を誇りに感じますか。(○は1つ)		n=435
1	感じる	33.6%
2	やや感じる	34.9%
3	あまり感じない	21.1%
4	感じない	4.1%
5	わからない	5.7%
	(無回答)	0.5%

<図IV-11-3>全体



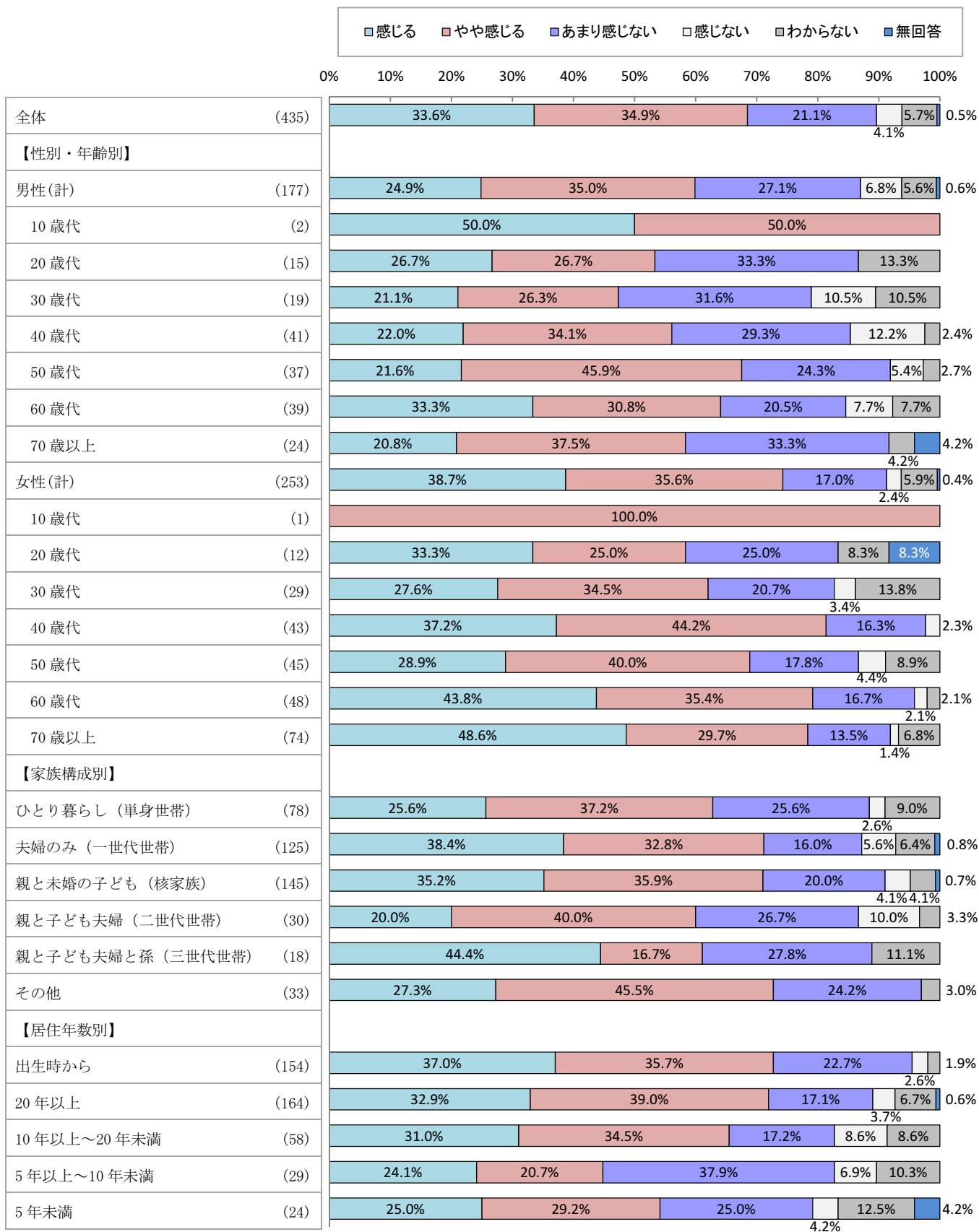
「大谷石文化」を誇りに感じるかについては、「感じる」が 33.6%、「やや感じる」が 34.9%で、これらを合わせた【感じる(計)】が 68.5%であった。一方、「感じない」4.1%、「あまり感じない」21.1%で、これらを合わせた【感じない(計)】は 25.2%であった。(図IV-11-3)

性別・年齢別でみると、【感じる(計)】は<男性/30歳代>47.4%を除く性・年代が約5割を超えている。一方、【感じない(計)】は<男性/30歳代>42.1%、<男性/40歳代>41.5%を除く性・年代では3割半ば以下であった。(図IV-11-4)

家族構成別でみると、【感じる(計)】は<その他>を除くと、<夫婦のみ(一世代世帯)>で 71.2%が最も高かった。一方、【感じない(計)】は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>で 36.7%が最も高かった。(図IV-11-4)

居住年数別でみると、【感じる(計)】は<出生時から>で 72.7%が最も高かった。一方、【感じない(計)】は<5年以上~10年未満>で 44.8%が最も高かった。(図IV-11-4)

<図IV-11-4>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別



## 12. 「まちづくり活動」への意識について

### (1) 「まちづくり活動」の参加状況

#### ◇ 「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」が3割弱

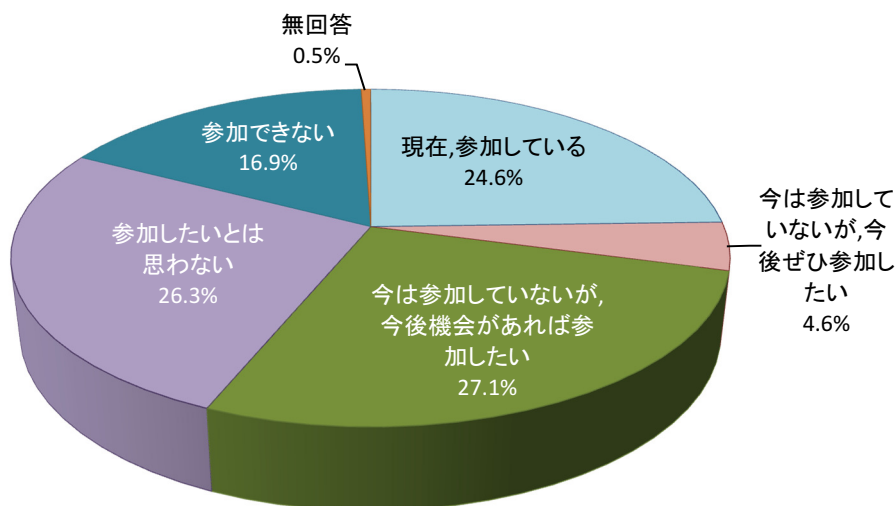
問46 あなたの「まちづくり活動」の参加状況について教えてください。

(○は1つ)

n=391

1	現在,参加している	24.6%
2	今は参加していないが,今後ぜひ参加したい	4.6%
3	今は参加していないが,今後機会があれば参加したい	27.1%
4	参加したいとは思わない	26.3%
5	参加できない	16.9%
	(無回答)	0.5%

<図IV-12-1>全体



n=391

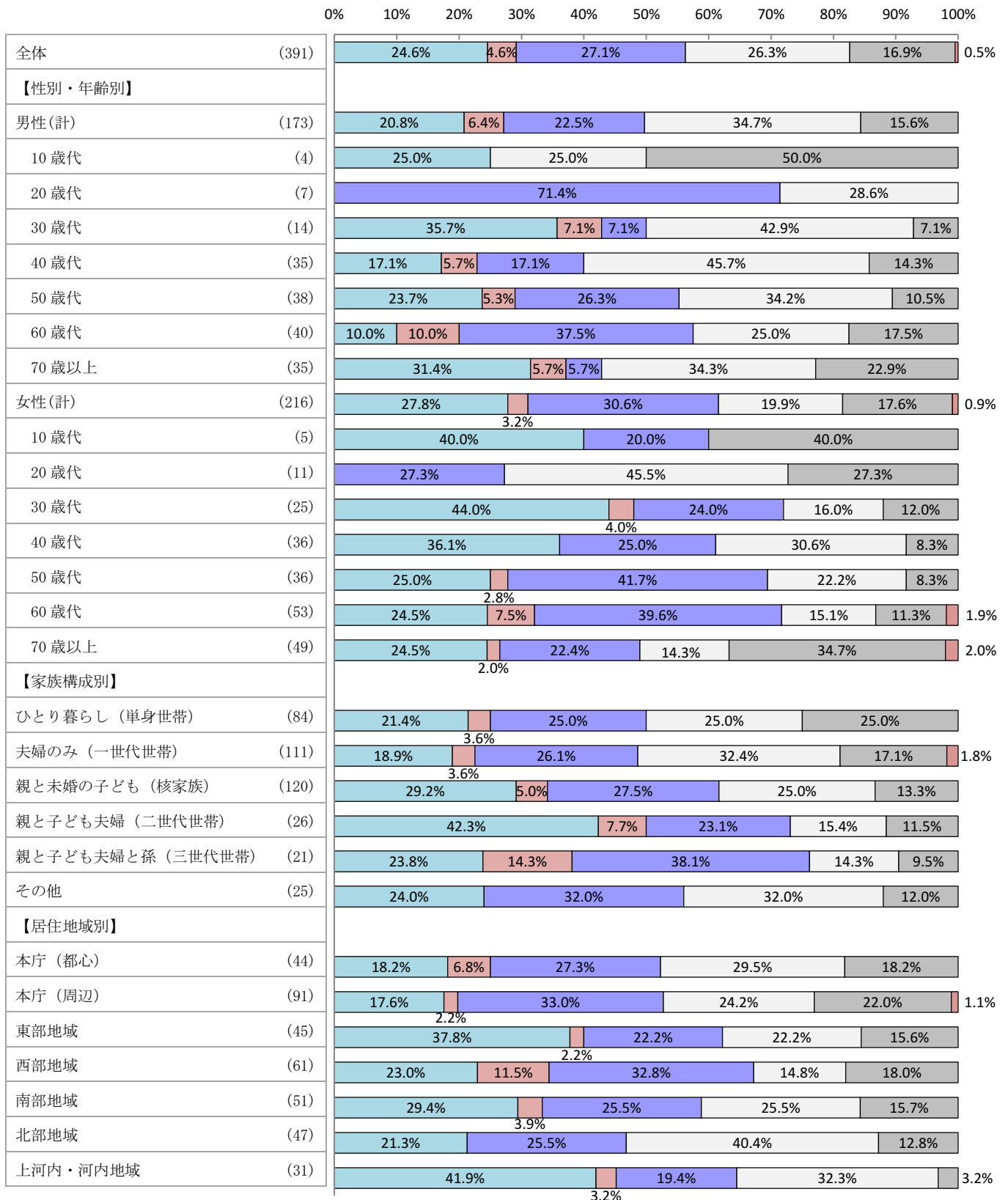
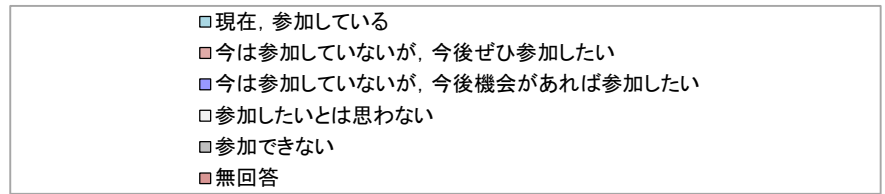
「まちづくり活動」の参加状況については、「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」が27.1%で最も高く、次いで「参加したいとは思わない」が26.3%、「現在、参加している」が24.6%と続いている。(図IV-12-1)

性別・年齢別でみると、「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」は<男性/20歳代>が71.4%で最も高かった。「参加したいとは思わない」は<女性/20歳代>が45.5%で最も高かった(図IV-12-2)

家族構成別でみると、「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が38.1%で最も高かった。「参加したいとは思わない」は<夫婦のみ(一世帯世帯)>が32.4%で最も高かった。(図IV-12-2)

居住地域別でみると、「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」は<本庁(周辺)>が33.0%で最も高かった。「参加したいとは思わない」は<北部地域>が40.4%で最も高かった。(図IV-12-2)

<図IV-12-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

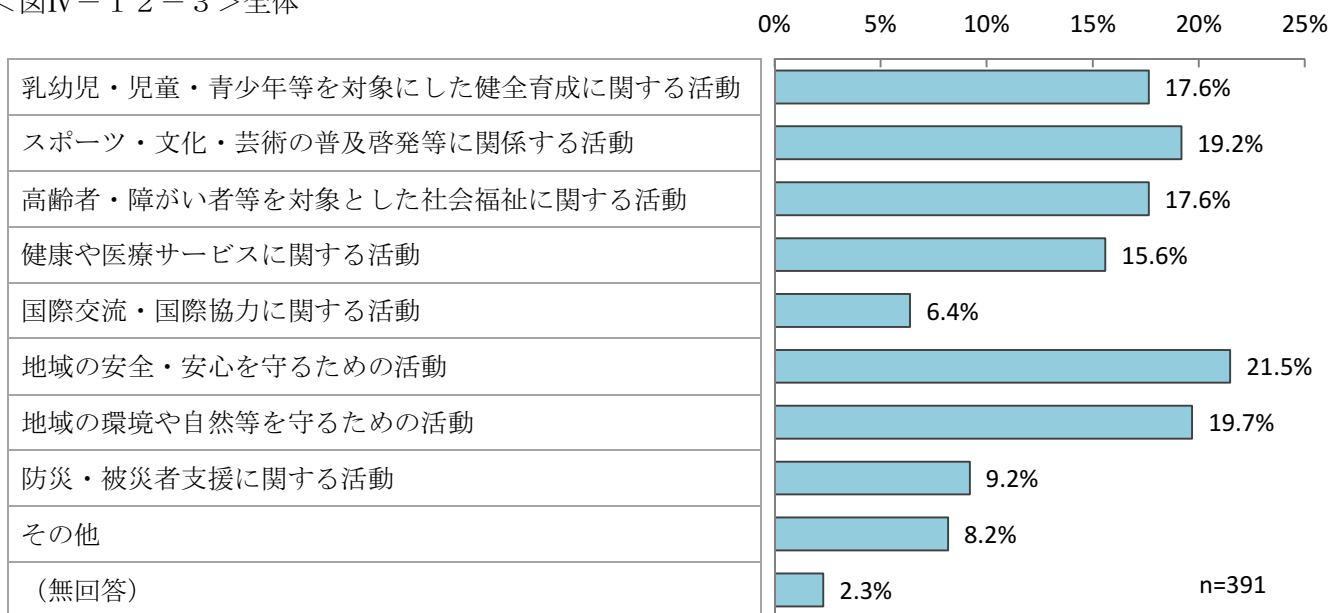


## (2) 参加中または興味があるまちづくり活動の種類

### ◇ 「地域の安全・安心を守るための活動」が2割強

問47 あなたはどのような種類のまちづくり活動に参加していますか,または興味がありますか。 (〇はいくつでも)		n=391
1	乳幼児・児童・青少年等を対象にした健全育成に関する活動	17.6%
2	スポーツ・文化・芸術の普及啓発等に関する活動	19.2%
3	高齢者・障がい者等を対象とした社会福祉に関する活動	17.6%
4	健康や医療サービスに関する活動	15.6%
5	国際交流・国際協力に関する活動	6.4%
6	地域の安全・安心を守るための活動	21.5%
7	地域の環境や自然等を守るための活動	19.7%
8	防災・被災者支援に関する活動	9.2%
9	その他	8.2%
	(無回答)	2.3%

<図IV-12-3>全体



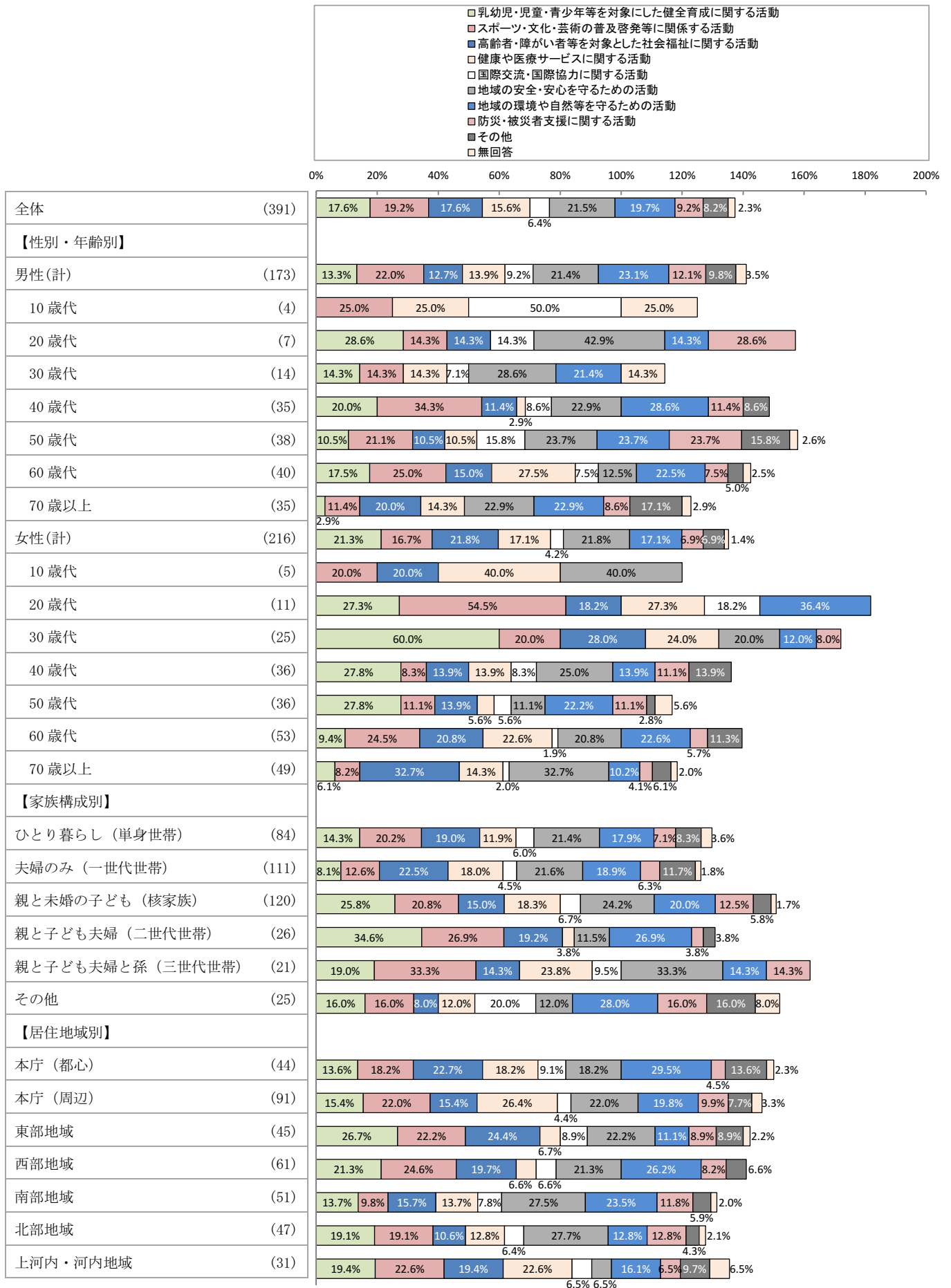
どのような種類のまちづくり活動に参加しているか、または興味があるかについては、「地域の安全・安心を守るための活動」が21.5%で最も高く、次いで「地域の環境や自然等を守るための活動」が19.7%、「スポーツ・文化・芸術の普及啓発等に関する活動」が19.2%と続いている。(図IV-12-3)

性別・年齢別でみると、「地域の安全・安心を守るための活動」は<男性/20歳代>が42.9%で最も高かった。「地域の環境や自然等を守るための活動」は<女性/20歳代>が36.4%で最も高かった(図IV-12-4)

家族構成別でみると、「地域の安全・安心を守るための活動」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>は33.3%で最も高かった。「地域の環境や自然等を守るための活動」は<その他>を除くと、<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が26.9%で最も高かった。(図IV-12-4)

居住地域別でみると、「地域の安全・安心を守るための活動」は<北部地域>が27.7%で最も高かった。「地域の環境や自然等を守るための活動」は<本庁(都心)>が29.5%で最も高かった。(図IV-12-4)

<図IV-12-4>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



(3) まちづくり活動に参加したいと思わない, または参加できない理由

◇ 「参加する事に興味や関心がない」が3割弱

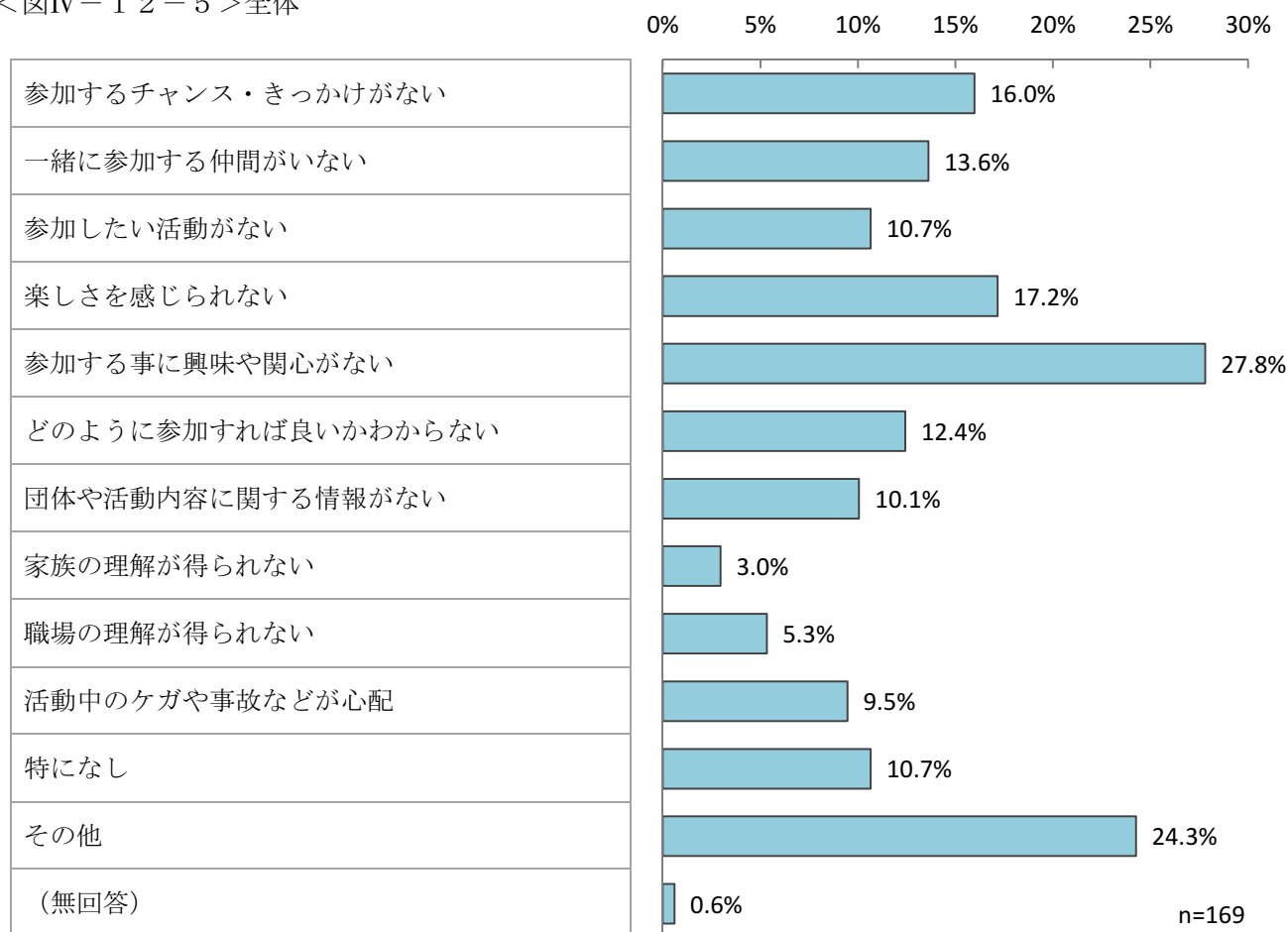
問4 8 問4 6でまちづくり活動に「4 参加したいと思わない」, 「5 参加できない」と回答した方にお伺いします。参加したいと思わない, または参加できない理由はなんですか。

(○はいくつでも)

n=169

1	参加するチャンス・きっかけがない	16.0%
2	一緒に参加する仲間がない	13.6%
3	参加したい活動がない	10.7%
4	楽しさを感じられない	17.2%
5	参加する事に興味や関心がない	27.8%
6	どのように参加すれば良いかわからない	12.4%
7	団体や活動内容に関する情報がない	10.1%
8	家族の理解が得られない	3.0%
9	職場の理解が得られない	5.3%
10	活動中のケガや事故などが心配	9.5%
11	特になし	10.7%
12	その他	24.3%
	(無回答)	0.6%

<図IV-12-5>全体



どのような種類のまちづくり活動に参加しているか、または興味があるかについては、「参加する事に興味や関心がない」が27.8%で最も高く、次いで「その他」が24.3%、「楽しさを感じられない」が17.2%と続いている。(図IV-12-5)

性別・年齢別でみると、「参加する事に興味や関心がない」は<女性/50歳代>が63.6%で最も高かった。「楽しさを感じられない」は<男性/20歳代><女性/10歳代>が50.0%で最も高かった(図IV-12-6)

家族構成別でみると、「参加する事に興味や関心がない」は<ひとり暮らし(単身世帯)>が31.0%で最も高かった。「楽しさを感じられない」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が28.6%で最も高かった。(図IV-12-6)

居住地域別でみると、「参加する事に興味や関心がない」は<東部地域>が41.2%で最も高かった。「楽しさを感じられない」は<上河内・河内地域>が27.3%で最も高かった。(図IV-12-6)



<図IV-12-6>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

- 参加するチャンス・きっかけがない
- 参加したい活動がない
- 参加する事に興味や関心がない
- 団体や活動内容に関する情報がない
- 職場の理解が得られない
- 特になし
- 無回答
- 一緒に参加する仲間がない
- 楽しさを感じられない
- どのように参加すれば良いかわからない
- 家族の理解が得られない
- 活動中のケガや事故などが心配
- その他



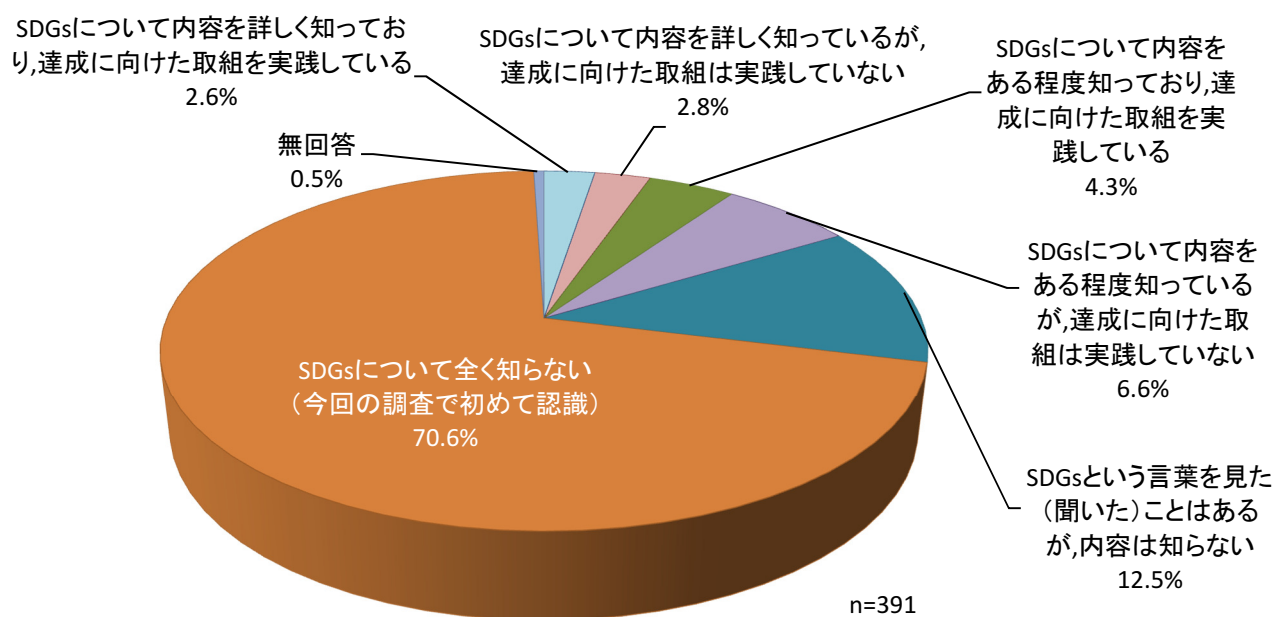
### 1.3. 「SDGs」(エス・ディー・ジーズ) について

#### (1) 「SDGs」についての認知度

#### ◇ 「SDGs」について全く知らない(今回の調査で初めて認識)」が約7割

問49	あなたはSDGs(エス・ディー・ジーズ)について知っていますか。(○は1つ)	n=391
1	SDGsについて内容を詳しく知っており,達成に向けた取組を実践している	2.6%
2	SDGsについて内容を詳しく知っているが,達成に向けた取組は実践していない	2.8%
3	SDGsについて内容をある程度知っており,達成に向けた取組を実践している	4.3%
4	SDGsについて内容をある程度知っているが,達成に向けた取組は実践していない	6.6%
5	SDGsという言葉を見た(聞いた)ことはあるが,内容は知らない	12.5%
6	SDGsについて全く知らない(今回の調査で初めて認識)	70.6%
	(無回答)	0.5%

<図IV-13-1>全体



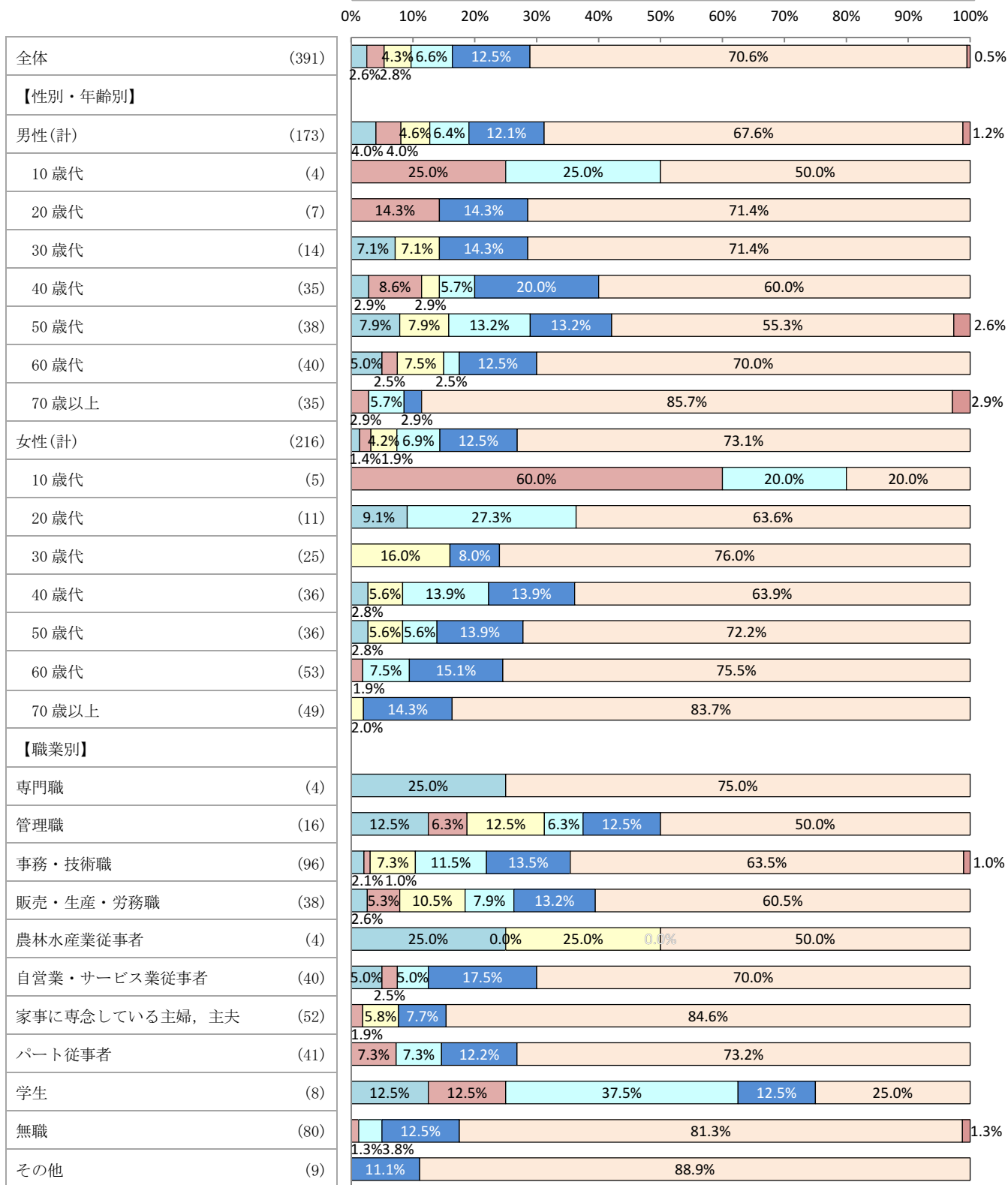
「SDGs」の認知度については、「SDGsについて全く知らない(今回の調査で初めて認識)」が70.6%で最も高く、次いで「SDGsという言葉を見た(聞いた)ことはあるが、内容は知らない」12.5%、「SDGsについて内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」6.6%と続いている(図IV-13-1)

性別・年齢別でみると、「SDGsについて全く知らない(今回の調査で初めて認識)」は<男性/70歳以上>が85.7%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が83.7%であった。「SDGsという言葉を見た(聞いた)ことはあるが、内容は知らない」は<男性/40歳代>が20.0%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が15.1%であった。(図IV-13-2)

職業別でみると、「SDGsについて全く知らない(今回の調査で初めて認識)」は<その他>を除くと、<家事に専念している主婦,主夫>が84.6%で最も高かった。「SDGsという言葉を見た(聞いた)ことはあるが、内容は知らない」は<自営業・サービス業従事者>が17.5%で最も高かった。(図IV-13-2)

<図IV-13-2>性別・年齢別／職業別

- SDGsについて内容を詳しく知っており、達成に向けた取組を実践している
- SDGsについて内容を詳しく知っているが、達成に向けた取組は実践していない
- SDGsについて内容をある程度知っており、達成に向けた取組を実践している
- SDGsについて内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない
- SDGsという言葉を見た(聞いた)ことがあるが、内容は知らない
- SDGsについて全く知らない(今回の調査で初めて認識)
- 無回答



## (2) SDGsについて知っている内容

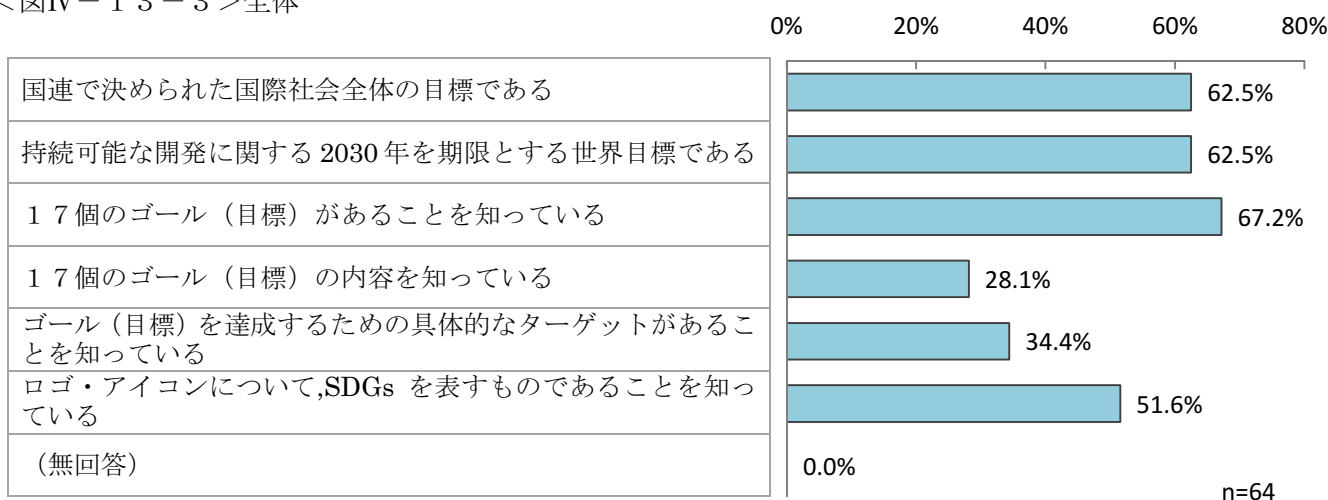
### ◇「17個のゴール(目標)があることを知っている」が7割弱

問50	問49で、「1 SDGsについて内容を詳しく知っており、達成に向けた取組を実践している」、「2 SDGsについて内容を詳しく知っているが、達成に向けた取組は実践していない」、「3 SDGsについて内容をある程度知っており、達成に向けた取組を実践している」、「4 SDGsについて内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」と答えた方にお聞きします。SDGsについて、知っている内容をお答えください。(〇はいくつでも)	n=64
1	国連で決められた国際社会全体の目標である	62.5%
2	持続可能な開発に関する2030年を期限とする世界目標である	62.5%
3	17個のゴール(目標)があることを知っている	67.2%
4	17個のゴール(目標)の内容を知っている	28.1%
5	ゴール(目標)を達成するための具体的なターゲットがあることを知っている	34.4%
6	ロゴ・アイコンについて、SDGsを表すものであることを知っている	51.6%
	(無回答)	0.0%

【参考】



<図IV-13-3>全体

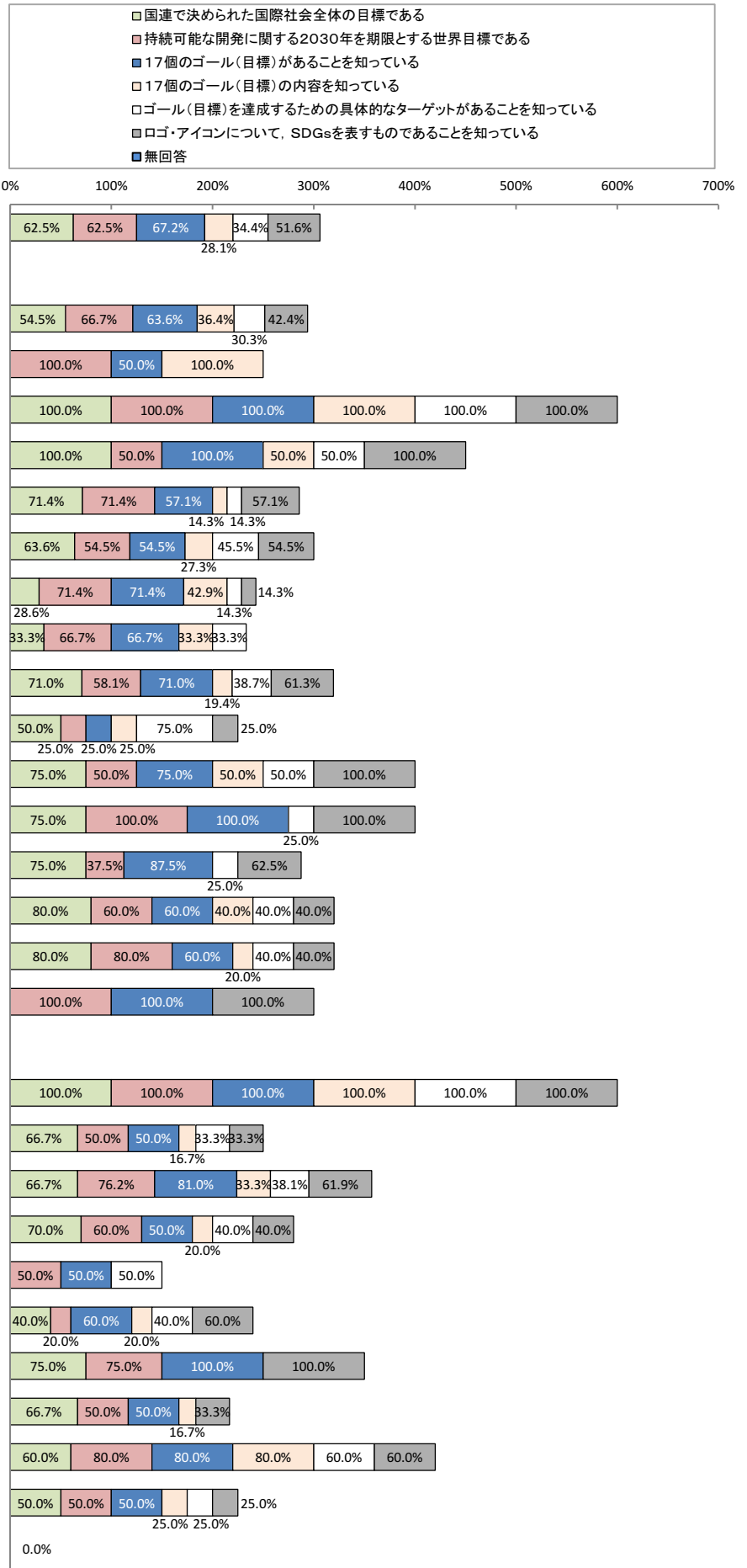


SDGsについて知っている内容については、「17個のゴール(目標)があることを知っている」が67.2%で最も高く、次いで「国連で決められた国際社会全体の目標である」と「持続可能な開発に関する2030年を期限とする世界目標である」が62.5%で続いている。(図IV-13-3)

性別・年齢別でみると、「17個のゴール(目標)があることを知っている」は<男性/20歳代><男性/30歳代><女性/30歳以上>が100.0%で最も高く、次いで<女性/40歳代>が87.5%であった。(図IV-13-4)

職業別でみると、「17個のゴール(目標)があることを知っている」は<専門職><家事に専念している主婦、主夫>が100.0%で最も高く、次いで<事務・技術職>が81.0%であった。(図IV-13-4)

<図IV-13-4>性別・年齢別／職業別

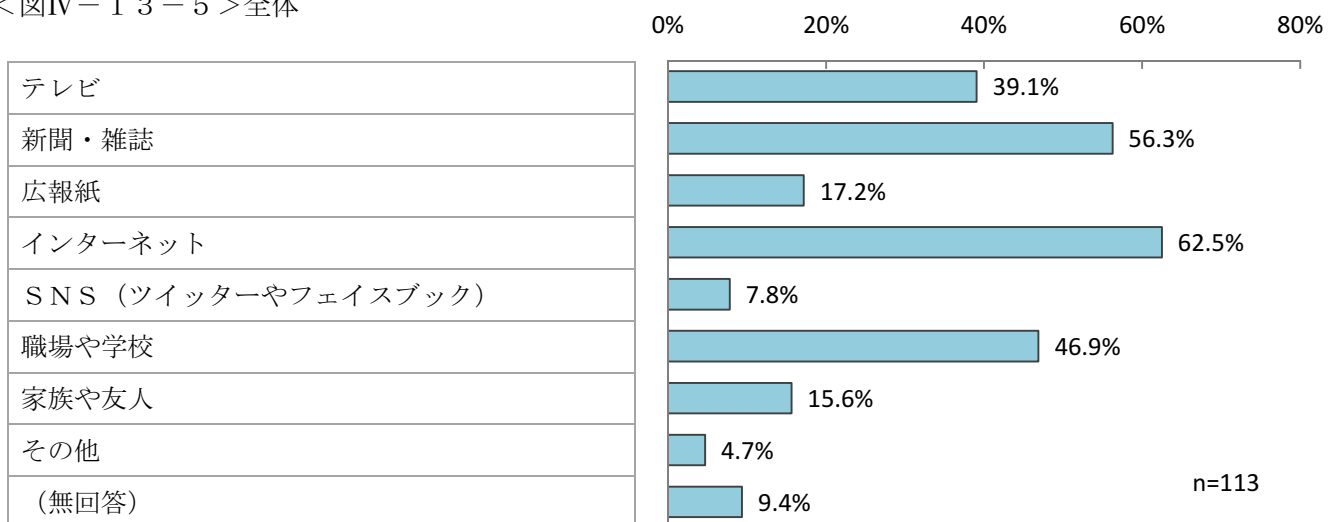


### (3) SDGsについて知った手段

#### ◇「インターネット」が6割強

問5 1	問4 9で、「1 SDGsについて内容を詳しく知っており、達成に向けた取組を実践している」、「2 SDGsについて内容を詳しく知っているが、達成に向けた取組は実践していない」、「3 SDGsについて内容をある程度知っており、達成に向けた取組を実践している」、「4 SDGsについて内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」、「5 SDGsという言葉を見た（聞いた）ことがあるが、内容は知らない」と答えた方にお聞きします。SDGsについて、どのようにして知りましたか。（〇はいくつでも）	n=113
1	テレビ	39.1%
2	新聞・雑誌	56.3%
3	広報紙	17.2%
4	インターネット	62.5%
5	SNS（ツイッターやフェイスブック等）	7.8%
6	職場や学校	46.9%
7	家族や友人	15.6%
8	その他	4.7%
	（無回答）	9.4%

<図IV-13-5>全体



SDGsについて知った手段については、「インターネット」が62.5%で最も高く、次いで「新聞・雑誌」56.3%、「職場や学校」が46.9%と続いている。（図IV-13-5）

性別・年齢別でみると、「インターネット」は<女性/10歳代>が75.0%で最も高く、次いで<男性/50歳代>が68.8%であった。一方、「新聞・雑誌」は<男性/70歳以上>が75.0%で最も高く、次いで<女性/40歳代>が53.8%であった。（図IV-13-6）

職業別でみると、「インターネット」は<専門職>が100.0%で最も高く、次いで<パート従事者>が54.5%であった。一方、「新聞・雑誌」は<専門職>が100.0%で最も高く、次いで<家事に専念している主婦、主夫><無職>が50.0%であった。（図IV-13-6）

<図IV-13-6>性別・年齢別／職業別



## 14. 男女共同参画について

### (1) 家事・育児・介護それぞれに費やした時間

※月曜日から土曜日は1日3時間程度(3時間×6日=18時間)、日曜日は1日2時間程度(2時間×1日=2時間)を費やしている場合、回答は「20時間」となります。また、育児、介護について、対象者がいない場合は、「対象者なし」に○を付けてください。

#### ◇ 「7時間以上21時間未満」が約4割

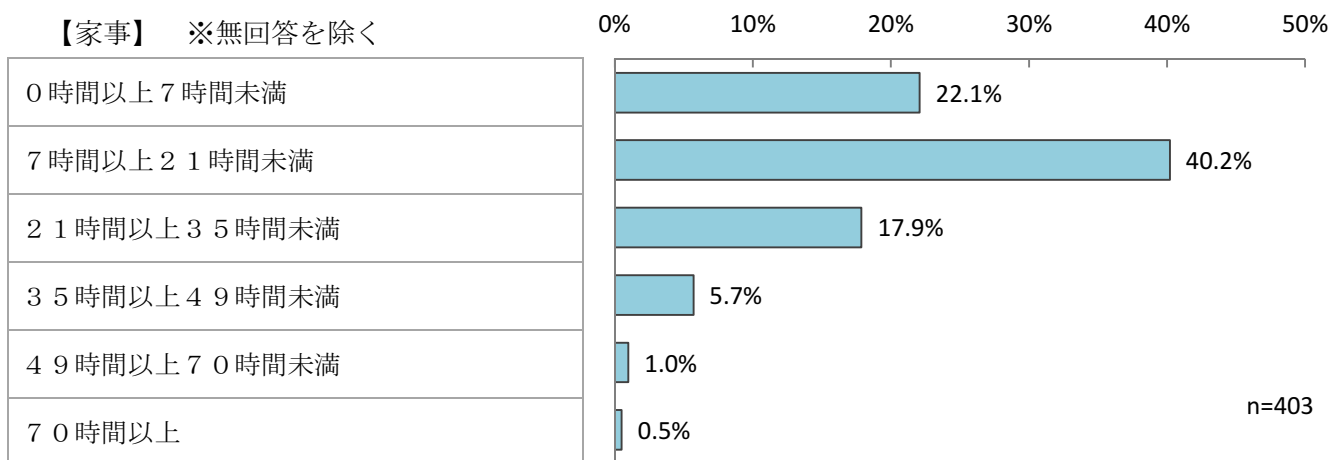
問52 1週間の生活の中で、家事・育児・介護におおよそどの程度の時間を費やしたかお答えください。

##### 【家事】

回答	割合	n=403
1 0時間以上7時間未満	22.1%	
2 7時間以上21時間未満	40.2%	
3 21時間以上35時間未満	17.9%	
4 35時間以上49時間未満	5.7%	
5 49時間以上70時間未満	1.0%	
6 70時間以上	0.5%	
(無回答)	12.7%	

<図IV-14-1>全体

【家事】 ※無回答を除く



家事に費やした時間については、「7時間以上21時間未満」が40.2%で最も高く、次いで「0時間以上7時間未満」が22.1%、「21時間以上35時間未満」が17.9%であった。(図IV-14-1)

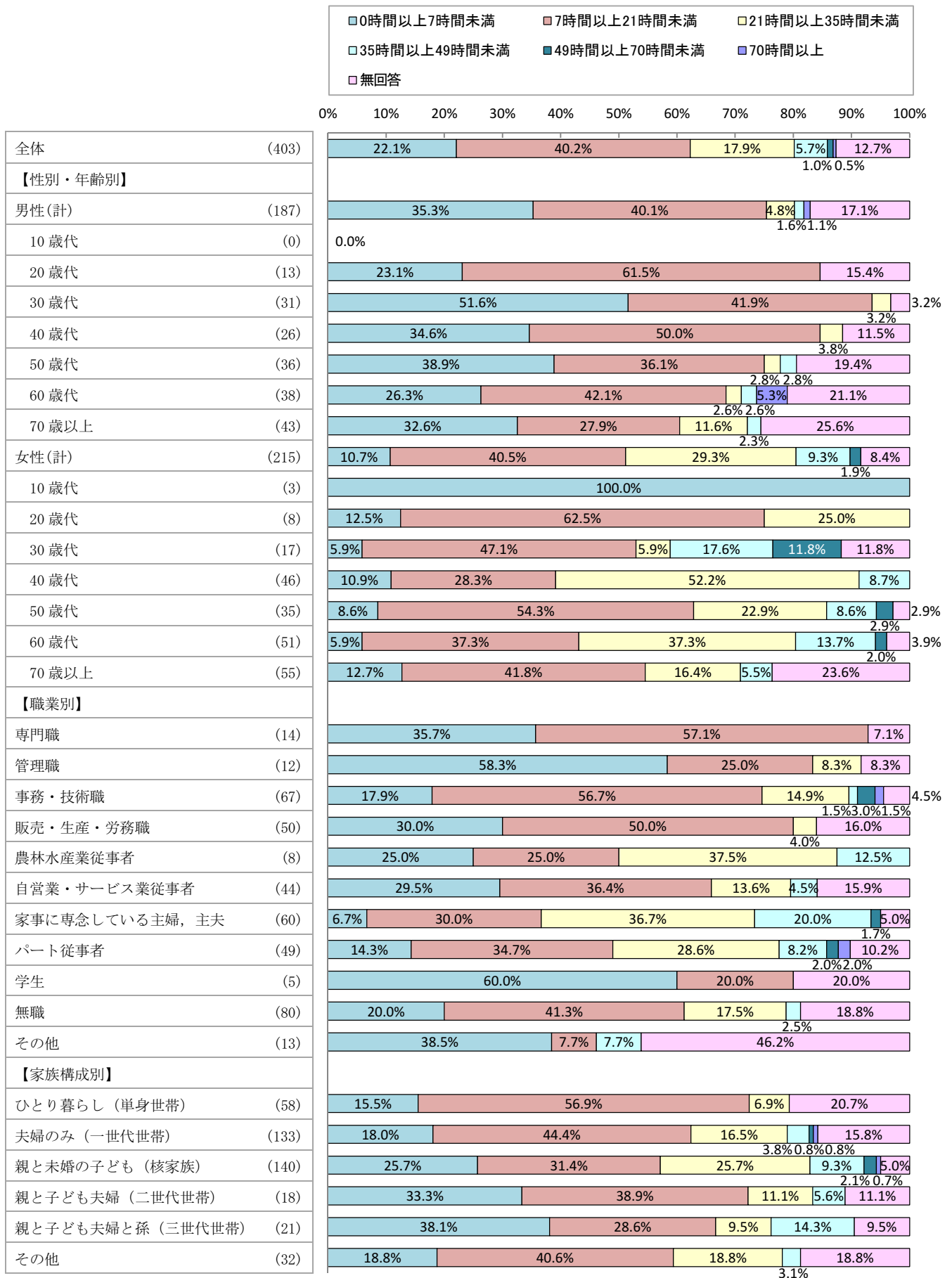
性別・年齢別で見ると、「7時間以上21時間未満」は<女性/20歳代>が62.5%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が61.5%であった。「0時間以上7時間未満」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<男性/30歳代>が51.6%であった。「21時間以上35時間未満」は<女性/40歳代>が52.2%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が37.3%であった(図IV-14-2)

職業別で見ると、「7時間以上21時間未満」は<専門職>が57.1%で最も高く、次いで<事務・技術職>が56.7%であった。「0時間以上7時間未満」は<学生>が60.0%で最も高く、次いで<管理職>が58.3%であった。「21時間以上35時間未満」は<農林水産業従事者>が37.5%で最も高かった。(図IV-14-2)

家族構成別で見ると、「7時間以上21時間未満」は<ひとり暮らし(単身世帯)>が56.9%で最も高かった。「0時間以上7時間未満」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯)>が38.1%で最も高かった。「21時間以上35時間未満」は<親と未婚の子ども(核家族)>が25.7%で最も高かった。(図IV-14-2)



<図IV-14-2>性別・年齢別／職業別／家族構成別

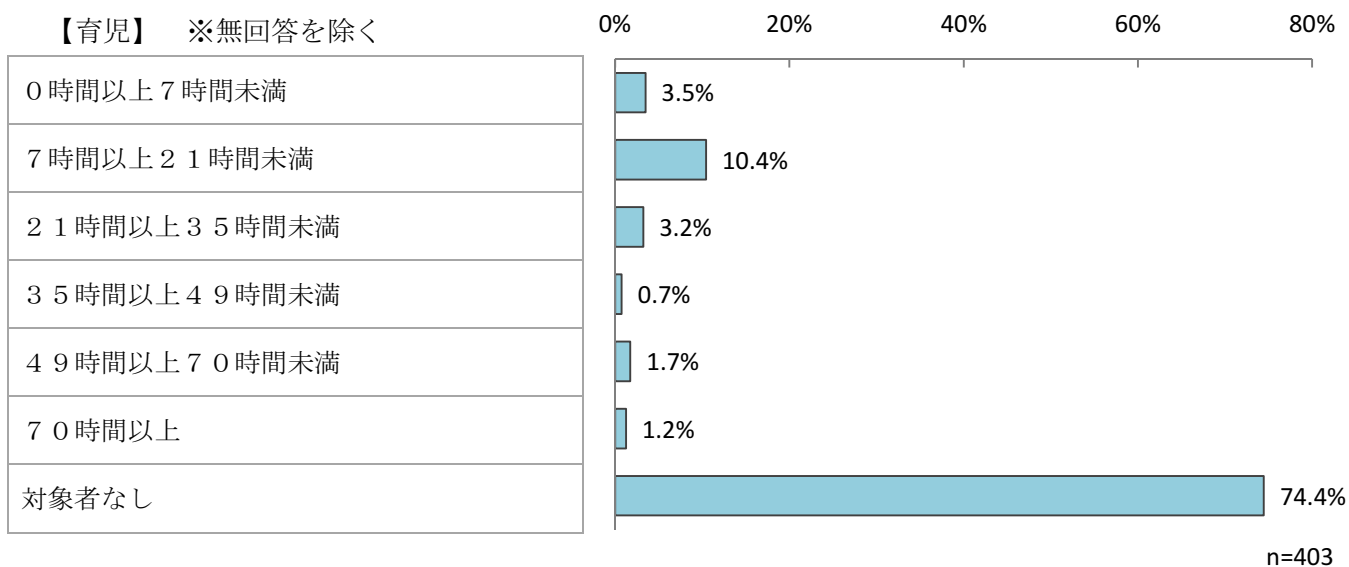


【育児】

		n=403
1	0時間以上7時間未満	3.5%
2	7時間以上21時間未満	10.4%
3	21時間以上35時間未満	3.2%
4	35時間以上49時間未満	0.7%
5	49時間以上70時間未満	1.7%
6	70時間以上	1.2%
7	対象者なし	74.4%
	(無回答)	4.7%

<図IV-14-3>全体

【育児】 ※無回答を除く



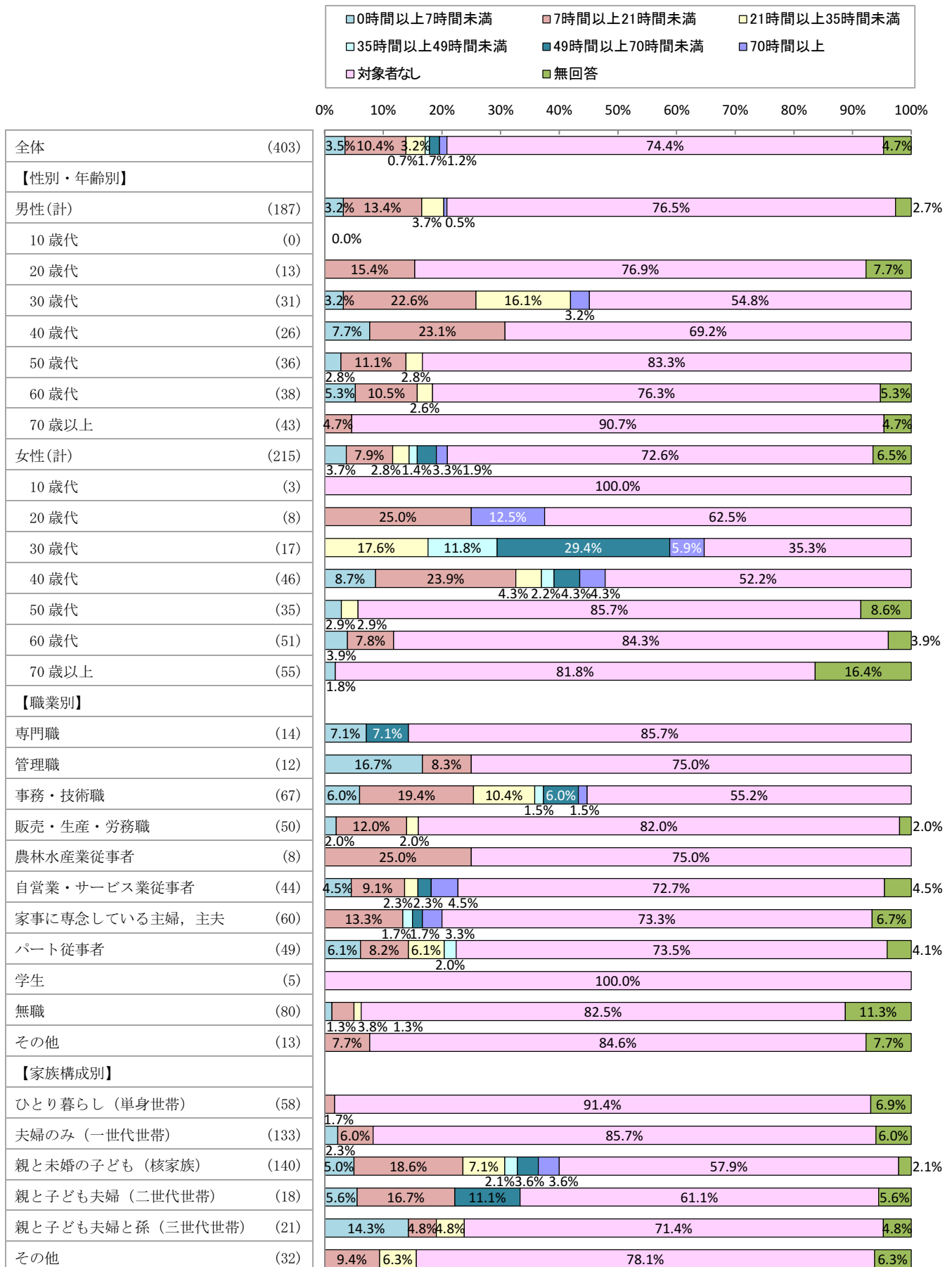
育児に費やした時間については、「対象者なし」が74.4%で最も高く、次いで「7時間以上21時間未満」が10.4%、「0時間以上7時間未満」が3.5%であった。(図IV-14-3)

性別・年齢別で見ると、「7時間以上21時間未満」は<女性/20歳代>が25.0%で最も高く、次いで<女性/40歳代>が23.9%であった。(図IV-14-4)

職業別で見ると、「7時間以上21時間未満」は<農林水産業従事者>が25.0%で最も高く、次いで<事務・技術職>が19.4%であった。(図IV-14-4)

家族構成別で見ると、「7時間以上21時間未満」は<親と未婚の子ども(核家族)>が18.6%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が16.7%であった。(図IV-14-4)

<図IV-14-4>性別・年齢別／職業別／家族構成別

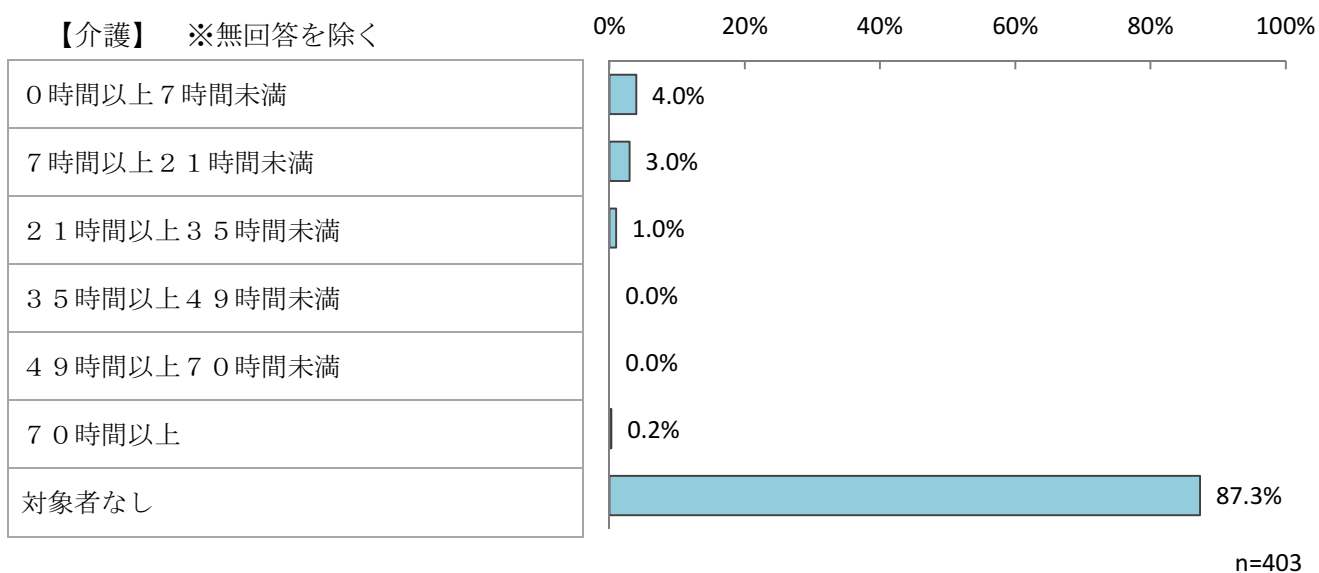


【介護】

		n=403
1	0時間以上7時間未満	4.0%
2	7時間以上21時間未満	3.0%
3	21時間以上35時間未満	1.0%
4	35時間以上49時間未満	0.0%
5	49時間以上70時間未満	0.0%
6	70時間以上	0.2%
7	対象者なし	87.3%
	(無回答)	4.5%

<図IV-14-5>全体

【介護】 ※無回答を除く



介護に費やした時間については、「対象者なし」が87.3%で最も高く、次いで「0時間以上7時間未満」が4.0%、「7時間以上21時間未満」が3.0%であった。(図IV-14-5)

性別・年齢別で見ると、「0時間以上7時間未満」は<女性/20歳代>が12.5%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が11.5%であった。(図IV-14-6)

職業別で見ると、「0時間以上7時間未満」は<農林水産業従事者>が12.5%で最も高く、次いで<管理職>が8.3%であった。(図IV-14-6)

家族構成別で見ると、「0時間以上7時間未満」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が9.5%で最も高く、次いで<その他>を除くと<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が5.6%であった。(図IV-14-6)

<図IV-14-6>性別・年齢別／職業別／家族構成別

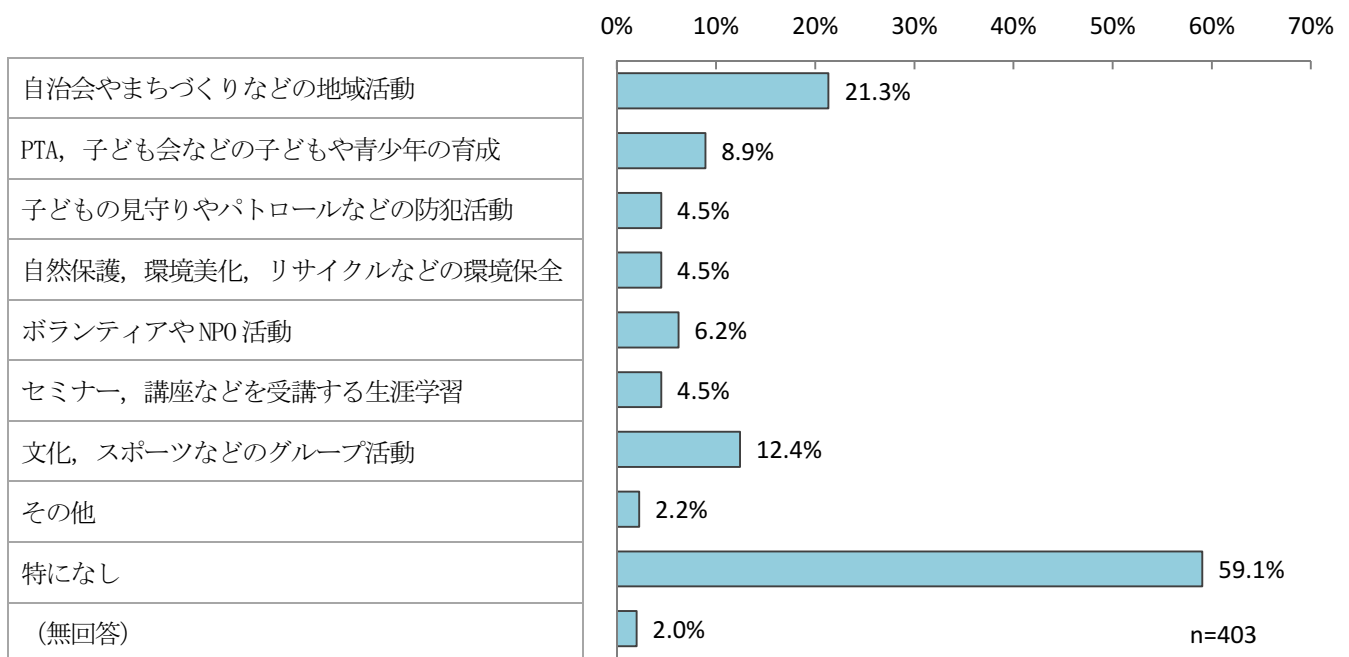


## (2) 社会的な活動の実施状況

### ◇ 「特になし」が約6割

問53	現在、地域などで社会的な活動を行なっていますか。	(○はいくつでも)
		n=403
1	自治会やまちづくりなどの地域活動	21.3%
2	PTA、子ども会などの子どもや青少年の育成	8.9%
3	子どもの見守りやパトロールなどの防犯活動	4.5%
4	自然保護、環境美化、リサイクルなどの環境保全	4.5%
5	ボランティアやNPO活動	6.2%
6	セミナー、講座などを受講する生涯学習	4.5%
7	文化、スポーツなどのグループ活動	12.4%
8	その他	2.2%
9	特になし	59.1%
	(無回答)	2.0%

<図IV-14-7>全体



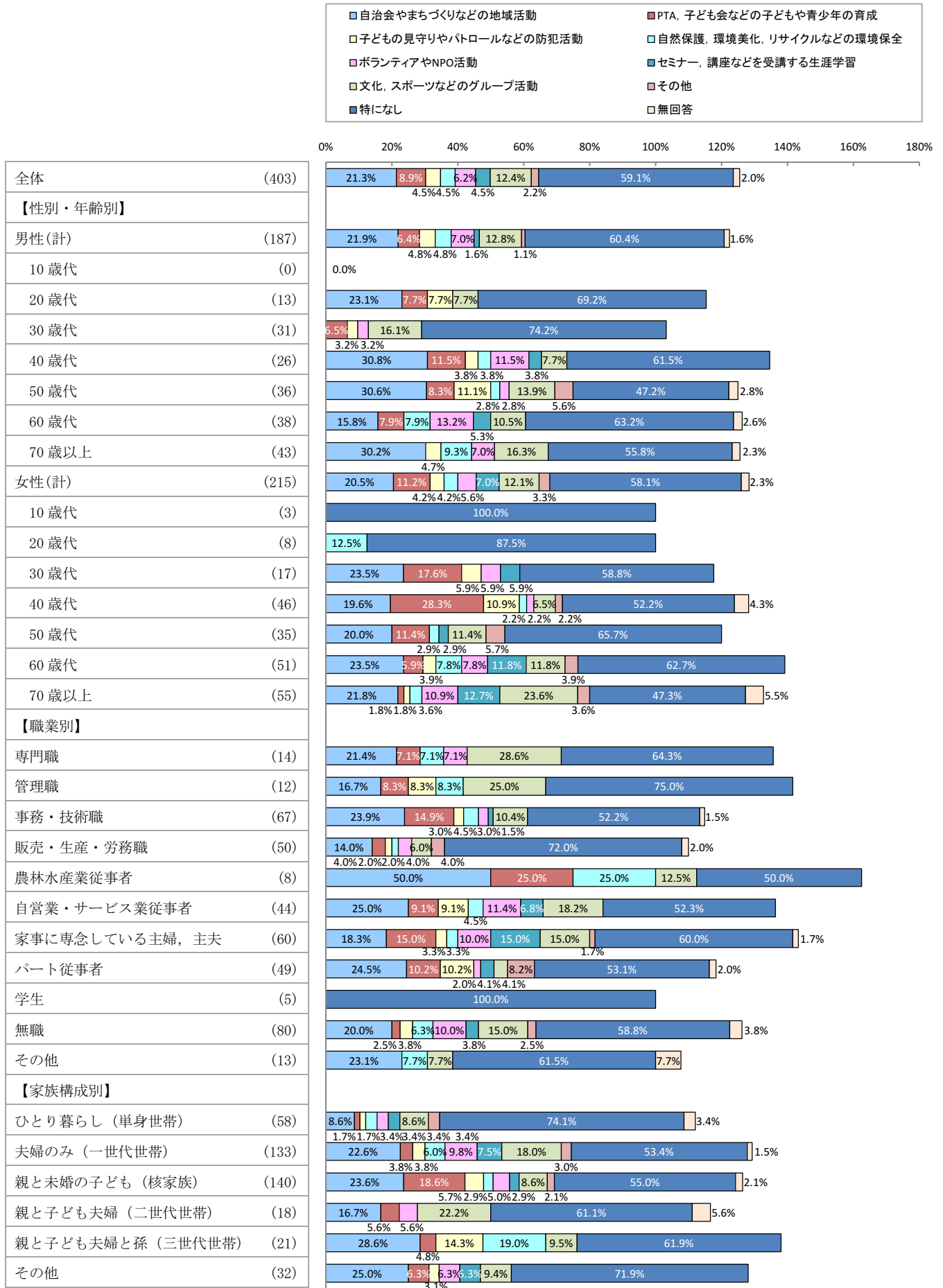
社会的な活動の実施状況については、「特になし」が59.1%で最も高く、次いで「自治会やまちづくりなどの地域活動」が21.3%、「文化、スポーツなどのグループ活動」が12.4%と続いている。(図IV-14-7)

性別・年齢別で見ると、「特になし」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/20歳代>が87.5%であった。「自治会やまちづくりなどの地域活動」は<男性/40歳代>が30.8%で最も高く、次いで<男性/50歳代>が30.6%であった。(図IV-14-8)

職業別で見ると、「特になし」は<学生>が100.0%で最も高く、次いで<管理職>が75.0%であった。「自治会やまちづくりなどの地域活動」は<農林水産業従事者>が50.0%で最も高く、次いで<自営業・サービス業従事者>が25.0%であった。(図IV-14-8)

家族構成別で見ると、「特になし」は<ひとり暮らし(単身世帯)>が74.1%で最も高かった。「自治会やまちづくりなどの地域活動」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が28.6%で最も高かった。(図IV-14-8)

<図IV-14-8>性別・年齢別／職業別／家族構成別



(3) 配偶者等からの暴力を受けた経験

◇ 「何度もあった」と「1, 2度あった」を合わせた【経験あり(計)】は、「心理的攻撃」が6.2%

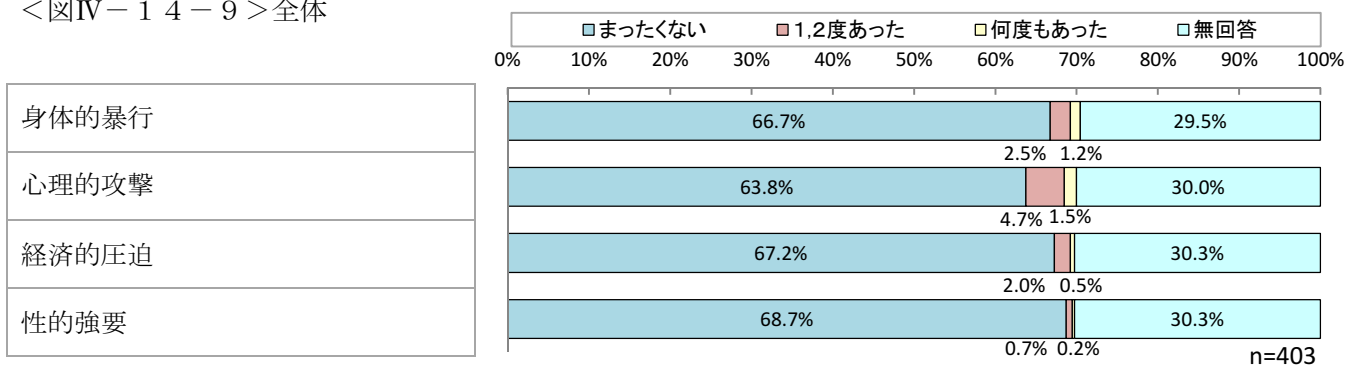
問54 過去1年間に配偶者から、次のような暴力を受けたことがありますか。

(それぞれ項目ごとに○は1つ)

n=403

	項目	まったく ない	1, 2度 あった	何度も あった	無回答
1	身体的暴行 (例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行)	66.7%	2.5%	1.2%	29.5%
2	心理的攻撃 (例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫)	63.8%	4.7%	1.5%	30.0%
3	経済的圧迫 (例えば、生活費を渡さない、給料や貯金を使われる、外で働くことを妨害されるなど)	67.2%	2.0%	0.5%	30.3%
4	性的強要 (例えば、嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど)	68.7%	0.7%	0.2%	30.3%

<図IV-14-9>全体



過去1年間に配偶者から、暴力を受けたことがあるかについて、「何度もあった」と「1, 2度あった」を合わせた【経験あり(計)】の割合は、「心理的攻撃」が6.2%で最も高く、次いで「身体的暴行」が3.7%、「経済的圧迫」が2.5%、「性的強要」が0.9%であった。(図IV-14-9)

さらに暴力の種類ごとに性別・年齢別でみると【経験あり(計)】が最も多かったのは、「心理的攻撃」で<男性/60歳代>が18.4%で最も高く、「身体的暴行」は<女性/30歳代>が17.6%、「経済的圧迫」は<男性/20歳代>が7.7%、「性的強要」は<男性/30歳代>が3.2%であった。(図IV-14-10~図IV-14-13)

暴力を受けたことがある(総合)について性別でみると、【経験あり(計)】は<男性>が3.7%、<女性>が3.0%で<男性>が高かった。性別・年齢別でみると、【経験あり(計)】は<女性/30歳代>が8.8%で最も高かった。(図IV-14-14 総合)

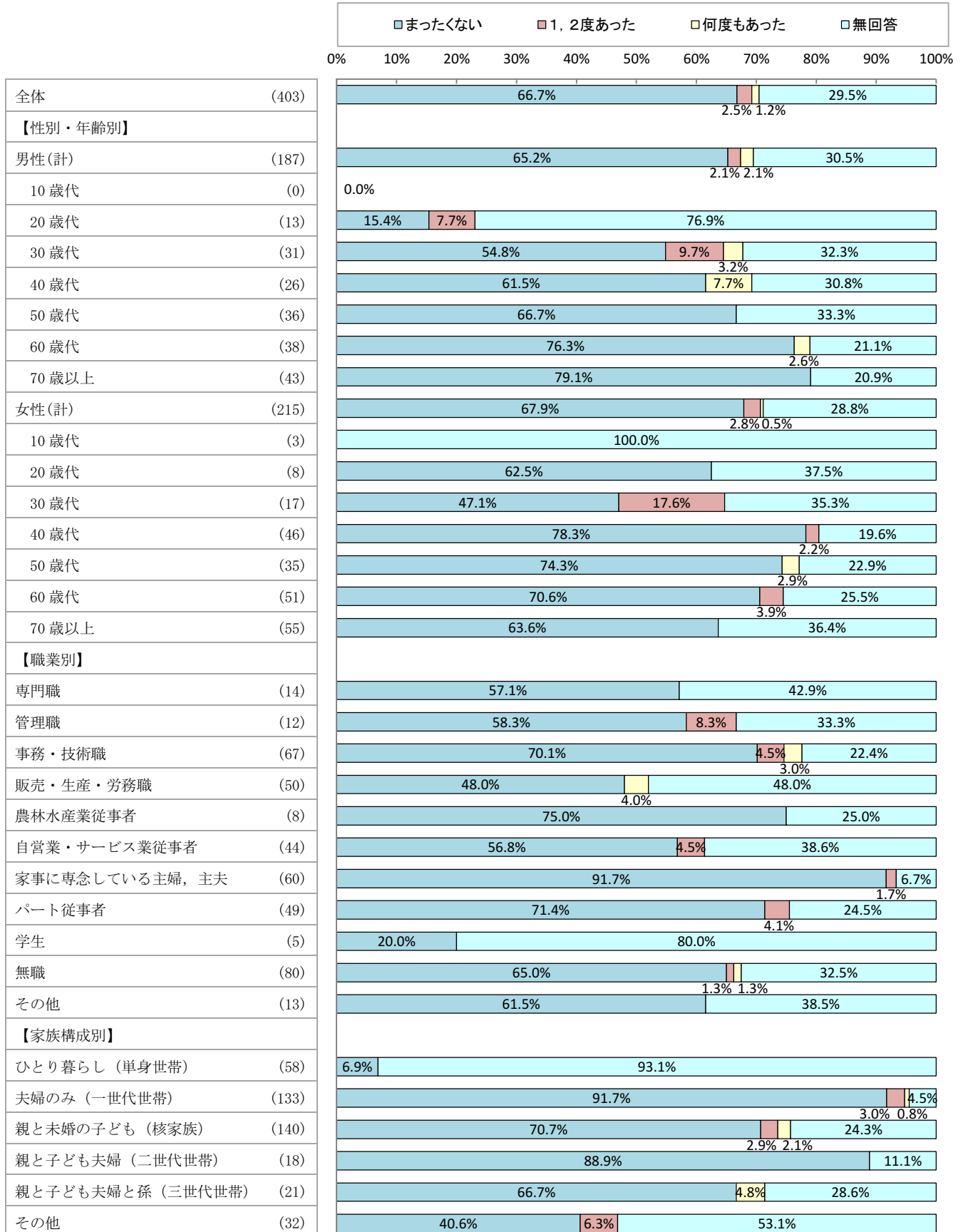
暴力を受けたことがある(総合)について職業別でみると、【経験あり(計)】は<管理職>が8.4%で最も高かった。(図IV-14-14 総合)

暴力を受けたことがある(総合)について家族構成別でみると、【経験あり(計)】は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が6.0%で最も高かった。(図IV-14-14 総合)



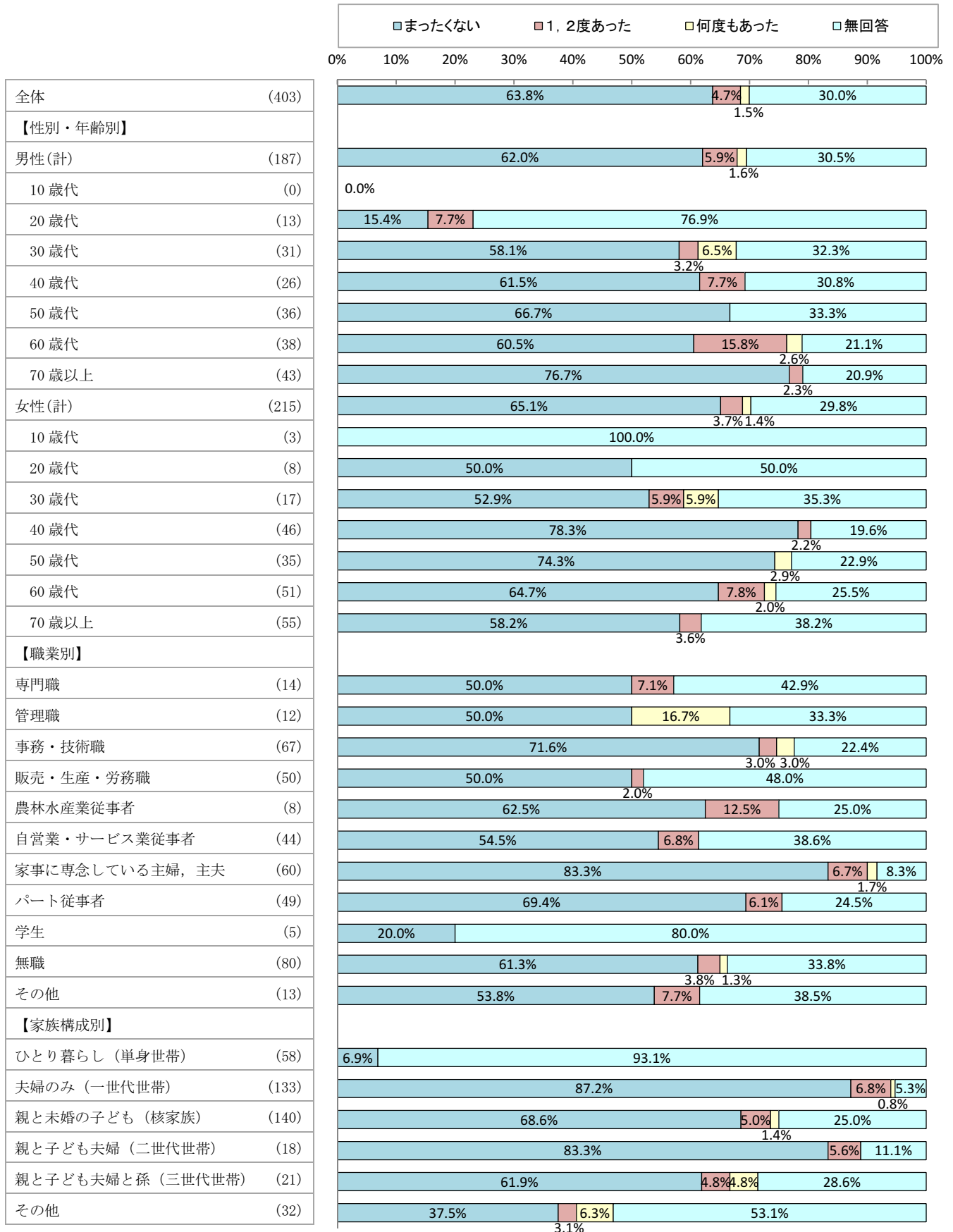
①身体的暴行

<図IV-14-10>性別・年齢別／職業別／家族構成別



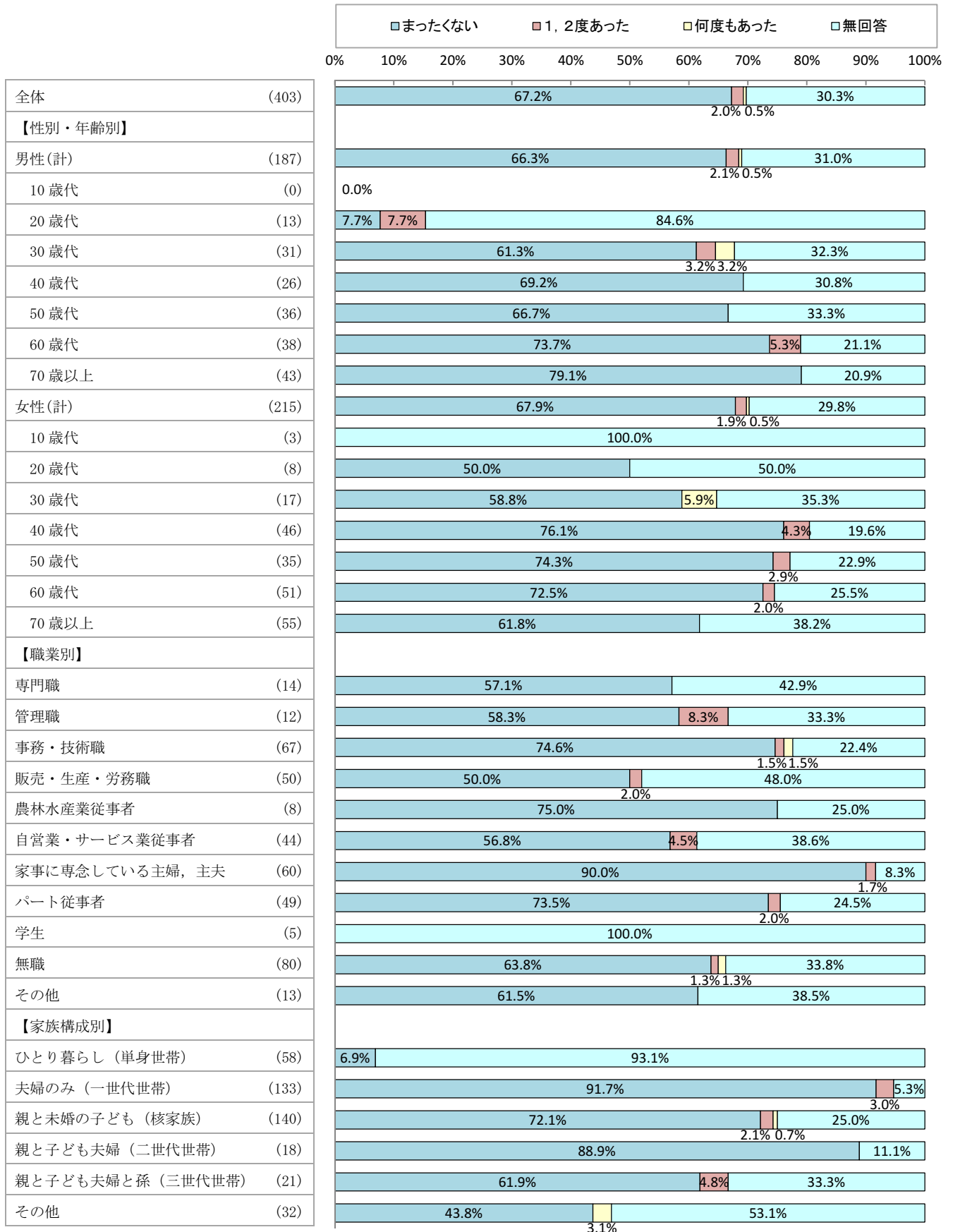
②心理的攻撃

<図IV-14-11>性別・年齢別／職業別／家族構成別



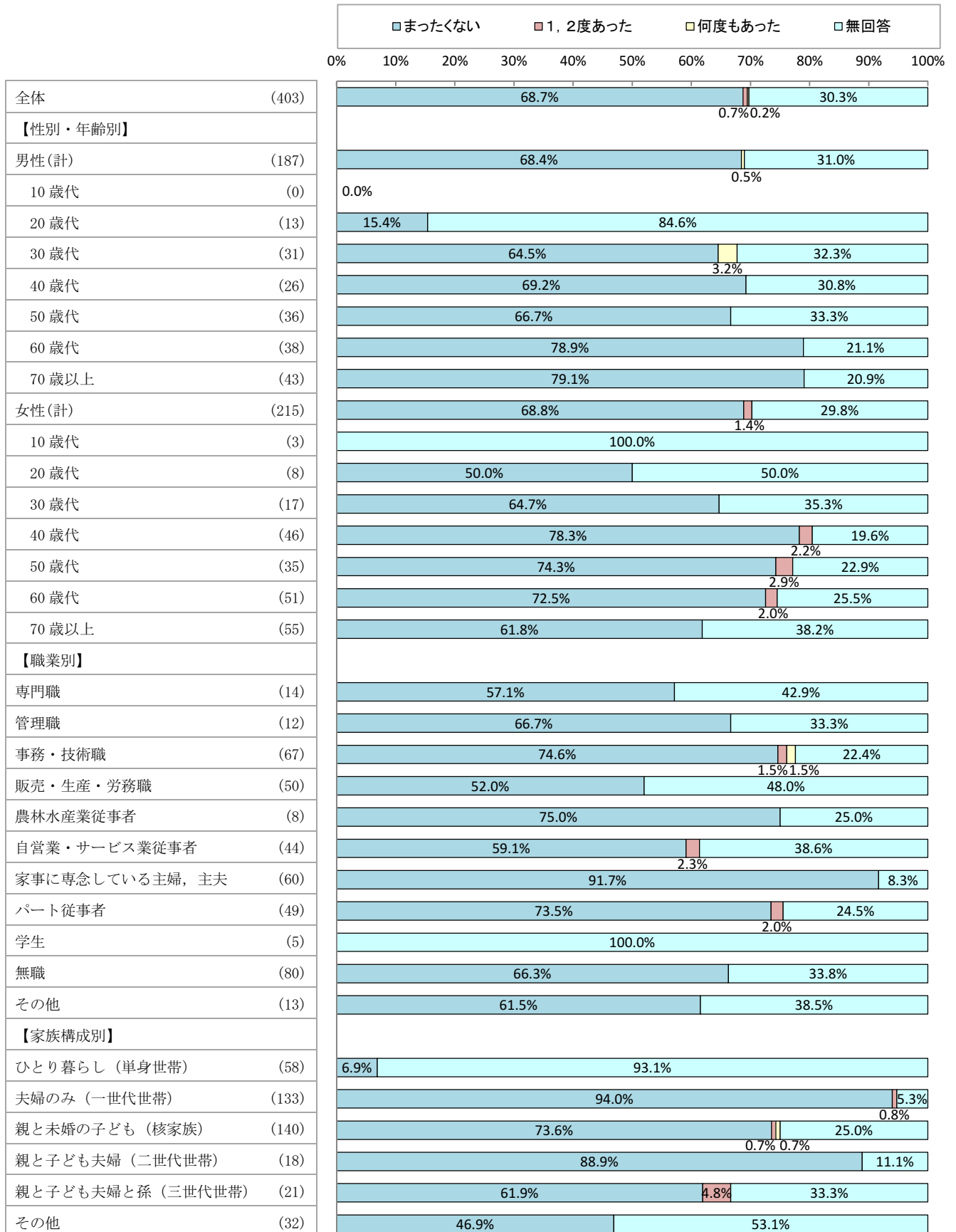
③経済的圧迫

<図IV-14-12>性別・年齢別／職業別／家族構成別



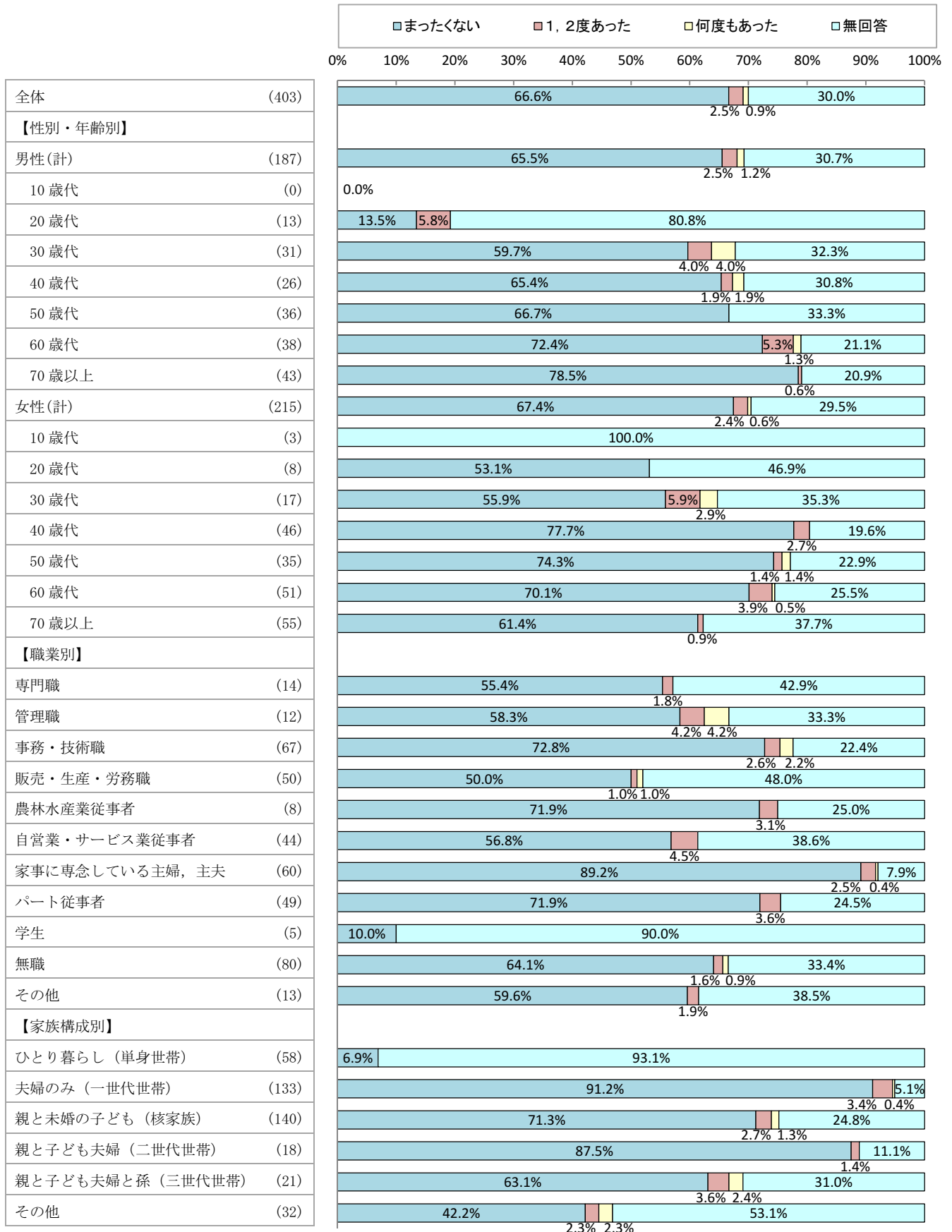
④性的強要

<図IV-14-13>性別・年齢別／職業別／家族構成別



⑤暴力を受けたことがある（総合）

<図Ⅳ－14－14>性別・年齢別／職業別／家族構成別

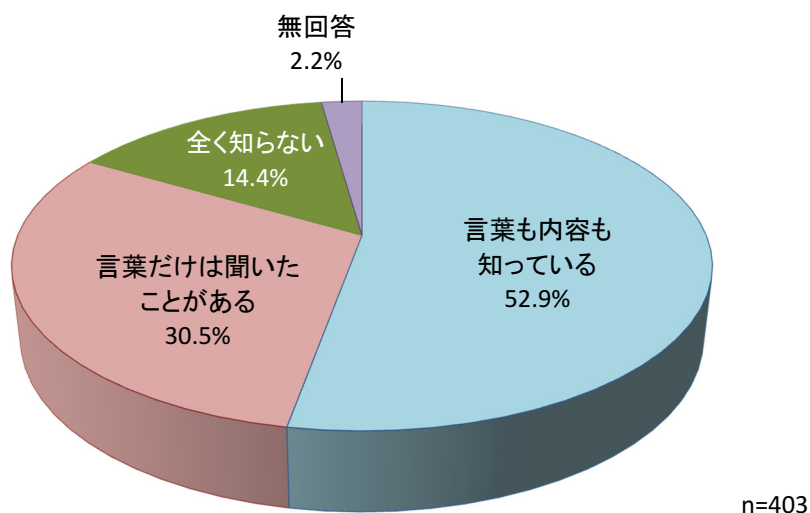


#### (4) LGBT (エルジービーティアー) の認知度

##### ◇ 「言葉も内容も知っている」が5割強

問55	LGBT (エルジービーティアー) ※という言葉について聞いたことがありますか。 ※L (レズビアン・女性同性愛者), G (ゲイ・男性同性愛者), B (バイセクシャル・両性愛者), T (トランスジェンダー・からだところの性が一致せず, 性別に違和感を覚える人) の4つの 単語の頭文字をとった言葉で, 性的マイノリティー (性的少数者) を表す総称のひとつ (○は1つ)	n=403
1	言葉も内容も知っている	52.9%
2	言葉だけは聞いたことがある	30.5%
3	全く知らない	14.4%
	(無回答)	2.2%

<図IV-14-15>全体



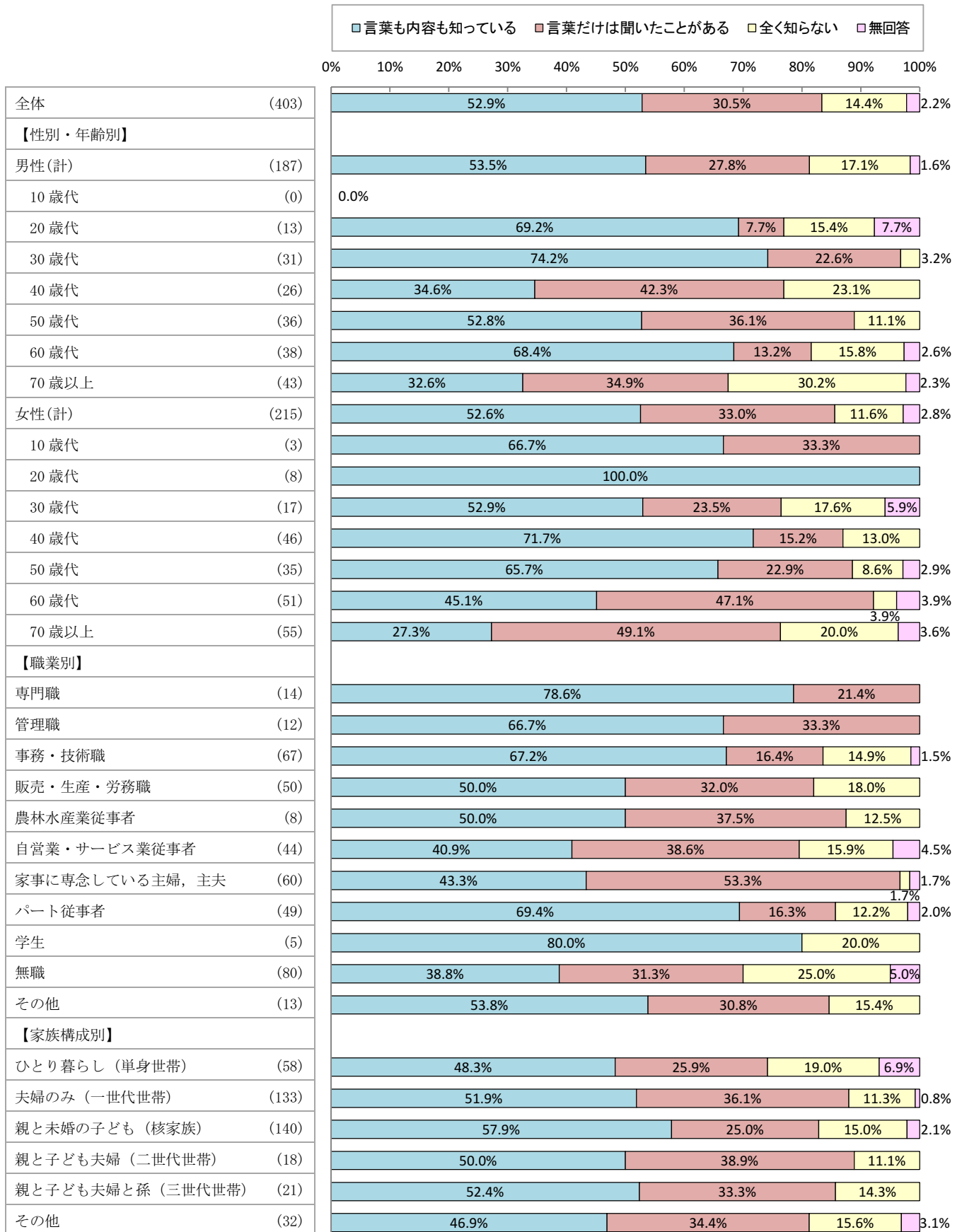
LGBT (エルジービーティアー) の認知度については、「言葉も内容も知っている」が 52.9% で最も高く、次いで「言葉だけは聞いたことがある」が 30.5%、「全く知らない」が 14.4% であった。(図IV-14-15)

性別・年齢別で見ると、「言葉も内容も知っている」は<女性/20歳代>が 100.0% で最も高く、次いで<男性/30歳代>が 74.2% であった。「言葉だけは聞いたことがある」は<女性/70歳以上>が 49.1% で最も高く、次いで<女性/60歳代>が 47.1% であった。(図IV-14-16)

職業別で見ると、「言葉も内容も知っている」は<学生>が 80.0% で最も高く、次いで<専門職>が 78.6% であった。「言葉だけは聞いたことがある」は<家事に専念している主婦, 主夫>が 53.3% で最も高く、次いで<自営業・サービス業従事者>が 38.6% であった。(図IV-14-16)

家族構成別で見ると、「言葉も内容も知っている」は<親と未婚の子ども(核家族)>が 57.9% で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が 52.4% であった。「言葉だけは聞いたことがある」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が 38.9% で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が 36.1% であった。(図IV-14-16)

<図IV-14-16>性別・年齢別／職業別／家族構成別



## 15. 雨水貯留・浸透施設の補助金制度について

### (1) 雨水貯留・浸透施設の認知度

#### ◇「知っている」が約4割

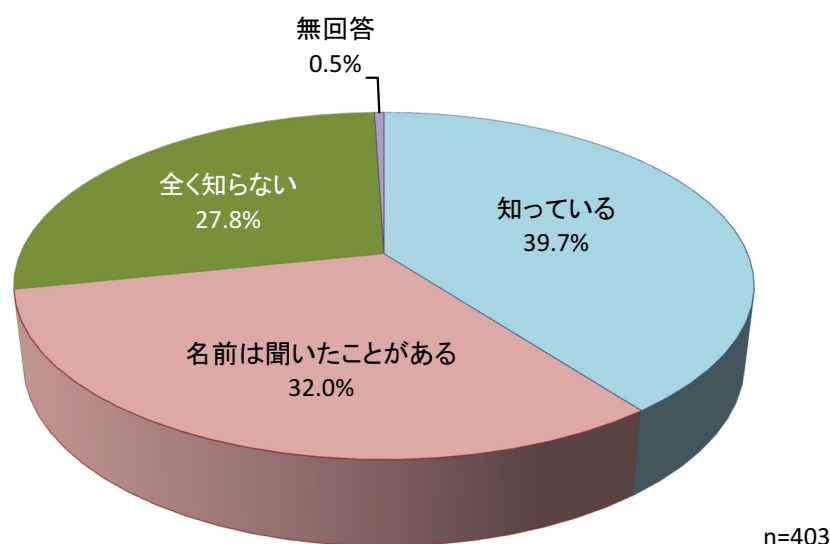
問56 ご家庭で使用する「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」について知っていますか。

(○は1つ)

n=403

1	知っている	39.7%
2	名前は聞いたことがある	32.0%
3	全く知らない	27.8%
	(無回答)	0.5%

<図IV-15-1>全体



雨水貯留・浸透施設の認知度については、「知っている」が39.7%で最も高く、次いで「名前は聞いたことがある」が32.0%、「全く知らない」が27.8%であった。(図IV-15-1)

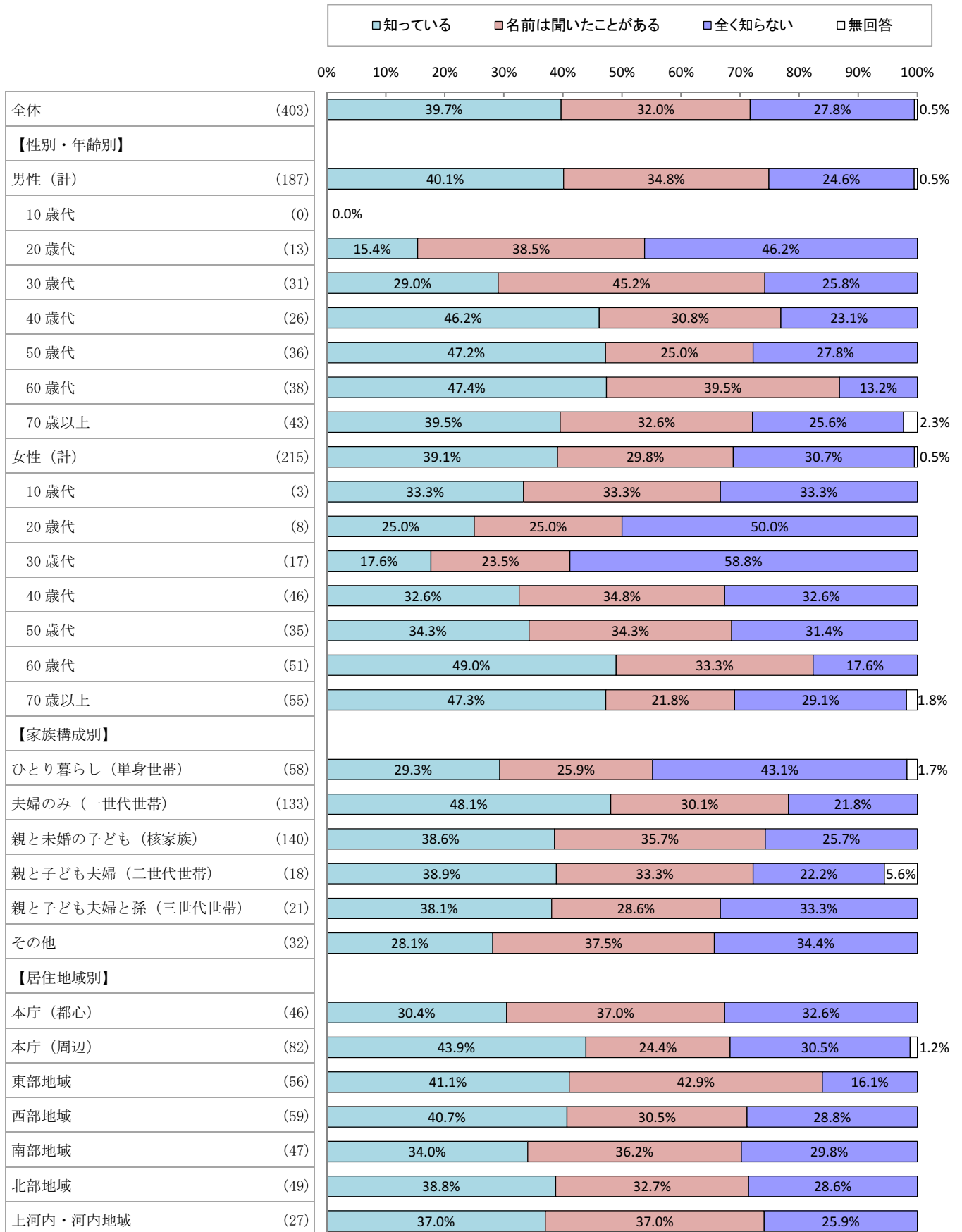
性別・年齢別でみると、「知っている」は<女性/60歳代>が49.0%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が47.4%、と続いている。「名前は聞いたことがある」は<男性/30歳代>が45.2%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が39.5%であった。(図IV-15-2)

家族構成別でみると、「知っている」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が48.1%で最も高かった。「名前は聞いたことがある」は<その他>を除くと、<親と未婚の子ども(核家族)>が35.7%で最も高かった。(図IV-15-2)

居住地域別でみると、「知っている」は<本庁(周辺)>が43.9%で最も高かった。「名前は聞いたことがある」は<東部地域>が42.9%で最も高かった。(図IV-15-2)



<図IV-15-2>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

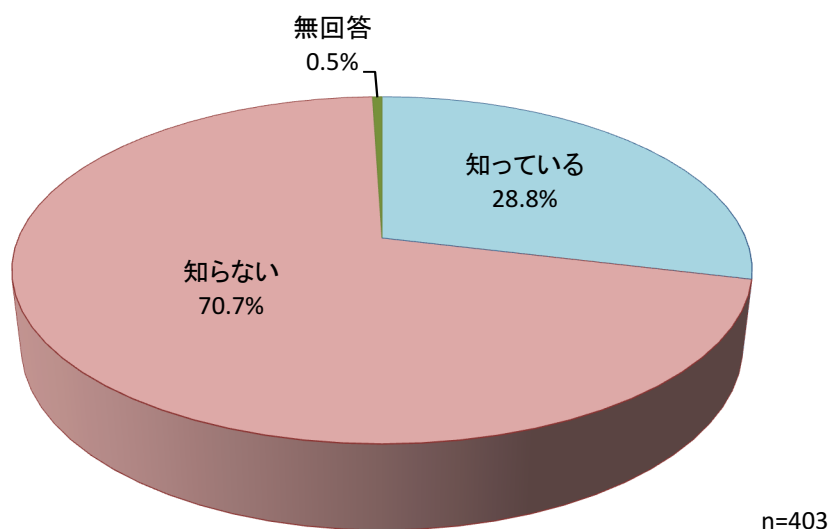


(2) 雨水貯留・浸透施設の設置に対する補助金制度の認知度

◇ 「知らない」が約7割

問57	「貯留タンク」や「浸透ます」などの設置に対する補助金制度があることを知っていますか。 (○は1つ)	n=403
1	知っている	28.8%
2	知らない	70.7%
	(無回答)	0.5%

<図IV-15-3>全体



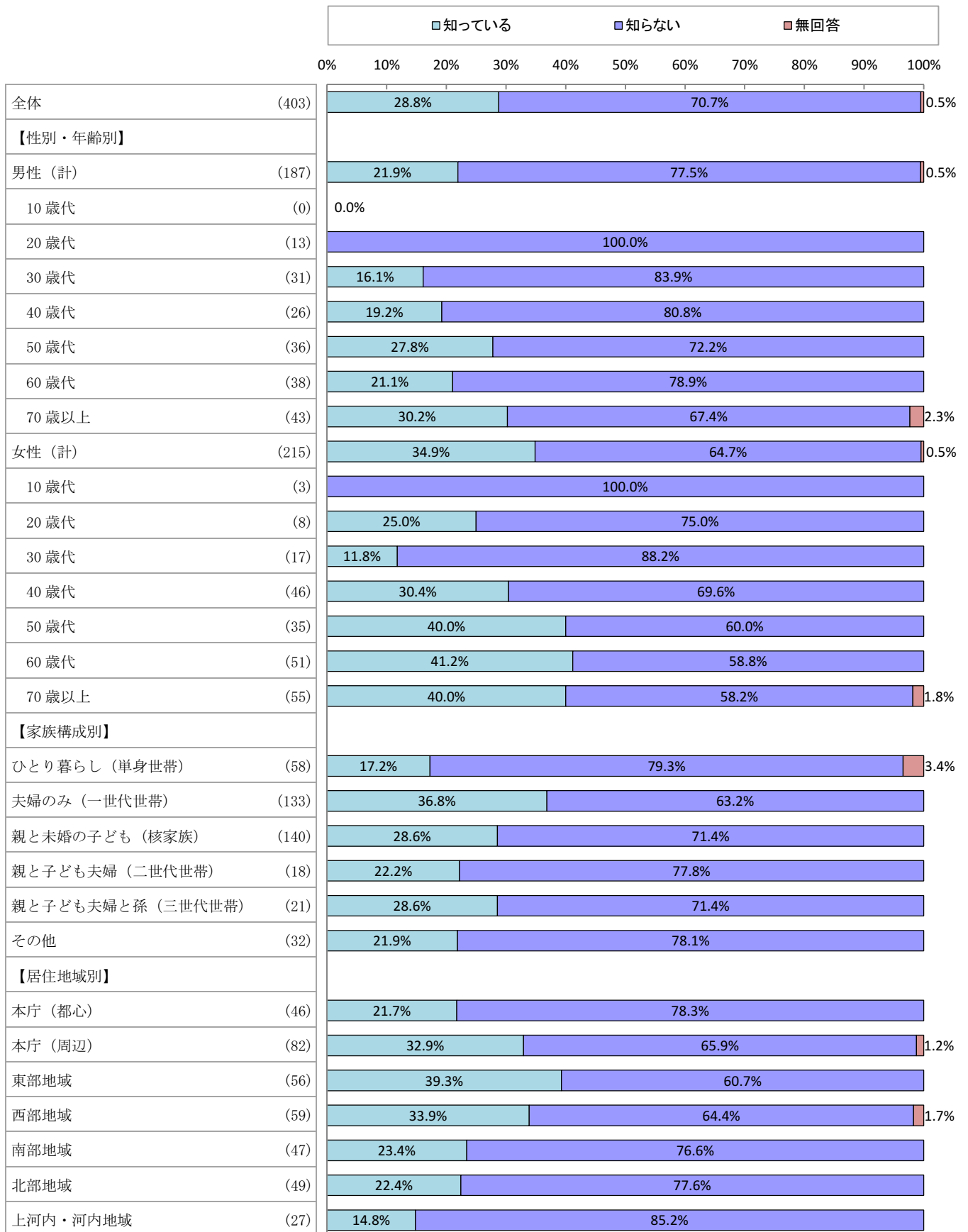
雨水貯留・浸透施設の設置に対する補助金制度の認知度については、「知っている」が28.8%だったのに対し、「知らない」が70.7%であった。(図IV-15-3)

性別・年齢別でみると、「知らない」は<男性/20歳代><女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が88.2%と続いている。「知っている」は<女性/60歳代>が41.2%で最も高く、次いで<女性/50歳代><女性/70歳以上>が40.0%であった。(図IV-15-4)

家族構成別でみると、「知らない」は<ひとり暮らし(単身世帯)>が79.3%で最も高かった。「知っている」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が36.8%で最も高かった。(図IV-15-4)

居住地域別でみると、「知らない」は<上河内・河内地域>が85.2%で最も高かった。「知っている」は<東部地域>が39.3%で最も高かった。(図IV-15-4)

<図IV-15-4>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

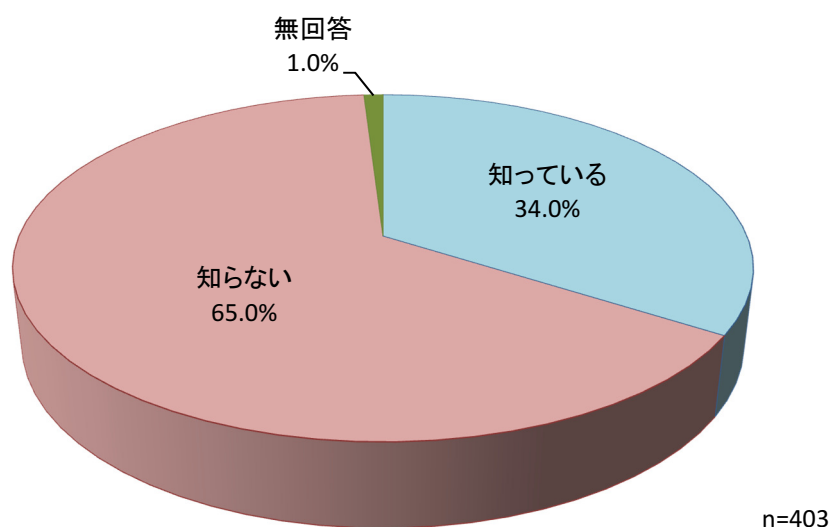


### (3) 雨水貯留・浸透施設の設置効果についての認知度

#### ◇ 「知らない」が6割半ば

問58	「貯留タンク」や「浸透ます」などを設置することが浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につながることを知っていますか。	(○は1つ)
		n=403
1	知っている	34.0%
2	知らない	65.0%
	(無回答)	0.5%

<図IV-15-5>全体



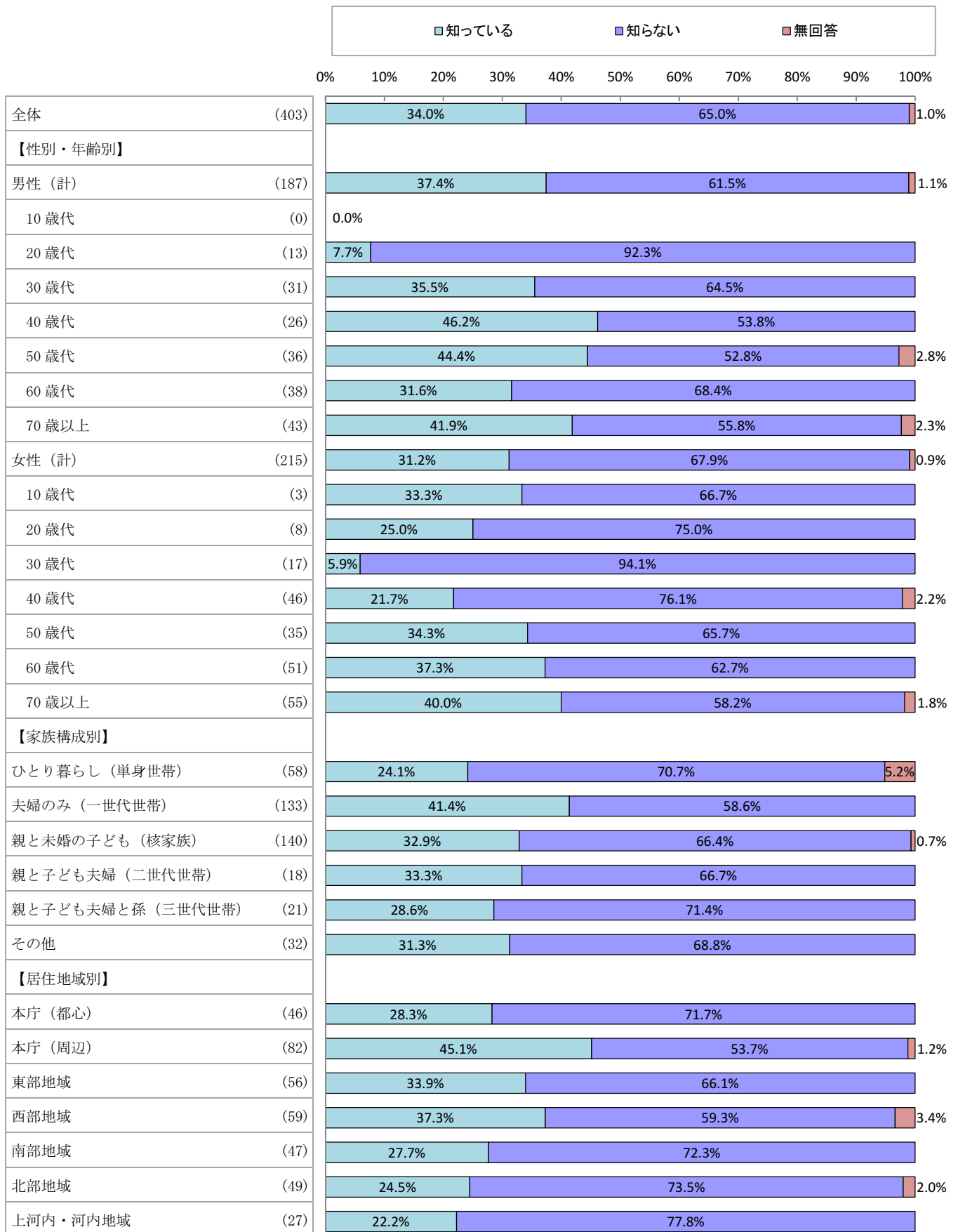
雨水貯留・浸透施設の設置効果についての認知度については、「知っている」が34.0%だったのに対し、「知らない」が65.0%であった。(図IV-15-5)

性別・年齢別でみると、「知らない」は<女性/30歳代>が94.1%で最も高く、次いで<男性/20歳代>が92.3%と続いている。「知っている」は<男性/40歳代>が46.2%で最も高く、次いで<男性/50歳代>が44.4%であった。(図IV-15-6)

家族構成別でみると、「知らない」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が71.4%で最も高かった。「知っている」は<夫婦のみ(一世帯世帯)>が41.4%で最も高かった。(図IV-15-6)

居住地域別でみると、「知らない」は<上河内・河内地域>が77.8%で最も高かった。「知っている」は<本庁(周辺)>が45.1%で最も高かった。(図IV-15-6)

<図IV-15-6>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

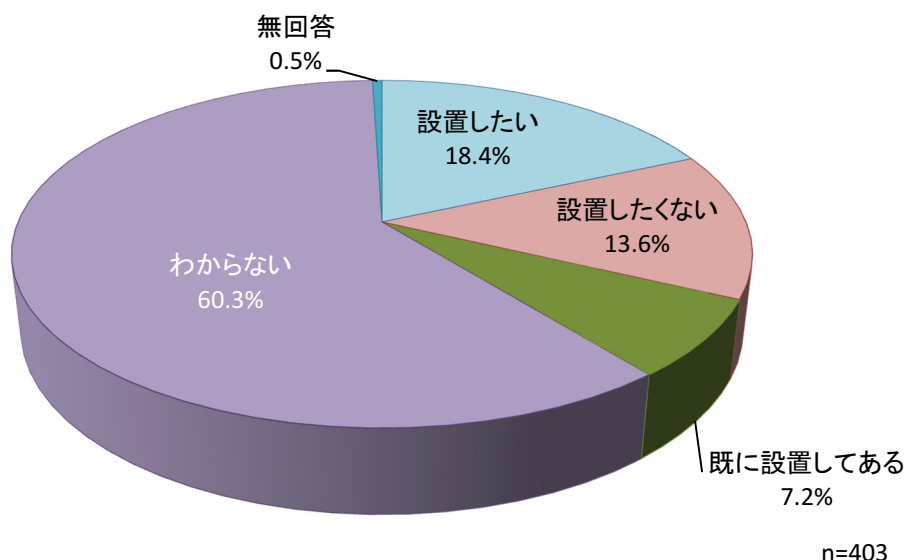


(4) 雨水貯留・浸透施設を設置したいと思うか

◇ 「わからない」が約6割

問59 「貯留タンク」や「浸透ます」などを設置したいと思いますか。		(○は1つ)
		n=403
1	設置したい	18.4%
2	設置したくない	13.6%
3	既に設置してある	7.2%
4	わからない	60.3%
	(無回答)	0.5%

<図IV-15-7>全体



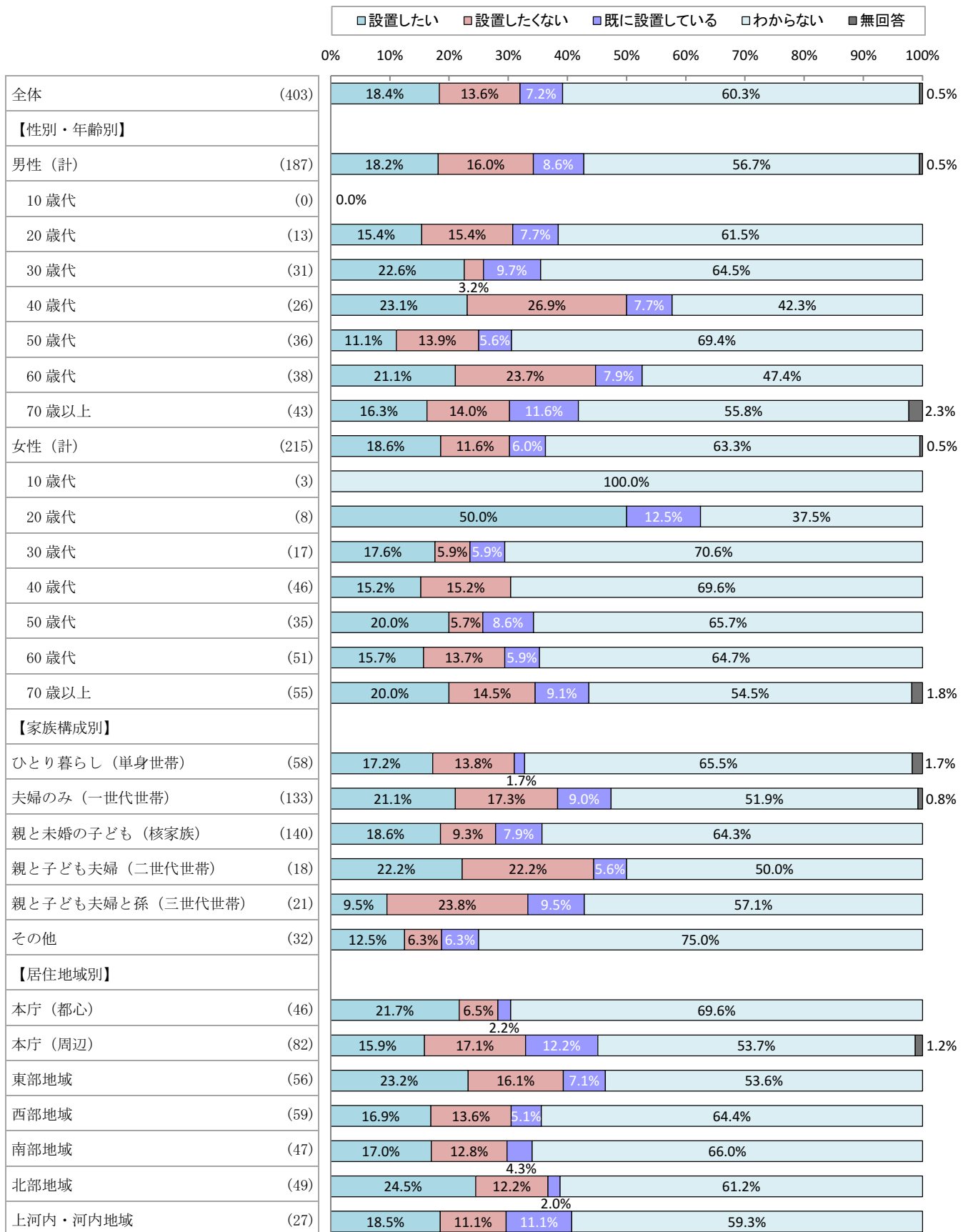
雨水貯留・浸透施設を設置したいと思うかについては、「わからない」が60.3%で最も高く、次いで「設置したい」が18.4%、「設置したくない」が13.6%であった。(図IV-15-7)

性別・年齢別でみると、「わからない」は<女性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/30歳代>が70.6%、と続いている。「設置したい」は<女性/20歳代>が50.0%で最も高く、次いで<男性/40歳代>が23.1%であった。(図IV-15-8)

家族構成別でみると、「わからない」は<その他>を除くと、<ひとり暮らし(単身世帯)>が65.5%で最も高かった。「設置したい」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が22.2%で最も高かった。(図IV-15-8)

居住地域別でみると、「わからない」は<本庁(都心)>が69.6%で最も高かった。「設置したい」は<北部地域>が24.5%で最も高かった。(図IV-15-8)

<図IV-15-8>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

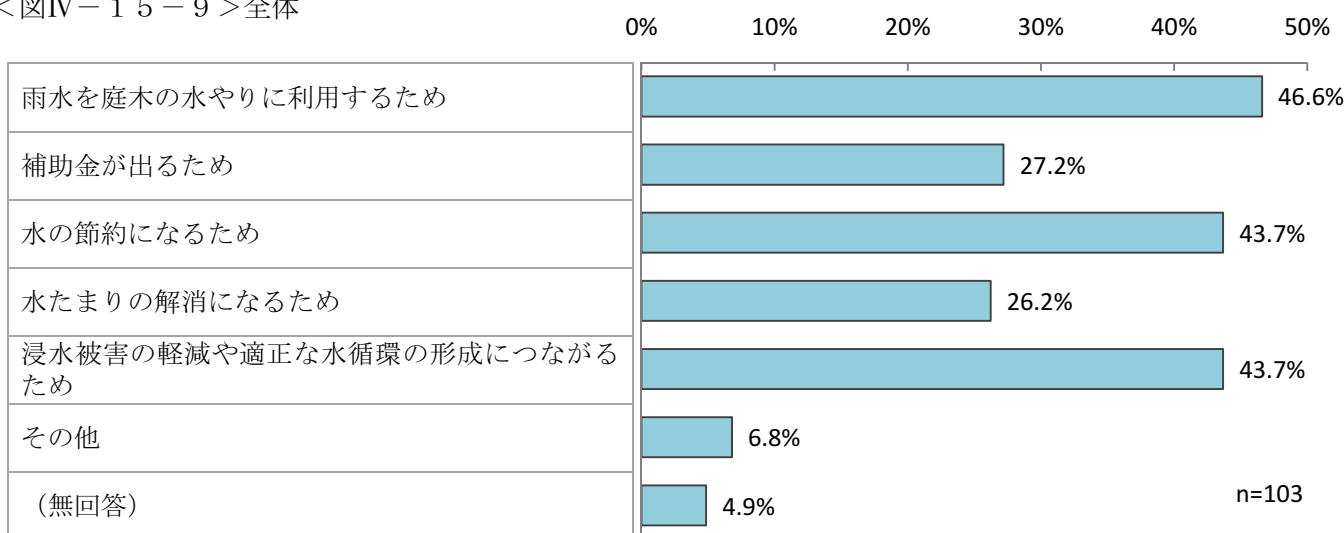


(5) 雨水貯留・浸透施設の設置希望・既設置の理由

◇ 「雨水を庭木の水やりに利用するため」が5割弱

問60	問59で「1 設置したい」「3 既に設置してある」と回答した方にお伺いします。その理由は何ですか。	(〇はいくつでも)	n=103
1	雨水を庭木の水やりに利用するため		46.6%
2	補助金が出るため		27.2%
3	水の節約になるため		43.7%
4	水たまりの解消になるため		26.2%
5	浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につながるため		43.7%
6	その他		6.8%
	(無回答)		4.9%

<図IV-15-9>全体



雨水貯留・浸透施設の設置希望・既設置の理由については、「雨水を庭木の水やりに利用するため」が46.6%で最も高く、次いで「水の節約になるため」と「浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につながるため」が43.7%で続いている。(図IV-15-9)

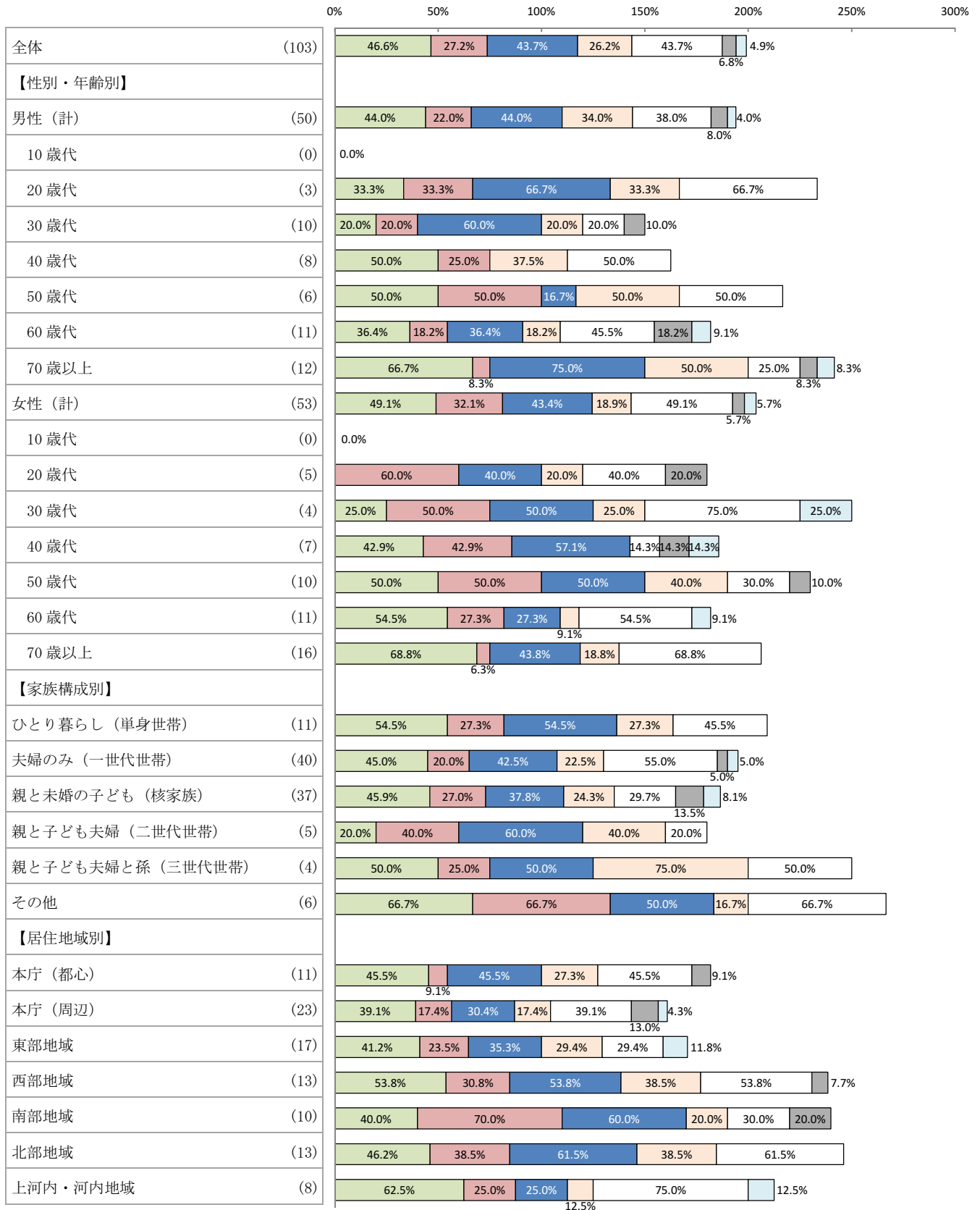
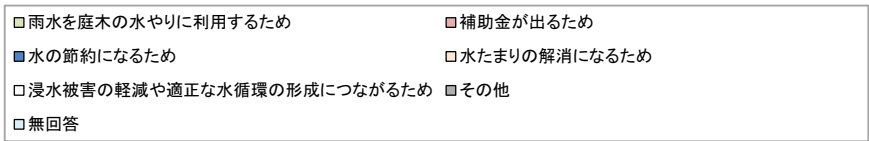
性別・年齢別でみると、「雨水を庭木の水やりに利用するため」は<女性/70歳以上>が68.8%で最も高く、次いで<男性/70歳以上>が66.7%と続いている。「水の節約になるため」は<男性/70歳以上>が75.0%で最も高かった。「浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につながるため」は<女性/30歳以上>が75.0%で最も高かった。(図IV-15-10)

家族構成別でみると、「雨水を庭木の水やりに利用するため」は<その他>を除くと、<ひとり暮らし(単身世帯)>が54.5%で最も高かった。「水の節約になるため」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が60.0%で最も高かった。「浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につながるため」は<その他>を除くと、<夫婦のみ(一世帯世帯)>が55.0%で最も高かった。(図IV-15-10)

居住地域別でみると、「雨水を庭木の水やりに利用するため」は<上河内・河内地域>が62.5%で最も高かった。「水の節約になるため」は<北部地域>が61.5%で最も高かった。「浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につながるため」は<上河内・河内地域>が75.0%で最も高かった。(図IV-15-10)



<図IV-15-10>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

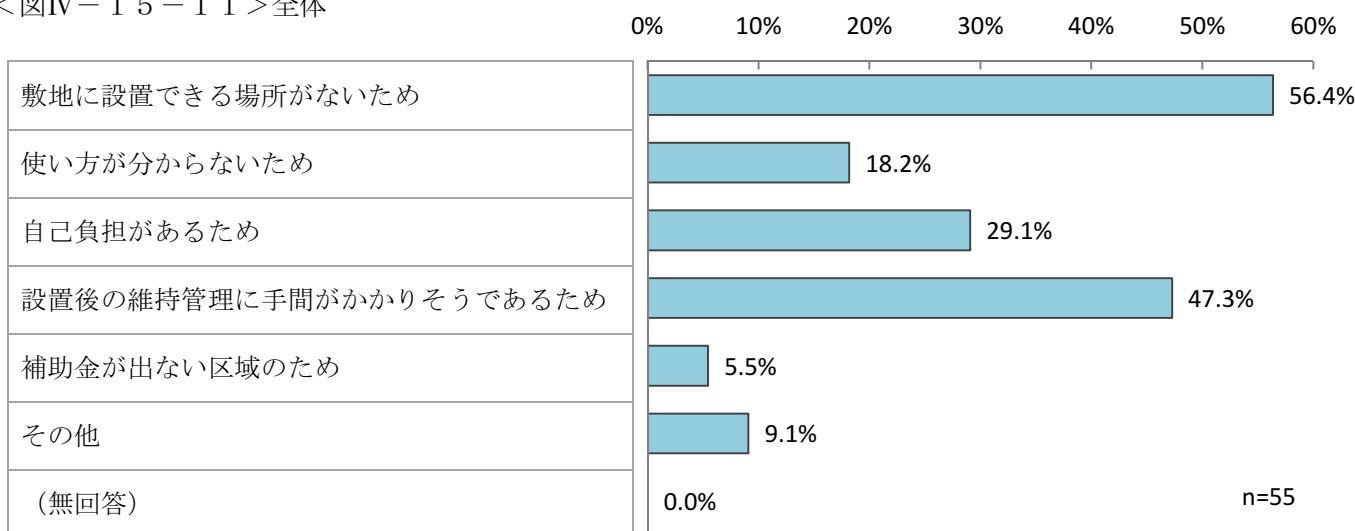


(6) 雨水貯留・浸透施設を設置したくない理由

◇ 「敷地に設置できる場所がないため」が5割半ば

問 6 1	問 5 9 で「2 設置したくない」と回答した方にお伺いします。その理由は何ですか。 (○はいくつでも)	
		n=55
1	敷地に設置できる場所がないため	56.4%
2	使い方が分からないため	18.2%
3	自己負担があるため	29.1%
4	設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため	47.3%
5	補助金が出ない区域のため	5.5%
6	その他	9.1%
	(無回答)	0.0%

<図IV-15-11>全体



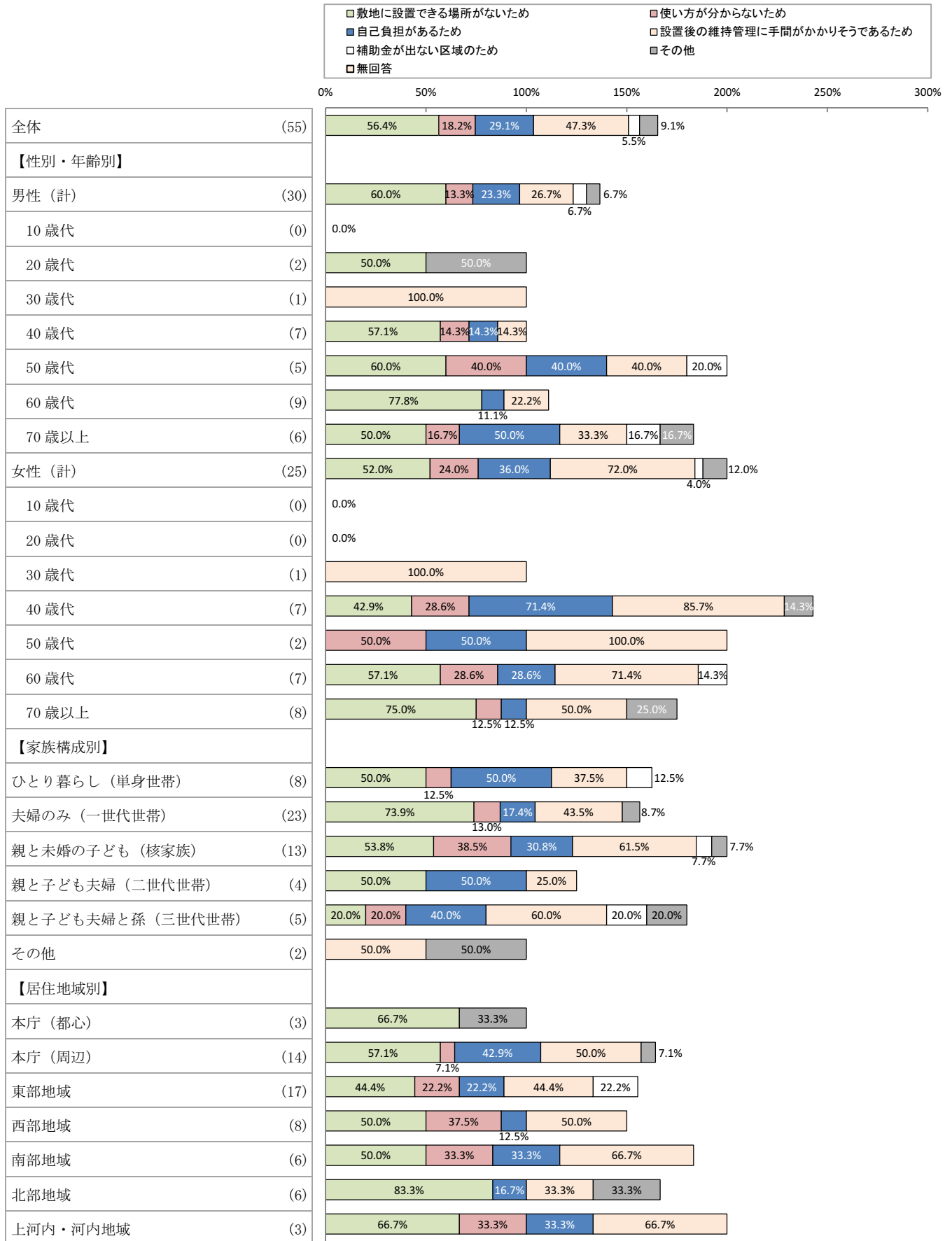
雨水貯留・浸透施設を設置したくない理由については、「敷地に設置できる場所がないため」が 56.4%で最も高く、次いで「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」47.3%、「自己負担があるため」が 29.1%で続いている。(図IV-15-11)

性別・年齢別でみると、「敷地に設置できる場所がないため」は<男性/60歳代>が 77.8%で最も高く、次いで<女性/70歳以上>が 75.0%、と続いている。「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」は<男性/30歳代><女性/30歳代><女性/50歳代>が 100.0%で最も高く、次いで<女性/40歳代>が 85.7%であった。(図IV-15-12)

家族構成別でみると、「敷地に設置できる場所がないため」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が 73.9%で最も高かった。「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」は<親と未婚の子ども(核家族)>が 61.5%で最も高かった。(図IV-15-12)

居住地域別でみると、「敷地に設置できる場所がないため」は<北部地域>が 83.3%で最も高かった。「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」は<南部地域><上河内・河内地域>が 66.7%で最も高かった。(図IV-15-12)

<図IV-15-12>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



---

<MEMO>

## V 調査結果の考察

宇都宮大学の中村祐司教授に御協力をいただき、専門的、客観的な立場から、各テーマについて、調査結果を考察していただきました。

### ●中村祐司教授のプロフィール●

1991年3月、早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程を満期退学し、早稲田大学人間科学部助手(1991年4月～1993年3月)を経て、1993年4月に宇都宮大学に赴任。博士(政治学)。2003年4月に宇都宮大学国際学部・大学院国際学研究科教授。2016年4月から宇都宮大学地域デザイン科学部教授。2019年4月から同大学院地域創生科学研究科教授(現在に至る)。

専門は行政学・地方自治。現在、うつのみや市政研究センター企画運営アドバイザーや宇都宮市行政改革推進懇談会委員など、主として栃木県内の地方自治体における審議会等の活動に積極的に従事している。単著として、『スポーツの行政学』(成文堂、2006年)、『“とちぎ発” 地域社会を見るポイント100』(下野新聞新書、2007年)、『スポーツと震災復興』(成文堂、2016年)、『政策を見抜く10のポイント』(成文堂、2016年)、『危機と地方自治』(成文堂、2016年)、『2020年東京オリンピックの研究—メガ・スポーツイベントの虚と実—』(成文堂、2018年)。『2020年東京オリンピックと問う—自治の終焉、統治の歪み—』(成文堂、2020年) 共著として、『日本の公共経営』(北樹出版、2014年)、『地方自治の基礎』(一藝社、2017年) など。

### 1. 宇都宮市に対する感じ方について

例年、9割以上(92.4%)が宇都宮市を好きとの回答が維持されている。「どちらかといえば好き」(44.5%。前年45.0%)はほぼ横ばいであったものの、「好き」(47.9%。前年46.8%)が若干上昇した。「どちらかといえば嫌い」(4.9%)と「嫌い」(0.8%)を合わせても6%に届いていない。これを嫌い派とすれば、おそらく宇都宮は他都市と比べて嫌い派の割合がとて低市なのである。今後、好き派が90%台の後半に達する可能性は大いにある。

職員自らが愛着を持って仕事に従事していると、そうした雰囲気は行政サービスを受ける市民にも不思議と伝わるものである。行政と市民との相乗効果が発揮できれば、まだまだ市民の愛着度が増す可能性はある。

「自然災害の少なさ」(47.9%)、「買い物など日常生活の便利さ」(44.4%)、「自然環境の豊かさ」(33.8%)、「慣れ親しんだところ」(28.1%)が、例年の調査における好きな理由の定番になっている。ただ、「自然災害の少なさ」や「自然環境の豊かさ」は、市の施策に対する市民の反応というよりは、他力本願的な要素が色濃い類のものである。ただ、昨年(2019年)10月の台風19号で宇都宮市中心部では大規模な浸水被害が発生し

---

た。市は「自然災害の少なさ」を言いつらいのではないか。

LRTの整備によって「電車やバスなどの交通機関が整備されているところ」(6.5%)の上昇が今後予想されるものの、「子どもを育てる環境が整っているところ」(8.7%)などと並んで現状においては低い割合となっている。「福祉サービスが充実しているところ」(3.3%)についても同様である。「好きな理由」にこうした施策が上位に来ることを市は目指してほしい。

一方で、嫌いな理由として「交通マナーの悪さ」(38.0%。前年38.3%)が相変わらず定番となっている。横断歩道では歩行者優先で、車は確実に止まるなど、交通マナーの市民への浸透がなかなか進まないといった点が課題である。

## 2. 広報媒体の活用状況について

広報媒体の活用について、「よく見る(聞く)」でも「ときどき見る(聞く)」でも「広報うつのみや」の存在感が際立っている(前者が41.9%、後者が42.6%)。とくに「よく見る(聞く)」では、2番目に高い割合となったのが「暮らしの便利帳」(12.2%)であり、「広報うつのみや」はかなりの程度、市民に親しまれているといえる。表紙も含め見せ方にも工夫が凝らされているのも親しまれる理由かもしれない。

一方で「ときどき見る(聞く)」に注目すると「暮らしの便利帳」(39.3%)や「宇都宮市ホームページ」(39.1%)なども活用されていることがわかる。

「広報塔」(よく見るが4.1%、ときどき見るが12.9%)はユニークな広報媒体だが、「よく見る」が2桁台に上がれば、市のまちづくりのシンボル候補にもなり得ると思われる。

「広報うつのみや」の入手方法について、紙媒体離れがいわれる中、「新聞折込」の奮闘ぶりが窺える。紙媒体の新聞と広報紙との相性の良さもあるのだろう。

「広報うつのみや」は紙媒体の「新聞折込で自宅に届いている」が6割強(63.2%)に達した。「手に入れていない」(17.3%)を除けば、「送付で自宅に届いている」(9.6%)、「市の公共施設などで手に入れている」(4.8%)、「市ホームページに掲載されているPDFや電子書籍を閲覧している」(2.0%)が続くが、いずれも低い割合となった。広報紙の内容や情報をめぐり、市民が自ら取りに行ったりアクセスしたりすること自体に壁があるのかもしれない。折込や送付によって紙媒体という物理的な形で、有無をいわず手元に来る受け身的な入手であっても、意外と効果は高いのかもしれない。すぐにではなくても手元に置いておくことで、いずれは目を通す多くの市民がいるのだろう。

「広報うつのみや」を「入手方法を知らないため」(33.8%。前年37.3%)見ていない市民の割合が前年よりも僅かであるものの下降した。このように回答した市民の多くは、入手方法がわかれば広報紙を手に入れて読む可能性の高い層である。市は広報紙の入手方法についてのPRにさらに力を入れてほしい。

「広報うつのみや」において読んでいる記事について、「市政情報」(64.7%)、「特集」(46.7%)、「各施設の催し物」(41.8%)、などの割合が高かった。「情報カレンダー」(38.1%)や「政策特集」(35.0%)についてもいえるが、市だからこそ提供できる生きた情報や魅力的な情報に対する市民の関心は決して低くない。市民とすれば行政による情報提供であれば信頼を置けるし、自らに関わる身近なところで行われる催し物などの情報提供はありがたい。

前年の分析において、「LRT」についての記事を読んでいる割合は25.9%であったのを受けて、「今後、LRTへの市民の関心はさらに高まっていく」と記載した。しかし、今回調査では予想に反して18.6%に下がってしまった。その理由として、LRTの整備が目に見えるようになり、開通のイメージが浮かぶようになった

---

からだともいえそうだが、整備後のまちづくりへの活用方法などについて市民の関心が高まっていないとすれば、懸念を感じる結果となった。

市ホームページや関連ページで詳細な情報を入手するためのQRコードや7桁のページIDの利用状況(利用者は合わせて9.6%。前年5.7%)は1割弱であるものの、前年調査と比べると今後の利用拡大が期待できる結果となった。新型コロナウイルスへの対応において、テレワークやキャッシュレス決済などデジタル技術の活用が世代を問わず迫られる傾向にある。行政情報に限らず、今後は情報入手にあたってQRコードやIDの活用は増えていくのではないだろうか。

「広報うつのみや」に関する感想、取り上げてほしい話題・情報について、市民の自由記載を読むと、前年調査結果と同様に、広報には実に多様な情報提供機能が期待されているのがわかる。市民の声はまさに多種多様であり、その中には、行政に対する厳しい声もある。しかし、こうした声を受け止め各種施策に反映させていこうとする姿勢こそが、回り回って行政ひいては市全体の活力につながっていくと思われる。

市のホームページを見るための主な手段は、「スマートフォン」(35.5%。前年33.2%)が「パソコン」(23.1%。前年27.7%)を上回った。また、スマートフォン利用者の増加傾向とパソコン利用者の減少傾向が見て取れる。ただ、スマホより大きい画面で、かつ一画面当たり多くの情報を一覧できるパソコンにも強みはある。今後はスマホかパソコンかではなく、両方をうまく使い分ける利用者が増えていくのではないか。

ホームページで知りたい情報をトップ画面のどこから探すかについて、「キーワード検索」(48.6%。前年57.3%)と並んで、暮らし、産業・ビジネス、市政情報、よくある質問、宇都宮ブランドといった「大分類」(42.7%。前年45.2%)もよく使われている。その背景には、一般的にここ数年における検索機能の向上や、市民が目指す情報へ行き着きやすくなった点が挙げられよう。

ただ、まだまだ技術的な工夫は必要なのだろう。「ホームページで知りたい情報は探しやすいか」について、「探しやすい」(11.9%。前年12.9%)と「どちらかといえば探しやすい」(57.3%。前年52.8%)という結果となった。「探しやすい」は前年から僅か下降し、「どちらかといえば探しやすい」は数ポイント上昇した。合わせると探しやすいが69.2%(前年65.7%)と高い割合であるので、及第点といえる。探しやすさをめぐる市民の判断基準のハードルは今後ますます高くなるだろう。行政にはデジタル時代の到来にどう応えていくかが問われている。

ホームページに関する感想、充実してほしい機能や情報について、今回は新型コロナをめぐる情報提供のあり方や内容に関する市民からの複数の意見があった。その他についてもたとえ辛口な内容であっても、市民からの貴重な指摘を今後のホームページ作成に活かしてほしい。

市政情報をどんな手段で知りたいかについて、「広報うつのみや」(60.7%)の割合が最も高く、「新聞」(32.5%)とホームページ(31.5%)が続いた。

「SNS」は10.7%であったものの、たとえばさらに魅力的で有用なホームページの拡充によってアクセス数を増やし、そこからSNSの利用につなげることができれば、情報取得手段としてのSNSの割合が飛躍的に上がる可能性がある。

### 3. 宇都宮市の景観について

宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるかについて、「どちらかというとも良くなった」(44.4%。前年49.5%)が「変わらない」(35.3%。前年34.4%)を上回ったものの、「どちらかというとも良くなった」が前

---

年の調査結果よりも5ポイントも下がってしまった。景観をめぐる市民の受け止め方をめぐっては1年単位で一喜一憂する類のものではないだろう。しかし、「どちらかというとなってきた」が年々着実に上昇していけば、「非常に良くなった」(6.7%)につながる可能性があり、ひいては市全体の魅力の向上に貢献するだけに、残念な結果である。

「宇都宮らしい景観」とは何かについて、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」(42.3%。前年44.0%)がトップで、市の中心部における歴史的な景観が評価されている。しかしそれに続く「鬼怒川など郊外の豊かな自然を感じる河川」が25.1%、「大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観」が23.7%、「豊かな自然やのどかさを感じさせる山並みや田園」が23.5%といった具合に、「二荒山神社周辺」に大きく差を付けられている。

たとえば、「市の玄関口であるJR宇都宮駅前の景観」(16.0%。前年19.1%)が今後上がっていけば、多くの人が日常的に行き交う場所だけに、LRTの整備と相俟って、シンボリックな景観として「二荒山神社周辺」に迫る可能性は大いにあると思われる。

良好な都市景観の形成に必要なことについて、「道路上の電柱・電線類の地中化」(50.7%。前年44.4%)の割合が最も高く、今回50%台に乗った。都市の景観と電柱・電線の地中化は切っても切れない関係にある。コストが課題となるが、まずはモデルエリアを設定して市民に景観の向上を実感してもらえれば、丁寧な検討と情報の提示を行いつつ、これを重点施策に位置づけることは可能ではないだろうか。

また、そのことが、「沿道や都心部の緑化の推進」(27.4%)や「周辺景観に調和していない屋外広告物(看板)の撤去や規制」(22.1%)の割合を上げ、こうした施策の実現に至る余地はあると思われる。

屋外広告物(看板等)の印象について、「悪い」(7.9%)が「よい」(3.3%)の倍以上となり、「どちらかといえば悪い」(39.8%)が「どちらかといえばよい」(24.7%)を15ポイントも上回った。屋外広告物の存在に多くの市民は厳しい目を向けている。

屋外広告物の基準を強化する地域について、「豊かな自然景観を眺望できる地域」(39.3%)はともかく、「商業施設やオフィスビル等が立地する地域」(37.2%)が僅差で続いた点に注目したい。景観形成という視点からすれば、屋外広告は、たとえ商業・経済活動の地域であっても逆風に晒されているのである。

#### 4. 食品ロスの削減について

「食品ロス」が問題となっていることについて、「よく知っている」(31.9%)と「ある程度知っている」(56.3%)を合わせると、9割弱が食品ロス問題を認知している結果となった。

そして「食品ロス」を減らすための取り組みについて、上位には「残さずに食べる」(58.6%)、「冷凍保存を活用する」(56.7%)、「『賞味期限』を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか確認する」(54.2%)が並んだ。市民は自分なりに可能なやり方で食品ロスの削減を実践している。多様な形での実践が浸透していることは、「取り組んでいることはない」が僅か2.1%であった点に現れている。

一方でフードバンク活動については、対(つい)をなすかのように「ある程度知っている」(36.3%)と「あまり知らない」(35.3%)がほぼ同じ割合で、「よく知っている」(13.5%)と「全く知らない」(14.2%)についてもほぼ同率であった。

食品ロスをめぐる認知度との違いは、フードバンクの場合、他者の協力を得なければいけないため、日常生活において実践することがなかなか難しい点があるからではないだろうか。フードバンクと食品ロスとはまさ



---

にコインの裏表の関係にありながら、前者には貧困対策という側面がある。行政は市民がフードバンクに関心を持つよう情報提供を粘り強く継続してほしい。

## 5. 特別支援教育について

「発達障がい」について、「よく知っている」(17.7%)と「ある程度知っている」(58.4%)を合わせると認知度は7割台後半となった。「聞いたこともなく、内容もわからない」(1.2%)がほんの僅かなので、この言葉自体は市民の間に浸透しているといえる。

「特別支援教育」については、「よく知っている」(14.2%)、「ある程度知っている」(42.8%)となり、発達障がいの認知度と比べるとほぼ同じような傾向にあるともいえるが、総じて認知度は低い。その裏返しとして、「言葉は聞いたことがあるが、内容がよくわからない」が38.4%と、発達障がい(22.1%)と比べて高い割合となった。ただ、「聞いたこともなく、内容もわからない」において、発達障がい(1.2%)と特別支援教育(4.0%)とでは若干の差が生じている。あくまでも相対的ではあるものの、現状では明らかに発達障がいの方が特別支援教育よりも市民の認知度は高くなっている。

## 6. 結婚・出産・子育てに関する意識について

「結婚している」(60.5%)以外で、現段階において「結婚していない」(結婚経験者と合わせて36.8%)とした回答者に対して、結婚するつもりがあるか聞いたところ、「いずれ結婚するつもり」(34.0%)、「結婚するつもりはない」(58.0%)となった。前者の一部が行政によるサポート支援の対象となるのであろうか。

また、結婚している場合に持ちたい子どもの数は、「2人」(55.5%)が最も高く、「3人」(20.2%)と「1人」(17.0%)が続いた。「1人」よりも「3人」持ちたいとした割合の方が高く、この層に焦点を当てた出産支援策があってもいい。

「いずれ結婚するつもり」の回答者が子どもを何人望んでいるかについては、「1人」(17.6%)が「3人」(15.7%)を上回ったものの、「2人」(45.1%)が最も高い割合となり、既婚者の場合とほぼ同様の傾向であった。

確かに「いずれ結婚するつもり」とした回答は、「結婚するつもりなし」よりも20数%低い。しかし、行政としてはまずは前者に注目し、「持ちたい」子どもの数を「持つことができる」子どもの数と思わせるような行政の支援を新たに検討してもいいのではないだろうか。

## 7. 空き家及び防犯・交通安全に関する意識について

「管理が不十分な空き家が増えていると感じるか」について、「変わらない」が58.8%だったものの、「増えている」(35.0%)が3割半ばとなった。回答者のほぼ3人に1人が空き家の管理が十分でないと考えている事実は空き家問題の深刻さを反映しているように思われる。多くの市民は、このまま放置しておけば大変なことになるという認識を持っている。

近所の空き家の活用の仕方について、「住宅のままの利用」(34.3%)や「管理されていれば空き家のままで

---

良い」(32.1%)はある程度予測できる結果であろう。しかし、「カフェなどの飲食店」(28.7%)、「地域集会所などの地域住民が集まる場所」(23.3%)、「子ども食堂などの子どもが集まる場所」(21.6%)、「生活雑貨などの日用品が買える場所」(20.3%)といった回答も多い。ここにまちづくりとの絡みで空き家活用の希望の芽を見出すことができるのではないだろうか。

「宇都宮空き家会議」の認知度は低い(「知っている」11.5%、「知らない」87.5%)ものの、この会議の活動が充実し、行政が本気で空き家問題に取り組んでいる姿勢が徐々にでも市民に浸透していけば、会議の認知度はおのずと上がっていくであろう。

一方で、空き家問題とは切り離れた形で、「安心して暮らすことができるか」との問いに対して、「そう思う」(23.5%)と「どちらかといえばそう思う」(67.6%)を合わせると9割を超えた。もちろんこれで満足してはいけませんが、心強い結果である。空き家活用の実を上げることで、安心して暮らせると思う市民の割合は増すはずである。

自転車保険の加入状況について、自転車利用者で未保険者はほぼ1割であった。保険自体の内容をめぐる議論の余地はあるだろう。しかしコロナ禍の影響で自転車利用者が増えているといわれる中、行政には未保険者の割合の低下につなげるキャンペーンなどに力を入れてほしい。

## 8. いちご一会とちぎ国体・いちご一会とちぎ大会について

栃木県で国体が開催されることを知っているかについて、「知っている」(76.7%。前年70.1%)が前年調査より6ポイント程度上昇した。逆に開催自体を「知らない」(22.5%。前年28.9%)は低くなる傾向にある。2022年の開催を考えると、さらに認知度を上げたいところだ。1年延期で2021年となった東京五輪開催の有無は確定してはいないものの、21年の東京五輪、その翌年のとちぎ国体ということで、この連続性を活かしたいところだ。もちろん興味関心など向き合う市民のスタンスはいろいろであってよい。しかし、関連行事も含め、とちぎ国体を市のまちづくりに活かしていくことは大切である。

ボランティア活動で、とちぎ国体に参加したいかについて、「そう思う」(21.3%。前年22.4%)が前年調査と比べて若干であるものの下がっている。「非常にそう思う」(4.4%。前年5.2%)についても同じである。少なくともとちぎ国体に向けたボランティア参加の機運は盛り上がっていると言いきれない。ただ、「そう思う」が5人に1人以上いるというのは確かに心強い。

義務でやるものではないボランティアの特性を考えると、次回調査においても「そう思う」の割合を維持したい。一方で積極性はボランティア活動の大前提なので、「非常にそう思う」を是が非でも増やしたい。

ボランティア参加に前向きな回答者の中でのボランティア情報の入手方法について、「広報紙」(56.2%。前年64.2%)や「新聞、広告」(46.7%。前年41.5%)が高い割合を維持している。また、とくに「インターネット・SNS」(41.0%。前年27.4%)の上昇が著しい。口コミと同時に、SNSを通じた情報共有の利点はその拡散性とスピードにあり、行政には回答結果を追い風として、この媒体に注目してさらに活用してほしい。

国体を盛り上げるために重要だと思うことについて、「来訪者に対する心のこもったおもてなしの提供」(48.5%。前年45.6%)や「観光情報を発信する市の魅力紹介」(44.9%。前年49.0%)、「会場周辺をきれいにする環境美化運動」(44.6%)などが高い割合となっている。ただ、「おもてなしの提供」などももちろん重要であるものの、やはり「大会の運営をサポートするボランティア活動」(38.5%)が大会の成否を左右するし、「おもてなしの提供」の直接的な担い手であるがゆえに、最上位に位置してほしい。

---

## 9. 生物多様性について

生物多様性という言葉について、「聞いたことはあるが、意味は知らない」(45.7%)が「言葉も意味も知っている」(33.6%)を上回った。ところが、外来種が及ぼす影響については、「知っている」(64.8%)が「聞いたことはあるが、具体的な影響はわからない」(30.8%)を大きく上回った。外来種を起点に生物多様性を説明すれば、後者について「言葉も意味も知っている」割合が上昇するのではないかと。

さらに、生物多様性の保全活動について、「参加したい」は僅か 4.6%で、「関心はあるが、時間がなくて参加できない」(33.1%)と「関心はあるが、どこでやっているのかわからず参加できない」(21.8%)を合わせると5割半ばに達した。この回答層は、時間があれば参加するし、どこでやっているのかわかれば参加することになる。行政は後者、すなわち保全活動の場にターゲットを絞った情報提供をしてほしい。

## 10. 自転車のまちづくりについて

自転車の利用頻度について、「ほとんど利用しない」がほぼ6割半ばとなったのは、日常において自転車利用の風景を見慣れている者にとって、やや意外な結果であった。ただ「ほとんど」とあるように全く利用していないわけではなさそうだ。

そして、宇都宮市は自転車を使いやすいまちだと思えるかについて、「そう思う」は僅か 6.4%で、「あまりそう思わない」(35.2%)が「ややそう思う」(24.4%)を上回った。市民からすれば、対自動車や歩行者との関係で自転車が通るあるいは通れる道や道路は、まだまだ使いづらいといったところか。自転車利用者や自動車運転手のマナーの悪さも影響を受けた結果なのであろうか。自転車のまちづくりを掲げる宇都宮市にとって厳しい結果となった。

やはりというか、自転車のまちづくりに必要だと思う取り組みについて、「安全・安心に自転車を走行できる環境づくり」(67.6%)と「自転車の走行ルール・マナーの徹底」(64.4%)が上位に並んだ。ハード面・ソフト面でまだまだ課題が山積している。

ただ、たとえば「中心市街地での駐輪しやすい環境づくり」(39.5%)は進められているようだし、「自転車から公共交通（鉄道・バス・LRT など）への乗り換えしやすい環境づくり」はとくに LRT の整備と相俟って、今後の進展が期待される。行政は自転車利用をめぐる市の課題に正面から向き合うことで、自転車利用をまちづくりの強みに転化させてほしい。

## 11. 「大谷石文化」の日本遺産認定

「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことに関する認知度について、前年調査と比べて「知っている」(知っている 52.2%。前年 56.8%)の割合が下がり、「知らない」(47.6%。前年 42.7%)の割合が上がってしまった。この種の認知度は時が経過すると下がっていくものなのであろうか。

また、「大谷石文化」を誇りに感じるかについても、残念ながら前年調査と比べて「感じる」(33.6%。前年 38.3%)も「やや感じる」(34.9%。前年 37.5%)も下がってしまった。数ポイントとはいえものの、年々関心の度合いが低くなり、こうした傾向が続いてしまうのは憂慮すべき状況である。大谷石が市域全体を代表する

---

文化遺産となるよう、その活用のさらなる拡充を図ってほしい。

## 1.2. 「まちづくり活動」への意識について

まちづくり活動への現在の参加者は24.6%と、市民の4人に1人が参加している。しかも「参加したい」の合計は31.7%である（「今は参加していないが、今後ぜひ参加したい」4.6%。「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」27.1%）。とくに「機会があれば」参加したいと答えた市民は、こうした市民に行政が積極的に機会を用意すれば、参加する可能性は高くなるはずだ。

まちづくりへの参加は義務でも強制でもないので、行政としては「参加したいとは思わない」（26.3%）や「参加できない」（16.9%）とした回答者よりも、多少なりとも参加意欲のある市民をターゲットに働きかけてもいいのではないかと。

現に参加しているあるいは興味があるまちづくり活動の種類について、「地域の安全・安心を守るための活動」（21.5%）、「地域の環境や自然等を守るための活動」（19.7%）、「スポーツ・文化・芸術の普及啓発等に関する活動」（19.2%）などが上位に並んだ。まちづくり活動の内容は多彩であり、それに応じて市民の参加や関心も多様であっていいので、当該活動の軽重を割合の高低でもって問う必要はないであろう。

まちづくり活動に参加したいと思わない、または参加できない理由について、「参加する事に興味や関心がない」（27.8%）、「楽しさを感じられない」（17.2%）、「参加するチャンス・きっかけがない」（16.0%）などの割合が高かった。もちろん、行政には魅力的な活動の紹介や、参加を促す機会や情報の提供を今後とも継続してほしい。しかし、あくまでも市民の自発的な参加こそが大切であろう。

## 1.3. 「SDG s」について

SDG sについては、職場はもちろん新聞などのメディアでも目にする機会が多いと受け止めていたので、「全く知らない」（70.6%）が7割にも達したのは意外であった。しかし、たとえこの用語を目にしたとしても、説明がなければそのままやり過ごすケースもあるだろう。「内容を知っている」は合わせて16.3%なので、行政としてはSDG sが掲載される場合には、わかりやすく簡潔な説明を常に添えるよう工夫したらどうだろうか。

驚かされたのが、SDG sを「知っている」とした回答者に内容を聞いたところ、「17個のゴール（目標）があることを知っている」（67.2%）、「国連で決められた国際社会全体の目標である」（62.5%）、「持続可能な開発に関する2030年を期限とする世界目標である」（62.5%）といった具合に、いずれも高い割合となったことである。まさにSDG sを知っている市民は、その内容をよく知っている。

SDG sを「知っている」とした回答者に「SDG sという言葉を見た（聞いた）ことがあるが、内容は知らない」とした回答者を加え、SDG sを知った手段について聞いたところ、「インターネット」（62.5%）、「新聞・雑誌」（56.3%）、「職場や学校」（46.9%）が上位に並んだ。やはりこの用語やロゴ・アイコンを目にする機会が多いのである。ただ、「家族や友人」（15.6%）は高い割合とはいえ、SDG sがブームとなっているとまでは言い切れないであろう。世界標準の達成はもちろんであるが、宇都宮市としては市独自の取り組みも随所に盛り込みたいところだ。

## 1 4. 男女共同参画について

家事・育児・介護それぞれに費やした時間について、「7時間以上21時間未満」(40.2%。前年44.7%)の割合が高く、その中でも育児や介護の場合は対象者がいないケースが87.3%と高い割合を占めている。

社会的な活動の実施状況について、5人に1人は「自治会やまちづくりなどの地域活動」(21.3%。前年20.1%)を行っている。自治会活動やまちづくり活動は地域活動の定番なのである。「文化、スポーツなどのグループ活動」(12.4%)がそれに続いた。回答からは、多様な社会的活動の展開が見て取れるだけに、「特になし」(59.1%。前年54.5%)が増加傾向にある点が気になる。「ボランティアやNPO活動」(6.2%。前年6.9%)も横ばい傾向で、このあたりが伸びないと「特になし」の低下傾向には歯止めが掛からないかもしれない。

過去1年間に配偶者から暴力を受けたことがあるかについて、「心理的攻撃」(「1,2度あった」と「何度もあった」の合計6.2%。前年6.9%)が、他の項目よりも高い割合となっている。ただ、「身体的暴行」(3.7%)、「経済的圧迫」(2.5%)、「性的強要」(0.9%)と比べて、「心理的攻撃」の範囲は広いというのか、たとえば夫婦喧嘩の際などの非難のやり取りの一部が反映されているようにも思われる。

一方で気になるのが、いずれの項目でも「無回答」が、「まったくない」と比べて半分以下ではあるものの、かなりの割合に達している点である。「身体的暴行」(29.5%。前年11.1%)、「心理的攻撃」(30.0%。前年10.8%)、「経済的圧迫」(30.3%。前年11.3%)。しかも前年と比べていずれも3倍近く増加している。その理由は何なのであろうか。市民にとって、回答に逡巡せざるを得ない類の設定だからか、あるいは「まったくない」とは言い切れないといったように、回答者が判断に窮しているのであらうか。それともこれ以上は回答したくないということなのであらうか。

LGBT(エルジービーティー)の認知度について、「言葉も内容も知っている」(52.9%。前年50.4%)が5割を超えた。若干ではあるが上昇傾向にあり、社会的関心の高まりと相俟って徐々に市民の間に認知が浸透しつつある。ただ、設問の説明記載を見て、LGBTという頭文字の意味を改めて確認できた回答者が多くいたため、認知率を押し上げた可能性がある。

## 1 5. 雨水貯留・浸透施設の補助金制度について

雨水貯留・浸透施設の認知度(「知っている」39.7%)はかなり高いといえる。加えて「名前は聞いたことがある」が32.0%に達しているので、行政にとってはPR効果によって認知度を上げやすい状況にある。

ところが、雨水貯留・浸透施設の補助金制度の認知度となると、「知っている」(28.8%)と「知らない」(70.7%)とでは大きな差が付いてしまった。施設の認知度が補助金制度の認知度に直結していないのである。行政は施設と補助金制度をセットにした形での情報提供を強化する必要があるのではないかと。

雨水貯留・浸透施設の設置効果について、「知っている」(34.0%)は「知らない」(65.0%)のほぼ半分の割合となった。施設の効果が「浸水被害の軽減や適正な水循環の形成」にあるとの認知度を上げたいところだ。そのことが、施設・補助金・効果についての認知度上昇の原動力となるはずだ。

「貯留タンク」や「浸透ます」の設置意向について、「設置したい」(18.4%)が「設置したくない」(13.6%)を上回ったものの、「わからない」(60.3%)が6割に達した。補助金や効果についての認知度が市民の間に浸透すれば、「わからない」市民を「設置したい」市民に変えることは可能だと思われる。

上記設問で「設置したい」「既に設置してある」とした回答者にその理由を聞いたところ、「雨水を庭木の水やりに利用するため」(46.6%)、「水の節約になるため」(43.7%)、「浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につ

---

ながるため」(43.7%)が上位に並んだ。雨水貯留・浸透施設は設置スペースの確保さえできれば、庭木への水やりや水節約などその利用効果を目の当たりにできるし、浸水被害軽減や水循環形成といった社会貢献にも直結する。

ところが残念なことに、雨水貯留・浸透施設を設置したくない理由として挙げられた最上位が「敷地に設置できる場所がないため」(56.4%)であった。こればかりは仕方がないと受け止める前に、設置場所の確保については工夫の余地があると考えてはどうか。行政にはとくにこの点で有用となる情報を提供してほしい。また、「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」(47.3%)についても、維持管理方法の簡潔明瞭な説明があれば、クリアできる課題ではないだろうか。

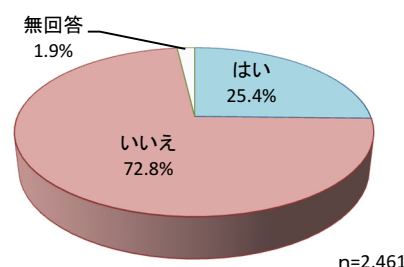
## VI 宇都宮市の取組についての意識調査の結果

### 1. あなたのことについて

#### (1-1) 子育ての関わりについて

問 1-1-(1) あなたは、現在、小学生まで（12歳以下）のお子さんの子育てに関わりがありますか。 n=2,461

	回答数	構成比
はい	624	25.4%
いいえ	1,791	72.8%
無回答	46	1.9%
計	2,461	100.0%

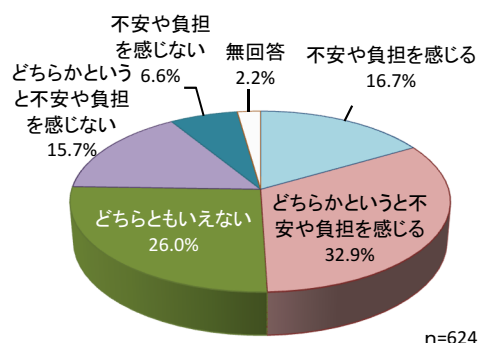


現在、小学生まで（12歳以下）のお子さんの子育てに関わりがあるかについては、「はい」は2割半ば、「いいえ」は7割強であった。

#### (1-2) 子育てに関しての不安感や負担感を感じるかについて

問 1-1-(2) あなたは、子育てに関して不安感や負担感を感じることがありますか。 n=624

	回答数	構成比
不安や負担を感じる	104	16.7%
どちらかという不安や負担を感じる	205	32.9%
どちらともいえない	162	26.0%
どちらかという不安や負担を感じない	98	15.7%
不安や負担を感じない	41	6.6%
無回答	14	2.2%
計	624	100.0%

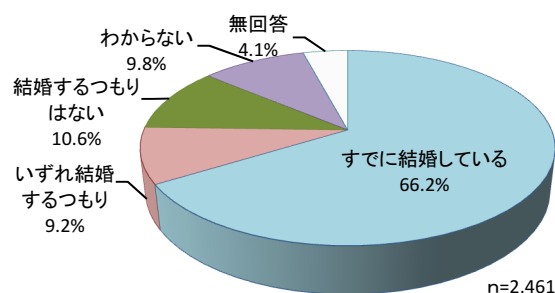


前問で「はい」と答えた人（624人）に、子育てに関して不安感や負担感を感じることがあるか聞いたところ、「どちらかという不安や負担を感じる」が32.9%で最も高く、「不安や負担を感じる」の16.7%を合わせると、不安や負担を感じている人は約5割であった。

#### (2) 結婚に対する考え方について

問 1-2 あなたの結婚に対するお考えを教えてください。 n=2,461

	回答数	構成比
すでに結婚している	1,630	66.2%
いずれ結婚するつもり	227	9.2%
結婚するつもりはない	262	10.6%
わからない	240	9.8%
無回答	102	4.1%
計	2,461	100.0%



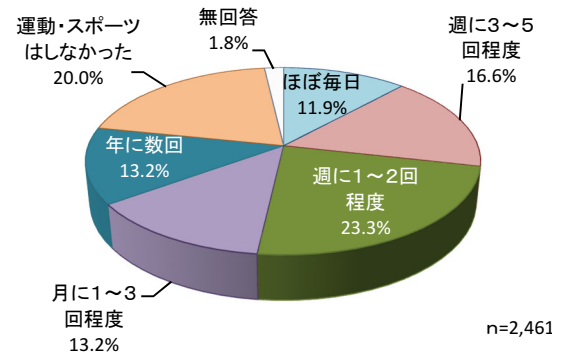
結婚に対する考え方について、「すでに結婚している」が66.2%で最も高く、「いずれ結婚するつもり」の9.2%を合わせると、結婚している・いずれ結婚するつもりという人は7割半ばであった。「結婚するつもりはない」は10.6%で約1割であった。

### (3) 運動やスポーツの活動状況

問 1-3 あなたは、この1年間に運動やスポーツをどのくらい行いましたか。

n=2,461

	回答数	構成比
ほぼ毎日	292	11.9%
週に3～5回程度	409	16.6%
週に1～2回程度	574	23.3%
月に1～3回程度	326	13.2%
年に数回	324	13.2%
運動・スポーツはしなかった	491	20.0%
無回答	45	1.8%
計	2,461	100.0%



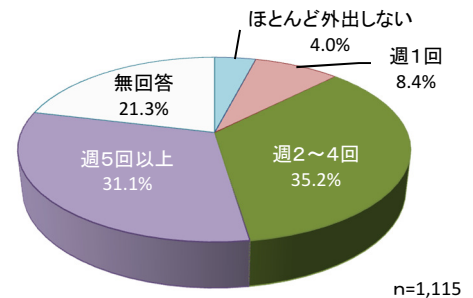
この1年間に運動やスポーツをどのくらい行ったかについては、「週に1～2回程度」が23.3%で最も高く、「ほぼ毎日」、「週に3～5回程度」とあわせると、運動やスポーツを週に1回以上している人は5割強で、運動やスポーツに対する意識は高い傾向にあると思われる。一方、「運動・スポーツはしなかった」は20.0%であった。

### (4) 65歳以上の方の外出状況について

問 1-4 65歳以上の方にお伺いします。あなたは週に1回以上外出していますか。

n=1,115

	回答数	構成比
ほとんど外出しない	45	4.0%
週1回	94	8.4%
週2～4回	392	35.2%
週5回以上	347	31.1%
無回答	237	21.3%
計	1,115	100.0%



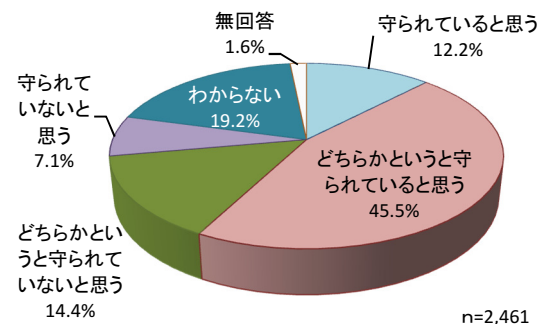
65歳以上の方に、週1回以上外出しているか聞いたところ、「週2～4回」が35.2%で最も高く、「週1回」、「週5回以上」を合わせると、週1回以上外出している人は7割半ばであった。一方、「ほとんど外出しない」は4.0%で1割に満たない結果であった。

### (5) 一人一人の権利が守られているかについて

問 1-5 あなたは、子どもから高齢者まで、一人一人の権利が守られていると感じていますか。

n=2,461

	回答数	構成比
守られていると思う	301	12.2%
どちらかというと思われていると思う	1,120	45.5%
どちらかというと思われていないと思う	355	14.4%
守られていないと思う	174	7.1%
わからない	472	19.2%
無回答	39	1.6%
計	2,461	100.0%



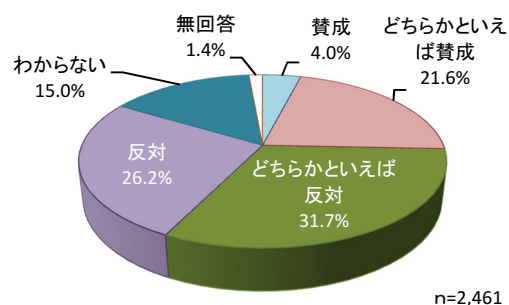
子どもから高齢者まで、一人一人の権利が守られていると感じるかについては、「どちらかというと思われていると思う」の45.5%と「守られていると思う」の12.2%を合わせると6割弱であった。



### (6-1) 男女共同参画に関する意識について

問 1-6(1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのようにお考えですか。 n=2,461

	回答数	構成比
賛成	99	4.0%
どちらかといえば賛成	532	21.6%
どちらかといえば反対	781	31.7%
反対	644	26.2%
わからない	370	15.0%
無回答	35	1.4%
計	2,461	100.0%

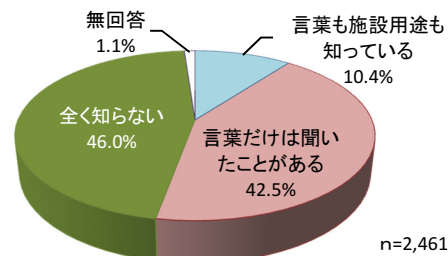


「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どう考えるについては、「どちらかといえば反対」が31.7%で最も高く、「反対」の26.2%と合わせると6割弱であった。一方、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせると2割半ばであった。

### (6-2) 「宇都宮市配偶者暴力相談支援センター」の認知度について

問 1-6(2) あなたは、「宇都宮市配偶者暴力相談支援センター」を知っていますか。 n=2,461

	回答数	構成比
言葉も施設用途も知っている	255	10.4%
言葉だけは聞いたことがある	1047	42.5%
全く知らない	1131	46.0%
無回答	28	1.1%
計	2,461	100.0%

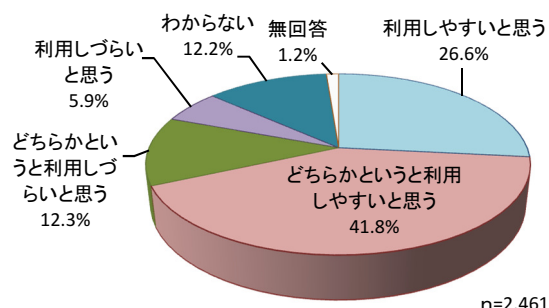


「宇都宮市配偶者暴力相談支援センター」を知っているかについては、「全く知らない」が46.0%で知らない人は4割半ばであった。一方、「言葉だけは聞いたことがある」が42.5%で2番目に高い結果で、「言葉も施設用途も知っている」は10.4%であった。

### (7) 地域行政機関を利用しやすいと感じているかについて

問 1-7 あなたは、地区市民センターや出張所などの地域行政機関を利用しやすいと感じていますか。 n=2,461

	回答数	構成比
利用しやすいと思う	655	26.6%
どちらかという util しやすいと思う	1028	41.8%
どちらかという util づらいと思う	302	12.3%
利用づらいと思う	145	5.9%
わからない	301	12.2%
無回答	30	1.2%
計	2,461	100.0%



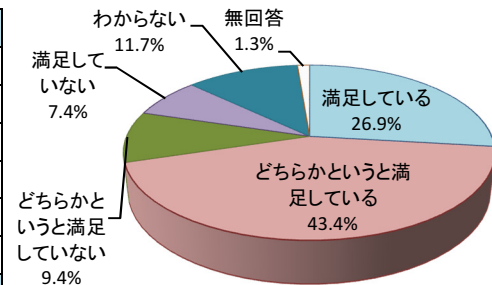
地区市民センターや出張所などの地域行政機関を利用しやすいと感じているかについては、「どちらかという util しやすいと思う」が41.8%で最も高く、次いで「利用しやすいと思う」が26.6%であった。これらを合わせた「利用しやすいと思う (計)」は7割弱であった。

### (8-1) 上下水道サービスに満足しているかについて

問 1-8-(1) あなたは、上下水道サービスに満足していますか。

n=2,461

	回答数	構成比
満足している	661	26.9%
どちらかという満足している	1068	43.4%
どちらかという満足していない	232	9.4%
満足していない	181	7.4%
わからない	288	11.7%
むかいとう	31	1.3%
計	2,461	100.0%



n=2,461

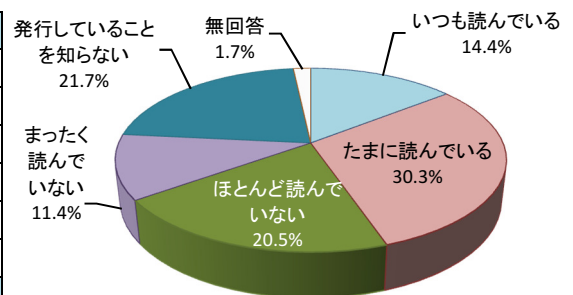
上下水道サービスに満足しているかについては、「どちらかという満足している」が43.4%で最も高く、次いで「満足している」が26.9%であった。これらを合わせた「満足している（計）」は約7割であった。

### (8-2) 上下水道局発行の広報誌について

問 1-8-(2) あなたは、上下水道局が年に4回（3，6，9，12月）発行している広報誌「私たちのくらしと水」を読んだことがありますか。

n=2,461

	回答数	構成比
いつも読んでいる	355	14.4%
たまに読んでいる	745	30.3%
ほとんど読んでいない	504	20.5%
まったく読んでいない	280	11.4%
発行していることを知らない	535	21.7%
無回答	42	1.7%
計	2,461	100.0%



n=2,461

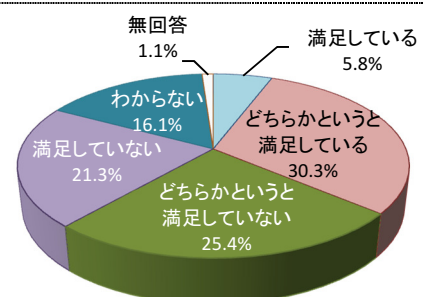
「私たちのくらしと水」を読んだことがあるかについては、「たまに読んでいる」が30.3%で最も高く、次いで「発行していることを知らない」が21.7%であった。

### (9) 公共交通の充実に向けた取組について

問 1-9 あなたは、本市の公共交通の充実に向けた取組に満足していますか。

n=2,461

	回答数	構成比
満足している	143	5.8%
どちらかという満足している	746	30.3%
どちらかという満足していない	624	25.4%
満足していない	525	21.3%
わからない	396	16.1%
無回答	27	1.1%
計	2,461	100.0%



n=2,461

本市の公共交通の充実に向けた取組に満足しているかについては、「どちらかという満足している」が30.3%で最も高かった。一方、「どちらかという満足していない」の25.4%と「満足していない」の21.3%を合わせると5割弱であった。

## 2. 現在の宇都宮市について

問2 宇都宮市がまちづくりのために実施している取組について、お聞きします。  
あなたは、下記の取組の、「重要度」と「満足度」をどのように感じていますか。  
最も当てはまるものを1つ選んで○をつけてください。

### (1) 宇都宮市が実施している取組（24基本施策 85施策）の重要度

#### ①政策の柱Ⅰ：「子育て・教育・学習」

基本施策（24基本施策）	施策（85施策）	重要度
1. 全ての子供・若者を健やかに育成する	児童福祉・青少年育成に関する分野	70.1
	子ども・若者の健全育成環境の充実	74.4
	子どもを守り育てる支援の充実	75.4
	結婚の希望をかなえる支援の拡充	63.2
	安心して妊娠・出産できる環境の充実	79.4
	子育て支援の充実	77.4
2. 確かな自信と志を育む学校教育を推進する	学校教育に関する分野	65.7
	成長の基盤となる知・徳・体の育成	75.4
	未来を生き抜く力の育成	75.4
	地域とともにある学校づくりの推進	69.8
	教育環境の充実	74.6
	多様な児童生徒に応じた指導・支援の推進	77.2
	教職員の資質・能力と学校の組織力の向上	75.9
	幼児教育の推進	71.8
3. 生涯にわたる学習活動を促進する	高校、高等教育の充実・支援	75.6
	生涯学習に関する分野	52.8
	自己を磨き社会を支える学習の推進	70.6
	学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実	71.6
4. 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現する	学んだ成果を生かした活動の推進	62.4
	スポーツ振興に関する分野	60.5
	ライフステージ等に応じたスポーツ活動の推進	60.5
	スポーツ活動環境の充実	59.8
	スポーツを支える人材の育成、団体の活性化	61.2

#### ②政策の柱Ⅱ：「健康・福祉・医療」

基本施策（24基本施策）	施策（85施策）	重要度
5. 健康づくりと地域医療を充実する	保健・医療サービスに関する分野	73.5
	健康づくりの推進	81.2
	地域医療体制の充実	80.9
6. 高齢期の生活を充実する	高齢者福祉に関する分野	69.8
	支え合いによる高齢者の日常生活の充実	75.6
	高齢者の生きがいづくりの推進	79.1
	地域包括ケアシステムの構築・推進	78.6
7. 障害のある人の生活を充実する	障がい者福祉に関する分野	78.6
	障がい者の社会的自立の促進	74.2
	障がい者の地域生活支援の充実	72.1
8. 身近な地域の福祉力を高める	都市の福祉基盤に関する分野	64.9
	福祉のこころをはぐむ人づくりの推進	76.5
	安心して暮らせる福祉基盤の充実	80.7
	共に支え合う地域社会づくりの推進	77.7

③政策の柱Ⅲ：「安心・協働・共生」

基本施策（24基本施策）	施策（85施策）	重要度
9. 危機への備え・対応力を高める	危機管理・防災対策に関する分野	76.0
	危機に対する体制・都市基盤の強化	81.9
	総合的な治水・雨水対策の推進	84.6
	消防・救急体制の充実	85.0
10. 日常生活の安心感を高める	日常生活の安全・安心に関する分野	71.6
	防犯対策の充実	85.3
	交通安全対策の充実	85.5
	消費生活の向上	79.4
	食品の安全性の向上	83.3
11. 市民が主役のまちづくりを推進する	生活衛生環境の向上	77.9
	市民主役のまちづくりに関する分野	60.3
	協働によるまちづくりの推進	66.7
	地域主体のまちづくりの促進	66.2
	市民の市政への参画促進	63.2
12. 相互理解の促進による共生社会を形成する	市民の相互理解と共生に関する分野	55.4
	かけがえのない個人の尊重	74.5
	男女共同参画の推進	72.3
	多文化共生の推進	65.4

④政策の柱Ⅳ：「魅力・交流・文化」

基本施策（24基本施策）	施策（85施策）	重要度
13. 都市ブランドの確立と更なる魅力を創出する	地域資源の活用・創出に関する分野	60.5
	都市ブランド戦略の推進	60.7
	移住・定住の促進	60.2
	都市の魅力の発掘・創出・ブラッシュアップ	67.8
	観光地・大谷の地域活性化の推進	65.1
14. 個性豊かな観光と交流を創出する	観光や交流創出に関する分野	57.2
	戦略的観光の推進	60.9
	おもてなしの充実	69.7
15. 暮らしに息づく文化の創造・活用を推進する	文化振興に関する分野	54.7
	文化活動の充実	67.4
	文化の創造・継承、保存・活用	63.2

⑤政策の柱Ⅴ：「産業・環境」

基本施策（24基本施策）	施策（85施策）	重要度
16. 地域産業の創造性・発展性を高める	地域産業に関する分野	61.1
	地域特性を活かした産業集積の促進	66.2
	新規開業・新事業創出の促進	62.1
	就労・雇用対策の充実	73.1
17. 商工・サービス業の活力を高める	商業・サービス業・工業に関する分野	59.6
	魅力ある商業の振興	73.7
	安定した経営基盤の確立	65.2
	中小企業の経営・技術革新の促進	66.5
18. 農林業の生産性・販売力・地域力を高める	流通機能の充実	76.7
	農林業に関する分野	54.5
	農林業を支える担い手の確保・育成	67.8
	農林業経営を支える生産体制の強化	65.0
	生産者と消費者を結ぶ流通・販売戦略の強化	66.2
19. 環境への負荷を低減する	環境と調和した農林業の推進	65.5
	環境にやさしい社会に関する分野	64.3
	環境保全行動の推進	72.0
	地球温暖化対策の推進	75.2
	ごみの発生抑制、資源の循環利用の推進	84.1
	廃棄物の適正処理の推進	85.1
良好な生活環境の確保	84.4	
	生物多様性の保全	73.7

⑥政策の柱Ⅵ：「都市空間・交通」

基本施策（24基本施策）	施策（85施策）	重要度
20. 暮らしやすく魅力ある都市空間を作成する	都市空間形成に関する分野	66.3
	地域特性に応じた土地利用の推進	70.0
	地域特性を生かした魅力ある拠点の形成	66.5
	地域特性に応じた安全で快適な市街地の形成	73.4
	空き家・空き地対策の推進	82.4
	都市景観の保全・創出	70.0
21. 快適な住環境と自然豊かな都市環境を創出する	住環境・自然環境に関する分野	64.3
	安心して快適な住まいづくりの促進	69.0
	水と緑の保全・創出	78.2
22. 誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークを構築する	交通に関する分野	71.6
	公共交通ネットワークの充実	68.3
	道路ネットワークの充実	74.9
	自転車利用環境の充実	69.1
23. 質の高い上下水道サービスを提供する	上下水道に関する分野	69.5
	安定した上下水道事業の推進	84.1
	顧客に信頼される経営の推進	70.5

■各施策の柱を支える行政経営基盤

基本施策（24基本施策）	施策（85施策）	重要度
24. 強固な行政経営基盤を確立する	行政経営に関する分野	51.3
	効果的で効率的な行政経営システムの確立	64.6
	地区行政の推進	71.5
	行政の組織力の向上	71.0
	財政基盤の確立	69.2
	情報化の推進	70.1

(2) 宇都宮市が実施している取組 (24 基本施策 85 施策) の現在の満足度

①政策の柱Ⅰ：「子育て・教育・学習」

基本施策 (24基本施策)	施策 (85施策)	満足度
1. 全ての子供・若者を健やかに育成する	児童福祉・青少年育成に関する分野	36.0
	子ども・若者の健全育成環境の充実	32.0
	子どもを守り育てる支援の充実	30.5
	結婚の希望をかなえる支援の拡充	22.1
	安心して妊娠・出産できる環境の充実	34.8
	子育て支援の充実	31.7
2. 確かな自信と志を育む学校教育を推進する	学校教育に関する分野	29.9
	成長の基盤となる知・徳・体の育成	34.0
	未来を生き抜く力の育成	25.6
	地域とともにある学校づくりの推進	29.7
	教育環境の充実	28.2
	多様な児童生徒に応じた指導・支援の推進	20.1
	教職員の資質・能力と学校の組織力の向上	19.3
	幼児教育の推進	25.1
	高校、高等教育の充実・支援	24.9
3. 生涯にわたる学習活動を促進する	生涯学習に関する分野	19.5
	自己を磨き社会を支える学習の推進	30.5
	学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実	29.2
	学んだ成果を生かした活動の推進	25.4
4. 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現する	スポーツ振興に関する分野	29.8
	ライフステージ等に応じたスポーツ活動の推進	28.1
	スポーツ活動環境の充実	27.4
	スポーツを支える人材の育成、団体の活性化	25.3

②政策の柱Ⅱ：「健康・福祉・医療」

基本施策 (24基本施策)	施策 (85施策)	満足度
5. 健康づくりと地域医療を充実する	保健・医療サービスに関する分野	43.3
	健康づくりの推進	42.1
	地域医療体制の充実	34.2
6. 高齢期の生活を充実する	高齢者福祉に関する分野	25.8
	支え合いによる高齢者の日常生活の充実	27.7
	高齢者の生きがいづくりの推進	27.4
	地域包括ケアシステムの構築・推進	26.7
7. 障害のある人の生活を充実する	障がい者福祉に関する分野	16.7
	障がい者の社会的自立の促進	20.0
	障がい者の地域生活支援の充実	18.8
8. 身近な地域の福祉力を高める	都市の福祉基盤に関する分野	20.2
	福祉のこころをはぐくむ人づくりの推進	25.6
	安心して暮らせる福祉基盤の充実	25.6
	共に支え合う地域社会づくりの推進	25.3

③政策の柱Ⅲ：「安心・協働・共生」

基本施策（24基本施策）	施策（85施策）	満足度
9. 危機への備え・対応力を高める	危機管理・防災対策に関する分野	31.1
	危機に対する体制・都市基盤の強化	36.8
	総合的な治水・雨水対策の推進	32.4
	消防・救急体制の充実	50.7
10. 日常生活の安心感を高める	日常生活の安全・安心に関する分野	44.4
	防犯対策の充実	48.0
	交通安全対策の充実	41.9
	消費生活の向上	42.9
	食品の安全性の向上	50.2
11. 市民が主役のまちづくりを推進する	生活衛生環境の向上	42.6
	市民主役のまちづくりに関する分野	26.5
	協働によるまちづくりの推進	32.8
	地域主体のまちづくりの促進	34.8
12. 相互理解の促進による共生社会を形成する	市民の市政への参画促進	32.1
	市民の相互理解と共生に関する分野	23.3
	かけがえのない個人の尊重	28.9
	男女共同参画の推進	29.4
	多文化共生の推進	30.4

④政策の柱Ⅳ：「魅力・交流・文化」

基本施策（24基本施策）	施策（85施策）	満足度
13. 都市ブランドの確立と更なる魅力を創出する	地域資源の活用・創出に関する分野	29.2
	都市ブランド戦略の推進	27.6
	移住・定住の促進	26.9
	都市の魅力の発掘・創出・ブラッシュアップ	37.2
	観光地・大谷の地域活性化の推進	43.0
14. 個性豊かな観光と交流を創出する	観光や交流創出に関する分野	21.1
	戦略的観光の推進	26.2
	おもてなしの充実	25.5
15. 暮らしに息づく文化の創造・活用を推進する	文化振興に関する分野	23.7
	文化活動の充実	33.6
	文化の創造・継承、保存・活用	29.2

⑤政策の柱Ⅴ：「産業・環境」

基本施策（24基本施策）	施策（85施策）	満足度
16. 地域産業の創造性・発展性を高める	地域産業に関する分野	20.2
	地域特性を活かした産業集積の促進	23.5
	新規開業・新事業創出の促進	16.1
	就労・雇用対策の充実	20.5
17. 商工・サービス業の活力を高める	商業・サービス業・工業に関する分野	18.4
	魅力ある商業の振興	14.6
	安定した経営基盤の確立	16.4
	中小企業の経営・技術革新の促進	16.1
18. 農林業の生産性・販売力・地域力を高める	流通機能の充実	34.5
	農林業に関する分野	20.5
	農林業を支える担い手の確保・育成	16.6
	農林業経営を支える生産体制の強化	19.9
	生産者と消費者を結ぶ流通・販売戦略の強化	24.8
19. 環境への負荷を低減する	環境と調和した農林業の推進	16.1
	環境にやさしい社会に関する分野	32.8
	環境保全行動の推進	39.0
	地球温暖化対策の推進	32.8
	ごみの発生抑制、資源の循環利用の推進	52.6
	廃棄物の適正処理の推進	41.2
	良好な生活環境の確保	35.7
生物多様性の保全	34.5	

⑥政策の柱Ⅵ：「都市空間・交通」

基本施策（24基本施策）	施策（85施策）	満足度
20. 暮らしやすく魅力ある都市空間を作成する	都市空間形成に関する分野	32.5
	地域特性に応じた土地利用の推進	27.8
	地域特性を生かした魅力ある拠点の形成	34.2
	地域特性に応じた安全で快適な市街地の形成	34.7
	空き家・空き地対策の推進	17.1
	都市景観の保全・創出	35.7
21. 快適な住環境と自然豊かな都市環境を創出する	住環境・自然環境に関する分野	36.2
	安心して快適な住まいづくりの促進	32.3
	水と緑の保全・創出	41.4
22. 誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークを構築する	交通に関する分野	24.8
	公共交通ネットワークの充実	26.1
	道路ネットワークの充実	35.5
	自転車利用環境の充実	30.2
23. 質の高い上下水道サービスを提供する	上下水道に関する分野	51.4
	安定した上下水道事業の推進	61.3
	顧客に信頼される経営の推進	38.2

■各施策の柱を支える行政経営基盤

基本施策（24基本施策）	施策（85施策）	満足度
24. 強固な行政経営基盤を確立する	行政経営に関する分野	19.3
	効果的で効率的な行政経営システムの確立	21.4
	地区行政の推進	30.6
	行政の組織力の向上	26.7
	財政基盤の確立	24.1
	情報化の推進	34.0



### 3. 各施策についての重要度

#### (1) 宇都宮市が実施している取組（24 基本施策 85 施策）の重要度

##### ①政策の柱Ⅰ：「子育て・教育・学習」

##### ①-1 全ての子ども・若者を健やかに育成する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
児童福祉・青少年育成に関する分野	394	51.3	18.8	3.8	0.3	11.9	14.0
子ども・若者の健全育成環境の充実	394	53.3	21.1	4.8	0.3	15.7	4.8
子どもを守り育てる支援の充実	394	59.1	16.2	2.8	0.8	15.5	5.6
結婚の希望をかなえる支援の拡充	394	35.0	28.2	9.4	3.8	18.0	5.6
安心して妊娠・出産できる環境の充実	394	62.4	17.0	1.3	0.5	14.2	4.6
子育て支援の充実	394	59.6	17.8	3.6	0.0	14.2	4.8

全ての子ども・若者を健やかに育成するについて、【重要】と【やや重要】を合わせた【重要(計)】(以下【重要(計)】とする)は「安心して妊娠・出産できる環境の充実」が約8割と最も高く、次いで「子育て支援の充実」が8割弱であった。

##### ①-2 確かな自身と志を育む学校教育を推進する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
学校教育に関する分野	394	53.0	12.7	3.3	1.5	14.5	15.0
成長の基盤となる知・徳・体の育成	394	62.2	13.2	3.6	0.5	14.0	6.6
未来を生き抜く力の育成	394	59.9	15.5	4.1	0.8	13.5	6.3
地域とともにある学校づくりの推進	394	42.9	26.9	8.4	1.3	14.7	5.8
教育環境の充実	394	52.8	21.8	5.3	0.8	11.9	7.4
多様な児童生徒に応じた指導・支援の推進	394	60.2	17.0	3.3	1.3	11.9	6.3
教職員の資質・能力と学校の組織力の向上	394	61.4	14.5	3.0	1.0	13.7	6.3
幼児教育の推進	394	51.8	20.1	5.8	1.0	15.2	6.1
高校、高等教育の充実・支援	394	52.8	22.8	4.6	0.8	12.7	6.3

確かな自身と志を育む学校教育を推進するについて、【重要(計)】は「多様な児童生徒に応じた指導・支援の推進」が8割弱と最も高く、次いで「教職員の資質・能力と学校の組織力の向上」が7割半ばであった。

①-3 生涯にわたる学習活動を促進する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
生涯学習に関する分野	394	29.2	23.6	7.9	1.8	17.3	20.3
自己を磨き社会を支える学習の推進	394	38.6	32.0	6.9	1.8	15.0	5.8
学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実	394	45.9	25.6	5.6	1.3	15.5	6.1
学んだ成果を生かした活動の推進	394	32.5	29.9	9.6	2.0	19.5	6.3

生涯にわたる学習活動を促進するについて、【重要(計)】は「学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実」が7割強と最も高く、次いで「自己を磨き社会を支える学習の推進」が約7割であった。

①-4 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
スポーツ振興に関する分野	430	25.3	35.1	10.9	2.3	16.5	9.8
ライフステージ等に応じたスポーツ活動の推進	430	25.1	35.3	10.7	2.8	19.1	7.0
スポーツ活動環境の充実	430	22.1	37.7	10.2	2.1	20.7	7.2
スポーツを支える人材の育成，団体の活性化	430	28.1	33.0	7.7	3.3	21.6	6.3

誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現するについて、【重要(計)】はいずれも約6割であった。

②政策の柱Ⅱ：「健康・福祉・医療」

②-5 健康づくりと地域医療を充実する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
保健・医療サービスに関する分野	430	50.7	22.8	2.1	1.2	10.0	13.3
健康づくりの推進	430	58.4	22.8	3.5	0.5	9.8	5.1
地域医療体制の充実	430	64.0	17.0	2.3	0.5	10.7	5.6

健康づくりと地域医療を充実するについて、【重要(計)】は「健康づくりの推進」と「地域医療体制の充実」がいずれも約8割であった。

②-6 高齢期の生活を充実する

(%)

市の取組あまり重要でない	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
高齢者福祉に関する分野	430	50.5	19.3	3.3	0.7	13.5	12.8
支え合いによる高齢者の日常生活の充実	430	55.6	20.0	3.0	0.7	14.7	6.0
高齢者の生きがいつくりの推進	430	54.9	24.2	2.3	0.5	14.2	4.0
地域包括ケアシステムの構築・推進	430	58.4	20.2	0.9	0.9	14.2	5.3

高齢期の生活を充実するについて、【重要(計)】は「高齢者の生きがいつくりの推進」と「地域包括ケアシステムの構築・推進」がいずれも約8割であった。

②-7 障害のある人の生活を充実する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
障がい者福祉に関する分野	430	58.4	20.2	0.9	0.9	14.2	5.3
障がい者の社会的自立の促進	430	54.0	20.2	2.8	0.7	17.0	5.3
障がい者の地域生活支援の充実	430	53.3	18.8	3.0	0.5	18.4	6.0

障害のある人の生活を充実するについて、【重要(計)】は「障がい者福祉に関する分野」が約8割と最も高く、次いで「障がい者の社会的自立の促進」が7割半ばであった。

②-8 身近な地域の福祉力を高める

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
都市の福祉基盤に関する分野	430	44.2	20.7	2.1	0.2	17.2	15.6
福祉のこころをはぐくむ人づくりの推進	430	53.3	23.3	3.0	0.2	14.2	6.0
安心して暮らせる福祉基盤の充実	430	58.4	22.3	1.4	0.0	12.1	5.8
共に支え合う地域社会づくりの推進	430	52.1	25.6	2.8	0.0	14.0	5.6

身近な地域の福祉力を高めるについて、【重要(計)】は「安心して暮らせる福祉基盤の充実」が約8割で最も高く、次いで「共に支え合う地域社会づくりの推進」が8割弱であった。

### ③政策の柱Ⅲ：「安心・協働・共生」

#### ③-9 危機への備え・対応力を高める

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
危機管理・防災対策に関する分野	408	62.0	14.0	4.2	0.2	11.5	8.1
危機に対する体制・都市基盤の強化	408	66.4	15.4	3.2	0.5	10.0	4.4
総合的な治水・雨水対策の推進	408	69.4	15.2	2.7	1.0	6.9	4.9
消防・救急体制の充実	408	68.1	16.9	2.9	0.5	7.6	3.9

危機への備え・対応力を高めるについて、【重要(計)】は「消防・救急体制の充実」と「総合的な治水・雨水対策の推進」がいずれも8割半ばであった。

#### ③-10 日常生活の安心感を高める

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
日常生活の安全・安心に関する分野	408	53.4	18.1	3.4	0.2	8.1	16.7
防犯対策の充実	408	64.2	21.1	4.2	0.0	5.6	4.9
交通安全対策の充実	408	65.9	19.6	3.4	0.2	6.4	4.4
消費生活の向上	408	52.0	27.5	7.6	0.2	8.6	4.2
食品の安全性の向上	408	56.9	26.5	6.1	1.0	5.6	3.9
生活衛生環境の向上	408	44.1	33.8	8.6	0.7	7.1	5.6

日常生活の安心感を高めるについて、【重要(計)】は「交通安全対策の充実」と「防犯対策の充実」がいずれも8割半ばであった。

③-11 市民が主役のまちづくりを推進する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
市民主役のまちづくりに関する分野	408	32.6	27.7	7.4	0.5	16.2	15.7
協働によるまちづくりの推進	408	29.7	37.0	9.1	1.5	16.4	6.4
地域主体のまちづくりの促進	408	33.6	32.6	13.0	2.5	12.0	6.4
市民の市政への参画促進	408	32.8	30.4	10.0	1.7	17.6	7.4

市民が主役のまちづくりを推進するについて、【重要(計)】は「協働によるまちづくりの推進」が7割弱で最も高く、次いで「地域主体のまちづくりの促進」が6割半ばであった。

③-12 相互理解の促進による共生社会を形成する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
市民の相互理解と共生に関する分野	408	29.7	25.7	5.9	1.0	19.1	18.6
かけがえのない個人の尊重	408	50.2	24.3	5.9	1.0	13.2	5.4
男女共同参画の推進	408	43.6	28.7	7.8	1.5	12.7	5.6
多文化共生の推進	408	36.3	29.2	12.3	1.7	14.5	6.1

相互理解の促進による共生社会を形成するについて、【重要(計)】は「かけがえのない個人の尊重」が7割半ばで最も高く、次いで「男女共同参画の推進」が7割強であった。

#### ④政策の柱Ⅳ：「魅力・交流・文化」

##### ④-13 都市ブランドの確立と更なる魅力を創出する (%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
地域資源の活用・創出に関する分野	435	31.0	29.4	9.7	2.8	14.5	12.6
都市ブランド戦略の推進	435	30.3	30.3	13.1	2.3	19.3	4.6
移住・定住の促進	435	27.6	32.6	12.2	2.8	19.3	5.5
都市の魅力の発掘・創出・ブラッシュアップ	435	31.0	36.8	6.9	3.9	16.8	4.6
観光地・大谷の地域活性化の推進	435	29.2	35.9	13.6	3.7	14.0	3.7

都市ブランドの確立と更なる魅力を創出するについて、【重要(計)】は「都市の魅力の発掘・創出・ブラッシュアップ」が7割弱で最も高く、次いで「観光地・大谷の地域活性化の推進」が6割半ばであった。

##### ④-14 個性豊かな観光と交流を創出する (%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
観光や交流創出に関する分野	435	26.9	30.3	8.0	1.1	19.1	14.5
戦略的観光の推進	435	31.3	29.7	9.9	3.9	20.2	5.1
おもてなしの充実	435	32.2	37.5	6.4	3.4	16.3	4.1

個性豊かな観光と交流を創出するについて、【重要(計)】は「おもてなしの充実」が約7割で最も高く、次いで「戦略的観光の推進」が約6割であった。

##### ④-15 暮らしに息づく文化の創造・活用を推進する (%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
文化振興に関する分野	435	24.1	30.6	9.2	1.6	19.5	14.9
文化活動の充実	435	30.8	36.6	7.8	2.3	15.6	6.9
文化の創造・継承、保存・活用	435	29.7	33.6	10.6	3.4	16.1	6.7

暮らしに息づく文化の創造・活用を推進するについて、【重要(計)】は「文化活動の充実」が7割弱で最も高く、次いで「文化の創造・継承、保存・活用」が6割強であった。

⑤政策の柱V：「産業・環境」

⑤-16 地域産業の創造性・発展性を高める

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
地域産業に関する分野	391	36.3	24.8	3.6	0.5	25.3	9.5
地域特性を活かした産業集積の促進	391	37.6	28.6	3.8	0.8	25.1	4.1
新規開業・新事業創出の促進	391	34.8	27.4	5.6	0.5	26.1	5.6
就労・雇用対策の充実	391	55.5	17.6	1.8	0.8	19.9	4.3

地域産業の創造性・発展性を高めるについて、【重要(計)】は「就労・雇用対策の充実」が7割強で最も高く、次いで「地域特性を活かした産業集積の促進」が6割半ばであった。

⑤-17 商工・サービス業の活力を高める

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
商業・サービス業・工業に関する分野	391	39.1	20.5	3.1	1.0	20.2	16.1
魅力ある商業の振興	391	50.9	22.8	3.3	1.5	17.9	3.6
安定した経営基盤の確立	391	39.4	25.8	3.3	1.0	26.9	3.6
中小企業の経営・技術革新の促進	391	42.2	24.3	3.1	0.8	26.1	3.6
流通機能の充実	391	56.3	20.5	1.8	0.3	18.2	3.1

商工・サービス業の活力を高めるについて、【重要(計)】は「流通機能の充実」が8割弱と最も高く、次いで「魅力ある商業の振興」が7割半ばであった。

⑤-18 農林業の生産力・販売力・地域力を高める

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
農林業に関する分野	391	34.5	19.9	5.1	0.5	26.9	13.0
農林業を支える担い手の確保・育成	391	46.5	21.2	3.6	0.0	24.6	4.1
農林業経営を支える生産体制の強化	391	43.7	21.2	3.8	1.0	26.1	4.1
生産者と消費者を結ぶ流通・販売戦略の強化	391	44.5	21.7	2.3	0.3	26.6	4.6
環境と調和した農林業の推進	391	40.7	24.8	2.6	0.8	26.6	4.6

農林業の生産力・販売力・地域力を高めるについて、【重要(計)】は「農林業を支える担い手の確保・育成」が7割弱で最も高く、次いで「生産者と消費者を結ぶ流通・販売戦略の強化」が6割半ばであった。

⑤-19 環境への負荷を低減する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
環境にやさしい社会に関する分野	403	38.5	25.8	5.2	0.5	15.6	14.4
環境保全行動の推進	403	42.7	29.3	5.7	1.7	14.6	6.0
地球温暖化対策の推進	403	54.3	20.8	6.9	3.0	10.4	4.5
ごみの発生抑制、資源の循環利用の推進	403	62.5	21.6	2.0	2.7	6.5	4.7
廃棄物の適正処理の推進	403	62.8	22.3	2.2	0.5	6.9	5.2
良好な生活環境の確保	403	65.3	19.1	2.2	0.7	8.4	4.2
生物多様性の保全	403	43.7	30.0	6.7	1.2	14.1	4.2

環境への負荷を低減するについて、【重要(計)】は「廃棄物の適正処理の推進」と「良好な生活環境の確保」がいずれも8割半ばであった。



⑥政策の柱Ⅵ：「都市空間・交通」

⑥-20 暮らしやすく魅力のある都市空間を形成する (％)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
都市空間形成に関する分野	403	42.7	23.6	5.0	1.7	11.2	15.9
地域特性に応じた土地利用の推進	403	36.2	33.7	5.2	0.5	19.1	5.2
地域特性を生かした魅力ある拠点の形成	403	36.2	30.3	13.6	3.5	11.2	5.2
地域特性に応じた安全で快適な市街地の形成	403	41.9	31.5	6.2	2.0	12.7	5.7
空き家・空き地対策の推進	403	52.9	29.5	4.5	1.0	7.2	5.0
都市景観の保全・創出	403	35.2	34.7	10.2	2.2	11.9	5.7

暮らしやすく魅力のある都市空間を形成するについて、【重要(計)】は「空き家・空き地対策の推進」が8割強で最も高く、次いで「地域特性に応じた安全で快適な市街地の形成」が7割強であった。

⑥-21 快適な住環境と自然豊かな都市環境を創出する (％)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
住環境・自然環境に関する分野	403	37.5	26.8	4.0	1.2	11.2	19.4
安心して快適な住まいづくりの促進	403	37.0	32.0	7.2	1.0	16.4	6.5
水と緑の保全・創出	403	48.9	29.3	4.5	1.5	10.4	5.5

快適な住環境と自然豊かな都市環境を創出するについて、【重要(計)】は「水と緑の保全・創出」が8割弱で、「安心して快適な住まいづくりの促進」が約7割であった。

⑥-22 誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークを構築する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
交通に関する分野	391	50.6	21.0	2.3	1.8	8.2	16.1
公共交通ネットワークの充実	391	45.0	23.3	10.7	6.9	9.2	4.9
道路ネットワークの充実	391	46.8	28.1	6.6	3.1	10.2	5.1
自転車利用環境の充実	391	37.9	31.2	11.8	3.8	10.7	4.6

誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークを構築するについて、【重要(計)】は「道路ネットワークの充実」が7割半ばと最も高く、次いで「自転車利用環境の充実」が約7割であった。

⑥-23 質の高い上下水道サービスを提供する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
上下水道に関する分野	403	53.3	16.1	2.0	1.5	8.7	18.4
安定した上下水道事業の推進	403	65.8	18.4	3.7	0.2	6.5	5.5
顧客に信頼される経営の推進	403	42.4	28.0	8.2	1.2	15.1	5.0

質の高い上下水道サービスを提供するについて、【重要(計)】は「安定した上下水道事業の推進」が8割半ばで、「顧客に信頼される経営の推進」が約7割であった。

## ■各政策の柱を支える行政経営基盤

### 24 強固な行政経営基盤を確立する

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
行政経営に関する分野	435	33.6	17.7	4.1	1.1	23.4	20.0
効果的で効率的な行政経営システムの確立	435	36.6	28.0	4.1	0.9	23.7	6.7
地区行政の推進	435	40.9	30.6	4.1	1.4	16.8	6.2
行政の組織力の向上	435	41.6	29.4	6.4	0.7	16.3	5.5
財政基盤の確立	435	48.3	20.9	3.7	0.2	21.1	5.7
情報化の推進	435	41.6	28.5	8.5	2.3	13.1	6.0

強固な行政経営基盤を確立するについて、【重要(計)】は「地区行政の推進」が7割強で最も高く、次いで「行政の組織力の向上」が約7割であった。

## 4. 各施策についての満足度

### (1) 宇都宮市が実施している取組（24 基本施策 85 施策）の満足度

#### ①政策の柱Ⅰ：「子育て・教育・学習」

##### ①-1 全ての子ども・若者を健やかに育成する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
児童福祉・青少年育成に関する分野	394	5.8	30.2	16.8	3.6	27.2	16.5
子ども・若者の健全育成環境の充実	394	4.8	27.2	17.5	4.1	39.3	7.1
子どもを守り育てる支援の充実	394	4.3	26.1	17.0	4.6	41.1	6.9
結婚の希望をかなえる支援の拡充	394	4.3	17.8	13.5	4.3	53.6	6.6
安心して妊娠・出産できる環境の充実	394	8.6	26.1	12.9	4.3	40.9	7.1
子育て支援の充実	394	5.6	26.1	14.7	7.1	40.4	6.1

全ての子ども・若者を健やかに育成するについて、【満足】と【やや満足】を合わせた【満足(計)】(以下【満足(計)】とする)は「安心して妊娠・出産できる環境の充実」が3割半ばで最も高く、次いで「子ども・若者の健全育成環境の充実」が3割強であった。

##### ①-2 確かな自身と志を育む学校教育を推進する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
学校教育に関する分野	394	4.8	25.1	14.7	4.3	32.7	18.3
成長の基盤となる知・徳・体の育成	394	7.9	26.1	15.5	3.0	40.1	7.4
未来を生き抜く力の育成	394	5.3	20.3	19.5	4.8	43.4	6.6
地域とともにある学校づくりの推進	394	7.4	22.3	14.5	3.3	45.2	7.4
教育環境の充実	394	4.6	23.6	17.0	7.1	39.3	8.4
多様な児童生徒に応じた指導・支援の推進	394	3.6	16.5	19.5	6.3	46.7	7.4
教職員の資質・能力と学校の組織力の向上	394	3.8	15.5	19.0	7.4	47.0	7.4
幼児教育の推進	394	5.8	19.3	13.5	3.6	50.8	7.1
高校、高等教育の充実・支援	394	4.6	20.3	14.2	5.3	48.5	7.1

確かな自身と志を育む学校教育を推進するについて、【満足(計)】は「成長の基盤となる知・徳・体の育成」が3割半ばで最も高く、次いで「地域とともにある学校づくりの推進」が約3割であった。

①-3 生涯にわたる学習活動を促進する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
生涯学習に関する分野	394	3.3	16.2	10.7	5.1	40.4	24.4
自己を磨き社会を支える学習の推進	394	5.1	25.4	14.5	3.6	44.4	7.1
学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実	394	5.1	24.1	15.2	3.8	44.4	7.4
学んだ成果を生かした活動の推進	394	4.1	21.3	12.9	3.0	51.3	7.4

生涯にわたる学習活動を促進するについて、【満足(計)】は「自己を磨き社会を支える学習の推進」と「学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実」がいずれも約3割であった。

①-4 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
スポーツ振興に関する分野	430	2.8	27.0	21.2	3.5	33.3	12.3
ライフステージ等に応じたスポーツ活動の推進	430	2.8	25.3	22.1	3.3	39.5	7.0
スポーツ活動環境の充実	430	3.0	24.4	20.7	4.0	40.2	7.7
スポーツを支える人材の育成, 団体の活性化	430	3.0	22.3	19.1	4.2	44.0	7.4

誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現するについて、【満足(計)】は「ライフステージ等に応じたスポーツ活動の推進」と「スポーツ活動環境の充実」がいずれも3割弱であった。

②政策の柱Ⅱ：「健康・福祉・医療」

②-5 健康づくりと地域医療を充実する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
保健・医療サービスに関する分野	430	6.3	37.0	19.1	3.0	19.8	14.9
健康づくりの推進	430	8.6	33.5	17.7	3.7	29.5	7.0
地域医療体制の充実	430	7.2	27.0	17.9	5.1	34.9	7.9

健康づくりと地域医療を充実するについて、【満足(計)】は「健康づくりの推進」が4割強で、「地域医療体制の充実」が3割半ばであった。

## ②-6 高齢期の生活を充実する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
高齢者福祉に関する分野	430	4.9	20.9	19.3	6.0	35.3	13.5
支え合いによる高齢者の日常生活の充実	430	5.6	22.1	18.8	6.0	40.5	7.0
高齢者の生きがいがづくりの推進	430	5.1	22.3	15.1	5.3	44.2	7.9
地域包括ケアシステムの構築・推進	430	6.0	20.7	15.6	5.8	45.1	6.7

高齢期の生活を充実するについて、【満足(計)】は「支え合いによる高齢者の日常生活の充実」と「高齢者の生きがいがづくりの推進」がいずれも3割弱であった。

## ②-7 障害のある人の生活を充実する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
障がい者福祉に関する分野	430	3.0	13.7	12.6	4.9	51.4	14.4
障がい者の社会的自立の促進	430	3.3	16.7	13.0	5.1	55.1	6.7
障がい者の地域生活支援の充実	430	3.3	15.6	10.7	4.7	58.8	7.0

障害のある人の生活を充実するについて、【満足(計)】は「障がい者の社会的自立の促進」と「障がい者の地域生活支援の充実」がいずれも約2割であった。

## ②-8 身近な地域の福祉力を高める

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
都市の福祉基盤に関する分野	430	2.6	17.7	14.4	5.3	43.3	16.7
福祉のこころをはぐくむ人づくりの推進	430	4.9	20.7	14.7	6.3	47.0	6.5
安心して暮らせる福祉基盤の充実	430	3.7	21.9	16.0	6.5	45.3	6.5
共に支え合う地域社会づくりの推進	430	4.4	20.9	12.3	6.0	50.2	6.0

身近な地域の福祉力を高めるについて、【満足(計)】は「福祉のこころをはぐくむ人づくりの推進」と「安心して暮らせる福祉基盤の充実」がいずれも2割半ばであった。

### ③政策の柱Ⅲ：「安心・協働・共生」

#### ③-9 危機への備え・対応力を高める

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
危機管理・防災対策に関する分野	408	2.9	28.2	24.5	9.3	24.8	10.3
危機に対する体制・都市基盤の強化	408	4.2	32.6	21.3	7.1	28.4	6.4
総合的な治水・雨水対策の推進	408	5.4	27.0	30.4	11.5	20.1	5.6
消防・救急体制の充実	408	13.2	37.5	11.5	3.4	28.4	5.9

危機への備え・対応力を高めるについて、【満足(計)】は「消防・救急体制の充実」が約5割で最も高く、次いで「危機に対する体制・都市基盤の強化」が4割弱であった。

#### ③-10 日常生活の安心感を高める

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
日常生活の安全・安心に関する分野	408	6.9	37.5	15.4	4.2	16.7	19.4
防犯対策の充実	408	8.1	40.0	22.8	6.6	16.9	5.6
交通安全対策の充実	408	6.4	35.5	26.5	11.5	15.0	5.1
消費生活の向上	408	7.6	35.3	16.9	4.9	29.4	5.9
食品の安全性の向上	408	8.3	41.9	12.7	3.9	28.2	4.9
生活衛生環境の向上	408	6.9	35.8	17.4	7.1	27.9	4.9

日常生活の安心感を高めるについて、【満足(計)】は「食品の安全性の向上」が約5割で最も高く、次いで「防犯対策の充実」が5割弱であった。

③-11 市民が主役のまちづくりを推進する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
市民主役のまちづくりに関する分野	408	4.2	22.3	17.6	5.6	32.4	17.9
協働によるまちづくりの推進	408	3.7	29.2	16.9	4.7	38.0	7.6
地域主体のまちづくりの促進	408	4.7	30.1	20.8	5.9	31.1	7.4
市民の市政への参画促進	408	5.6	26.5	16.7	4.9	39.0	7.4

市民が主役のまちづくりを推進するについて、【満足(計)】は「地域主体のまちづくりの促進」が3割半ばで最も高く、次いで「協働によるまちづくりの推進」が3割強であった。

③-12 相互理解の促進による共生社会を形成する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
市民の相互理解と共生に関する分野	408	2.5	20.8	16.2	3.9	37.0	19.6
かけがえのない個人の尊重	408	4.7	24.3	16.7	4.2	42.4	7.8
男女共同参画の推進	408	4.7	24.8	19.1	4.2	40.2	7.1
多文化共生の推進	408	5.1	25.2	14.5	3.9	44.6	6.6

相互理解の促進による共生社会を形成するについて、【満足(計)】は「多文化共生の推進」と「男女共同参画の推進」がいずれも約3割であった。



#### ④政策の柱Ⅳ：「魅力・交流・文化」

##### ④-13 都市ブランドの確立と更なる魅力を創出する (％)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
地域資源の活用・創出に関する分野	435	2.3	26.9	24.6	10.3	20.7	15.2
都市ブランド戦略の推進	435	2.3	25.3	25.1	11.7	29.0	6.7
移住・定住の促進	435	3.0	23.9	17.5	6.4	43.7	5.5
都市の魅力の発掘・創出・ブラッシュアップ	435	2.3	34.9	19.3	7.6	29.2	6.7
観光地・大谷の地域活性化の推進	435	6.0	37.0	19.5	6.0	26.7	4.8

都市ブランドの確立と更なる魅力を創出するについて、【満足(計)】は「観光地・大谷の地域活性化の推進」が4割強で最も高く、次いで「都市の魅力の発掘・創出・ブラッシュアップ」が4割弱であった。

##### ④-14 個性豊かな観光と交流を創出する (％)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
観光や交流創出に関する分野	435	2.5	18.6	24.6	9.7	27.8	16.8
戦略的観光の推進	435	2.3	23.9	22.3	10.6	34.7	6.2
おもてなしの充実	435	3.4	22.1	24.8	10.8	33.3	5.5

個性豊かな観光と交流を創出するについて、【満足(計)】は「戦略的観光の推進」と「おもてなしの充実」がいずれも2割半ばであった。

##### ④-15 暮らしに息づく文化の創造・活用を推進する (％)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
文化振興に関する分野	435	2.3	21.4	19.8	10.1	31.0	15.4
文化活動の充実	435	4.1	29.4	20.2	9.4	29.7	7.1
文化の創造・継承、保存・活用	435	4.8	24.4	21.6	7.1	35.4	6.7

暮らしに息づく文化の創造・活用を推進するについて、【満足(計)】は「文化活動の充実」が3割半ばで、「文化の創造・継承、保存・活用」が約3割であった。

⑤政策の柱V：「産業・環境」

⑤-16 地域産業の創造性・発展性を高める

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
地域産業に関する分野	391	2.3	17.9	27.1	6.6	34.8	11.3
地域特性を活かした産業集積の促進	391	3.8	19.7	23.8	5.6	41.4	5.6
新規開業・新事業創出の促進	391	1.0	15.1	23.3	6.1	48.6	5.9
就労・雇用対策の充実	391	3.1	17.4	27.6	10.2	35.8	5.9

地域産業の創造性・発展性を高めるについて、【満足(計)】は「地域特性を活かした産業集積の促進」が2割半ばで最も高く、次いで「就労・雇用対策の充実」が約2割であった。

⑤-17 商工・サービス業の活力を高める

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
商業・サービス業・工業に関する分野	391	2.3	16.1	25.8	7.4	29.9	18.4
魅力ある商業の振興	391	2.0	12.5	30.7	21.2	28.4	5.1
安定した経営基盤の確立	391	1.8	14.6	18.4	7.4	52.4	5.4
中小企業の経営・技術革新の促進	391	2.0	14.1	16.4	8.7	54.2	4.6
流通機能の充実	391	4.6	29.9	16.9	5.6	38.4	4.6

商工・サービス業の活力を高めるについて、【満足(計)】は「流通機能の充実」が3割半ばで最も高く、次いで「安定した経営基盤の確立」が1割半ばであった。

⑤-18 農林業の生産力・販売力・地域力を高める

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
農林業に関する分野	391	1.5	18.9	17.1	6.4	40.9	15.1
農林業を支える担い手の確保・育成	391	1.8	14.8	17.6	11.3	49.9	4.6
農林業経営を支える生産体制の強化	391	1.8	18.2	16.4	7.7	51.7	4.3
生産者と消費者を結ぶ流通・販売戦略の強化	391	2.6	22.3	15.1	7.7	47.6	4.9
環境と調和した農林業の推進	391	2.0	14.1	19.2	8.2	51.7	4.9

農林業の生産力・販売力・地域力を高めるについて、【満足(計)】は「生産者と消費者を結ぶ流通・販売戦略の強化」が2割半ばで最も高く、次いで「農林業経営を支える生産体制の強化」が約2割であった。

⑤-19 環境への負荷を低減する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
環境にやさしい社会に関する分野	403	2.2	30.5	17.1	4.5	27.5	18.1
環境保全行動の推進	403	6.0	33.0	16.9	4.5	33.0	6.7
地球温暖化対策の推進	403	5.0	27.8	21.3	12.7	26.8	6.5
ごみの発生抑制, 資源の循環利用の推進	403	9.4	43.2	17.4	5.0	19.6	5.5
廃棄物の適正処理の推進	403	8.7	32.5	23.1	7.9	21.3	6.5
良好な生活環境の確保	403	7.2	28.5	19.6	6.7	32.0	6.0
生物多様性の保全	403	5.0	29.5	15.4	4.0	40.0	6.2

環境への負荷を低減するについて、【満足(計)】は「ごみの発生抑制, 資源の循環利用の推進」が5割強で最も高く、次いで「廃棄物の適正処理の推進」が約4割であった。

⑥政策の柱Ⅵ：「都市空間・交通」

⑥-20 暮らしやすく魅力のある都市空間を形成する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
都市空間形成に関する分野	403	5.7	26.8	22.3	8.7	19.9	16.6
地域特性に応じた土地利用の推進	403	4.2	23.6	23.1	10.2	34.0	5.0
地域特性を生かした魅力ある拠点の形成	403	6.0	28.3	22.1	11.9	27.0	4.7
地域特性に応じた安全で快適な市街地の形成	403	5.2	29.5	23.8	9.2	26.3	6.0
空き家・空き地対策の推進	403	3.0	14.1	30.8	17.6	28.3	6.2
都市景観の保全・創出	403	4.2	31.5	22.8	6.5	28.0	6.9

暮らしやすく魅力のある都市空間を形成するについて、【満足(計)】は「都市景観の保全・創出」と「地域特性に応じた安全で快適な市街地の形成」がいずれも3割半ばであった。

⑥-21 快適な住環境と自然豊かな都市環境を創出する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
住環境・自然環境に関する分野	403	5.2	31.0	18.9	4.2	20.8	19.9
安心して快適な住まいづくりの促進	403	4.5	27.8	17.1	7.9	36.5	6.2
水と緑の保全・創出	403	5.7	35.7	18.6	7.2	26.8	6.0

快適な住環境と自然豊かな都市環境を創出するについて、【満足(計)】は「水と緑の保全・創出」が約4割で、「安心して快適な住まいづくりの促進」が3割強であった。

⑥-22 誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークを構築する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
交通に関する分野	391	2.8	22.0	24.6	24.6	10.5	15.6
公共交通ネットワークの充実	391	3.1	23.0	24.6	27.9	16.6	4.9
道路ネットワークの充実	391	5.1	30.4	27.1	14.1	18.9	4.3
自転車利用環境の充実	391	3.6	26.6	23.3	18.2	24.0	4.3

誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークを構築するについて、【満足(計)】は「道路ネットワークの充実」が3割半ばで最も高く、次いで「自転車利用環境の充実」が約3割であった。

⑥-23 質の高い上下水道サービスを提供する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
上下水道に関する分野	403	16.9	34.5	10.9	4.0	15.9	17.9
安定した上下水道事業の推進	403	20.3	40.9	11.9	3.7	18.4	4.7
顧客に信頼される経営の推進	403	7.9	30.3	15.4	3.7	37.2	5.5

質の高い上下水道サービスを提供するについて、【満足(計)】は「安定した上下水道事業の推進」が約6割で、「顧客に信頼される経営の推進」が4割弱であった。

## ■各政策の柱を支える行政経営基盤

### 24 強固な行政経営基盤を確立する

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
行政経営に関する分野	435	1.8	17.5	17.9	10.3	32.2	20.2
効果的で効率的な行政経営システムの確立	435	2.5	18.9	21.4	9.9	40.0	7.4
地区行政の推進	435	3.0	27.6	22.1	8.5	32.4	6.4
行政の組織力の向上	435	3.7	23.0	21.1	10.6	35.2	6.4
財政基盤の確立	435	3.2	20.9	15.9	11.5	41.8	6.7
情報化の推進	435	6.0	28.0	20.7	10.8	28.3	6.2

強固な行政経営基盤を確立するについて、【満足(計)】は「情報化の推進」が3割半ばで最も高く、次いで「地区行政の推進」が約3割であった。